

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XIX

— 白井市清戸遺跡・印西市古新田南遺跡 —

平成19年3月

独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉ニュータウン事業本部

財団法人 千葉県教育振興財団

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XIX

しろい きよど いんざい こしんでんみなみ
-白井市清戸遺跡・印西市古新田南遺跡-



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第571集として、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千葉北部地区新住宅市街地開発事業関連に伴って実施した白井市清戸遺跡および印西市古新田南遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査において、清戸遺跡からは、旧石器時代から中・近世に至る、各時代の遺構・遺物が検出され、また、古新田南遺跡からは旧石器時代の豊富な石器群が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られています。

刊行にあたり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。






終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係者の皆様や関係機関、また、発掘作業から整理作業まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成19年3月

財団法人千葉県教育振興財団
理事長 岡野 孝之

凡 例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構による千葉北部地区新住宅市街地開発事業関連に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は千葉県白井市清戸字花堀込520-3ほかには所在する清戸遺跡（遺跡コードCN410）および、千葉県印西市大森字宮脇519ほかには所在する古新田南遺跡（遺跡コードCN616）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は独立行政法人都市再生機構（当初委託者は千葉県企業庁、委託者変更後は旧日本住宅公団変更、旧住宅・都市整備公団変更、旧都市基盤整備公団）千葉地域支社の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の担当者および実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、第2章第3節の1および第3章第3節の1を所長 古内 茂・主席研究員 香取正彦が共同で担当し、第3章第3節2を研究員 大内千年が、その他の章等および全体の編集・構成は香取が行った。
- 6 古新田南遺跡の旧石器時代石器の整理については、田坂美代子氏の御協力を得た。
- 7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社千葉ニュータウン事業本部、白井市教育委員会および印西市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 8 本書で使用した地形図は以下のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「白井」（N1-54-19-14-3）
 - 第2・3図 白井市発行 1/2,500地形図9・10・14・15を調整・編集したものである。
 - 第42図 国土地理院発行 1/25,000地形図「小林」（N1-54-19-14-1）・「白井」（N1-54-19-14-3）
・「竜ヶ崎」（N1-54-19-13-2）・「取手」（N1-54-19-13-4）を編集したものである。
 - 第43図 印西市発行 1/2,500地形図12・13
 - 第44図 千葉県企業庁千葉ニュータウン事業部（当時）の地形図 「千葉北部」
- 9 写真図版の航空写真は京葉測量株式会社撮影のものを使用した。
 - 図版1 昭和61年撮影
 - 図版23 昭和58年撮影
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北（日本測地系）である。
- 11 本書で使用したスクリーントーンは挿図で指示した以外は下記のとおりである。

<p>遺構</p>  <p>カマド構築材・粘土</p>  <p>焼土</p>	<p>遺物</p>  <p>赤 彩</p>  <p>黒色処理</p>  <p>ス ス</p>
---	---

古新田南遺跡旧石器時代凡例

石材	
黒色	安山岩・黒曜石（▲）
セピア	チャート
青色	その他
器種（記号）	
石 核	●・○（被熱）
剥 片	●・○（被熱）
砕 片	●・○（被熱）
UF・RF	▲・黒曜石は○（剥片）・▲（砕片）
樹 形	
フランチング線	（加工部）*
埋（焼埋も）	*
製品（ナイフ2点）	*
接合線	実線 ———
接合しないが	破線 - - - - -
接合個体と同材	破線 - - - - -
接合不可だが同材	破線 - - - - -

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の経緯と経過	1
第2章	清戸遺跡	3
第1節	遺跡の位置と環境	3
第2節	調査の方法と経過	3
第3節	遺構と遺物	10
1.	旧石器時代	10
2.	縄文時代	14
3.	弥生時代	17
4.	古墳時代	18
5.	平安時代	28
6.	中・近世	58
第3章	古新田南遺跡	76
第1節	遺跡の位置と環境	76
第2節	調査の方法と経過	76
第3節	遺構と遺物	76
1.	旧石器時代	76
2.	縄文時代	141
第4章	まとめ	181
	抄録	

挿図目次

第1図	清戸遺跡位置および周辺地形図	4
第2図	遺跡地形図、グリッド区画図・遺構配置図(1)	5・6
第3図	遺跡地形図、グリッド区画図・遺構配置図(2)	7・8
第4図	層序	9
第5図	石器集中地点	11
第6図	石器集中地点出土石器	12
第7図	単独出土石器	13
第8図	SK010	15
第9図	遺構外出土縄文時代遺物	16
第10図	遺構外出土弥生土器	18
第11図	SI001・SI002	19
第12図	SI003	20
第13図	SI001・SI002(1)出土遺物	23
第14図	SI002(2)・SI003(1)出土遺物	24
第15図	SI003(2)出土遺物	25
第16図	SI004・SI005	29
第17図	SI006・SI007・SI008	31
第18図	SI009・SI010・SI011	32
第19図	SI012・SI013・SI014	34
第20図	土坑(SK001~007)分布図	36

第21図	土坑 (SK001~007)	37	第57図	Aブロック出土石器 (4)	102
第22図	SI004出土遺物	39	第58図	Aブロック出土石器 (5)	103
第23図	SI005 (1) 出土遺物	41	第59図	Aブロック出土石器 (6)	104
第24図	SI005 (2)・SI006・SI007出土遺物	42	第60図	Bブロック出土石器 (1)	105
第25図	SI008出土遺物	44	第61図	Bブロック出土石器 (2)	106
第26図	SI009・SI010・SI011出土遺物	45	第62図	Bブロック出土石器 (3)	107
第27図	SI012・SI013 (1) 出土遺物	47	第63図	Bブロック出土石器 (4)	108
第28図	SI013 (2) 出土遺物	48	第64図	Bブロック出土石器 (5)	109
第29図	SI014出土遺物	49	第65図	Bブロック出土石器 (6)	111
第30図	土坑 (SK002・SK003・SK006・SK007) 出土遺物	50	第66図	Cブロック出土石器 (1)	115
第31図	SD001・SD002・SD003	59	第67図	Cブロック出土石器 (2)	116
第32図	SD004・SD008	61	第68図	Cブロック出土石器 (3)	117
第33図	SD005・SD006	62	第69図	Cブロック出土石器 (4)	118
第34図	SD007	63	第70図	Cブロック出土石器 (5)	119
第35図	SD009・SD010・SD011	64	第71図	Cブロック出土石器 (6)	120
第36図	SD012~015	66	第72図	Cブロック出土石器 (7)	121
第37図	SD016・SD017	67	第73図	Cブロック出土石器 (8)	122
第38図	溝状遺構出土遺物	69	第74図	Cブロック出土石器 (9)	123
第39図	銭貨 (1)	70	第75図	Cブロック出土石器 (10)	124
第40図	銭貨 (2)	71	第76図	Cブロック出土石器 (11)	125
第41図	遺構外出土遺物	72	第77図	Cブロック出土石器 (12)	126
第42図	古新田南遺跡位置および周辺地形図	77	第78図	Cブロック出土石器 (13)	127
第43図	遺跡地形図	78	第79図	Dブロック出土石器 (1)	129
第44図	調査区地形図・遺構分布図	79	第80図	Dブロック出土石器 (2)	130
第45図	遺跡土層図	80	第81図	Dブロック出土石器 (3)	131
第46図	確認グリッド配置図・土層柱状図	81	第82図	Dブロック出土石器 (4)	132
第47図	旧石器ブロック分布図	83	第83図	Eブロック出土石器 (1)	133・134
第48図	旧石器および被熱石器分布図	84	第84図	Eブロック出土石器 (2)	135
第49図	旧石器出土状況図 (①区)	85・86	第85図	Eブロック出土石器 (3)	137
第50図	旧石器出土状況図 (②区)	87・88	第86図	Eブロック出土石器 (4)	138
第51図	旧石器出土状況図 (③区)	89・90	第87図	Eブロック出土石器 (5)	139
第52図	旧石器出土状況図 (④区)	91・92	第88図	Eブロック出土石器 (6)	140
第53図	旧石器出土状況図 (⑤区)	93・94	第89図	炉穴 (SK001・SK002)	142
第54図	Aブロック出土石器 (1)	99	第90図	炉穴出土縄文土器	143
第55図	Aブロック出土石器 (2)	100	第91図	グリッド出土縄文土器 (1)	145
第56図	Aブロック出土石器 (3)	101	第92図	グリッド出土縄文土器 (2)	146
			第93図	グリッド出土縄文土器 (3)	147

第94図	グリッド出土縄文土器(4)	148
第95図	縄文時代土製品	150
第96図	縄文石器出土状況図	153・154

第97図	縄文時代石器(1)	155
第98図	縄文時代石器(2)	156
第99図	縄文時代石器(3)	157

表 目 次

第1表	清戸遺跡調査概要	1	第13表	遺構外出土遺物観察表	74
第2表	古新田南遺跡調査概要	2	第14表	旧石器石材別重量表	97
第3表	遺構番号対照表	2	第15表	旧石器組成表(Aブロック)	98
第4表	石器集中区石器属性表	13	第16表	旧石器組成表(Bブロック)	110
第5表	石器集中区組成表	13	第17表	旧石器組成表(Cブロック)	114
第6表	単独出土石器属性表	13	第18表	旧石器組成表(Dブロック)	128
第7表	遺構外出土縄文土器観察表	17	第19表	旧石器組成表(Eブロック)	136
第8表	縄文時代石器属性表	17	第20表	炉穴出土縄文土器観察表	141
第9表	古墳時代住居出土遺物観察表	26	第21表	グリッド出土縄文土器観察表	148
第10表	平安時代住居出土遺物観察表	51	第22表	縄文土製品計測表	151
第11表	平安時代土坑出土遺物観察表	57	第23表	縄文石器組成表	152
第12表	溝状遺構出土遺物観察表	73	第24表	石器一覧表	158

図 版 目 次

清戸遺跡

図版1	航空写真
図版2	調査前 確認調査 層序 SK010
図版3	SI001全景 SI002全景 SI003全景
図版4	SI003遺物出土状況 SI004全景 SI004遺物出土状況
図版5	SI005カマド SI005全景 SI006全景 SI007全景
図版6	SI008全景 左SI009全景 右SI009カマド SI010全景 SI010貯蔵穴
図版7	SI011全景 左SI011カマド遺物 右SI011遺物出土状況 SI013全景 左・右SI013遺物出土状況
図版8	左・右SI013遺物出土状況 左SI013遺物出土状況 右SI013カマド土層 左SI013カマド遺物出土状況 右SI013カマド完

了 調査区全景(平成12年度)

図版9	SI014全景 左SI014遺物出土状況 右SI014旧カマド SD001・SD002・SD003全景
図版10	SD004・SD008全景 SD009全景 SD012・SD013・SD014全景
図版11	SD012・SD013・SD014全景 左SD012土層 右SD012銭貨出土状況 SD017全景
図版12	旧石器時代遺物
図版13	縄文時代遺物
図版14	遺構外出土弥生土器・古墳時代遺物(1)
図版15	古墳時代遺物(2)
図版16	平安時代遺物(1)
図版17	平安時代遺物(2)
図版18	平安時代遺物(3)

- 図版19 平安時代遺物 (4)
- 図版20 平安時代遺物 (5)
- 図版21 SD012出土銭貨
- 図版22 陶磁器・墨書赤外線写真
- 古新田南遺跡
- 図版23 航空写真
- 図版24 遺跡近景 Aブロック (3C・3D)
Bブロック (4C)
- 図版25 Cブロック (4D-05・06) Cブロック
(4D-54・55) Cブロック (4D-05・
06) Cブロック (4D-54・55)
- 図版26 Dブロック (3D・3E) Eブロック (4E・
4F) Eブロック (4E-09・4F-00)
Eブロック (4E-09・4F-00)
- 図版27 Eブロック (4E-19) Eブロック (4E
-28・29) SK001(炉穴) SK002(炉穴)
- 図版28 Aブロック出土石器 (1) 安山岩
- 図版29 Aブロック出土石器 (2) 安山岩
- 図版30 Aブロック出土石器 (3) 安山岩
- 図版31 Aブロック出土石器 (4) 安山岩
- 図版32 Aブロック出土石器 (5) チャート・メ
ノウ
- 図版33 Aブロック出土石器 (6) 凝灰岩他
- 図版34 Bブロック出土石器 (1) 安山岩
- 図版35 Bブロック出土石器 (2) 安山岩
- 図版36 Bブロック出土石器 (3) 安山岩
- 図版37 Bブロック出土石器 (4) 安山岩
- 図版38 Bブロック出土石器 (5) チャート
- 図版39 Bブロック出土石器 (6) 流紋岩・メノ
ウ他
- 図版40 Cブロック出土石器 (1) 安山岩
- 図版41 Cブロック出土石器 (2) 安山岩
- 図版42 Cブロック出土石器 (3) 安山岩
- 図版43 Cブロック出土石器 (4) 安山岩
- 図版44 Cブロック出土石器 (5) 安山岩
- 図版45 Cブロック出土石器 (6) 安山岩
- 図版46 Cブロック出土石器 (7) 安山岩
- 図版47 Cブロック出土石器 (8) 安山岩
- 図版48 Cブロック出土石器 (9) 黒曜石
- 図版49 Cブロック出土石器 (10) 黒曜石
- 図版50 Cブロック出土石器 (11) チャート
- 図版51 Cブロック出土石器 (12) チャート・頁
岩
- 図版52 Cブロック出土石器 (13) メノウ・流紋
岩他
- 図版53 Dブロック出土石器 (1) 安山岩
- 図版54 Dブロック出土石器 (2) 安山岩
- 図版55 Dブロック出土石器 (3) チャート
- 図版56 Dブロック出土石器 (4) チャート・頁
岩
- 図版57 Eブロック出土石器 (1) 安山岩
- 図版58 Eブロック出土石器 (2) 安山岩
- 図版59 Eブロック出土石器 (3) 安山岩
- 図版60 Eブロック出土石器 (4) チャート他
- 図版61 縄文土器 (炉穴出土)
- 図版62 グリッド出土縄文土器 (1)
- 図版63 グリッド出土縄文土器 (2)
- 図版64 縄文時代土製品・石器
- 図版65 縄文時代石器 (1)
- 図版66 縄文時代石器 (2)

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過

千葉北部地区新住宅市街地開発事業関連の埋蔵文化財調査は、財団法人千葉県教育振興財団が、当初、千葉県企業庁の委託を受けて開始した。後に、事業主体者が日本住宅公団（住宅・都市整備公団、都市基盤整備公団と組織、名称を変更した後、現 独立行政法人都市再生機構）に代わり、業務委託を受けて継続している。

清戸遺跡は、道路建設に先行する埋蔵文化財調査として、昭和48年度、昭和62年度、平成4年度、および平成12年度の4か年にわたって実施された。また、古新田南遺跡は、市街地造成に先行する埋蔵文化財調査として、昭和59年度に実施された。

なお、清戸遺跡の昭和48年度調査については、すでに報告書が刊行され¹⁾、今回の報告は昭和62年度、平成4年度、および平成12年度の3か年分である。

発掘調査開始から報告書刊行に至るまでの発掘調査・整理概要および各年度の調査担当者等は第1表・第2表に記したとおりである。

また、清戸遺跡は数年次にわたって、発掘調査を実施したため、遺構番号に不統一があり、本報告書では第3表のとおり、3桁数字の前にアルファベットの遺構略称を付した遺構番号に統一した。これに伴い、古新田南遺跡の遺構番号も同様に変更した。なお、遺構略称の内容は次のとおりである。

SI 竪穴住居跡、SK 土坑・陥穴・炉穴、SD 溝状遺構である。

注1 中山吉秀・鈴木道之助 1976『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書V』千葉県企業庁（財）千葉県文化財センター

第1表 清戸遺跡調査概要

調査年度	発掘調査実態	期間	部長	所長(*は専任)	担当
昭和62年度	確認調査 上層 1,066/8,770㎡ 下層 224/8,770㎡	7/1～7/31	堀部昭夫	*小宮 孟	岡田光広
平成4年度	確認調査 上層 784/19,100㎡ 下層 776/19,100㎡ 本調査 上層 6,600㎡ 下層 300㎡	7/1～11/30	天野 努	*田坂 浩	高田 博 落合章雄
平成12年度	確認調査 下層 40/1,000㎡ 本調査 上層 1,000㎡	7/3～7/31	沼澤 豊	石田廣美	立石圭一
調査年度	整理作業内容	期間	部長	所長	担当職員
平成16年度	水洗・注記から実測・トレースの一部まで	4/1～3/31	矢戸三男	古内 茂	香取正彦 石川 誠
平成17年度	実測・トレースの一部から原稿執筆・編集まで	4/1～3/31	矢戸三男	古内 茂	宮 重行 香取正彦
平成18年度	報告書印刷・発行	4/1～3/31	矢戸三男	古内 茂	香取正彦

第2表 古新田南遺跡調査概要

調査年度	発掘調査面積	期間	部長	所長(※は班長)	担当職員
昭和59年度	確認調査 上層 1,200/12,000㎡ 下層 480/12,000㎡ 本調査 上層 2,000㎡ 下層 2,000㎡	5/1～8/31	鈴木道之助	*鈴木定明	及川淳一
調査年度	整理作業内容	期間	部長	所長(※は班長)	担当職員
昭和61年度	水洗・注記	4/1～3/31	鈴木道之助	*矢戸三男	
平成8年度	図面・写真から実測の一部まで	4/1～3/31	西山太郎	谷 旬	香取正彦 落合章雄
平成17年度	実測の一部から原稿執筆・編集の一部まで	4/1～3/31	矢戸三男	古内 茂	香取正彦
平成18年度	原稿執筆・編集の一部から報告書印刷・刊行	4/1～3/31	矢戸三男	古内 茂	香取正彦 大内千年

第3表 遺構番号対照表
清戸遺跡

No	報告書遺構番号	発掘時遺構番号	遺構種類	時代
1	SI001	001	竪穴住居跡	古墳時代前期
2	SI002	002	竪穴住居跡	古墳時代前期
3	SI003	003	竪穴住居跡	古墳時代前期
4	SI004	008	竪穴住居跡	平安時代
5	SI005	009	竪穴住居跡	平安時代
6	SI006	010	竪穴住居跡	平安時代
7	SI007	013	竪穴住居跡	平安時代
8	SI008	021	竪穴住居跡	平安時代
9	SI009	023	竪穴住居跡	平安時代
10	SI010	026	竪穴住居跡	平安時代
11	SI011	028	竪穴住居跡	平安時代
12	SI012	029	竪穴住居跡	平安時代
13	SI013	SI001	竪穴住居跡	平安時代
14	SI014	SI002	竪穴住居跡	平安時代
15	SK001	014	土 坑	平安時代
16	SK002	015	土 坑	平安時代
17	SK003	016	土 坑	平安時代
18	SK004	017	土 坑	平安時代
19	SK005	018	土 坑	平安時代
20	SK006	019	土 坑	平安時代
21	SK007	020	土 坑	平安時代
22	SK008	024	土 坑	平安時代
23	SK009	025	土 坑	平安時代
24	SK010	SK001	陥 穴	縄文時代早期

No	報告書遺構番号	発掘時遺構番号	遺構種類	時代
25	SD001	004	溝状遺構	中・近世
26	SD002	005	溝状遺構	中・近世
27	SD003	006	溝状遺構	中・近世
28	SD004	007	溝状遺構	中・近世
29	SD005	011	溝状遺構	中・近世
30	SD006	012	溝状遺構	中・近世
31	SD007	022	溝状遺構	中・近世
32	SD008	027	溝状遺構	中・近世
33	SD009	030	溝状遺構	中・近世
34	SD010	031	溝状遺構	中・近世
35	SD011	032	溝状遺構	中・近世
36	SD012	SD001	溝状遺構	中・近世
37	SD013	SD002	溝状遺構	中・近世
38	SD014	SD003	溝状遺構	中・近世
39	SD015	SD004	溝状遺構	中・近世
40	SD016	SD005	溝状遺構	中・近世
41	SD017	SD006	溝状遺構	中・近世

古新田南遺跡

No	報告書遺構番号	発掘時遺構番号	遺構種類	時代
1	SK001	001	炉 穴	縄文時代早期
2	SK002	002	炉 穴	縄文時代早期

第2章 清戸遺跡

第1節 遺跡の位置と環境

清戸遺跡は白井市の東端部に所在し、東側が印西市、南側が八千代市、船橋市と境を接する地区である。地形的には、印旛沼の西端部に位置し、東流する神崎川北岸の台地上で、標高は22m前後である。台地は、神崎川支流の小河川によって浸食され、南北方向に伸びる、多くの舌状台地を形成している。清戸遺跡も舌状台地上に立地し、東側が神崎川支流の浅い谷に臨んでいる¹⁾。

清戸遺跡(1)が所在する印旛沼西端部の台地は、南の神崎川低地と、北の手賀沼低地に挟まれ、低地に流入する小河川の浸食により、南北に伸びる舌状台地が発達している。舌状台地上には数多くの遺跡が確認され、調査された遺跡も多い。また、台地の中央部は、小河川の浸食が弱く、確認された遺跡も減少するが、平坦な地形を利用した牧の展開が、中・近世以降著しく、清戸遺跡周辺でも、牧関係の遺構(野馬土手)が確認されている。

清戸遺跡周辺で調査された遺跡は○を付した遺跡である。また、牧関係としては、野馬土手があるが、迅速図に土手の記載がされている箇所が多くあり、台地中央部全体に広がっていたことが推定される(第1図)。

注1 1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)-東葛飾・印旛地区(改訂版)-』千葉県教育委員会

なお、埋蔵文化財分布地図では、清戸遺跡は、清戸Ⅰ遺跡および清戸Ⅱ遺跡で記載されている。本来ならばこの名称を使うところであるが、清戸遺跡が調査時の発掘届等書類上の名称であること、また、調査範囲が清戸Ⅰ・Ⅱ遺跡の両者にわたっていることから、当初まま、清戸遺跡として報告する。

第2節 調査の方法と経過

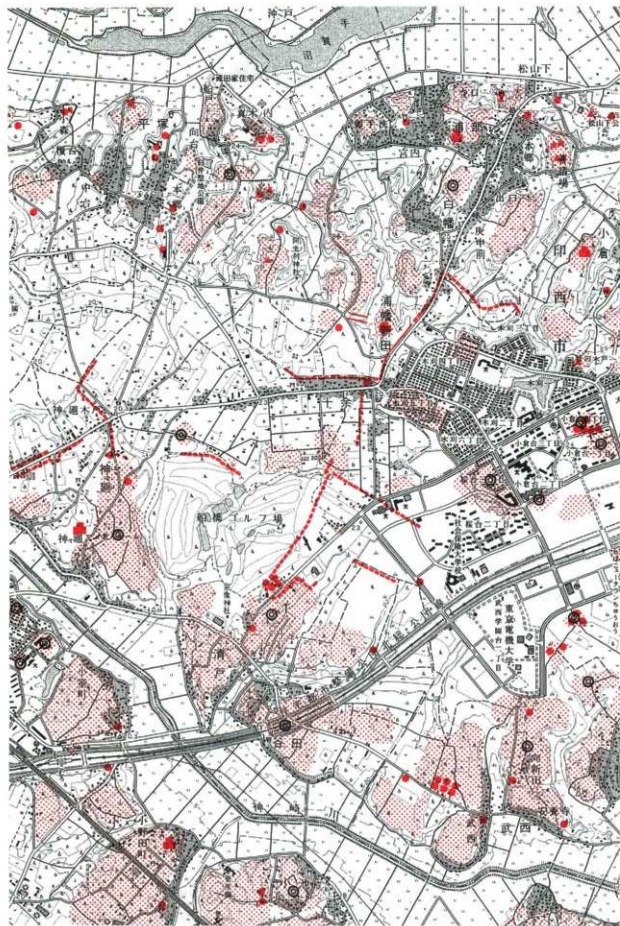
今回報告する清戸遺跡は、昭和62年度、および平成4・12年度の調査成果である。昭和48年度の調査については、すでに報告書が刊行されている。

調査区域は、道路建設事業地で、南西から北東に延びる幅20m程の帯状であり、長さは約1kmにもおよび。調査は南西端から開始された。

1. 調査の方法(第2・3図)

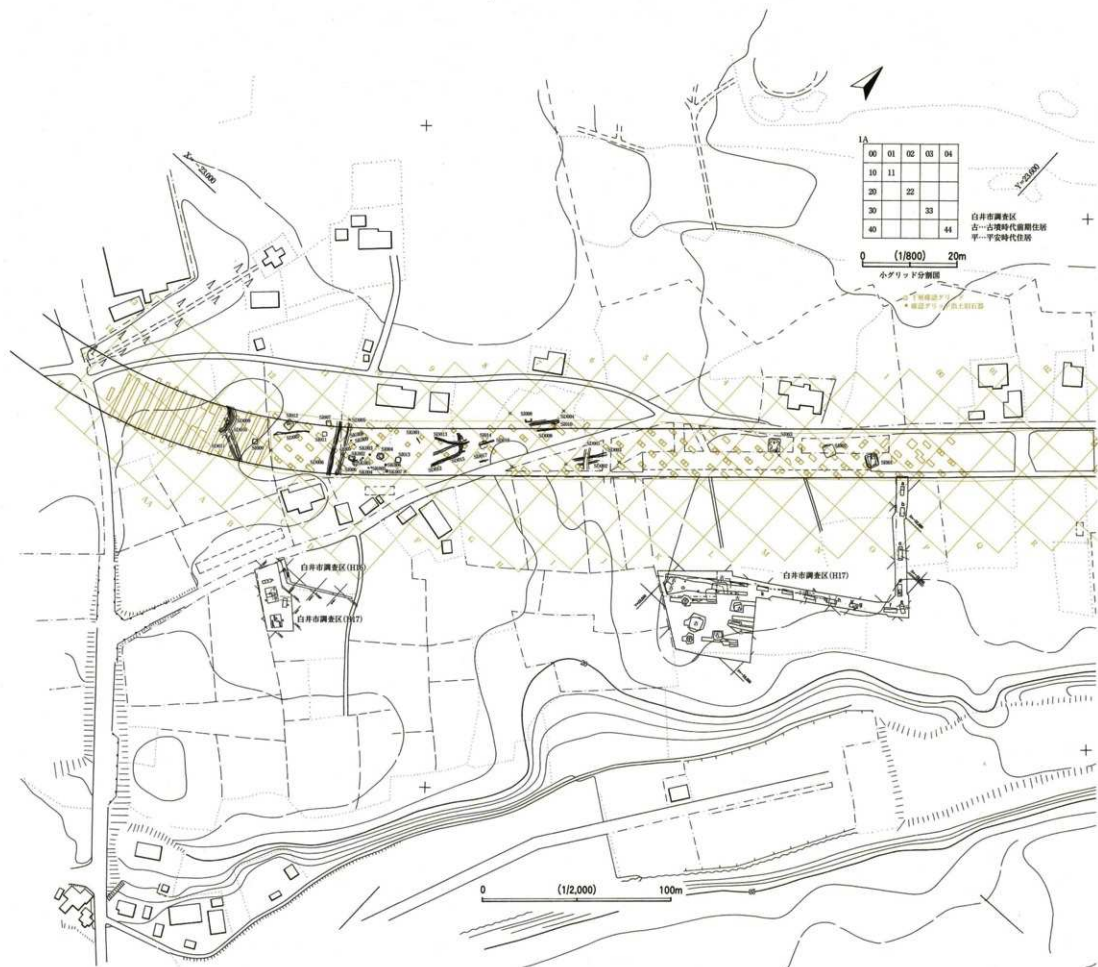
発掘調査を始めるに当たり、調査対象区域を公共座標に合わせて、20m×20mの大グリッドを設定した。さらにその大グリッド内を4m×4mに分割し、25個の小グリッドとした。大グリッドは、昭和62年度では、西から東へA、B、C、……、北から南へ1、2、3、……、と記号をつけ、小グリッドについては北西隅を起点に00、01、……43、44と番号を付け、これらを組み合わせて6C34のように呼称することとした。

平成4・12年度は、昭和62年度調査区の本調査およびその北側調査区の確認・本調査で、北側調査区では、大グリッドの記号の付け方が、昭和62年度調査とは異なっている。東方向のアルファベットは昭和62年度の継続であるが、南北ラインの数字は、平成62年度の0ラインを起線として、01、02、03……と、

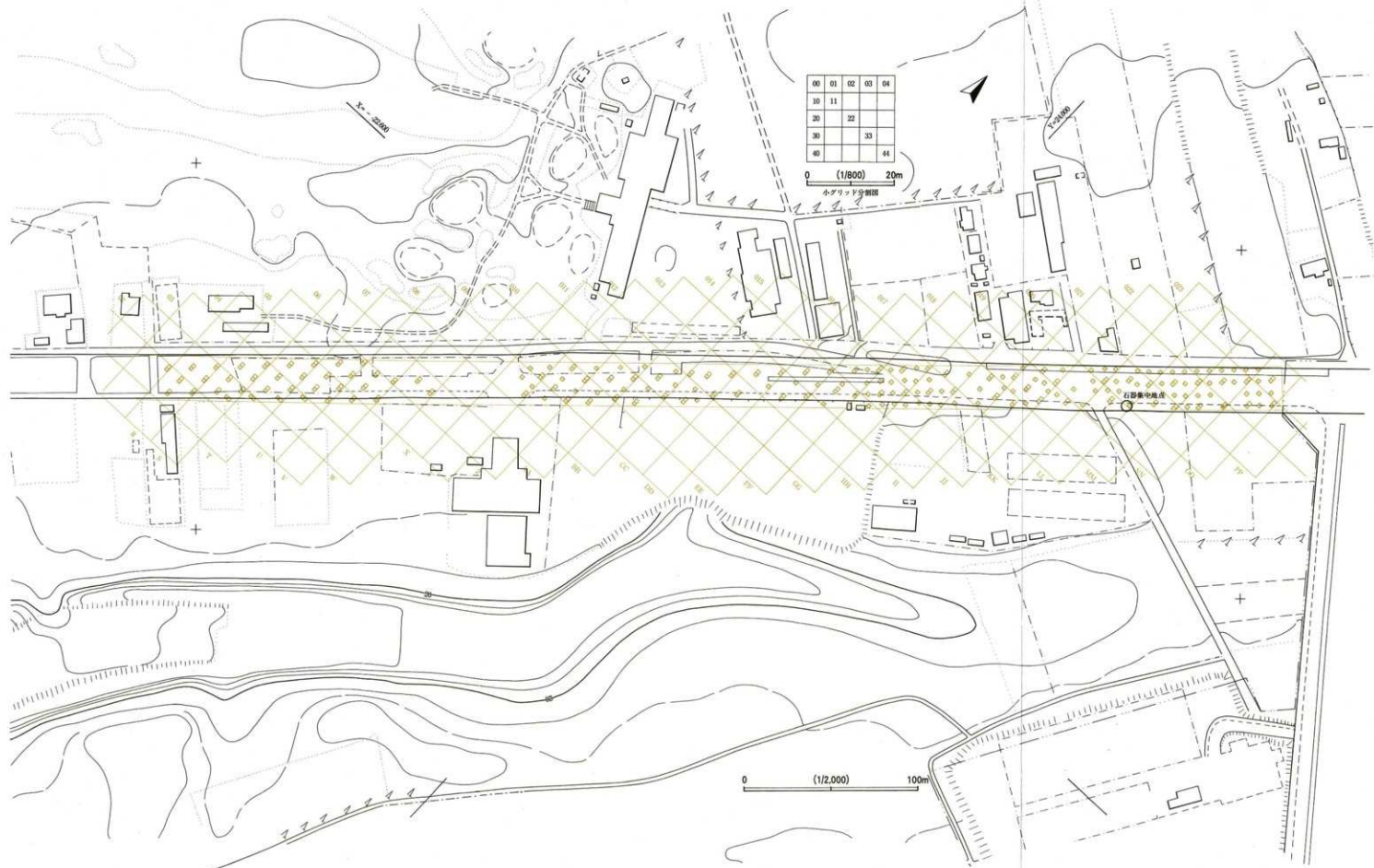


第1図 清戸遺跡位置および周辺地形図 (1/25,000)

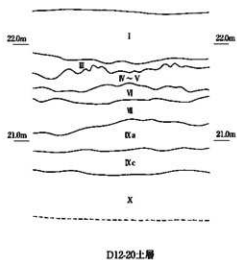
- | | | | |
|---|----------|---|---------|
|  | 遺跡 (包蔵地) |  | 方墳・塚 |
|  | 貝塚 |  | 城跡 |
|  | 前方後円墳 |  | 野馬土手 |
|  | 円墳・塚 |  | 沿河回周戦土手 |



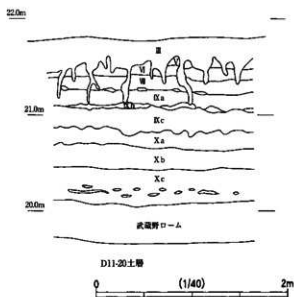
第2図 遺跡地形図, グリッド区画図・遺構配置図(1)



第3図 遺跡地形図、グリッド区画図・遺構配置図(2)



D12-20上層



D11-20上層

- I 表土
- II ソフトローム層
- IV~V 暗褐色ハードローム
- VI 明褐色ハードローム (AT層)
- VII 暗褐色ハードローム 第2BBの上層
暗赤色スコリア混入, 小粒
- IXa 暗褐色ハードローム
暗赤色スコリア混入, やや大粒
- IXb 暗褐色ハードローム
層が薄い。D12-20では確認できない。

- IXc 暗褐色ハードローム
暗赤色スコリア混入, 大粒
- Xa 明褐色ハードローム
赤色スコリア混入, 少
- Xb やや明褐色ハードローム
スコリア極微量
- Xc 明褐色ハードローム

第4図 層序

昭62年度とは異なり、はじめに0を付けて、昭62年度に付けた記号と区別した。また、南から北に向かって数が大きくなることも、昭62年度とは異なる。

また、東方向のアルファベットは、調査区が長大であり、26文字では不足するので、2巡目からは、AA、BB、CC・・・と重ねて呼称した。よって、小グリッドと合わせると、09AA-24のような呼称になる。

調査は、上層確認調査→上層本調査→下層確認調査→下層本調査の順で実施した。上層確認調査については調査対象区域全体に公共座標を合わせて、主に2m×4mのトレンチを設定した。遺構が検出されたトレンチは適宜拡張を行い、原則として調査対象面積の10%を調査し、遺構と遺物の分布状況を確認した。下層確認調査については調査対象区域全体に公共座標を合わせて、2m×2mのグリッドを設定し、石器検出グリッドを随時拡張して調査対象面積の4%を調査し、遺物の分布状況を確認した。

なお、調査区の基本的な土層は第4図のとおりである。

2. 調査の経過

調査は、昭62年度に、調査区の南西部分8,770㎡の上層および下層の確認調査を実施した。これにより、上層2,660㎡および下層130㎡の本調査範囲が決定した。

平成4年度には、昭62年度確認調査範囲を含む、総面積26,900㎡の発掘調査を実施した。確認調査面積は上層784㎡、下層776㎡で、本調査面積は昭62年度の本調査決定範囲も含めて、上層6,600㎡、下層300㎡である。この時、1,200㎡が未調査区として残存した。

平成12年度は平成4年度未調査区の調査を実施した。上層は本調査1,000㎡で、下層は40㎡の確認調査で終了した。

検出された遺構は旧石器時代石器集中地点1か所、旧石器時代石器単独出土2か所、縄文時代陥穴1基、古墳時代前期竪穴住居跡3棟、平安時代竪穴住居跡11棟、中・近世溝状遺構13条、土坑9基である。

第3節 遺構と遺物

1. 旧石器時代

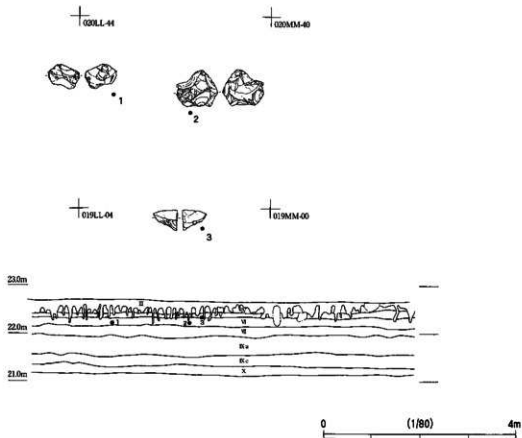
1) 概要

旧石器時代と認識できる石器は3か所で検出されている。だが、いずれも小規模なものであり、そのうちの2か所は周辺を拡張したにもかかわらず石器の出土は認められなかった。そのため単独出土として取り扱うこととした。なお、調査区は帯状に細長く、遺跡全体を面的に把握することはできなかったが、調査の結果から調査区東側に存在する浅い谷の最奥部付近がその中心にあたるものと推測できた。

2) 石器集中地点(第5・6図 第4・5表 図版12)

本地点は調査区の北端部に位置し、020LL44を中心とするグリッドで数点の石器群が検出されたものである。出土層位は第VI層となり、標高は22.3m前後を計る。石器群は長径3.5m、短径1.1mの狭い範囲に分布し、出土石器は6点と少なく、小規模な地点となる。出土位置が明瞭な石器は1～3で、4～6については、確認調査時に出土したものでグリッド単位で取り上げている。

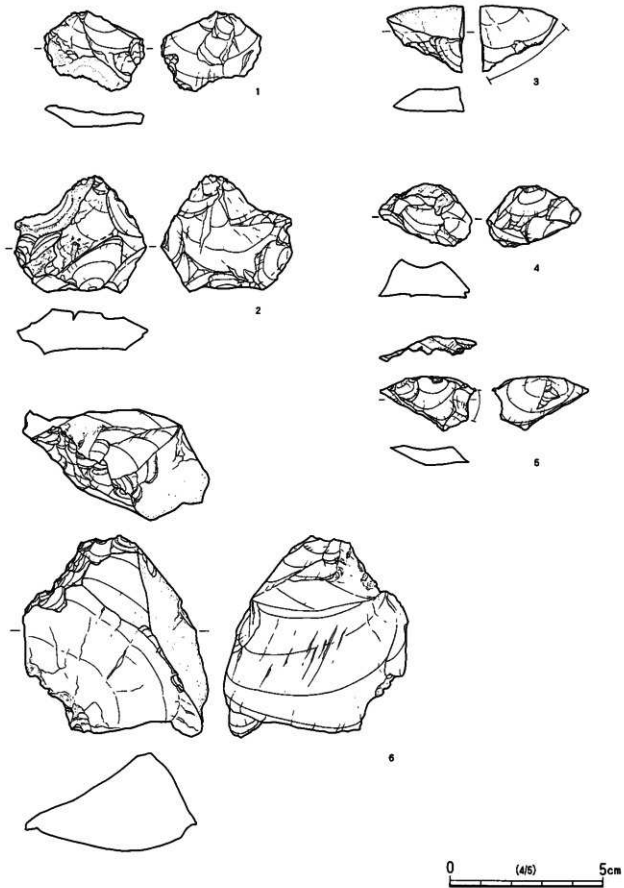
石材ではメノウ、珪質頁岩、凝灰岩の3種類が認められた。メノウが3点、珪質頁岩が2点で、接合はしないが、その石質等から同一母岩から剥離されたと考えられる。



第5図 石器集中地点

石 器

1・2・4はメノウの剥片である。同一母岩からの剥離で、表面には自然面が残る。1・2の下部では二次剥離や使用痕が認められる。色調は、部分的に濃淡があり、濃い部分は明褐色、淡い部分では灰褐色に変化している。剥離面は光沢を帯びている。1は石器素材としても十分な形状を有している。裏面左側に小さな剥離が認められるところから削器のような使用が考えられる。2も石器として十分な形状を有した分厚い剥片である。周囲には整形のための剥離が認められるため石器として使用したものであろう。4は自然面を残す剥片であり、使用の痕跡は認められない。3は凝灰岩製の分厚い剥片である。剥離後、折断されたものであろう。裏面には微細な剥離痕が認められており、石器として使用されたものである。色調は緑灰色で、縞模様が発達した石材である。5・6は珪質頁岩の剥片である。5は小形の横長剥片で、右側縁に使用痕らしき微細な剥離が認められる。6は大形剥片で厚みがある。表面左上では数回の剥離により打面部を整形している。裏面での整形も認められるところから削器状の石器として使用していたものと考えられる。ともに色調は灰オリブ色で、一部が暗オリブ褐色であり、剥離面では若干光沢を帯びる。



第6图 石器集中地点出土石器

第4表 石器集中区石器属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	標高(m)
1	020LL-44-1	U剥片	メノウ1	2.59	3.30	0.72	4.73	22.240
2	020LL-44-2	U剥片	メノウ1	3.76	4.30	1.75	24.95	22.245
3	019LL-04-1	U剥片	凝灰岩1	2.18	2.53	1.85	4.42	22.320
4	020LL-44-3	剥片	メノウ1	2.00	3.04	1.48	7.20	クラム一括
5	020LL-44-3	U剥片	珪質頁岩1	1.75	3.15	0.80	2.49	クラム一括
6	020LL-44-3	R剥片	珪質頁岩1	6.59	6.10	3.58	101.67	クラム一括

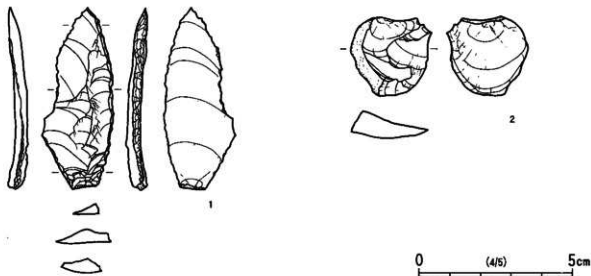
第5表 石器集中区組成表

	U剥片	R剥片	剥片	総計	総計比(%)
メノウ1	2		1	3	50.00%
	29.68		7.20	36.88	25.35%
凝灰岩1	1			1	16.67%
	4.42			4.42	3.04%
珪質頁岩1	1	1		2	33.33%
総計(点)	4	1	1	6	
(g)	36.59	101.67	7.20	145.46	
総計比(%)	66.67%	16.67%	16.67%		100.00%
	25.15%	69.90%	4.95%		100.00%

3) 単独出土石器(第7図 第6表 図版12)

単独出土品として2点の発見があった。1は8G-20グリッド, 2が021NN-04グリッドから出土したもので, 出土層位は前述の石器群とはほぼ同一の層位となる。

1は硬質頁岩製のナイフ形石器で, 背面加工は先端部まで丁寧に施されている。基部は打面部の整形とともに左側縁にも同様な調整が認められる。刃部にあたる側縁上部では使用によるものか刃こぼれ状の側縁を形成する。色調は褐色灰色を呈する。2は剥片で, 表面の一部に自然面が認められる。周縁での加工は認められない。石材は1と同様硬質頁岩である。



第7図 単独出土石器

第6表 単独出土石器属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	標高(m)
1	G8-20-2	ナイフ形石器	硬質頁岩	5.91	2.37	0.61	5.74	確認一括
2	021NN-04-1	剥片	硬質頁岩	2.59	2.64	0.80	4.20	クラム一括

2. 縄文時代

1) 概要

縄文時代に属する遺構は陥穴1基のみである。また、土器の出土も少量で集落が伴う可能性は少ないものと思われた。

2) 遺構

明瞭な遺構は陥穴1基である。

陥穴

SK010(第8図 図版2)

調査区南部に検出されたものである。主要グリッドは11D-03となる。平面形は細長い楕円形で、規模は2.96m×0.38m、検出面からの深さは0.71mである。底面の長径が上端よりも長く、3.22mである。長軸方位はN-73°-Wである。ソフトローム面で検出されているため深さを実感できないが、掘削された当時は深く十分機能を果たしていたものと考えられる。また、覆土最下層に黒褐色土層が検出されているため比較的長期間にわたって使用されていたものであろう。遺物は出土しないが、形状から縄文時代と考えられる。

3) 遺物

遺構からの出土は認められなかったが、グリッドおよび弥生時代以後の遺構から少量の遺物が出土している。时期的には早期から後期までとなる。

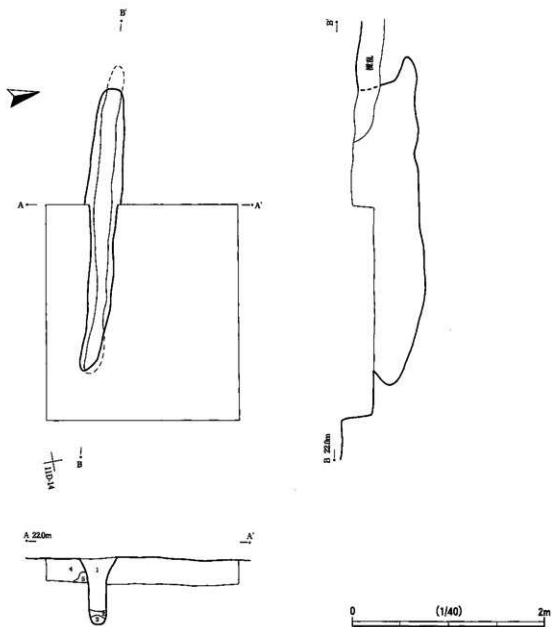
遺構外出土遺物(第9図 第7・8表 図版13)

1～13は土器である。1～3は早期の燃糸文系土器で、R燃糸文が施文される。1は口縁部で、口縁が丸く肥厚する。4は沈線文系土器の胴部である。細い沈線と刺突文が施される。5・6は胎土に繊維の混入が認められるため、前期前半に位置付けられよう。やや粗いLR縄文が施される。7～12は施文された縄文や太い沈線から中期の加曾利E式で、縄文はRLが施文される。9は沈線による区画、10は縦方向の太い平行沈線が特徴的である。13は器面に細い沈線により文様が描かれており、細片のため型式認定までには至らないが、後期の所産としてよいであろう。

14～19は石器である。14～18は石鏃である。石材は14・16～18がチャート、15が安山岩である。14は平基無茎型で、左下端を欠損する。色調は緑灰色で、節理面が認められる。15は凹基無茎型であるが、両側縁に特徴があり五角形鏃に近い形状をなす。基部の挟りは浅く丸味を呈する。このタイプはしばしば弥生時代にも伴うもので、より後出の可能性も否定できない。色調は褐灰色である。16～18は凹基無茎型である。挟りは浅い。16は先端部が欠損するものの二等辺三角形に近い。色調は黒色で、節理痕が認められる。17・18は小型であり、一部に主剥離面を残す。17の形状は正三角形に近く、周囲の調整には粗雑さ窺われる。色調は緑灰色である。18はやや丸味を帯びた側縁が特徴となろう。先端部を欠損するが周囲の調整は丁寧できれいに仕上げられている。色調は暗緑灰色である。

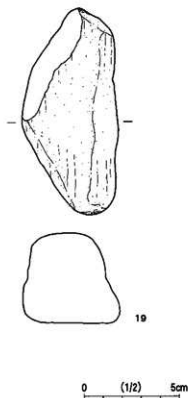
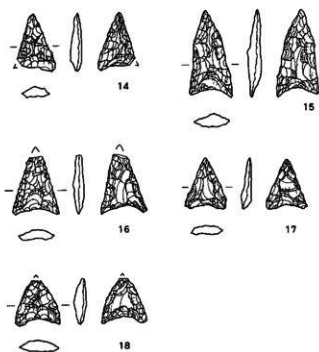
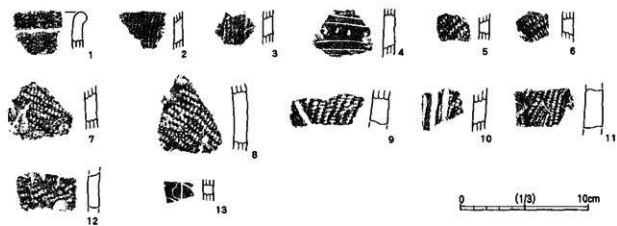
これらの石鏃は全体に比較的小型で、基部の挟りが浅く、無茎であることから、中期を前後する時期に位置するものと思われる。

19は敲石である。細長い礫を使用し、両端に敲打痕がある。左側縁上半の欠損は敲打によると思われる。色調は暗緑灰色が基調で、白色、灰黒色の粒子が見られる。石材は石英斑岩である。



- SK010土層
- 1 明褐色土 □-△粒主体
 - 2 褐色土 □-△粒主体, 黑色土粒少
 - 3 黑褐色土 □-△粒多
 - 4 III層
 - 5 IV層

第8图 SK010



第9圖 遺構外出土縄文時代遺物

第7表 遺構外出土縄文土器観察表

図	No.	時期・型式名等	遺物番号	部位	焼成	色調	胎土	備考
9	1	早期前葉・燃糸文	N2-23-1	r	良	赤褐色	白・砂	
	2	早期前葉・燃糸文	表採-1	m	良	灰褐色	白・砂	
	3	早期前葉・燃糸文	019-2	m	良	暗褐色	砂多	
	4	早期前葉・沈縄文	4号溝-2	m	良	赤褐色	繊維・白	
	5	前期・繊維土器	002-3	m	良	暗赤褐色	繊維少・砂	
	6	前期・繊維土器	002-3	m	良	黒褐色	繊維少・白・赤	
	7	中期・阿玉台式	C11-24-1	m	良	灰褐色	雲母多・白(大)	
	8	中期・阿玉台式	C11-24-1	m	良	灰褐色	雲母多・白(大)	
	9	中期後葉・加曾利E	009-2	m	良	明褐色	砂少ない	
	10	中期後葉・加曾利E	B14-01-1	m	良	明褐色	砂少ない	
	11	中期後葉・加曾利E	6C65-1	m	良	明褐色	砂少ない	
	12	中期後葉・加曾利E	C12-01-1	m	良	明褐色	砂少ない	
	13	後期	C12-01-1	m	良	明褐色	砂少ない	

※部位欄の記号は、rが口縁部、mが胴部を意味する。

※色調は外面の色調である。

※胎土欄の記号は、白が白色粒子、砂が砂粒、赤が赤褐色粒子、黒が黒色粒子、(大)は大粒を意味する。

第8表 縄文時代石器属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g
14	008-4	石鏃	チャート	1.95	1.30	0.45	0.68
15	028-33	石鏃	安山岩	2.85	1.45	0.48	1.53
16	I7-12-2	石鏃	チャート	1.95	1.52	0.39	0.91
17	M3-30-1	石鏃	チャート	1.65	1.31	0.36	0.50
18	表採-1	石鏃	チャート	1.48	1.49	0.41	0.65
19	表採-1	敲石	石英斑岩	10.81	5.10	4.77	334.67

3. 弥生時代

1) 概要

弥生時代の遺構は検出されなかった。土器も少量の出土で、大きな集落があった可能性は少ない。

2) 遺物

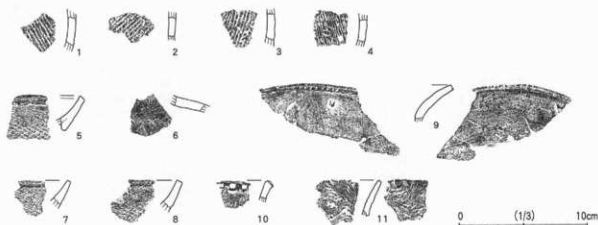
グリッドおよび他時代の遺構から少量の遺物が出土している。

遺構外出土遺物(第10図 図版14)

1～4は甕の胴部片である。1～3は附加条縄文が施される。1はRL縄文にL燃糸の附加条が施され、2・3にはLR縄文にR燃糸の附加条が施される。色調は1・2が褐色、3が暗褐色で、1・2は胎土に砂粒を多く含む。4はL燃糸文が施される。色調は褐色で、細砂粒を少量含む。

5～11はSI002出土である。5～8は壺である。5は口縁部片である。折返し口縁で、口縁および折返し部に網目状燃糸文が施される。色調は明褐色である。6は胴部片である。外面に燃糸文と赤彩が施される。色調は赤色であるが、断面は明褐色である。7・8は口縁部片である。折返し口縁と思われる、口縁および折返し部に網目状燃糸文が施される。内面は赤彩が施される。色調は褐色である。5～8の胎土は細砂粒をやや多く含む。

9～11は甕の口縁部である。9は口縁が平坦で、刻み目が施される。色調は灰褐色で、胎土は細砂粒をやや多く含む、赤色スコリアを少量含む。10は口縁が丸く、刻み目が施される。色調は灰褐色で、砂粒を多く含む。11は口縁は平坦で、口縁部内外面に爪形の文様が施される。色調は明褐色で、胎土は細砂粒をやや多く含む。



第10図 遺構外出土弥生土器

4. 古墳時代

1) 概要

古墳時代では竪穴住居跡が3棟検出された。住居跡の状況、出土遺物から前期と考えられる。位置は、調査区の中央やや南の地区で、標高は23m程である。南東側の浅い谷に臨み、調査区が伸びる向きと同じ方向に、等高線に沿って、並んだ状況で検出された。

2) 遺構

竪穴住居跡

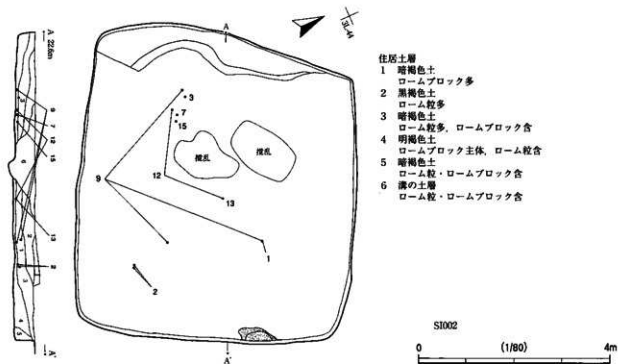
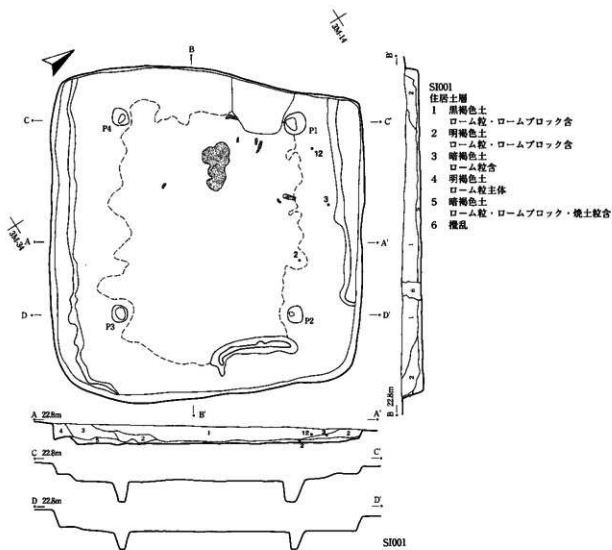
SI001(第11図 図版3)

調査区の中央やや南、3棟並んだ住居跡の北端である。主なグリッドは3M-14である。検出面の標高は22.7mである。

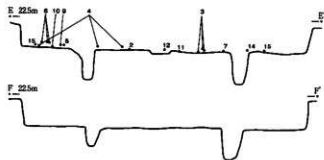
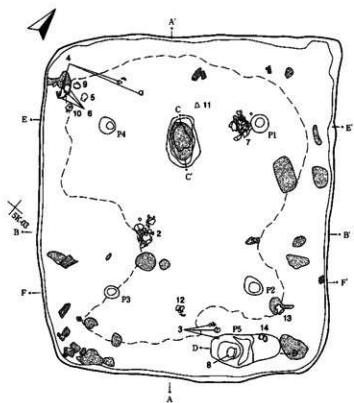
平面形はやや不整な隅丸長方形で、長辺7.00m、短辺6.56m、検出面からの深さは最大0.49mである。長軸の方位はN-56.5°-Wである。主柱穴は4か所検出された。P1～P4である。P1はほぼ円形で、径45cm、深さ46cm、P2は楕円形で35cm×30cm、深さ35cm、P3は楕円形で、37cm×30cm、深さ40cm、P4は、楕円形で、43cm×32cm、深さ43cmである。主柱穴で囲まれた範囲に、硬化面が検出された。カマドはなく、床面中央やや北西寄りに、炉跡が検出された。不整形な楕円形で、105cm×65cm、床面の掘り込みはほとんど無く、焼土化も弱い。壁溝はなく、間仕切り施設のものと思われる土手状遺構が、南東壁から1mほど離れて、壁に平行して検出された。検出長は186cm、幅23cm～35cm、床面からの高さは3cm～5cmである。また、南西壁下と北東壁下に細長い、段状遺構が検出された。南西壁下は、東隅から130cm手前で途切れている。幅22cm～68cm、床面からの高さは9cm～14cmである。北東壁下は、壁下全体に検出され、幅22cm～53cm、高さ5cm～13cmである。段状遺構を含む床面積は39.61㎡で、北東壁下の段部面積は2.56㎡、南西壁下の段部面積は1.91㎡である。

覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積と考えられる。床面直上に、焼土を含む土層が検出され、床面の炉跡付近から炭化材が少量出土しているが、廃棄後の焼却跡と考えられる。

遺物は少量である。ほとんどが破片で、覆土中から出土している。

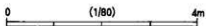


第11図 SI001・SI002



住居土層

- 1 黒色土
- 2 ローム粒少
- 3 暗褐色土
- 4 ローム粒多
- 5 暗褐色土
- 6 ローム粒・ロームブロック含
- 7 暗褐色土
- 8 焼土粒・炭化物含
- 9 暗褐色土
- 10 ローム粒含、炭化物少
- 11 雑瓦
- 12 C-C' (炉跡)
- 13 暗赤褐色土
- 14 焼土粒・焼土ブロック多
- 15 褐色土
- 16 焼土粒含
- 17 D-D' (貯蔵穴)
- 18 暗褐色土
- 19 ローム粒・ロームブロック含
- 20 暗褐色土
- 21 ローム粒・炭化物少
- 22 暗褐色土
- 23 炭化物多
- 24 褐色土
- 25 ローム粒・ロームブロック多



第12図 SI003

SI002(第11図 図版3)

調査区の中央やや南、3棟並んだ住居跡の中央である。主なグリッドは3L-44である。検出面の標高は22.4mである。

平面形はやや不整な隅丸長方形で、長辺6.58m、短辺4.58m、検出面からの深さは最大0.63mである。長軸の方位はN-60.0°-Wである。主柱穴は検出されなかった。カマドはなく、炉跡も確認されなかった。床面中央やや北西寄りに、後世の攪乱と思われる掘り込みが2基確認されたので、炉跡は攪乱で消滅したと考えられる。壁溝は検出されなかった。北西壁下に細長い、段状遺構が検出された。西隅から60cm手前で途切れている。幅42cm～78cm、床面からの高さは4cm～12cmである。段状遺構を含む床面積は33.90㎡で、段部面積は2.55㎡である。

覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積と考えられる。南東壁下中央やや北に焼土の堆積が検出された。25cm×75cmの楕円形の範囲である。ほかに焼土、炭化材は検出されなかった。焼失および廃棄後の焼却ではなく、廃棄後の堆積と考えられる。

遺物は少量である。ほとんどが破片であるが、床面からやや大形の破片が出土している。

SI003(第12図 図版3・4)

調査区の中央やや南、3棟並んだ住居跡の南端である。主なグリッドは4K-43である。検出面の標高は22.4mである。

平面形は隅丸長方形で、長辺7.16m、短辺6.20m、検出面からの深さは最大0.63mである。長軸の方位はN-37.0°-Wである。主柱穴は4か所検出された。P1～P4である。P1は楕円形で、38cm×35cm、深さ67cm、P2は楕円形で47cm×33cm、深さ64cm、P3は楕円形で、30cm×26cm、深さ39cm、P4は、楕円形で、37cm×33cm、深さ66cmである。主柱穴を包み込む形で、硬化面が検出された。カマドはなく、床面中央やや北西寄りのP1とP4の間に、炉跡が検出された。楕円形で、109cm×71cm、深さ6cmで、底面が良く焼土化している。壁溝検出されなかった。南東壁下中央やや東に、貯蔵穴が検出された。方形に近い楕円形で、97cm×68cm、深さ40cmである。東側が浅い段状になり、東側壁も2段になる。床面積は40.54㎡である。

覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積と考えられる。床面に、焼土、炭化材を含む土層が検出され、床面の四隅付近から焼土、炭化材の堆積が検出された。出土量がやや多いので、焼失の可能性が考えられる。

遺物は多く、貯蔵穴内および床面から、完形もしくは完形に復元可能な土器が多く出土している。このことから本跡は、廃棄後の焼却よりは、焼失の可能性が大きいと考えられる。

2) 遺物

竪穴住居跡

遺物の法量、調整等は第9表に記載したので、ここでは主に器形の特徴を述べる。

SI001(第13図 図版14)

遺物量は少なく、ほとんどが破片である。2は床面から、他は覆土中から出土している。

1～11は土器である。1は坏と考えられる。小型の碗状で、口縁はやや外傾して、丸い。内外面に赤彩が施される。2・3は小型壺と考えられる。2は口縁部で、外傾して広がり、口縁が小さく外反する。口縁は丸い。内外面に赤彩が施される。3は底部で、中央部を欠くが、平底である。外面に赤彩が施される。4～6は高坏である。4・5は坏部である。4はすばまった脚部から体部が外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁部に至る。口縁部は外傾し、口縁はやや尖っている。5は体部が大きく広がって立

ち上がり、わずかに内彎して口縁部に至る。口縁部は大きく外傾し、口縁は丸い。6は脚部である。外傾して広がり、端部がわずかに内彎する。端部内側にハケ目が、幅の狭い帯状に施される。

7は壺の口縁部片である。外面に突帯が1条施される。横方向で、断面は三角形である。8は壺の胴部片である。外面に網目状熱糸文が施される。9は壺の口縁部である。外面にハケ目が施され、内外面に赤彩が施される。10・11は壺の胴部片である。外面にハケ目が施される。12は碟片である。楕円形の碟が長軸方向に破砕されている。敲石的に使用されたと考えられる。

SI002(第13・14図 図版14)

遺物量は少なく、全体の器形がわかる個体は器台形土器1点(12)である。1～3・7・9・12・13・16は床面または床面付近から、他は覆土中から出土している。

1・2は壺である。1は口縁部である。胴部からはほぼ垂直に立ち上がり、外傾して広がりながら口縁に至る。口縁はわずかに内彎する。口縁は丸く、内側にわずかにくぼむ。2は胴部である。ほぼ球形である。3は壺の口縁部～胴部上半部である。丸味のある胴部から口縁部が外反して開き、口縁に至る。口縁はヨコナデが施され、沈線状のわずかなくぼみが観察される。4～6は壺の底部である。平底で、5・6はわずかに突出している。7・8は小型壺の底部である。7はやや上げ底で、外面に赤彩が施される。8は平底で、内外面に赤彩が施される。

9は台付壺の胴部下部である。胴部は球形に近いと考えられ、台部との接合部がかなりすぼまっている。10・11は高坏である。11は坏部下部である。体部が外傾して大きく広がる。11は坏部下部～脚部上部である。体部はほぼ水平に広がり、脚部は内彎しながら広がる。外面および坏部内面に赤彩が施される。

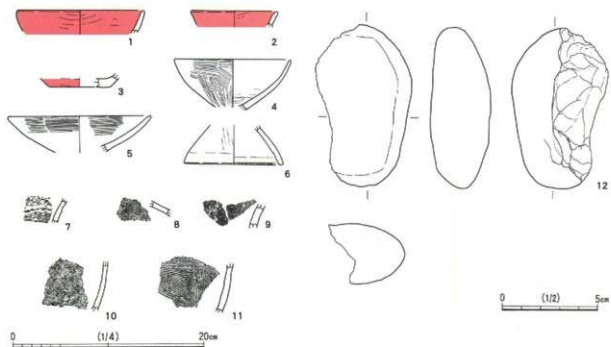
12～18は器台形土器である。全体の器形がわかるものは12である。器受部と脚部から構成され、筒状である。器受部は扁平な球形で、口縁がわずかに外反する。脚部は外傾して広がり、ゆるやかに内彎して、端部に至る。端部は平坦で、上から押されたように、内側にわずかに突出する。

SI003(第14・15図 図版14・15)

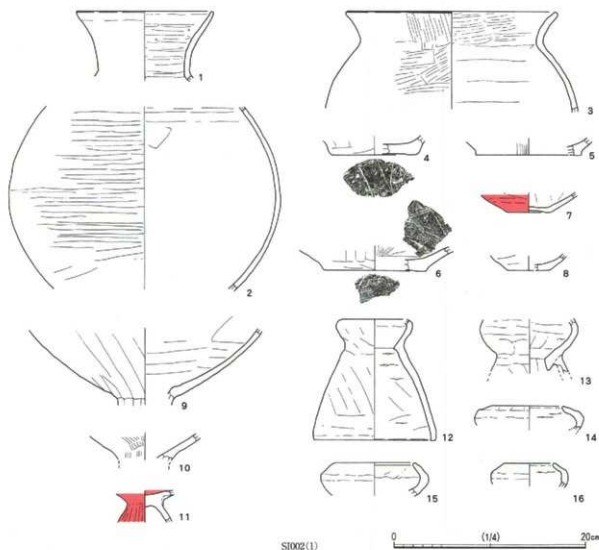
遺物量は多く、図示した遺物は、床面および床面付近の出土である。特に、8の甔は貯蔵穴内から出土している。

1～4は壺である。1は口縁部で、有段口縁である。口縁は折り返され、折返し二重で、折返し下端に刻み目が施される。折返し部にはLR縄文が施され、下側の折返し部には、刻み目がある棒状浮文が施される。3本一組で、4か所に貼り付けられたと考えられる。内外面に赤彩が施される。2は完形に近い折返し口縁の壺である。底部は中央がわずかに上げ底である。胴部はやや扁平な球形で、口縁部がほぼ垂直に立ち上がり、外反して口縁に至り、口縁付近でわずかに内彎する。口縁は平坦で、折返し部も含めて、横方向のハケ目とヨコナデが施される。3は口縁部である。折返し口縁で、口縁は丸い。4は口縁部で、素口縁である。口縁部上半が内彎し、受け口状になる。口縁直下の外面にハケ目状のヨコナデが施される。5は小型壺である。完形で、底部は平底である。胴部は下腹れで、腹れ部分がやや強く屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎しながら口縁に至る。口縁は丸く、わずかに受け口状である。外面全体に赤彩が施される。

6・7は壺である。ほぼ同形で、胴部下半部～底部を欠く。ほぼ球形の胴部から口縁部が垂直に立ち上がり、ゆるやかに外反して口縁に至る。口縁は丸く、刻み目が施される。7の刻み目はやや強く、内部にハケ目状の跡が観察されるので、硬いハケ状工具による施文と考えられる。6の刻み目はやや弱いが、同

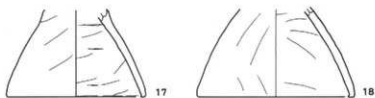


SI001

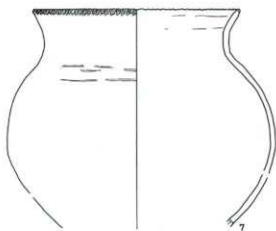
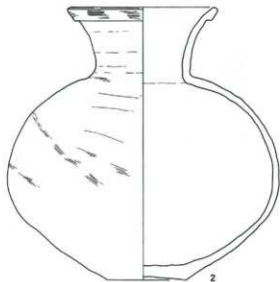
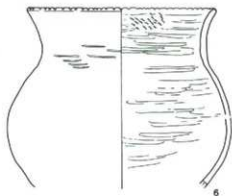
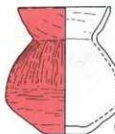
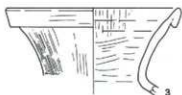


SI002(1)

第13圖 SI001・SI002(1) 出土遺物



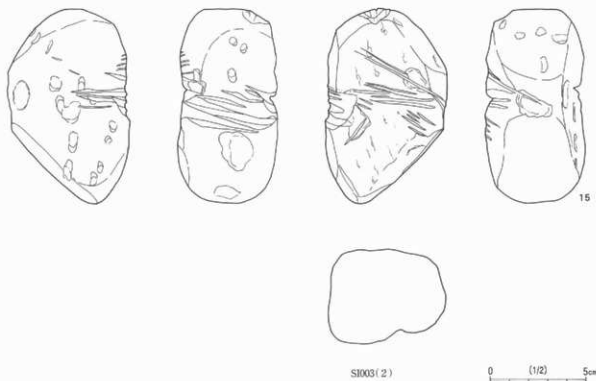
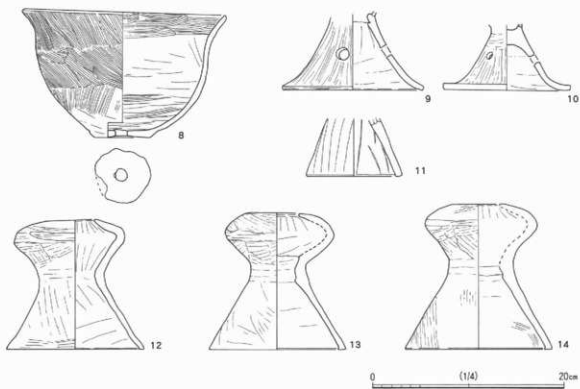
SI002(2)



SI003(1)

0 (1/4) 20cm

第14图 SI002(2)·SI003(1) 出土遺物



第15図 SI003(2) 出土遺物

じょうなハケ状工具による当て跡が、口縁部内部に観察される。

8は単孔の甔である。鉢形で、底部中央に焼成前の穿孔が施される。底部は中央がわずかに上げ底である。胴部は半球形で、口縁部が短く外反し、口縁は平坦である。

9・10は高坏である。脚部の遺存で、すばまった坏部下部からラッパ状に外反して広がり、端部に至る。10は外反が大きく、端部がほぼ水平である。中間に透かし穴が施され、3か所と考えられる。

11~14は器台形土器である。11は脚部で、台付甕の台部の可能性もある。12~14はほぼ同形である。器受部と脚部から構成され、筒状である。器受部は扁平な球形である。12は口縁がわずかに外反する。13・14には反りはない。脚部は外傾して広がる。12は端部付近でわずかに外反する。13・14はほぼ直線的に端部に至る。端部は平坦で、上から押されたように、内側にわずかに突出する。

15は軽石を使用した砥石である。原形は楕円形を呈していたものと思われるが、使用による磨耗のため、図の下部が三角形形状になったと考えられる。中央部がややくぼみ、刻み目状の使用痕が観察される。形状から、浮子を転用した可能性がある。

第9表 古墳時代住居出土遺物観察表

()は復元値、[]は現存値を表す 口径・底径・器高はcm (調整は上から→の順)

遺物・神部番号	器種	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	地味	特徴	遺物番号
SI001	1 土師器 坏	(13.4)			10%以下口縁部	内外 赤色(赤彩) 赤色(赤彩)	細砂粒極少	良好	内 ヘラミガキ、赤彩 外 ヘラナ ナ、赤彩	11
	2 土師器 小型甔	(9.1)			10%以下口縁部	内 暗赤色(赤彩) 外 暗赤色(赤彩)	細砂粒少	良好	内 ヨコナデ、赤彩 外 ヨコナデ、 赤彩	6.7
	3 土師器 小型甔		6.2		10%底部	内 暗褐色 外 淡褐色	細砂粒少赤色ス コリアやや多	良好	内 ナデ 外 ヨコナデ、赤彩 底 ヘラズリ	1
	4 土師器 高坏	(12.2)			15%坏部	内 暗赤褐色 外 暗赤褐色一部黒色	細砂粒やや多	良好	内 ヘラナデの後にナデ 外 ハケ目	7.9,11
	5 土師器 高坏	(15.0)			15%坏部	内 赤色(赤彩) 外 赤色(赤彩)	細砂粒やや多、赤 色スコリアやや多	良好	内 ハケ目、赤彩 外 ハケ目、赤 彩	9
	6 土師器 高坏	(10.5)			15%脚部	内 黒褐色 外 暗灰褐色	細砂粒少	良好	内 ナデ、下腹部ハケ目 外 ヘラ ナデ、下腹部縦方向、ほかは縦方向	9.10
	7 土師器 甔				胴部片	内 淡明褐色 外 淡明褐色	細砂粒、黒スコリ ア粒少	良好	内 調整のため不明 外 ハケ目 (横方向)、変形	9
	8 土師器 甔				胴部片	内 明灰色 外 赤褐色	細砂粒極少	良好	内 ナデ 外 網目状赤文	8
	9 土師器 甔				口縁部	内 赤色(赤彩) 外 赤色(赤彩)	細砂粒少	良好	内 ヘラミガキ、赤彩 外 ハケ目、 赤彩	7
	10 土師器 甔				胴部片	内 暗灰褐色 外 暗灰褐色	細砂粒極少	良好	内 ヘラナデ 外 ハケ目	8
	11 土師器 甔				胴部片	内 灰褐色 外 暗赤褐色	砂粒少、粗砂粒少	良好	内 ヨコナデ 外 ハケ目	4
12 破片	長[8.4] 幅[5.0]		厚3.1	70%		光潤岩質			3	
SI002	1 土師器 甔	(14.2)		肩径(9.4)	5% 胴部一頭部	内 暗褐色 外 明褐色一部暗褐色	砂粒やや多	良好	内 ヨコナデ→ヘラナデ 外 ヨコ ナデ→ナデ	2.5
	2 土師器 甔			肩径(28.2)	10% 胴部	内 暗褐色 外 明褐色一部黒色	長石少 砂粒やや 多	良好	内 ヨコナデ→ナデ 外 粗い横方 向ヘラナデ→ナデ	3,8,16
	3 土師器 甔	(22.0)		肩径(19.0)	10% 口縁→胴部上部	内 明褐色一部暗褐色 外 明褐色	砂粒少 スコリア 微	良好	内 粗いハケ目状のナデ→ヨコナデ 外 ヨコナデ→粗いハケ目状のナデ	3,4,15
	4 土師器 甔	(9.0)			5%以下 底部	内 褐色一部暗褐色 外 明褐色	細砂粒やや多	良好	外 ナデ 底 木葉痕	3
	5 土師器 甔	(11.0)			5%以下 底部	内 暗褐色 外 暗褐色一部暗赤褐 色	細砂粒やや多	良好	内 ナデ 外 ハケ目の後ナデ 底 ナデ	1
	6 土師器 甔	10.4			5%以下 底部	内 黒褐色 外 赤褐色	砂粒やや多 スコ リア少	良好	内 ハケ目状のナデ→ナデ 外 ナデ 底 ナデ	3
	7 土師器 甔	4.2			5% 底部	内 暗褐色 外 褐色一部赤彩が残 る	細砂粒やや多	良好	内 ナデ 外 ナデ、赤彩が残 る ナデ	4,11
	8 土師器 甔	(4.2)			5%以下 底部	内 赤色赤彩 外 暗赤褐色、赤彩	細砂粒少	良好	内 ナデ 外 ナデ 底 ナデ	4
	9 土師器 台付甕			台脚径(5.4)	10% 胴部下部	内 黒褐色 外 明褐色一部暗褐色	砂粒やや多	良好	内 ヨコナデ 外 縦方向ハケ目状 のナデ→縦方向ナデ	3,4,5,7,14
	10 土師器 高坏				5%以下 坏部	内 黒色 外 赤褐色	細砂粒少	良好	内 丁寧なナデ 外 ハケ目の後ナデ	3

遺構・埋蔵 番号	部 種	口 径	底 径	器 高	遺存度	色 調	胎 七	焼 成	特 徴	遺物番号
11	土師器 高坏				20% 坏部下部→脚部 上部	内 坏部赤褐色・脚部 褐色 外 坏部赤褐色	縹砂粒やや多	良好	内 坏部ヘラミダギ、赤影 外 ナ デ→ヘラミダギ、赤影	3
12	土師器 異形器 台	(6.8)	(12.8)	12.5	40%	内外 明褐色 明褐色	縹砂粒やや多 小 礫散	良好	内 ヨコナデ→ナデ 外 ヘラズリ の後ナデ	3.46.10 16と接合
13	土師器 異形器 台			白部径(10.2)	20% 白部	内外 暗褐色 褐色一部明褐色 黒褐色	砂粒少	良好	内 ナデ 外 ナデ	4.6
14	土師器 異形器 台	(7.0)		台部径(11.4)	5% 台部	内外 褐色 褐色一部暗褐色	砂粒少	良好	内 ナデ 外 ナデ	1
15	土師器 異形器 台	(8.2)		台部径(11.2)	10% 白部	内外 褐色 褐色一部暗褐色	砂粒少	良好	内 ヨコナデ→ナデ(横方向主体) 外 ナデ(横方向主体)	12
16	土師器 異形器 台	(5.0)		台部径(9.0)	5% 白部	内外 黒褐色 褐色一部暗褐色	縹砂粒少	良好	内 ナデ	4
17	土師器 器台	(14.6)			30% 脚部	内外 明褐色一部暗褐色 明褐色一部暗褐色	砂粒少 縹砂粒や や多	良好	内 ナデ 外 ナデ	2.3
18	土師器 器台	(16.8)			20% 脚部	内外 暗褐色一部黒褐色 灰黄褐色一部黒色	砂粒少	良好	内 ナデ 外 ナデ	1.3.4
S1003	1 土師器 器台	(23.1)			10%以下口縁→ 脚部	内外 淡明褐色 淡明褐色	砂粒やや多	良好	内 ヨコナデ、赤影 外 二重の折 返し縁部に刻み目と1段厚縁調文→ 縦方向ヘラナデ赤影 底 刻み目 のある様状浮文	12
2	土師器 器台	(15.7)	8.0	28.3 原径9.9 脚径28.4	90%	内外 褐色 褐色一部黒褐色	縹砂粒やや多	良好	内 ナデ 外 折返し口縁+横方向 ハケ目→ヨコナデ→ハケ目の後ヘラ ナデ→ヘラズリの後ナデ 底 本 黒影	2.4.6
3	土師器 器台	18.4		原径10.8	25%口縁→脚部	内外 褐色 明褐色	縹砂粒やや多 ス コリア少	良好	内 縦方向ヘラナデ→横方向ヘラナ デ 外 折返し口縁、横方向ヘラナ デ→縦方向ハケ目状ナデの後ヘラナ デ	1.2.22 23.24
4	土師器 器台	14.4→ 15.0		原径10.9	20%口縁→脚部	内外 褐色一部黒色 褐色一部黒褐色	縹砂粒やや多	良好	内 縦いヨコナデ→ハケ目 外 ハケ 目状の後ヨコナデ→ナデ一部ハケ目 が残る	9.11.18
5	土師器 器台	9.7	3.8	13.1→13.3 原径6.7 脚径12.4	100%	内外 赤色、調部赤褐色 赤色一部明褐色 黒褐色	縹砂粒やや多	良好	内 ナデ、口縁部赤影 外 ナデ→ ヘラナデ、赤影 底 ヘラズリ の後ナデ	12
6	土師器 器台	19.8		原径17.2 脚径(23.5)	25%底部欠	内外 褐色一部黒褐色 暗褐色一部黒褐色	砂粒少	良好	ヘラナデ→ハケ目状用具当て裏→ ヘラナデ 外 口縁部刻み目→ヨコナ デ→調部用具当て裏	15.16.17
7	土師器 器台	21.5→ 23.8		脚径28.0	30%底部欠	内外 褐色一部黒褐色 外 淡明褐色一部 黒褐色	砂粒少	良好	内 ヨコナデ→ナデ 外 口縁にハ ケ目状の押入→ヨコナデ→調整用 具当て裏→ナデ	5
8	土師器 瓶	21.3	5.6	13.4→12.8	100%	内外 明褐色一部黒色 灰褐色 外 明褐色一部黒褐色	砂粒少 赤色スコ リア少	良好	内 ハケ目→ヘラナデ 外 ハケ目 →ハケ目の後ヘラズリ 底 焼成 前の穿孔 1孔の痕	26
9	土師器 高坏	14.2→ 14.7			40%脚部	内外 昏褐色一部褐色 昏褐色 外 昏褐色一部淡 褐色、黒褐色	縹砂粒少	良好	内 ナデ→ヨコナデ 外 ヘラナ デ→ヨコナデ、逆し次(3か所と思 われる)	13
10	土師器 高坏		13.6		50%脚部	内外 黒褐色一部明褐色 外 淡明褐色一部黒褐 色	縹砂粒少	良好	内 ヨコナデ 外 縦方向ヘラミダ ギ→縦方向ヘラミダギ、底 逆し次 (3か所と思われる)	14
11	土師器 異形器 台	(10.0)			10%以下脚部	内外 褐色 暗褐色	砂粒少 赤色スコ リア少	良好	ナデ→調整用具の当て裏 外 ヘラ ズリ	7
12	土師器 異形器 台	(4.8)	14.3	13.5 台部径 11.6	70%	内外 褐色一部黒褐色 褐色一部暗褐色	縹砂粒やや多	良好	内 台部ナデ、脚部ナデ 外 台部 ハケ目状のナデ	2.25
13	土師器 異形器 台	3.2→ 4.3	14.2	14.2 台部径 10.8→11.4	100%	内外 明褐色 明褐色一部暗褐 色、灰褐色	縹砂粒やや多 ス コリア少	良好	内 ナデ 外 ハケ目状のナデ、一 部不明瞭	21
14	土師器 異形器 台	3.8→ 4.8	14.5→ 15.2	15.1 白部径 11.6→12.1	90%	内外 暗褐色、台部内黒 褐色 外 明褐色、台部淡黒 褐色	砂粒少 縹砂粒や や多	良好	内 台部ナデ、脚部ナデ、一部ハケ 目状のナデ 外 台部ハケ目状の ナデ、一部不明瞭	2.20
15	石製品 砥石	長5.4 幅10.1		厚5.2 重さ49.6g	100%	外 淡褐色			全体に磨耗 刻み目状の使用痕(研 磨痕) 石質は軽石	19

5. 平安時代

1) 遺構

遺構は、平安時代の竪穴住居跡11棟・土坑9基である。

竪穴住居跡

調査区の南端部に集中して検出された。地形的には清戸遺跡が所在する台地の南西端部で、東側に神崎川の小支谷に臨む平坦面である。

S1004(第16図 図版4)

主要グリッドは12D-01で、標高は21.9mである。平面形はやや不整な隅丸長方形で、規模は長辺3.72m、短辺3.24mで、検出面からの深さは最大0.37mである。北東壁中央にカマドがあり、カマドを基準とした主軸方位はN-62.5°-Eである。主柱穴、出入り口ピットは検出されなかった。壁溝はカマド両側を除いて全周する。幅15cm～30cm、床面からの深さは4cm～7cmである。床面積は8.23㎡である。床面は平坦で、カマド前面から対面壁付近にかけて、帯状に硬化面が検出された。

カマドは長さ85cm、幅116cmである。壁の掘り込みは半円形で、56cm、袖は右が長さ29cm、幅41cm、左が長さ13cm、幅26cmである。火床部はほぼ円形で、径60cm、床面への掘り込みは浅く、4cmである。煙道壁の傾斜角度は約58度である。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。カマド前面の床面から炭化材が出土しているが、他には出土していないので、焼失住居ではない。

床面および覆土中から実測可能な遺物が34点出土している。

S1005(第16図 図版5)

主要グリッドは12C-33で、標高は21.8mである。平面形は隅丸長方形で、北東隅および北西隅が攪乱を受けて、削平されている。規模は長辺3.36m、短辺3.02mで、検出面からの深さは最大0.43mである。カマドを持ち、作り替えが行われ、新旧2基のカマドが検出された。新カマドは西壁中央にあり、新カマドを基準とした主軸方位はN-76.5°-Wである。主柱穴、出入り口ピットは検出されなかった。壁溝は新旧のカマドを除いて全周すると思われる。幅19cm～30cm、床面からの深さは5cmである。床面積は6.81㎡である。床面は平坦で、カマド前面から対面壁付近にかけて、帯状に硬化面が検出された。

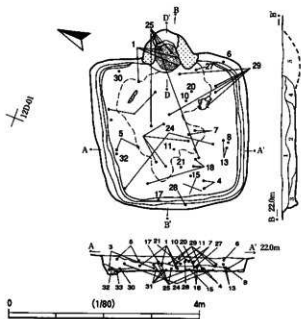
新カマドは長さ83cm、幅128cmである。壁の掘り込みは三角形で、33cm、袖は右が長さ55cm、幅45cm、左が長さ53cm、幅41cmである。火床部はほぼ円形で、径32cm、床面への掘り込みは10cmで、よく焼土化している。煙道壁の傾斜角度は約52度である。旧カマドは北壁のほぼ中央に検出された。壁の掘り込みと火床部のみの遺存である。火床部は横長の楕円形で、42cm×37cm、床面への掘り込みは10cmである。壁の掘り込みは三角形で、21cmである。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。

床面および覆土中から実測可能な遺物が36点出土し、墨書、線刻が出土している。

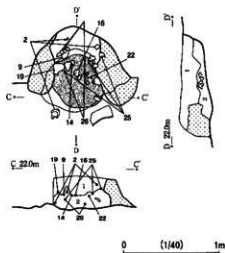
S1006(第17図 図版5)

主要グリッドは12C-34で、標高は21.6mである。平面形は縦長の隅丸長方形で、規模は長辺3.34m、短辺2.56mで、検出面からの深さは最大0.19mである。北壁中央にカマドがあり、カマドを基準とした主軸方位はN-13.0°-Wである。主柱穴、壁溝、出入り口ピットは検出されなかった。床面積は6.25㎡である。床面北西部分に攪乱を受けている。床面は平坦で、カマド前面から対面壁付近にかけて、帯状に硬化面が検



住居土層

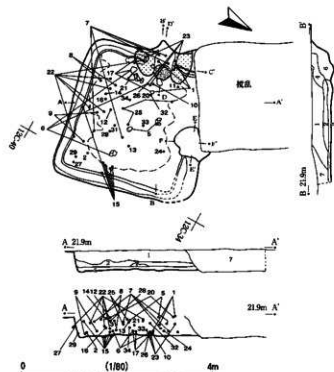
- 1 暗褐色土 ローム粒主体、ロームブロック含
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック含
- 3 明褐色土 ローム粒主体、ロームブロック含
- 4 明褐色土 ローム粒・山砂粒含
- 5 カマド



カマド土層

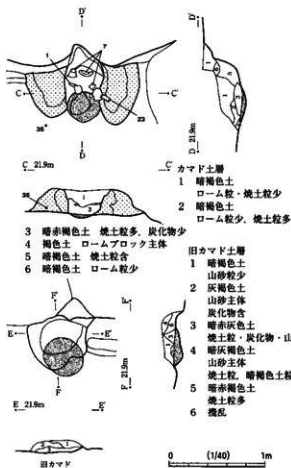
- 1 暗褐色土 山砂粒・焼土粒少
- 2 暗褐色土 焼土粒多、山砂粒少
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロック多

SI004



住居土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多、焼土粒少
- 3 暗褐色土 山砂粒多
- 4 暗褐色土 ローム粒・山砂粒少
- 5 褐色土
- 6 カマド
- 7 攪乱



カマド土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少
- 2 暗褐色土 ローム粒少、焼土粒多

旧カマド土層

- 1 暗褐色土 山砂粒少
- 2 灰褐色土 山砂主体 炭化物含
- 3 暗赤灰色土 焼土粒・炭化物・山砂粒含
- 4 暗灰褐色土 山砂主体 焼土粒、暗褐色土粒少
- 5 暗赤褐色土 焼土粒多
- 6 攪乱

SI005

第16図 SI004・SI005

出された。

カマドは長さ72cm、幅117cmである。壁の掘り込みは半円形で、60cm、袖は右が長さ35cm、幅45cm、左が長さ27cm、幅15cmである。火床部は横長の楕円形で、径45cm×38cm、床面への掘り込みは8cmである。煙道壁の傾斜角度は約52度である。

覆土はほぼ単一層で、自然堆積と考えられる。

遺物の出土量は少ないが、床面および覆土中から実測可能な遺物が17点出土している。

SI007(第17図 図版5)

主要グリッドは12B-23で、標高は22.0mである。平面形は縦長の長方形で、規模は長辺3.64m、短辺2.62mで、検出面からの深さは最大0.19mである。北西壁中央にカマドがあり、カマドを基準とした主軸方位はN-47.0°-Wである。主柱穴、壁溝、出入り口ピットは検出されなかった。床面積は6.81㎡である。床面はやや凹凸がある。

カマドは長さ84cm、幅66cmである。壁の掘り込みはやや長い半円形で、80cm、袖は右が長さ4cm、幅17cm、左が長さ4cm、幅12cmである。火床部は小さく、壁の掘り込み内である。楕円形で、22cm×12cmである。煙道壁の傾斜角度は約21.5度である。

覆土はほぼ単一層で、自然堆積と考えられる。

遺物の出土量は少ないが、床面および覆土中から実測可能な遺物が6点出土している。

SI008(第17図 図版6)

北西半分が調査区外である。主要グリッドは8F-42で、標高は21.7mである。平面形は隅丸方形で、規模は長辺3.40m、検出長1.82mで、検出面からの深さは最大0.32mである。検出部にカマドは無いが、北を基準とした主軸方位はN-46.0°-Eである。主柱穴、出入り口ピットは検出されなかった。壁溝は検出部では全周する。幅34cm～68cm、床面からの深さは7cmである。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。

床面および覆土中から実測可能な遺物が27点出土している。

SI009(第18図 図版6)

主要グリッドは14A-02で、標高は21.9mである。平面形はやや横長の隅丸方形で、規模は長辺2.90m、短辺2.83mで、検出面からの深さは最大0.42mである。北東壁中央にカマドがあり、カマドを基準とした主軸方位はN-60.0°-Eである。主柱穴、壁溝、出入り口ピットは検出されなかった。床面積は5.45㎡である。床面は平坦である。

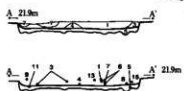
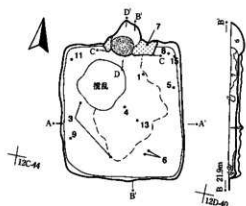
カマドは長さ75cm、幅120cmである。壁の掘り込みは三角形で、37cm、袖は右が長さ38cm、幅46cm、左が長さ10cm、幅25cmである。火床部はほぼ円形で、径42cm、床面への掘り込みは10cmで、よく焼土化している。煙道壁の傾斜角度は約45度である。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。

遺物の出土量は少ないが、床面および覆土中から実測可能な遺物が9点出土している。

SI010(第18図 図版6)

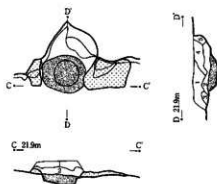
主要グリッドは8G-00で、標高は21.4mである。西側2/3が溝状遺構SD012により削平されてる。平面形は隅丸方形と考えられる。規模は削平のため不明である。検出面からの深さは最大0.35mである。東壁が遺存し、東壁を基準とした主軸方位はN-31.0°-Eである。削平により、カマド、主柱穴、出入り口ピット



住居土層

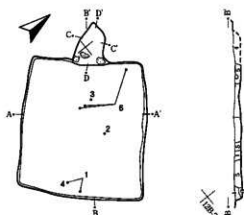
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多
- 3 暗褐色土 ローム粒多
- 4 暗褐色土
- 5 褐色土 土床
- 6 カマド
- 7 攪乱

SI006



カマド土層

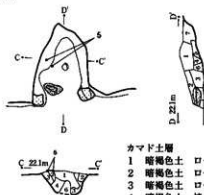
- 1 暗褐色土 ローム粒少
- 2 褐色土 焼土粒少
- 3 灰白色土
- 4 暗赤灰白色土 山砂主体、ローム粒・焼土粒含
- 5 暗褐色土 山砂粒・焼土粒少



住居土層

- 1 暗褐色土 ローム粒少
- 2 暗褐色土 焼土粒含
- 3 褐色土 ソフトローム主体、黒色土少
- 4 カマド
- 5 攪乱

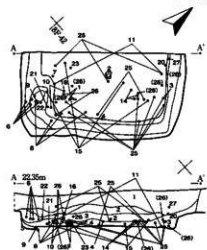
SI007



カマド土層

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少
- 2 暗褐色土 ローム粒少
- 3 暗褐色土 ローム粒やや多
- 4 暗褐色土 焼土粒少
- 5 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少
- 6 土製支脚
- 7 暗褐色土 焼土粒・山砂粒少

0 (1/40) 1m

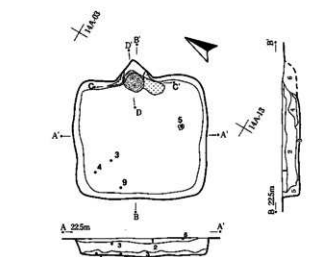


住居土層

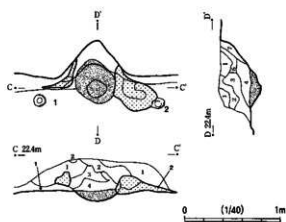
- 1 表土層 (攪乱層) ロームブロック含
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック含
- 3 暗褐色土 ロームブロック含
- 4 暗褐色土 ローム粒主体
- 5 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック含

SI008

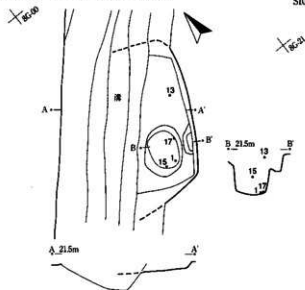
第17図 SI006・SI007・SI008



- 住居土層
- | | | | |
|--------|----------------|--------|------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒少 | 4 暗褐色土 | ローム多 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒多・山砂粒少 | 5 暗褐色土 | |
| 3 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒・山砂粒多 | 6 カマド | |

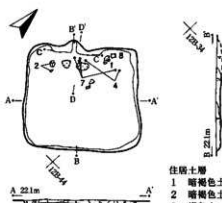


- カマド土層
- 1 暗褐色土 山砂粒微
 - 2 暗褐色土 山砂粒多
 - 3 暗褐色土 焼土粒・炭化粒・山砂粒少
 - 4 暗赤褐色土 焼土粒多、炭化粒微
 - 5 褐色土 ソフトローム多
 - 6 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・山砂粒少
 - 7 暗褐色土 ローム粒少

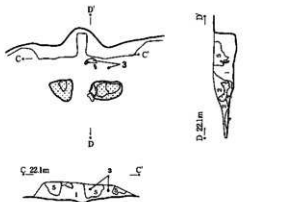


SI009

SI010



- 住居土層
- | | |
|--------|-------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒含 |
| 2 暗褐色土 | 炭化粒少 |
| 3 褐色土 | |
| 4 カマド | |
| 5 痕点 | |



- カマド土層
- 1 褐色土 ソフトローム
 - 2 暗褐色土 焼土粒・炭化粒・山砂粒少
 - 3 暗褐色土 焼土粒多
 - 4 褐色土 ローム・山砂粒含
 - 5 痕点

SI011

第18図 SI009・SI010・SI011

は確認できなかった。壁溝は東壁南部下に検出された。長さ65cm、幅28cm、床面からの深さは7cmである。南東隅に貯蔵穴が検出された。楕円形で、107cm×77cm、深さ56cmである。

土層断面から、SD012より古いと考えられる。

床面、貯蔵穴内、および覆土中から実測可能な遺物が17点出土している。

SI011(第18図 図版7)

主要グリッドは12B-33で、標高は22.0mである。平面形はやや横長の隅丸方形で、規模は長辺2.64m、短辺2.25mで、検出面からの深さは最大0.21mである。北西壁中央にカマドがあり、カマドを基準とした主軸方位はN-46.0°-Wである。支柱穴、壁溝、出入り口ピットは検出されなかった。床面積は4.46㎡である。床面は平坦である。

カマドの遺存は悪く、袖部の一部と、壁の掘り込みである。また、壁に袖の一部が造り出されている。造り出しの長さは22cm、幅98cmである。壁の掘り込みは半円形で、20cmである。火床部はほとんど確認されなかった。煙道の傾斜角度は約82度である。

覆土は単一層で、自然堆積と考えられる。

遺物の出土量は少ないが、床面、カマド内および覆土中から実測可能な遺物が8点出土している。

SI012(第19図)

主要グリッドは13A-09で、標高は22.1mである。全体に削平され、遺存は悪い。平面形はやや横長の隅丸方形で、規模は長辺4.68m、短辺4.22mで、検出面からの深さは最大0.16mである。西壁中央にカマドがあり、カマドを基準とした主軸方位はN-82.0°-Wである。支柱穴、壁溝、出入り口ピットは検出されなかった。床面は平坦で、カマド前面から住居中央の床面まで、帯状に硬化面が検出された。床面積は16.82㎡である。

カマドの遺存は悪く、壁の掘り込みと、右袖および火床部のごく一部のみである。壁の掘り込みは三角形で、36cm、幅は72cmである。煙道壁の傾斜角度は約62度である。

覆土は床面直上の単一層である。

カマド内、床面および覆土中から実測可能な遺物が19点出土している。

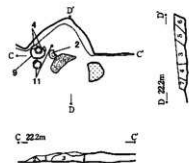
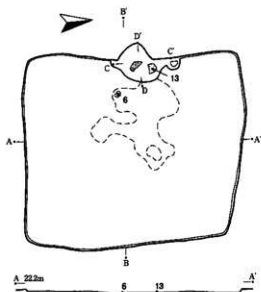
SI013(第19図 図版7・8)

主要グリッドは11D-43で、標高は21.9mである。平面形は隅丸方形で、ほぼ正方形である。規模は一辺2.97mで、検出面からの深さは最大0.30mである。北隅にカマドがあり、カマドを基準とした方位はN-55°-Eで、壁を基準とした方位はN-50.5°-Eある。支柱穴、出入り口ピットは検出されなかった。壁溝はカマド両側を除いて全周する。幅18cm～38cm、床面からの深さは7cm～12cmである。床面積は6.65㎡である。床面は全体に平坦である。

カマドは長さ67cm、幅93cmである。壁の掘り込みは三角形で、54cmである。住居の隅を利用して作られたので、袖は極端に短く、右が長さ18cm、幅23cm、左はほとんど無い。火床部は横長の楕円形で、30cm×27cm、床面への掘り込みはごく浅いが、良く焼土化している。煙道壁の傾斜角度は約38度である。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。覆土中から炭化材が出土しているのので、廃棄後の焼却と考えられる。

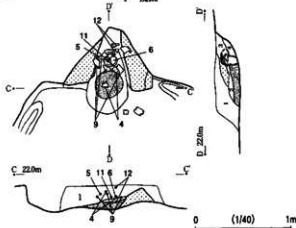
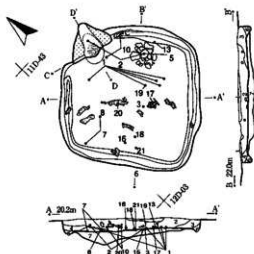
カマド内、床面および覆土中から実測可能な遺物が21点出土している。



- カマド土層
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化殻少
 - 2 褐色土 褐色土少
 - 3 暗赤褐色土 焼土粒多 褐色土少
 - 4 暗褐色土 ソフトローム含
 - 5 暗褐色土 焼土粒少
 - 6 暗褐色土 ソフトローム少
 - 7 暗褐色土 焼土粒微

- 住居土層
- 1 暗褐色土 ローム粒少
 - 2 褐色土 ローム多
 - 3 暗褐色土 ローム粒・山砂粒少
 - 4 攪乱

SI012



SI013

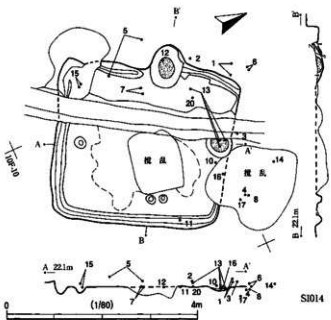
SI013

住居土層

- 1 明褐色土 ローム少
- 2 暗褐色土 ローム粒・炭化材含
- 3 褐色土 ローム粒多
- 4 褐色土 焼土粒多、ローム粒含
- 5 焼土
- 6 明褐色土 ローム粒多
- 7 粘床

カマド土層

- 1 黒褐色土 山砂粒含
- 2 黒褐色土 焼土粒・山砂粒含
- 3 暗褐色土 焼土粒・山砂粒少
- 4 暗褐色土 焼土粒やや多



SI014

住居土層

- 1 暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化殻含
- 2 灰褐色土 山砂ブロック含
- 3 赤褐色土 焼土

第19図 SI012・SI013・SI014

SI014(第19図 図版9)

主要グリッドは10F-00で、標高は21.9mである。全体に攪乱、削平を受け、遺存は悪い。平面形は横長の隅丸長方形で、北東壁および西隅部分が攪乱を受けて、削平されている。規模は長辺3.81m、短辺3.72mで、検出面からの深さは最大0.18mである。カマドは、作り替えが行われ、新旧2基が検出された。新カマドは北西壁中央にあり、新カマドを基準とした主軸方位はN-58.0°-Wである。主柱穴は検出されなかった。壁溝は新旧のカマドを除いて全周すると思われる。幅14cm～30cm、床面からの深さは15cmである。床面積は推定10.75㎡である。住居中央部分に硬化面が検出された。新旧両カマドで、それぞれの対面壁下に入り口ピットが検出された。新カマドに対応するピットは楕円形で、22cm×16cm、深さ11cmである。北側に隣接してピットが検出され、こちらも入り口ピットの可能性がある。円形で、径18cm、深さ20cmである。旧カマドに対応するピットは楕円形で、26cm×22cm、深さ13cmである。

新カマドは壁の掘り込みと火床部のみの遺存である。壁の掘り込みは半円形で、52cm、幅80cmである。火床部は縦長の楕円形で、45cm×33cm、床面への掘り込みは12cmで、よく焼土化している。旧カマドは北東壁のほぼ中央に検出された。壁の掘り込みはほとんど無く、火床部のみの遺存である。火床部は縦長の楕円形で、42cm×37cm、床面への掘り込みは8cmである。

床面および覆土中から実測可能な遺物が20点出土している。

土 坑(第20図)

調査区の南端部、平安時代竪穴住居跡集中区内に検出された。出土遺物に、平安時代土師器、灰釉陶器等があるので、平安時代の遺構とした。

土坑は7基検出された。東西20m、南北10mの範囲に分布し、標高約21.8mの平坦部に位置する。主要なグリッドは12C-14・24、12D-10・11・12・13・20・21である。近接して検出されたので、掘立柱建物跡の可能性もあるが、不規則な配置、大きさの大小から、土坑と判断した。

SK001(第21図)

検出区の南西端に位置する。主要グリッドは12C-24である。北隣にSK002が位置する。

平面形は楕円形で、規模は1.0m×0.9m、検出面からの深さは0.25mである。長軸方位はN-88°-Eである。底面は平坦である。土師器が少量出土している。

SK002(第21図)

検出区の南西端に位置する。主要グリッドは12C-24である。南隣にSK001が位置する。

平面形は楕円形で、規模は0.96m×0.82m、検出面からの深さは0.25mである。長軸方位はN-78°-Eである。底面は平坦で、ピットが検出されている。楕円形で、16cm×12cm、深さ17cmである。覆土中位から土師器高台付皿が出土している。

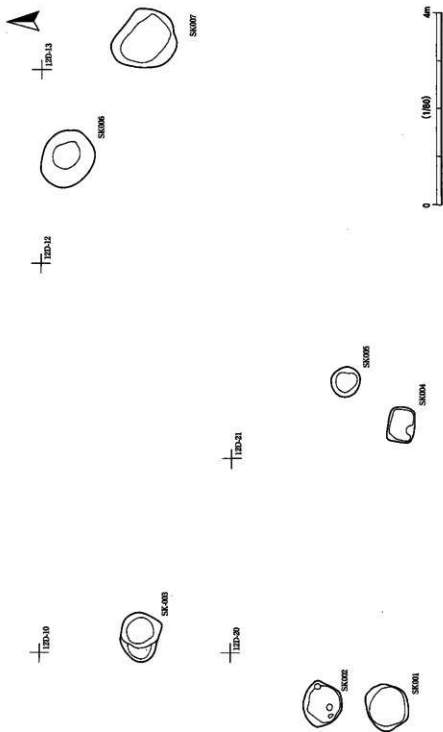
SK003(第21図)

検出区の西端に位置する。主要グリッドは12D-10である。

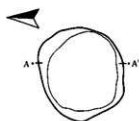
平面形は楕円形で、東西に長く、西側に段がある。2基の重複とも考えられるが、覆土断面に重複が見られないので、当初からのものとした。規模は1.04m×0.83m、検出面からの深さは0.32mである。長軸方位はN-90°-Eである。底面はやや凹凸がある。土師器が少量出土している。

SK004(第21図)

検出区の中央南に位置する。主要グリッドは12D-21である。北東隣にSK005が位置する。

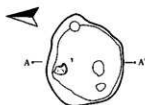


第20圖 土坑 (SK001~007) 分布圖



- 土層
1 暗褐色土 ローム粒少
2 暗褐色土 ローム粒少

SK001



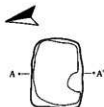
- 土層
1 暗褐色土 ローム粒少

SK002



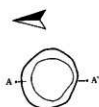
- 土層
1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少
2 暗褐色土 ローム粒多・焼土粒少
3 旧土坑の土層
4 旧土坑の土層

SK003



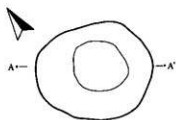
- 土層
1 暗褐色土 ローム粒多

SK004



- 土層
1 暗褐色土 ローム粒・黒色土含
2 暗褐色土 ローム粒多

SK005



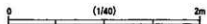
- 土層
1 暗褐色土 ローム粒少
2 暗褐色土 ローム粒やや多
3 暗褐色土 ローム粒多

SK006



- 土層
1 暗褐色土 ローム粒少
2 暗褐色土 ローム粒やや多
3 暗褐色土 ローム粒多
4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多

SK007



第21図 土坑 (SK001~007)

平面形は長方形で、底面が、中央よりも壁際でやや深くなっている。規模は0.73m×0.55m。検出面からの深さは中央が0.16m、壁際が0.20mである。長軸方位はN-76°-Wである。底面は平坦である。遺物は出土しないが、覆土からほかの土坑と同じ平安時代とした。

SK005(第21図)

検出区の中央南に位置する。主要グリッドは12D-21である。南西隣にSK004が位置する。

平面形は楕円形で、規模は0.64m×0.57m、検出面からの深さは0.24mである。長軸方位はN-46°-Wである。底面は平坦である。遺物は出土しないが、覆土からほかの土坑と同じ平安時代とした。

SK006(第21図)

検出区の北東端に位置する。主要グリッドは12D-12である。南東隣にSK007が位置する。

平面形は楕円形で、規模は1.24m×1.07m、検出面からの深さは0.39mである。長軸方位はN-56°-Wである。底面はやや凹凸がある。覆土から土師器が少量出土している。

SK007(第21図)

検出区の北東端に位置する。主要グリッドは12D-13である。北西隣にSK006が位置する。

平面形は楕円形で、規模は1.37m×1.22m、検出面からの深さは0.31mである。長軸方位はN-42°-Wである。底面は浅い皿状で、中央がやや低い。覆土から土師器が少量出土している。

SK008(第2図)

SK001～SK007とは、西側にやや離れて位置する。主要グリッドは12C-11である。平面形は楕円形で、規模は0.8m×0.6m、長軸方位はN-61°-Eである。個別の図面はなく、全体図のみの記載であるが、平安時代土坑群の一部と考えられるので、ここに報告する。

SK009(第2図)

SK008の東隣に位置する。主要グリッドは12C-11である。平面形は楕円形で、規模は0.7m×0.6m、長軸方位はN-90°-Eである。個別の図面はなく、全体図のみの記載であるが、平安時代土坑群の一部と考えられるので、ここに報告する。

2) 遺物

竪穴住居跡

遺物の分量、調整等は第10表に記載したので、ここでは主に器形の特徴を述べる。

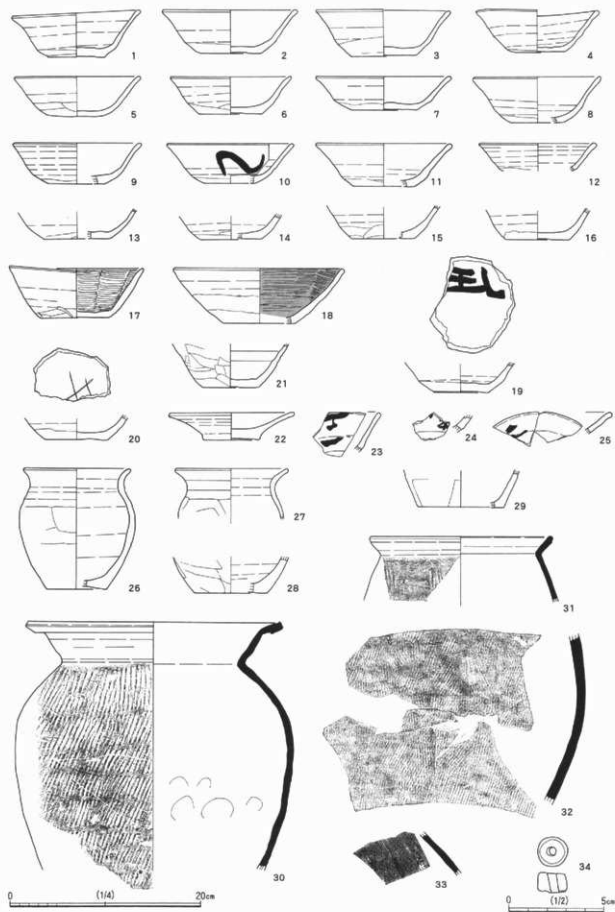
S1004(第22図 図版16・22)

1～21、23・24はロクロ土師器環である。1～4、7～11はほぼ同じ特徴がある。口縁部が肥厚してやや丸縁になる。底部と体部との境がくびれ状に屈曲する。体部下および底部にヘラケズリ(手持ち、回転のどちらか)が施される。1・3・4・8・11は床面または床面直上の出土である。2・13はカマドからの出土である。

5は器壁の厚さがほぼ均一で、底部と体部との境に屈曲はない。全体に丸みを帯びている。6の口縁部は肥厚するが、口縁はやや尖り気味である。

12は口縁部の遺存である。口縁部が肥厚し、丸縁である。13～16、19～21は、口縁部を欠損する。強弱の差はあるが、底部と体部との境がくびれ状に屈曲する。14・16・19はカマド出土、20は床面付近の出土である。

15は内面にヘラミガキが施され、16は内面にヘラミガキと黒色処理が施される。いままでの環と比べて



第22図 SI004出土遺物

大型で、丁寧な作りである。床面付近から出土している。

10は体部外面横位に墨書「乙？」が施される。19は底部内面に墨書が「丸」が施される。20には底部内面に線刻が施される。欠損のため文字は不明である。23・24は体部外面に墨書が施されるが、欠損のため文字は不明である。

22は土師器高台付皿、25は土師器皿である。22は円板状の突出した底部に、断面三角形の小さな高台が付く。25は口縁部片で、高台が付くかは不明である。22はカマド出土である。

25は体部外面に墨書が施されるが、欠損のため文字は不明である。

26～29は土師器甕である。小型で、ロクロ成形である。26は平底である。胴部はやや縦長の倒卵形で、口縁部は小さく外反する。口縁は丸い。底部に回転糸切り痕が残る。27は口縁部がやや大きく外反し、口縁は極わずかであるが、受け口状である。28・29は底部である。回転糸切り痕が残る。26はカマド、27は床面付近、ほかは覆土中の出土である。

30～33は須恵器甕である。30は胴部は縦長の倒卵形と考えられる。口縁部は外傾して直線的に広がり、上端部で大きく外反する。口縁は折返し口縁で、断面四角形である。胴部は外面に叩き目、内面に当て具痕が施される。31は胴部は縦長の楕円形と考えられる。口縁部は外傾して直線的に広がり、口縁に至る。口縁はわずかに段があり、受け口状である。胴部外面に叩き目が施される。32・33は胴部片である。外面に叩き目が施される。30・31と比べて細かな叩き目である。30～32は床面付近の出土である。

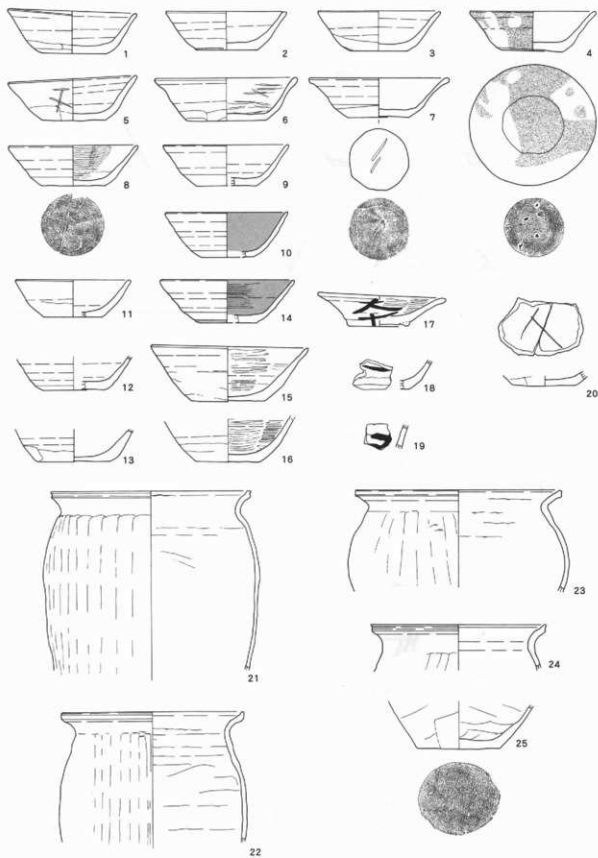
35は土玉である。扁平な円筒状である。

SI005(第23・24図 図版16・17・19・22)

1～16、18～20はロクロ土師器坏である。1～4・9は底部がやや厚く、体部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁は小さく外反し、丸みがある。口縁部が肥厚するタイプで、体部下が最も厚く、口縁に向かって徐々に薄くなり、口縁直下が最も薄い。5は口縁が最も薄くなる。体部外面正位に線刻「丈」が施される。に6・7は底部がやや薄く、口縁部が外反し、丸縁で肥厚する。8は口縁はほとんど外反しない。内面にヘラミガキが施される。9は底部と体部との境がわずかにくびれ状に屈曲する。10は体部が外傾して立ち上がり、緩やかに内彎して口縁に至る。口縁は小さく外反する。11は底部中央の器壁が底部で最も薄くなる。また、体部下のヘラケズリ範囲も広いので、体部が中位で屈曲しているように見えるが、形は1～4・9と同型である。口縁部を欠くが、12・13も11と同型である。14は底部がわずかに突出する。内面にヘラミガキおよび黒色処理が施される。15・16はやや大型の坏である。底部中央が薄くなり、形は1～4・9と同型である。内面にヘラミガキが施される。18・19は体部片である。外面に墨書が施されるが、欠損のため文字は不明である。20は底部片である。内面に線刻「丈」が施される。4・8はススの付着が観察され、灯明具として使用されたと思われる。1・7はカマド出土、2・6・8～11は床面付近の出土、ほかは覆土中である。

17は土師器高台付皿である。やや厚みがあり、口縁がほぼ水平に外反する。断面三角形の低い高台が付く。床面付近の出土である。体部外面に墨書「本」が施される。

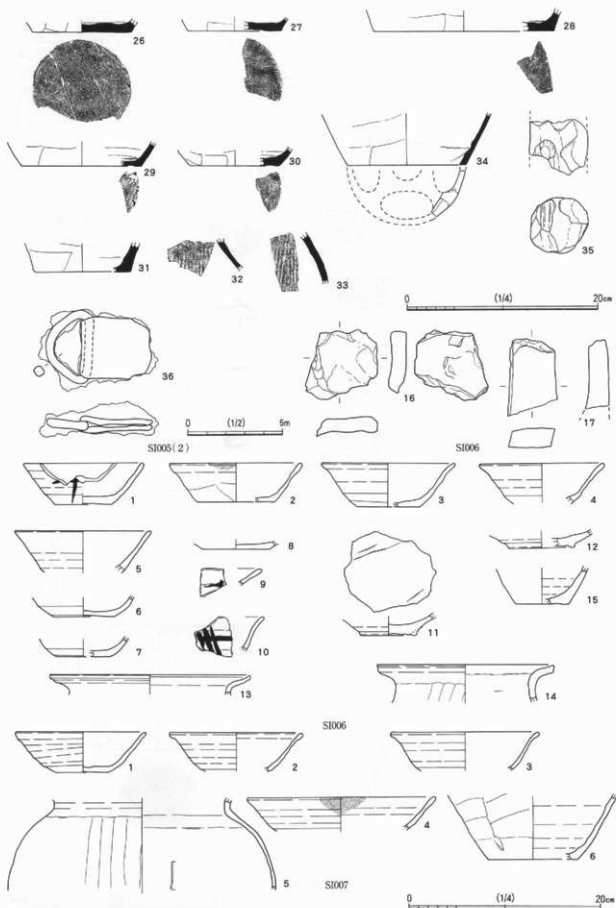
21～25は土師器甕である。21・22はほぼ同型である。胴部は長胴の倒卵形で、上端のしまりは弱い。口縁部は短く外反し、口縁は受け口状である。23は胴部は丸みがあり、口縁は受け口状である。24は口縁部である。短く外反し、受け口状である。25は底部である。ロクロ成形で、回転糸切り痕がある。23はカマド出土で、ほかは覆土中である。



SI005(1)

0 (1/4) 20cm

第23図 SI005(1) 出土遺物



第24図 SI005(2)・SI006・SI007出土遺物

26~33は須恵器甕である。26~31は胴部下部から底部である。27~23はロクロ成形で、回転糸切り痕がある。32・33は胴部片で、叩き目が施される。27・29は床面付近の出土で、ほかは覆土中である。

34は須恵器甕である。胴部下部から底部で、5孔と考えられる。覆土中の出土である。

35は土製支脚片である。円柱状で、側面に面取り状の調整が施される。床面付近の出土である。

36は鉄製帯金具である。帯紐の端部に付けて、締め付けるものと思われる。

SI006(第24図 図版17・22)

1~10はロクロ成形の土師器甕である。1・3・5・6は口縁肥厚である。墨書は1が体部外面で「[仔?]」、9は文字不明、10は「手?」である。11・12は高台付皿で、低い高台が付く。13~15は土師器甕である。15はロクロ成形で、回転糸切り痕がある。13・14は口縁部が大きく外反し、口縁は小さな受け口状である。

16は土製品である。用途は不明である。17は砥石片である。凸字形と思われる。

削平のため遺物の出土は、床面付近または床面上である。ただし、細片が多いので、ほとんどが、住居廃棄後の投棄と考えられる。

SI007(第24図 図版17)

1~4はロクロ土師器甕である。体部に屈曲は認められるが、弱い。1は底部にやや丸みがある。2~4は口縁肥厚である。4は口縁にススが付着する。5・6は土師器甕である。やや長胴である。

削平のため遺物の出土は、床面付近または床面上である。ただし、細片が多いので、ほとんどが、住居廃棄後の投棄と考えられる。

SI008(第25図 図版17)

1~13はロクロ土師器甕である。口縁肥厚と思われる。体部の屈曲も認められる。8は鉢状で、体部下にヘラケズリが施される。12・13には墨書があるが、破片のため文字は不明である。1~11は床面付近の出土である。

14~24は土師器甕である。14・15は接合しないが、同個体と思われる。口縁部に特徴がある。内傾して受け口状で、端部が丸い。20~24は底部である。平底で、回転糸切り痕がある。14・15・21~23は床面付近の出土である。

25は土師器甕である。5孔で、須恵器甕の系譜である。26は須恵器甕である。口縁部がラッパ状に広がる。床面付近の出土である。27は瀬戸・美濃産播鉢の底部である。覆土中で、後世の混入である。

SI009(第26図 図版17・22)

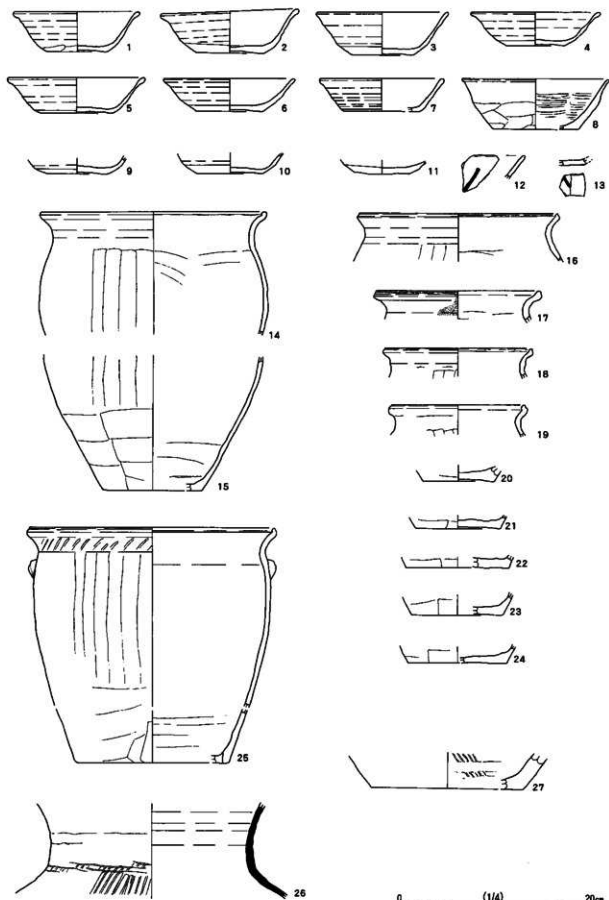
遺物は少ない。1~4はロクロ土師器甕である。口縁肥厚であるが、肥大はやや弱い。1・2は床面付近の出土である。3・6は体部外面に墨書があり、3は「得万」である。6は文字不明である。

5は高台付皿である。体部内面にヘラミガキが施される。7は土師器甕である。口縁内傾で、受け口状である。端部は丸みがある。8は須恵器甕の底部である。9は須恵器甕の底部である。単孔タイプと考えられる。

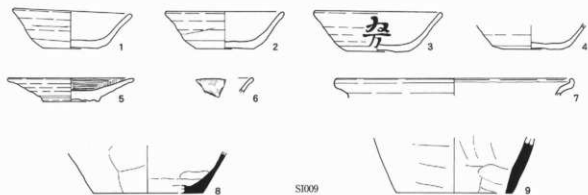
SI010(第26図 図版17・18)

1~10はロクロ土師器甕である。1・5は口縁肥厚で、3・4・6・7は丸底と考えられる。2は口縁肥厚であるが、体部がやや直線的に外傾する。4は底部にヘラ書きが施される。記号と考えらる。8~10は体部外面に墨書が施されるが、破片のため文字は不明である。

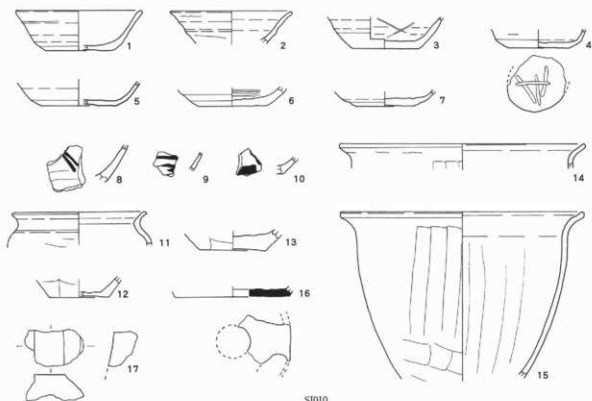
11は小型甕である。口縁部は小さく外反し、口縁の立ち上がりはない。12・13は土師器甕の底部であ



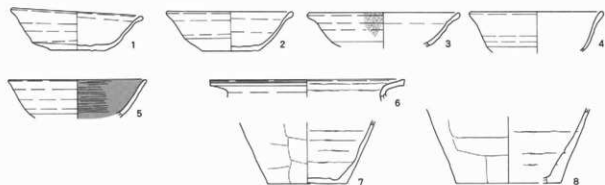
第25図 SI008出土遺物



SI009



SI010



SI011

0 (1/4) 20cm

第26图 SI009・SI010・SI011出土遺物

る。回転糸切り痕がある。14・15は土師器甔と思われる。15は単孔で、古墳時代的であるが、口縁の形状から、平安時代とした。16は須恵器甔底部で、5孔である。17は土製支脚片である。側面に面取り成形が施される。削平のため遺物の出土は、床面付近または床面上である。

SI011(第26図 図版18)

1～5はロクロ土師器坏である。1～4は口縁肥厚である。5は丸底タイプである。6～8は土師器甕である。6は口縁部が大きく広がって外反し、ほぼ水平になる。端部は小さく立ち上がり、受け口状である。7・8は底部である。ロクロ成形で、回転糸切り痕がある。1・2・4が床面、3がカマド出土である。

SI012(第27図 図版18)

2・11～13・19は確認調査時の出土である。

1～6はロクロ土師器坏である。1・2・4～6は口縁肥厚である。3は体部にくびれはあるが、口縁部はやや薄くなり、小さく外反する。

7～13は土師器甕である。7は外反が小さく、短頸状である。9は口縁が内傾し、受け口状。端部丸味のタイプである。8は口縁が外反し、受け口状である。10～13は底部である。ロクロ成形で、回転糸切り痕がある。14・15は須恵器胴部片である。14は格子状叩き目、15は横位叩き目が施される。16はフイゴ羽口片である。17・18は砥石片である。17は凸字形、18はやや小型であるが、端部がやや薄くなるので、凸字形と考えられる。19は土玉である。穿孔はないが、全体にいていねいなナデが施される。

SI013(第27・28図 図版18・19)

1～5はロクロ土師器坏である。丸底と口縁肥厚の両特徴がある。6・7は土師器高台付皿である。高台は低く、小さい。7は底部外面に墨書が施される。「中万」であるが、いわゆる合わせ文字である。8は体部部片で、外面に墨書がある。「千」と思われる。1・9は床付近、2・3・7は床面、4～6はカマド出土である。

9～14は土師器甕である。9～12は口縁部が受け口状である。11はロクロ成形である。13・14は底部で、ロクロ成形である。11・14はカマド出土である。

15・16は須恵器甕である。15は胴部下部～底部で、目の細かな格子状叩き目が施される。16は胴部片で、叩き目が施される。

17～20は鉄器で、床面の出土である。17は刀子である。上側の鬺が明瞭である。19は棒状製品、20は釘である。

21は石器である。全体に磨耗し、上下両端部に叩き痕がある。平板な石で、転用と考えられる。

SI014(第29図 図版19)

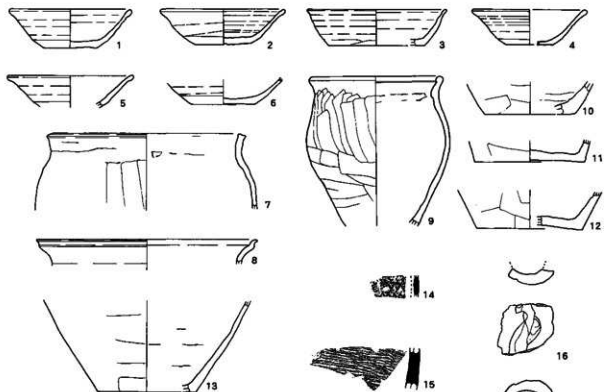
1～6はロクロ土師器坏である。やや弱いだが、体部に屈曲が認められる。1は内面にススが付着する。5・6は大型で、内面にヘラミガキが施される。7・8は高台付皿である。底部が突出し、低く、小さな高台が付く。9は体部外面に墨書が施されるが、文字は不明である。

10は小型甕である。口縁部が大きく外反し、ほぼ水平になる。口縁は受け口状である。11・12は土師器甔である。5孔タイプである。

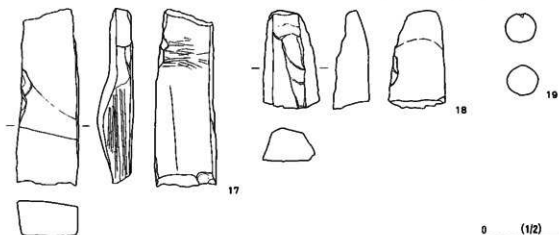
13～15は須恵器甕である。13・14は外面に叩き目が施される。15は底部外面にヘラ書き「×」が施される。

16は石器である。磨耗と叩き痕が認められる。17は石製紡錘車である。

18～20は鉄器である。18・19は刀子片で、18は刃部、19は柄部である。20は鐵の身部である。

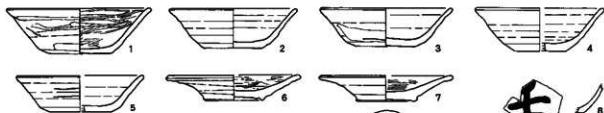


0 (1/4) 20cm



0 (1/2) 5cm

SI012

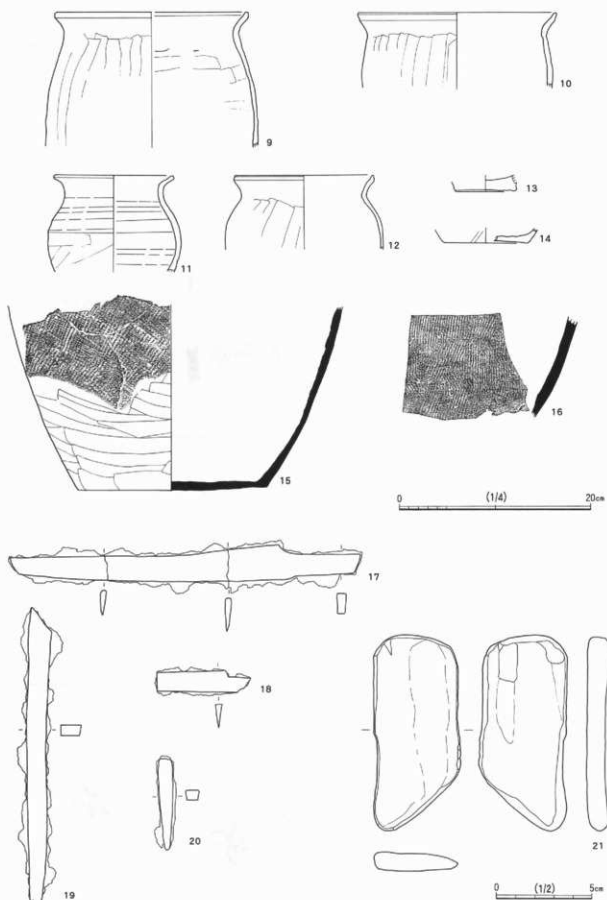


SI013(1)

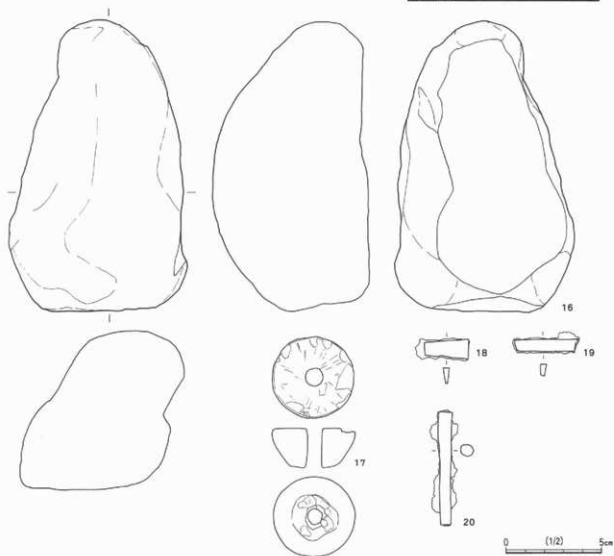
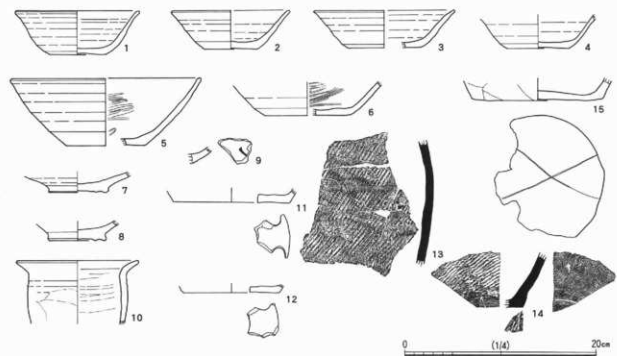


0 (1/4) 20cm

第27圖 SI012・SI013(1) 出土遺物



第28圖 SI013(2) 出土遺物



第29図 SI014出土遺物

土 坑

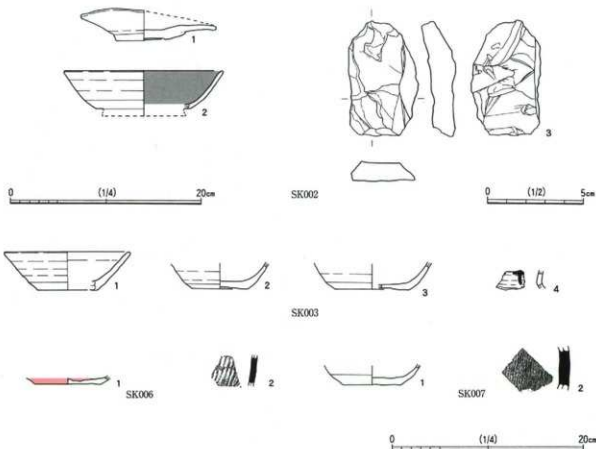
遺物の出土量は少なく、破片が多いが、ほとんどが平安時代の土師器である。遺物の法量、調整等は第11表に記載したので、ここでは主に器形の特徴を述べる。

SK002(第30図 図版19)

1は土師器高台付皿である。全体にゆがみが大きい。底部が円板状に突出し、極低い高台が付く。体部は大きく開いて立ち上がり、口縁に至る。口縁は丸い。内面にヘラミガキが施される。焼成時にゆがんだ不良品を使用したと考えられる。体部1/3が欠損しているが、人為的な打ち欠きの可能性がある。2はロクロ土師器坏である。口縁部から体部の遺存で、体部下部の状態から、高台が付くと思われる。体部はほぼ直線的に広がり、口縁はわずかに外反し、丸い。内面にヘラミガキと黒色処理が施される。3は砥石である。欠損、傷が激しいが、凸字形と考えられる。

SK003(第30図 図版19)

1～3はロクロ土師器坏である。1は口縁部から体部である。体部は直線的に開き、口縁に至る。口縁はほとんど外反しない。2・3は体部中位から底部の遺存である。底部はわずかに上げ底で、体部下および底部周辺部に回転ヘラケズリが施される。底部中央が周辺部よりも、器壁が薄い。4は土師器甕の口縁部片である。口縁が欠損しているが、外面に墨書が施される。欠損のため文字は不明である。



第30図 土坑 (SK002・SK003・SK006・SK007) 出土遺物

SK006(第30図)

1はロクロ土師器環の底部である。回転ヘラケズリが施され、切り離し痕は不明である。内外両面に赤彩が施される。2は須恵器甕の胴部片である。外面に叩き目が施される。

SK007(第30図)

1はロクロ土師器環の体部中位から底部である。平底で、体部下および底部に回転ヘラケズリが施される。切り離し痕は不明である。被熱のため、器面が荒れている。2は須恵器甕の胴部片である。外面に叩き目が施される。

第10表 平安時代住居出土遺物観察表

		()は復元値、[]は現存値を表す 口径・底径・器高はcm				(調整は上から→の順)				
遺物・埋蔵番号	器種	口径	底径	器高	遺存状況	色調	胎土	構成	特徴	遺物番号
SK004	1 土師器	13.6	5.9	4.5	80%	外 褐色・暗褐色	砂粒少・細砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	105,113
	2 土師器	(14.1)	(6.4)	4.6	30%	外 褐色	細砂粒多・細葉母粒多	良好	内 ヘラミダキ 外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	99,111, 119
	3 土師器	13.6~14.0	6.2	4.6~5.0	70%	外 褐色	細砂粒少	良好	内 ヘラミダキ 外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	93
4 土師器	12.9~13.4	5.7~5.9	4.5	90%	外 褐色	細砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	2	
5 土師器	(13.3)	6.0	4.2	30%	外 褐色・暗褐色	砂粒少・スコリア含	良好	内 縦方向ヘラミダキ 外 体部下回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ、底部切離し不明	4,83	
6 土師器	(12.7)	6.6	3.9	40%	外 灰褐色	細砂粒含・スコリア含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	42	
7 土師器	(14.1)	7.1	3.5	30%	外 灰褐色	細砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	18	
8 土師器	(13.4)	(5.6)	4.8	20%底部中央欠	外 褐色	細砂粒含・細葉母粒含・スコリア含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ	73	
9 土師器	(13.4)	16.0	4.8	20%	外 褐色	細砂粒少	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	115	
10 土師器	(13.2)	(5.3)	4.2	25%底部中央欠	外 褐色・黒色	細砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 外 体部外面磨き(？) 周辺部回転ヘラケズリ	12	
11 土師器	(14.2)	(6.4)	4.5	20%底部中央欠	外 褐色	細砂粒含	良好	内 縦方向ヘラミダキ 外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ	80	
12 土師器	(12.2)			30%	外 灰褐色	細砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ	4	
13 須恵器		(7.0)		15%	外 灰褐色	長石含・石英含・砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ	74	
14 土師器		(6.4)		20%	外 茶褐色		良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ	121	
15 土師器		(6.6)		15%	外 明褐色・黒色	細砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	92	
16 土師器		6.6		20%	外 明褐色・黒褐色	細砂粒含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 静止ヘラ切	22	
17 土師器	(14.0)	6.9	4.8~5.3	40%	内 褐色 外 黒褐色	細砂粒含	良好	内 縦方向ヘラミダキ 外 体部一部ヘラミダキ→体部下回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ、底部切離し不明	98	
18 土師器	(18.0)	(7.6)	5.8	30%底部中央欠	内 褐色 外 茶褐色・暗褐色	細砂粒含・細葉母粒含・スコリア含	良好	内 縦方向ヘラミダキ、褐色処理、外 底ヘラミダキ→体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ	21,25,41	
19 土師器		5.4		40%口縁部欠			良好	内 底面に磨き[1]外 体部下回転ヘラケズリ 底 ヘラケズリ	49	
20 土師器		6.6		20%口縁部欠	外 褐色	スコリア含	良好	外 体部下回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転赤切痕	101	
21 土師器		5.9		35%口縁部中央欠	内 暗赤褐色 外 暗赤褐色	砂粒少・細砂粒少・細葉母粒少・赤色スコリア少	良好	内 全体に器面磨き 外 手押らヘラケズリ 底 磨きヘラケズリ、二次的に磨き	005-1	
22 土師器 高台付甕	12.6~13.1	5.8~5.9	2.8~3.0	90%	外 褐色・黒色	細砂粒含	良好	内 ヘラミダキ 外 ロウロウナ→横いヘラミダキ 底 高台部回転ヘラケズリ、磨き不明	112	
23 土師器					口縁一体部片	外 褐色	良好	外 体部下回転ヘラケズリ、磨き不明	104	
24 土師器					体部	外 褐色	良好	外 体部下回転ヘラケズリ、磨き不明	4	
25 土師器					口縁一体部片	外 褐色	良好	内 ヘラミダキ 外 磨き不明	40,76	
26 土師器 甕	11.2	(6.3)		70%	外 褐色	細砂粒含・細葉母粒含	良好	内 回転コナダ 外 回転コナダ→ヘラケズリ→ヘラケズリ 底 回転赤切痕	53,68,10 9,11,11 6,11,12,12 2,15	
27 土師器 甕	(12.6)			10%	外 褐色	細砂粒含・細葉母粒含	良好	内 回転コナダ 外 回転コナダ→横方向ヘラケズリ	120,129	
28 土師器 甕		(7.6)		10%	外 褐色・暗褐色	細砂粒含・細葉母粒含	良好	内 回転コナダ 外 ヘラケズリ	44	
29 土師器 甕		(8.8)		10%	外 褐色	細砂粒含	良好	内 コナダ 外 ヘラケズリ 底 回転赤切痕	2,37	
30 須恵器	(26.8)			30%底部欠	外 灰褐色・灰白色	砂粒多・細砂粒多・スコリア多	良好	内 回転コナダ→押え底 外 回転コナダ→叩き目	17,10, 52,98	
31 須恵器	(18.6)			10%	外 灰褐色	砂粒多	良好	内 回転コナダ 外 回転コナダ→叩き目	91	
32 須恵器 甕					胴部片	外 灰色・灰褐色	良好	内 押え底 外 叩き目	2,3,4,77	

選別・碎粒番号	種 類	口 径	底 径	篩 高	選 存 率	色 調	粘 土	焼 成	特 徴	選 別 番号	
33	煇岩部 要					靑色片	内外 暗灰色 褐色	砂粒微	良好	内 ナデ 外 町き目	89
34	土製品 土子	径1.6	厚1.1	重2.5g	100%		内外 暗灰色 褐色	細砂粒含・細炭母 粒含	良好	手揉み成形	95
S1005	1 土胎部 環	138	6.6~ 6.8	4.6	50%	外 褐色	細砂粒含・細砂粒 含・スコリア含	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ 底 回転ヘ ラケズリ・切り難し不明	73.101	
2	土胎部 環	126	6.5	4.0	50%	外 褐色	細砂粒含・スコリア 多	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ 底 周辺部細 回転ヘラケズリ・回転角不明	8	
3	土胎部 環	128	6.0	4.2	13.1% スコリア	外 褐色	細砂粒多・細炭母 粒多・スコリア含	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ 底 周辺部細 回転ヘラケズリ・回転角不明	3	
4	土胎部 環	126~ 132	6.3	3.9~4.3	100%	内 明褐色 暗褐色	内 までら遺物 外 体部下層回転ヘラケズ リ 底 周辺部細回転ヘラケズリ・回転角不明	良好		1	
5	土胎部 環	137	6.7	4.7	70%	外 褐色・黒褐色	砂粒少・細砂粒含・ 細炭母粒含・スコ リア少	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ・体部細部「又」底 回転ヘラケズリ・切り難し不明	94.100	
6	土胎部 環	149	8.0	4.8	70%	外 明褐色	細砂粒含	良好	内 横方向強いヘラミガキ 外 体部下層回 転ヘラケズリ 底 周辺部細回転ヘラケズリ・割 れ込み切痕	99.103. 104	
7	土胎部 環	142~ 148	6.3	4.1	95%	内 淡黄褐色一部明 褐色 外 淡黄褐色一部明 褐色	内 赤色細砂粒少・炭 母粒少・スコリア 少	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ 底 回転ヘ ラケズリ・切痕し不明・ヘラ書「?」	32.109. 110	
8	土胎部 環	(13.6)	6.5	4.2	40%	内 明褐色・一部赤 褐色 外 明褐色・一部赤 褐色・黒褐色	内 明褐色少・炭母粒 少・赤色スコリア 少	良好	内 横方向ヘラミガキ 外 体部下層ヘラケ ズリ 底 回転ヘラケズリ・切痕し不明	1.47.59	
9	土胎部 環	(13.2)	(6.2)	4.3	25%底部中央欠	内外 明褐色 明褐色	内外 明褐色少・炭母粒 含や多・赤色スコ リア少	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ 底 回転ヘ ラケズリ	7.89	
10	土胎部 環	(12.8)	(5.2)	4.7	20%底部中央欠	内外 褐色 淡黄褐色	内外 明褐色少 細砂粒少	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ 底 回転ヘ ラケズリ	105	
11	土胎部 環	(12.0)	(6.1)	3.9	30%底部中央欠	内外 褐色・暗褐色	内外 明褐色多・細炭母 粒多	良好	外 体部中~下部回転ヘラケズリ 底 回転 ヘラケズリ	75.115	
12	土胎部 環	(6.4)			25%口縁部欠	内外 明褐色 外 明褐色	内外 明褐色少・炭母粒 含や多・赤色スコ リア少	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ 底 周辺部細 回転ヘラケズリ	4.70	
13	土胎部 環		7.5		80%口縁部欠	外 暗褐色・黒褐色	内外 明褐色少 細砂粒少	良好	内 二次焼成のため濃褐色 外 体部下層回 転ヘラケズリ→一部ヘラミガキ 底 周辺部細 回転ヘラケズリ・切痕し不明	82	
14	土胎部 環	(14.0)	(6.1)	4.5	25%底部中央欠	内外 褐色 黒褐色一部暗褐 色	内外 明褐色少・細炭母 粒少	良好	内 横方向ヘラミガキ・炭色処理 外 体部下 層回転ヘラケズリ 底 周辺部細回転ヘラケズリ・切 痕し不明	40	
15	土胎部 環	16.5	7.9	5.9	70%	外 赤褐色・黒褐色	内外 明褐色含・細炭母 粒含・スコリア含	良好	横方向やや粗いヘラミガキ 外 体部中~下 部回転ヘラケズリ 底 周辺部細回転ヘラケズリ	4.11.12. 13.15. 33.71	
16	土胎部 環		6.8		70%口縁部欠	外 明褐色・暗褐色	内外 明褐色含	良好	内 横方向ヘラミガキ 外 体部下層回転ヘ ラケズリ 底 回転ヘラケズリ・暗部暗味・切 り難し不明	14.86	
17	土胎部 高台付土	13.4	6.3~ 6.6	3.3	80%	外 黄褐色	内外 明褐色含	良好	内 横方向ヘラミガキ 外 体部細ヨコナ デ・体部暗褐色[本] 底 回転角不明	99	
18	土胎部 環				体部~底部欠	外 褐色	内外 明褐色含	良好	外 体部下層回転ヘラケズリ・体部暗褐色不明 底 回転ヘラケズリ	4	
19	土胎部 環				体部片	外 灰褐色	砂粒微	良好	内 ヘラミガキ 外 体部暗褐色不明 底 回転ヘラケズリ	7.8	
20	土胎部 環		6.8		25%口縁部欠	内外 褐色 黒褐色	内外 明褐色含	良好	内 ヘラミガキ・炭色処理・炭黒顔料[又]外体 部下部手持ちヘラケズリ 底 周辺部細回転ヘラケ ズリ・切り難し不明	98	
21	土胎部 要	(30.8)			25%底部欠	内外 淡明褐色一部黒 褐色 外 淡褐色一部黒褐 色	内外 明褐色少・赤色 スコリア少	良好	内 ヨコナデ→ナデ 外 ヨコナデ→縦方向 ヘラケズリの後ヨコナデ	4.33.36. 44.48. 85.88	
22	土胎部 要	(19.0)			15%口縁部~胴 部上平部	内外 明褐色 外 明褐色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ヨコナデ→ナデ 外 ヨコナデ→縦方向 ヘラケズリの後ヨコナデ	79.104. 111.13	
23	土胎部 要	(21.4)			10%口縁部~胴 部上平部	内外 明褐色一部淡明 褐色 外 淡明褐色一部黒 褐色	内外 明褐色少・赤色 スコリア少	良好	内 ヨコナデ→ナデ 外 ヨコナデ→縦方向 ヘラケズリの後ヨコナデ	1.3.95	
24	土胎部 要	(18.2)			10%以下口縁部 ~胴部上平部	内外 淡明褐色 外 淡明褐色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 回転 角不明	33	
25	土胎部 要		7.7~ 8.6		15%胴部上平部 ~底部	内外 褐色 外 褐色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少・白 色粉状物少	良好	内 ナデ 外 ヘラケズリ 底 ヘラケズリ	1.2.29.0	
26	煇岩部 要		10.2		10%以下胴部下 層部~底部	内外 明褐色一部暗褐 色 外 明褐色一部暗褐 色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少・白 色粉状物少	良好	内 ナデ 外 ヘラケズリ 底 ヘラケズリ	104	
27	煇岩部 要		(9.8)		10%以下胴部下 層部~底部	内外 淡明褐色 外 淡明褐色一部暗 褐色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 回転 角不明	33	
28	煇岩部 要		(18.8)		10%以下胴部下 層部~底部	内外 明褐色 外 褐色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 ヘラ ケズリ	31	
29	煇岩部 要		(12.4)		10%以下胴部下 層部~底部	内外 明褐色 外 明褐色一部黒褐 色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ヨコナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 ヘラケズリ	9	
30	煇岩部 要		(9.6)		10%以下胴部下 層部~底部	内外 褐色 外 褐色一部褐色	内外 明褐色含や多・細 炭母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 回転 角不明	4	
31	煇岩部 要		(10.0)		10%以下胴部下 層部~底部	内外 淡赤褐色 外 淡赤褐色	内外 明褐色少	良好	内 ナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 回転 角不明	29	
32	煇岩部 要				胴部片	内外 明褐色一部黒褐 色 外 明褐色一部黒褐 色	内外 明褐色少・細炭母 粒含や多	良好	内 ナデ 外 町き目の後ヨコナデ	45	
33	煇岩部 要				胴部片	内外 淡褐色 淡褐色	内外 明褐色含や多	良好	内 ヨコナデ 外 町き目の後ヨコナデ	26	

選別・検出番号	部材	口径	底径	部高	遺存度	色 質	胎 土	焼成	特 徴	遺物番号
34	須克器 瓶	(12.4)			10%以下底部下 端部~底面	内外 明褐色 明褐色	細砂粒やや多・細 雲母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ヨコナダ 外 眞方向ヘラケズリ 底 ヘラケズリ・5孔の痕	69
35	土製品 支脚				鏡片	外 淡明褐色	細砂粒少	不良	外 ナダ	116
36	炊事品 帯土器	長さ5.5	幅3.9	厚0.9	100%				重さ27.5g 刃具等の瓦破の可能性がある。	46
S3006	1 土師器 杯	12.6	5.8	4.3	96%	内外 明赤褐色 明赤褐色	細雲母粒やや多・ 明赤褐色	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ・体部通直正 行(1)底面に 底 周辺部回転ヘラケズリ・ 回転糸切り痕	10.表様
2	土師器 杯	(4.0)	(8.0)	4.0	25%底部中央欠 落部~底面	内外 淡黄褐色 淡黄褐色	砂粒やや多	良好	外 体部中~下部手持ちヘラケズリ・口縁部付 着 手持ちヘラケズリ	3
3	土師器 杯	(4.0)	(6.6)	4.5	20%底部中央欠 落部	内外 明赤褐色 明赤褐色	細雲母粒少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラ ケズリ	20.30
4	土師器 杯	(13.0)			15%底部欠	内外 淡明褐色 淡明褐色	細雲母粒やや多	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ	32
5	土師器 杯	(4.2)			10%底部欠	内外 淡明褐色 淡明褐色	細雲母粒少・赤色 スコリア少	良好	内 ヘラミダキ	13
6	土師器 杯		6.4		20%口縁部欠	内外 明赤褐色 明赤褐色	細雲母粒やや多・ 赤色スコリアやや 多	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 周辺部 回転ヘラケズリ・回転糸切り痕	14.15
7	土師器 杯	(5.4)			10%体部下端~ 底面	内外 黄褐色 黒褐色	細雲母粒少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラ ケズリ	34
8	土師器 杯	(7.0)			10%以下体部下 端部~底面	内外 黄褐色 黄褐色	細雲母粒やや多	良好	外 体部下端部回転ヘラケズリ 底 周辺部 回転ヘラケズリ・回転糸切り痕	6
9	土師器 杯				口縁部片	内外 明赤褐色 明赤褐色	細雲母粒少	良好	外 磨青不明	24
10	土師器 杯				口縁~体部片	内外 淡褐色 淡褐色	砂粒やや多	良好	外 体部磨青類似「毛」	3
11	土師器 高台付直 器	5.8			20%口縁部欠	内外 黄褐色 灰褐色一部明赤 褐色	細雲母粒やや多	良好	内 ヘラミダキ・黒粒・3孔痕 外 体部下端 部回転ヨコナダ 底 回転糸切り痕	33
12	土師器 高台付直 器	(6.5)			10%以下体部下 端部	内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒少	良好	内 ヘラミダキ 外 高台部回転ヨコナダ 底 回転糸切り痕	1
13	土師器 高台付直 器	(21.0)			10%以下口縁部 内 磨青不明 外 明褐色	内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒やや多	良好	内 ヨコナダ 外 ヨコナダ	12
14	土師器 壺	(18.4)			10%以下口縁部 ~体部上端部	内外 褐色 褐色	砂粒少・細雲母粒 少・赤色スコリア 少	良好	外 ヨコナダ~ナダ 外 ヨコナダ~眞方向 ヘラケズリ	1
15	土師器 壺	(7.6)			10%以下底部下 端部~底面	内外 明赤褐色 明赤褐色	細雲母粒やや多・ 赤色スコリア少	良好	外 ヘラケズリ 底 回転糸切り痕	7
16	飯炊 土製品	長さ6	幅3.8	厚0.8	外形と異なる	外 暗灰色	細砂粒少	良好	手捏成形	34
17	石製 砥石	長さ4.0	幅2.6	厚1.0~ 1.2	残片	外 暗灰色			石製炭灰質 重さ18.7g	24
S3007	1 土師器 杯	13.7	5.4	4.2	80%	内外 明赤褐色 明赤褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り痕	3.13
2	土師器 杯	(14.0)			10% 口縁~体部	内外 明赤褐色 明赤褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ	1.12
3	土師器 杯	(15.4)			30% 口縁~体部	内外 明赤褐色 明赤褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ	1.8
4	土師器 杯	(19.8)			10% 口縁~体部	内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒少・細雲母 粒少	良好	内 口縁部内外面付着 外 体部下端回転ヘラケズリ	2
5	土師器 壺				胴部片	内外 褐色 灰褐色	砂粒やや多	良好	内 ヨコナダ~ヘラナダ 外 ヨコナダ~眞方向ヘラケズリ	14.15
6	土師器 壺	(9.4)			胴部下部~底面 片	内外 褐色 褐色一部明赤褐 色	砂粒多・赤色スコ リア少	良好	内 回転ヨコナダ 外 眞方向ヘラケズリ 底 回転糸切り痕	15.6
S3008	1 土師器 杯	(13.2)	6.2	4.2	40%	内外 灰褐色 灰褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少	良好	外 体部下端手持ちヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り痕	146.77
2	土師器 杯	14.6	7.0	4.0~4.7	60%	内外 明赤褐色 明赤褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少	良好	内 体部回転ヨコナダ・底面類似回転ヘラナダ 外 体部下端回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り痕	2.6
3	土師器 杯	(13.8)	6.4	4.5	40%	内外 明褐色 明褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 ほぼ回転ヘラケズリ・中央に回転糸切り 痕	1.12
4	土師器 杯	(13.4)	6.0	3.5	30%	内外 淡明褐色一部 明褐色 外 淡明褐色一部 明褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ・切り離し不明	1.30
5	土師器 杯	(14.4)	(7.5)	3.7	25%	内外 淡黄褐色 黄褐色	砂粒少・細砂粒や や多	良好	外 下部下端回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り痕	1.34
6	土師器 杯	(13.8)	7.0	3.4	30%	内外 黄褐色 黄褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	外 各部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ・回転糸切り痕	54.55, 56.57
7	土師器 杯	(13.0)	(7.8)	3.4	10%底部中央欠 落部	内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒やや多・細 雲母粒少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ	1.65
8	土師器 杯	(15.4)	(8.8)	5.2	30% 底部中央欠	内外 明赤褐色 明赤褐色	砂粒やや多・細砂 粒やや多・細雲母 粒やや多・赤色ス コリア少	良好	内 口縁部回転ヨコナダ・体部眞方向ヘラミダ キ 外 体部下端回転ヘラケズリ 底 手持ちヘラケズリ	1.30.33, 42.79
9	土師器 杯		6.2		30% 口縁部欠	内外 褐色 褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少 ・赤色スコリア少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転糸切り痕	78
10	土師器 杯		6.8		25% 口縁部欠	内外 明赤褐色 明赤褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少 ・赤色スコリア少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ・切り離し不明	1.50.61
11	土師器 杯		5.8		20% 体部下端~底面	内外 黄褐色 淡黄褐色	砂粒やや多・赤色 スコリア少	良好	外 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転糸切り痕	1.14.60
12	土師器 杯				口縁~体部片	内外 明褐色 明褐色一部黒褐 色	砂粒少・細砂粒少 ・細雲母粒少	良好	外 体部磨青不明	1

遺跡・埋蔵物	器種	口径	底径	器高	遺存程度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
13	土師部 坏				底面片	内 淡赤褐色	細砂粒やや多	良好	底 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り直	1
14	土師部 受 (238)				10%以下 口縁一部	内 赤褐色 外 明褐色	砂粒少・細砂粒多・ 赤色スコリア少	良好	内 ヨコナデーナデ 外 ヨコナデ一縦方向ヘラケズリ	1182L 23
15	土師部 受		10.2		10% 胴部下～底部	内 明褐色一部灰褐色 外 明褐色一部褐色	砂粒少・細砂粒多・ 赤色スコリア少	良好	内 ナデ 外 縦方向ヘラケズリ・縦方向ヘラケズリ ヘラケズリ	92.24 37.59
16	土師部 受 (206)				10% 口縁一部	内 明褐色 外 赤褐色	砂粒少・細砂粒多・ 赤色スコリア少	良好	内 ヨコナデーナデ 外 ヨコナデ一縦方向ヘラケズリ	1-16
17	土師部 受 (168)				10%以下 口縁～胴部上部	内 赤褐色 外 赤褐色	細砂粒やや多	良好	内 ヨコナデーナデ 外 ヨコナデ一縦方向ヘラケズリ	1
18	土師部 受 (138)				10%以下 口縁～胴部上部	内 明褐色一部黒褐色 外 明褐色	砂粒多・細砂粒や や多	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ一縦方向ヘラケズリ	1
19	土師部 受 (152)				口縁～胴部上部	内 灰褐色 外 灰褐色	砂粒少・細砂粒多・ 小砂	良好	内 ヨコナデ+舞足 外 ヨコナデ一縦方向ヘラケズリ	1
20	土師部 受		7.4		10%以下 底部	内 赤褐色 外 明褐色	細砂粒多・細砂粒 多	良好	外 縦方向ヘラケズリ 回転糸切り直	15
21	土師部 受 (8.8)				10%以下 底部	内 淡明褐色 外 淡明褐色	砂粒少・細砂粒少	良好	外 縦方向ヘラケズリ 回転糸切り直	67
22	土師部 受 (10.8)				10%以下 底部	内 淡褐色 外 淡褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	外 縦方向ヘラケズリ 回転糸切り直	53
23	土師部 受 (9.4)				10%以下 底部中央	内 灰褐色 外 明褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	外 縦方向ヘラケズリ 周辺部手持ちヘラケズリ・回転糸切り直	36
24	土師部 受 (10.2)				10%以下 底部中央	内 淡赤褐色 外 灰褐色	細砂粒多	良好	内 ナデ 外 縦方向ヘラケズリ 回転糸切り直	1
25	土師部 甕 (26.2) (16.0) (24.4)				20% 底部中央	内 明褐色一部灰褐色 外 明褐色一部灰褐色	砂粒やや多・細砂 粒多・砂質	良好	内 ヨコナデーナデ+ヨコナデ 外 ヨコナデ舞足一縦方向ヘラケズリ・横 ヘラケズリ・5孔と見られる	15.611. 20.27
26	須恵部 甕				10%以下 口縁下部～胴 部上部	内 灰褐色 外 灰褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	内 ヨコナデーナデ 外 ヨコナデ一帯目	140.76
27	陶師部 土師部		12.5	5.6	37~42	定形	細砂粒少	良好	内 帯目 外 陶輪 回転糸切り直	17
SK09 1	土師部 坏		12.5	5.6	37~42	定形	細砂粒やや多・細 雲母粒少・赤色ス コリア少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 回転ヘラケズリ・切り筋不明	9
2	土師部 坏 (12.4)		6.0	3.6	50%	内 褐色一部灰褐色 外 褐色一部灰褐色	細砂粒やや多・細 雲母粒やや多・赤 色スコリア少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り直	10
3	土師部 坏 (13.4)		6.4	4.2	50%	内 灰褐色一部明褐色 外 明赤褐色一部灰 褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ・体部露出「得万」 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り直	8
4	土師部 坏		6.0		25% 口縁欠	内 明赤褐色 外 明赤褐色	細砂粒少・細雲母 粒少・赤色スコリ ア少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り直	7
5	土師部 高付村甕 (13.2)		5.8	2.4	60%	内 明褐色 外 明褐色	細砂粒少・赤色ス コリア少	良好	内 縦方向ヘラミダキ 外 体下部露出回転ヨコナデ 回転糸切り直	5
6	土師部 坏				1口縁部片	内 灰褐色 外 灰褐色	細砂粒少	良好	内 外表面に暴赤スガ付着	1
7	土師部 甕 (24.6)				口縁部片	内 灰褐色 外 灰褐色	細砂粒やや多・細 雲母粒やや多	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	2
8	須恵部 甕 (11.4)				10%以下 胴部下～底部	内 灰褐色 外 灰褐色	細砂粒多・細雲母 粒やや多	良好	内 ヨコナデーナデ 外 縦方向ヘラケズリ	14
9	須恵部 甕 (11.9)				10%以下 胴部下～底部	内 暗赤褐色 外 暗赤褐色	砂粒やや多・細砂 粒多	良好	内 ナデヘラケズリ 外 縦方向ヘラケズリ 直ヘラケズリ・5孔と見られる	6
SK10 1	土師部 坏 (13.2)		6.0	4.1	20% 底部中央	内 灰褐色一部明褐 色 外 灰褐色一部明褐 色	細砂粒少・細雲母 粒やや多・赤色ス コリア少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り直	3
2	土師部 坏 (12.8)				10%以下 口縁～体部	内 明灰褐色 外 灰褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	外 体下部手持ちヘラケズリ	6
3	土師部 坏		6.8		30% 1口縁欠	内 明褐色 外 明褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	内 ヘラミダキ・底面「K」 外 体下部回転ヘラケズリ 直ヘラケズリ・中央回転糸切り	6
4	土師部 坏		7.1		20% 体部下～底部	内 明灰褐色 外 明灰褐色	砂粒少・細砂粒多・ 赤色スコリア少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 周辺部回転ヘラケズリ・回転糸切り直・ヘ ラケズリ状のヘラ書き記号不明	6
5	土師部 坏 (7.8)				20% 体部一底面	内 灰褐色一部明褐 色 外 褐色一部明褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 周辺部回転糸切り直	6
6	土師部 坏 (7.0)				20% 体部下～底部	内 赤褐色 外 赤褐色	細砂粒やや多・細 雲母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 ヘラミダキ 外 体下部回転ヘラケズリ 直ヘラケズリ・切り筋不明	1.6CB 21-1
7	土師部 坏 (5.8)				20% 体部下～底部	内 明赤褐色 外 明赤褐色	砂粒少・細砂粒少・ 赤色スコリア少	良好	内 ヘラミダキ 外 回転ヨコナデ 回転ヘラケズリ	6
8	土師部 坏				体部片	内 明褐色 外 褐色	細砂粒少・細雲母 粒少	良好	内 ヘラミダキ 外 体部露出不明	6
9	土師部 坏				体部片	内 淡褐色 外 淡褐色	砂粒少・細砂粒や や多	良好	外 体部露出横紋文字不明	6
10	土師部 甕				体部下～底部 片	内 灰褐色 外 灰褐色	細砂粒やや多	良好	外 体部一底面露出文字不明 回転ヘラケズリ	6
11	土師部 小形甕 (14.0)				10%以下 口縁～胴部上部	内 褐色 外 灰褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリ ア少	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ+底縁のヨコナデ一縦方向ヘ ラケズリ	6

濃糖・種別 番号	種 類	LI 性	底 径	高 度	遠 近 度	色 調	胎 土	焼 成	特 徴	遺 物 番号
12	土師器 壺	(6.2)			10%以下 胴部下-底 部中央	内 灰褐色 外 灰褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	ナデ 内 横方向ヘラケズリ 底 回転糸切り痕	6
13	土師器 壺	6.9			10%以下 底部	内 灰褐色 外 褐色	細砂粒や中多・細 雲母粒や中多・赤 色スコリア少	良好	ナデ 内 横方向ヘラケズリ 底 回転糸切り痕	5
14	土師器 壺(25.5)				10%以下 口縁部	内 明赤褐色 外 明赤褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	内 浅籠状のナデ→ヨコナデ 外 ヨコナデ→縦方向ヘラケズリ	6
15	土師器 壺小瓶	(25.4)			10%以下 底部	内 明褐色 外 灰褐色	砂粒少・細砂粒多・ 赤色スコリア少	良好	内 ヨコナデ→縦方向のナデ 外 ヨコナデ→ナデ→横方向ヘラケズリ→横 方向ヘラケズリ	2
16	灰土器 瓶	(120)			10%以下 底部	内 明褐色 外 灰褐色	細砂粒多	良好	内 ヘラケ 底 ナデ→回転糸切り痕・5孔の瓶	6
17	土器 支脚				断片	外 褐色	細砂粒多・細雲母 粒や中多	やや 良	底 縦取りが施される。八角柱状	4
SK011	1 土師器 杯	13.9	5.6	3.6-4.5	60%	内 明黄褐色 外 明黄褐色	砂粒少・細砂粒や 中多・赤色スコリ ア少	良好	内 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ。取り出し不明 全体にかなり赤みが入っている	4.8
2 土師器 杯	13.3	5.8	4.1	60%	内 明褐色 外 明褐色・一部黒 褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	内 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ。取り出し不明	10.11	
3 土師器 杯	16.0				10%以下 口縁-体部	内 明褐色 外 明褐色	細砂粒多	良好	外 口縁部S付着。体部下端回転ヘラケズリ	16.20
4 土師器 杯(14.0)					20% 口縁-体部	内 明褐色 外 灰褐色一部明褐 色	砂粒少・細砂粒多	良好	内 体部下端回転ヘラケズリ	15.17
5 土師器 壺(17.4)					10% 口縁-体部	内 灰色一部褐色 外 褐色	細砂粒や中多	良好	外 ヘラミダガネ。黒色肌理 体部下端回転ヘラケズリ	32
6 土師器 壺(20.4)					10%以下 口縁部	内 明褐色 外 黒褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	32
7 土師器 壺		8.4			10% 胴部下-底 部	内 明褐色一部灰黒 色 外 明赤褐色	砂粒やや中多・細砂 粒多	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデヘラケズリ 底 周辺部ヘラケズリ。回転糸切り痕。ロクロ 成形	13.6,21. 23.24
8 土師器 壺(10.8)					10%以下 胴部下-底 部中央	内 褐色 外 明赤褐色一部褐 褐色	砂粒少・細砂粒多	良好	内 ナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 周辺部手持ちヘラケズリ。ロクロ成形	7
SI012	1 土師器 杯(12.8)	5.6	4.1	50%	10%以下 胴部下-底 部中央	内 明褐色 外 明褐色	砂粒やや中多・細砂 粒や中多	良好	内 体部下端回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ。取り出し不明	17
2 土師器 杯	12.6	5.9	3.8	70%	内 にぶい褐色 外 にぶい褐色	細砂粒や中多・細 雲母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 体部下端手持ちヘラケズリ 底 周辺部ヘラケズリ。取り出し不明。二次的に黄 褐色	006-12	
3 灰土器 壺(14.6)	(10.0)	3.8			10% 胴部中央	内 青灰色 外 灰褐色	長石多・石英多・砂 粒多	良好	内 体部下端手持ちヘラケズリ 外 体部下端手持ちヘラケズリ	2
4 土師器 杯(11.5)	(4.9)	3.7			15% 底部中央	内 褐色 外 褐色	細砂粒や中多・細 雲母粒少	良好	内 体部下端手持ちヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ。二次的に黄褐 色	3.9
5 土師器 杯(11.2)					10%以下 口縁部	内 灰褐色 外 灰褐色一部褐色 色	砂粒少・細砂粒少	良好	内 体部下端回転ヘラケズリ	1
6 土師器 杯		6.4			10%以下 口縁部	内 明赤褐色 外 褐色一部褐色 色	砂粒やや中多・細砂 粒や中多	良好	内 体部下端回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ。回転糸切り痕	5
7 土師器 壺(20.6)					10%以下 口縁-胴部上部	内 灰褐色 外 灰褐色	砂粒少・細砂粒多・ 赤色スコリア少	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→縦方向ヘラケズリ	1
8 土師器 壺(23.0)					10%以下 口縁部	内 褐色一部黒褐色 外 明褐色一部灰黒 色	細砂粒やや中多・細 雲母粒少	良好	内 ヨコナデ→ナデ 外 ヨコナデ→縦方向ヘラケズリ	8
9 土師器 壺	13.3				70% 底部	内 にぶい褐色 外 明褐色一部褐色 色	砂粒少・細砂粒多・ 細雲母粒少・赤色 スコリア少	良好	内 ヨコナデ→ナデ。一部黄褐色 外 ヨコナデ→縦方向ヘラケズリ。一部黄褐色。二次的に黄褐 色	1.2
10 土師器 壺(9.3)					10%以下 胴部下-底 部中央	内 透明褐色 外 褐色	細砂粒やや中多・細 雲母粒少・赤色ス コリア少	良好	内 横方向ヘラケズリ 底 回転糸切り痕。ロクロ成形	6
11 土師器 壺(11.4)					20% 胴部下-底 部	内 灰青褐色 外 黒褐色	砂粒少・細砂粒多・ 細雲母粒少・赤色 スコリア少	良好	内 ナデ 外 手持ちヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ。回転糸切り痕。二 次的に黄褐色	10.13
12 土師器 壺(11.2)					10%以下 胴部下-底 部中央	内 灰褐色 外 灰褐色	砂粒やや中多・細砂 粒多	良好	内 ナデ 外 手持ちヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ。回転糸切り痕	1
13 灰土器 壺(10.2)					10%以下 胴部下-底 部中央	内 淡褐色 外 淡褐色	砂粒やや中多・細砂 粒や中多	良好	内 ヨコナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 回転糸切り痕。ロクロ成形	6
14 灰土器 壺					断片	内 褐色 外 黒褐色	細砂粒やや中多	良好	内 縦線している 外 格子状の目	
15 灰土器 壺					断片	内 灰色 外 灰色	長石やや中多・石英 やや中多	良好	内 ナデ 外 格子目	8
16 土師器 フイゴ 型1					断片	内 褐色一部褐色 外 灰色	砂粒やや中多	良好	内 黄褐色 外 黄褐色	8
17 石製品 碇石	残長9.2	幅3.3	厚0.8- 1.9			外 暗褐色		良好	石材 流紋岩質 重さ27.5kg	8
18 石製品 碇石	残長5.1	幅2.9	厚0.7- 1.7			外 灰白色		良好	石材 凝灰岩質 重さ31.8kg	8
19 土師器 土器	残長14	幅15	高さ1.6	100%		外 赤褐色	細砂粒極少	良好	外 ナデ 底 S字溝	1
SI013	1 土師器 杯	14.75	6.6	4.75	90%	内 赤褐色一部褐色 外 明赤褐色一部黒 褐色	細砂粒少・細雲母 粒少・赤色スコリ ア少	良好	内 ナデ。細かいヘラミダガネ 外 ヘラミダガネ。体部下端回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ。回転糸切り痕。二 次的に黄褐色	13.13. 14.15
2 土師器 杯	(12.9)	6.0	4.15	45%		内 赤褐色 外 明赤褐色	砂粒極少・細砂粒 極少	良好	内 断片。一部黄褐色 外 体部下端回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ。二次的に 黄褐色	40.41

遺物・押戻番号	部種	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
3	土師器 環	(134)	(6.2)	4.0	45%	内外 明赤褐色 明赤褐色一部黒色 褐色	細砂粒少・細雲母 粒少・赤色スコリア アツ	良好	内 一部器面剥離 外 体部中央～下部回転ヘラケズリ 底 回転糸切り痕、二次的に焼熟	20
4	土師器 環	(130)	(5.2)	4.5	40%	内外 におい褐色	砂粒少・細砂粒少・ 細雲母粒やや 多・赤色スコリア アツ	良好	内 体部下部回転ヘラケズリ 外 体部下部回転ヘラケズリ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転糸切り痕、二 次的に焼熟	38,44
5	土師器 環	(129)	(6.5)	3.9	20%	内外 におい褐色 におい褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒や や多・赤色スコリア アツ	良好	内 体部下部回転ヘラケズリ 外 体部回転ヘラケズリ、中央部回転糸切り痕、二 次的に焼熟	43
6	土師器 高台付環	(134)	6.0	2.6	55%	内外 明赤褐色 におい赤褐色	砂粒少・細砂粒少・ 細雲母粒少・赤色 スコリア極少	良好	内 ヘラミダギ、一部器面剥離 外 高台部回転ヨコナデ、体部縦合目が自立 つ、一部器面剥離 底 回転糸切り痕、二次的に焼熟	48
7	土師器 高台付環	(136)	(6.0)	2.6	55%	内外 褐色一部黒色 におい褐色一部 黒褐色	砂粒少・細砂粒少・ 細雲母粒少・赤色 スコリア極少	良好	内 ヘラミダギ、一部器面剥離 外 高台部回転ヨコナデ、一部器面剥離 底 回転糸切り痕、底部外周磨削「中万」、二次 的に焼熟	27,28
8	土師器 環					内外 におい褐色 におい褐色	細砂粒少・細雲母 粒少・赤色スコリア アツ	良好	外 磨削「子?」	2,27
9	土師器 壺	(196)				10% 口縁～胴部中央	褐色 外 表一部におい褐 色	良好	内 ヨコナデ→ヘラナデ→ヨコナデ、器面剥離 外 ヨコナデ→横方向ヘラケズリ、一部器面剥 離、二次的に焼熟	41,45 46,47
10	土師器 壺	(204)				10% 口縁～胴部中央	褐色 褐色	良好	内 ヨコナデ→ヘラナデ、一部器面剥離 外 ヨコナデ→横方向ヘラケズリ、一部器面剥 離、二次的に焼熟	30,37
11	土師器 壺	(122)				30% 口縁～胴部中央	明赤褐色 明赤褐色	良好	内 ヨコナデ→ヘラナデ、器面剥離 外 ヨコナデ→横方向ヘラケズリ、器面剥離、 底部にヘラケズリ	50
12	土師器 小型壺	(144)				10% 口縁～胴部上位	におい赤褐色 におい赤褐色	良好	内 ヨコナデ→ヘラナデ、器面剥離 外 ヨコナデ→横方向ヘラケズリ、一部器面剥 離、二次的に焼熟	34,54
13	土師器 高台付環		6.2			10% 底部	内外 褐色 黒褐色	良好	内 ヘラミダギ 外 ナデ 底 周辺部回転ヘラケズリ、回転糸切り痕	9
14	土師器 壺		(8.6)			10%以下 底底、中央欠	内外 褐色 褐色	良好	内 ナデ、一部器面剥離 外 ヘラケズリ、一部器面剥離 底 回転糸切り痕、二次的に焼熟	55
15	灰室器 壺		19.8			40% 胴部中央～底部	内外 明褐色 淡褐色	良好	内 ナデ、器面剥離 外 器口縁部目玉形持ちヘラケズリ、一部器 面剥離 底 磨削盤、二次的に焼熟	10
16	灰室器 壺					胴部片	内外 におい黄色 灰褐色	内 ナデ 外 外 目玉 形 底 回転糸切り痕、二次的に焼熟	26	
17	灰室器 刀子	身長 18.5万 葉14.8	刃幅 0.9— 1.8	厚0.3	基礎L0 基準0.45		内外 長石少・石英少・砂 粒やや多・細砂粒 多・細雲母粒やや 多・赤色スコリア アツ	重さ37.61g	5	
18	灰室器 刀子	身長5.0	刃幅1.0	厚0.4				重さ6.51g	6	
19	灰室器 砂状品	身長5.0	幅0.7— 1.2	厚0.55				重さ49.66g	32	
20	灰室器 砂	身長4.9	幅0.3— 0.7	厚0.55	50%			重さ7.54g	7	
21	石製品 磁石?	身長 10.25	幅4.45	厚1.15	100%		外 淡黄灰色	石材砂岩質 重さ76.31g	23	
S1014	土師器 環	(127)	(5.8)	4.5	30%	内外 褐色一部黒色 褐色一部黒色	細砂粒少・細雲母 粒少・赤色スコリア アツ	良好	内 体部下部回転ヘラケズリ 外 周辺部回転ヘラケズリ、回転糸切り痕、二 次的に焼熟	24,26
2	土師器 環	(120)	5.4	3.95	35%	内外 におい褐色 におい褐色	細砂粒少・細雲母 粒少・赤色スコリア アツ	良好	内 体部下部回転ヘラケズリ 外 回転ヘラケズリ、切り履し不明	33
3	土師器 環	(144)	(7.6)	3.8	10% 底部中央欠	内外 明赤褐色 褐色	細砂粒少・細雲母 粒少	良好	内 体部下部回転ヘラケズリ、下端手持ちヘラ ケズリ 外 手持ちヘラケズリ	19
4	土師器 環		6.3			内外 におい褐色 におい褐色	砂粒少・細砂粒や や多・細雲母粒少 赤色スコリアアツ	良好	内 体部下部回転ヘラケズリ 外 回転ヘラケズリ、切り履し不明	15
5	土師器 環	(195)	(8.1)	7.0	15% 底部中央欠	内外 赤色 におい赤褐色一部 におい褐色	細砂粒少・細雲母 粒少・赤色スコリア アツ	良好	内 ヘラミダギ、赤形、一部器面剥離 外 体部下部回転ヘラケズリ、一部器面剥離 底 回転ヘラケズリ、二次的に焼熟	45,77
6	土師器 環	(90)				内外 明赤褐色 褐色	細砂粒少・細雲母 粒やや多・赤色ス コリアアツ	良好	内 ヘラミダギ 外 体部中央位回転ヘラケズリ、体部下部回転ヘ ラケズリ 底 手持ちヘラケズリ	2,28,29
7	土師器 高台付環		5.7			内外 黒褐色一部暗赤 褐色	細砂粒少・細雲母 粒やや多・赤色ス コリアアツ	良好	内 ヘラミダギ 外 高台部回転ヨコナデ 底 回転糸切り痕	41,43
8	土師器 高台付環		5.7			30% 体部下部～底部	内外 におい赤褐色 褐色	良好	内 高台部回転ヨコナデ 外 茶 底 周辺部回転ヨコナデ、回転糸切り痕、二 次的に焼熟	4
9	土師器 環					体部片	内外 におい褐色 におい褐色	良好	内 ナデ 外 体部下部回転ヘラケズリ、外部外周磨削不 明	3
10	土師器 壺	(126)				10%以下 口縁～胴部中央	内外 黒褐色 におい褐色	良好	内 ヨコナデ→ヘラナデ 外 ヨコナデ→横方向ヘラケズリ、一部器面剥 離、二次的に焼熟	12
11	土師器 壺	(122)				10%以下 口縁～胴部中央欠	内外 明褐色 明褐色	良好	内 ヘラナデ、一部器面剥離 外 体部下部回転ヘラケズリ、一部器面剥離 底 手持ちヘラケズリ、S1、二次的に焼熟	16

遺構・埋没番号	器種	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
12	土師器 甌		(9.8)		10%以下 胴部下縁～底底 中央欠	内外 明赤褐色 明褐色	砂粒少・細砂粒や や多	良好	内外 ヘラナデ 縁方向ヘラケズリ 底 手持ちヘラケズリ, 5孔	39
13	須恵器 甌				胴部片	内外 にぶい黄褐色 暗褐色	細砂粒やや多・粗 雲母粒少・赤色ス コリアや多	良好	内外 叩き目	20.21, 31.78
14	須恵器 甌				胴部下部～底部 片	内外 灰黄色 灰黄色	長石少, 石英少, 細 砂粒少	良好	内外 同心円文帯で具痕 叩き目	9
15	土師器 甌		(13.7)		25% 胴部下縁～底部	内外 褐色 褐色	細砂粒やや多・粗 雲母粒やや多・赤 色スコリア少	良好	内外 ヘラナデ, 一部器面割 縁 縁方向ヘラケズリ, 一部器面割 縁, 二次的に焼熟	49.50
16	石製品 磨石								石材砂質質 重さ1.540g	13
17	石製品 磨石	径上4.3 径下2.4	高2.1		100%	外 黒色			重さ51.17g 石材硬質質	76
18	石製品 刀子	残長2.3	幅0.7～ 1.0	厚0.35	刃部片				重さ1.95g	3
19	鉄製品 刀子	残長3.4	幅0.6	厚0.2～ 0.3	茎部片				重さ2.46g	3
20	鉄製品 棒状品	残長6.0	幅1.0～ 1.2	厚0.5					重さ7.12g	73

第11表 平安時代土坑出土遺物観察表

()は復元値, []は残存値を表す 口径・底径・器高はcm

(調整は上から～の順)

遺構・埋没番号	器種	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
SK002	1 土師器 高台付甌	(14.1)	5.7	1.5～3.3	60%	内外 明赤褐色 明赤褐色	砂粒少・細砂粒や や多・粗雲母粒少 や多・赤色スコリ ア少	良好	内外 ヘラミゴヤ, 一部器面割 縁 胴部下部～高台部割縁ヨコナデ, 一部器面 割縁 割縁糸切り痕, 全体にゆがむ, 二次的焼熟	1
2	土師器 甌	(16.6)			10%以下 口縁～体部	内外 黒色 灰褐色	砂粒少・細砂粒や や多	良好	内外 ヘラミゴヤ, 黒色洗滌 外 体部下縁割縁ヘラケズリ	2
3	石製品 砥石	残長6.1	幅3.6	厚1.1～ 1.4		断面片	外 灰褐色		重さ33.3g 石材硬質質	2
SK003	1 土師器 甌	(13.2)	(6.2)	4.0	10% 底部中央欠	内外 灰黄色 淡褐色	砂粒少・細砂粒や や多・粗雲母粒少 や多・赤色スコリ ア少	良好	内外 体部下縁割縁ヘラケズリ 底 割縁ヘラケズリ	1.2
2	土師器 甌		5.8		20% 口縁部欠	内外 明褐色一部灰褐色 外 明褐色一部黒褐色	細砂粒やや多・粗 雲母粒やや多・赤 色スコリア少	良好	内外 体部下縁割縁ヘラケズリ, 一部器面割 縁 縁部割縁ヘラケズリ, 割縁糸切り痕, 二 次的焼熟	4
3	土師器 甌		7.7		20% 体部～底部, 中央 欠	内外 灰褐色 灰褐色	細砂粒多・粗雲母 粒多・赤色スコリ ア少	良好	内外 体部下縁割縁ヘラケズリ 底 縁部割縁ヘラケズリ, 割縁糸切り痕	3
4	土師器 甌				口縁部片	内外 灰褐色 灰褐色	細砂粒少	良好	外 摩書不明	5
SK006	1 土師器 甌		(6.8)		10% 体部下縁～底部	内外 赤褐色 外 赤褐色	砂粒極少・細砂粒 少	良好	内外 赤帯, 一部器面割 縁 体部下縁割縁ヘラケズリ, 赤帯 底 割縁ヘラケズリ, 一部器面割 縁	2
2	須恵器 甌				胴部片	内外 灰白色 外 灰白色	砂粒やや多	良好	内外 叩き目	2
SK007	1 土師器 甌		6.1		25% 体部～底部	内外 黄褐色 外 明褐色一部黒褐色	細砂粒やや多・赤 色スコリア少	良好	内外 器面割縁 外 体部下縁割縁ヘラケズリ, 器面割 縁 割縁ヘラケズリ, 中央に割縁糸切り痕, 二 次的焼熟	2
2	須恵器 甌				胴部片	内外 灰褐色 灰褐色	砂粒少・粗砂粒少	良好	内外 ヨコナデ 叩き目の後ナデ	1

6. 中・近世

1) 概要

中・近世の遺構は全て溝状遺構である。調査された溝状遺構は17条で、調査区の南半部に検出されている。調査区が細長いため遺構の全容を把握することはできないが、溝の方向は地形に関係していると思われる。

2) 遺構

溝状遺構

SD001(第31図 図版9)

調査区南西部に位置する。グリッドは大グリッド8Hである。標高約20.8mの平坦面である。SD002およびSD003と重複する。この3条は、調査区内で検出された溝状遺構の中で、最も北に位置する。

細長い調査区をほぼ直角に横切るように検出された。北西から南東方向の直線的な溝で、主要方位はN-36°-Wである。検出長は約11mである。幅は2.75m～3.11m、深さは検出面から、0.57m～0.63mである。断面は幅の広いU字形で、底面はやや凹凸がある。SD002との重複部分の北東側壁にピットが1基検出された。平面形は楕円形で、規模は0.43m×0.32m、壁面からの深さは0.4mである。

SD002およびSD003と重複するが、覆土土層からSD002より古いことが判明している。SD003との新旧関係は、不明瞭である。ただし、SD003は浅いため、SD001の覆土に検出されなかった可能性があるの、このことから、SD003が新しいと思われる。

覆土中位から平安時代灰陶器片およびフイゴの羽口が出土しているが、状況より、周辺からの流れ込みと考えられる。

SD002(第31図 図版9)

調査区南西部に位置する。グリッドは大グリッド8Hである。標高約20.8mの平坦面である。SD001と重複するが、覆土土層からSD001より新しいことが判明している。また、南東側約2mに、ほぼ平行して、SD003が位置している。

細長い調査区に平行して検出された、北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-37°-Eである。検出長は約18.5mである。幅は0.94m～1.67m、深さは検出面から0.23m～0.67mで、南西に傾斜し、深くなっている。断面は幅の広いV字形である。底面に土坑が1基検出された。平面形は長方形で、規模は1.14m×0.61m、底面からの深さは浅く、0.1m以下である。また、SD002との重複部分で検出されたピットは、SD001にはほかに内部施設がないため、本遺構に付属する可能性もあり、この場合は、土坑と同様に底面のピットになる。

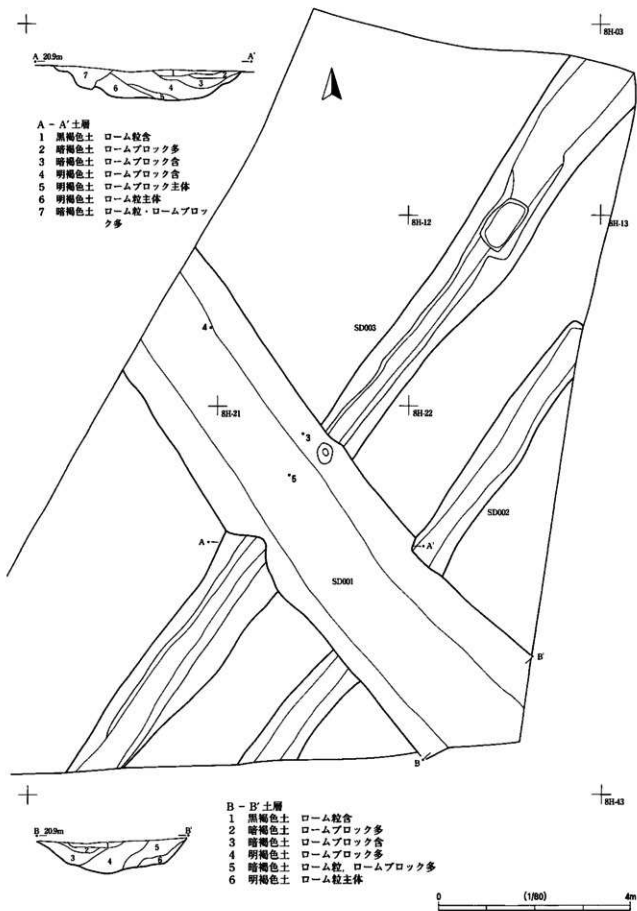
SD003(第31図 図版9)

調査区南西部に位置する。グリッドは大グリッド8Hである。標高約20.8mの平坦面である。SD001と重複するが、D001より新しいと思われる。また、北西側約2mに、ほぼ平行して、SD002が位置している。

細長い調査区に平行して検出された、北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-36°-Eである。検出長は約11mで、北側に溝端が検出されている。幅は0.77m～0.88m、深さは検出面から0.17m～0.22mで、南西に傾斜し、深くなっている。断面は幅の広いU字形で、底面は平坦である。

SD004(第32図 図版10)

調査区南西部に位置する。平安時代住居集中区の北隣である。グリッドは大グリッド8F・8Gである。



第31図 SD001・SD002・SD003

標高約21.5mである。SI010と重複するが、覆土の状況からSI010より新しい。また、南西側約3mに、ほぼ平行して、SD008が位置している。

細長い調査区に平行して検出された、北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-39°-Eである。検出長は約20mで、幅は1.8m～2.15m、深さは検出面から0.64m～0.74mである。北東側がやや深くなる。壁中途に段があり、断面は底面が狭いV字形である。

SD005(第33図)

調査区南西端部に位置する。平安時代住居集中区内である。グリッドは大グリッド12C・13Cである。標高約22mである。北東側約4mに、ほぼ平行して、SD006が位置している。

細長い調査区をほぼ直角に横切るように検出された。北西から南東方向の直線的な溝で、主要方位はN-31°-Wである。検出長は約29mで、幅は1.65～2.42m、深さは検出面から0.58m～0.74mである。南西側がやや深くなる。北西側壁中途に段があり、底面が東側に寄る。断面は底面が狭いV字形である。

覆土から遺物が少量出土している。

SD006(第33図)

調査区南西端部に位置する。平安時代住居集中区内である。標高約22mである。グリッドは大グリッド12C・13Cである。南西側約4mに、ほぼ平行して、SD005が位置している。

細長い調査区をほぼ直角に横切るように検出された。北西から南東方向の直線的な溝で、主要方位はN-30°-Wである。検出長は約28mで、幅は1.26～1.95m、深さは検出面から0.31m～0.47mである。南西側がやや深くなり、SD005よりも明瞭である。断面は底面が狭いV字形である。

検出部南端南西壁にピットが検出された。平面形は楕円形で、規模は1.36m×0.59m、深さは0.36mである。SD005、SD006の両者で、道路跡か河側溝の野馬土手跡の可能性が考えられる。

覆土から遺物が少量出土している。

SD007(第34図)

調査区南西端部に位置する。グリッドは大グリッド13A・13Bである。標高約22.1mである。

細長い調査区をほぼ平行して検出された。北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-41°-Eである。検出長は約19mで、幅は0.33～1.38m、深さは検出面から0.1m～0.2mである。南西側がやや深くなる。南側に溝端が検出されている。断面は幅広のU字形である。

SD008(第32図 図版10)

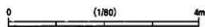
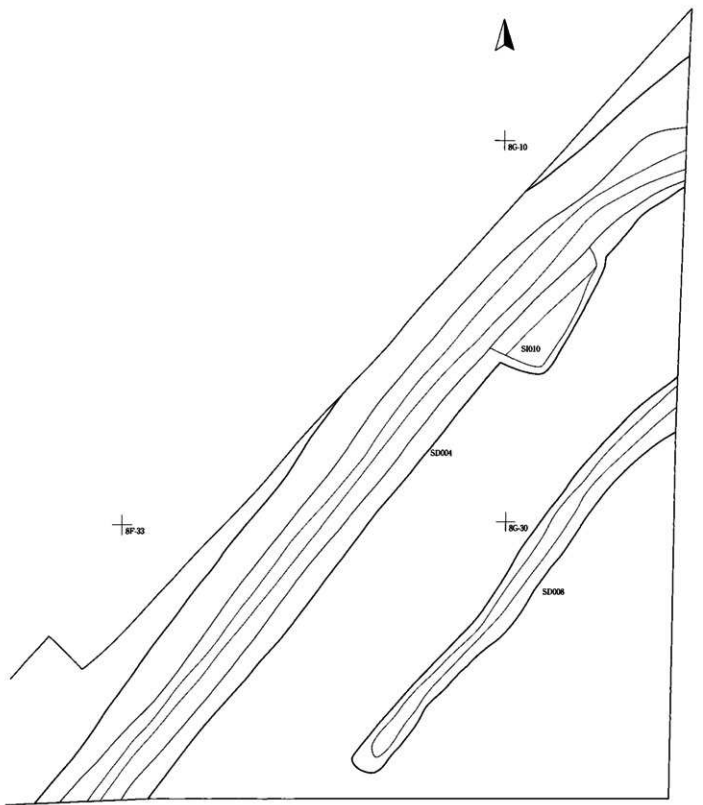
調査区南西部に位置する。平安時代住居集中区の北隣である。グリッドは大グリッド8F・8Gである。標高約21.5mである。北東側約3mに、ほぼ平行して、SD004が位置している。

細長い調査区に平行して検出された、北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-40°-Eである。検出長は約10.5mで、南側に溝端が検出されている。幅は0.53m～0.75m、深さは浅く、南西端で0.06m、北東端で0.17mで、北東側がやや深くなる。断面は幅広のU字形である。

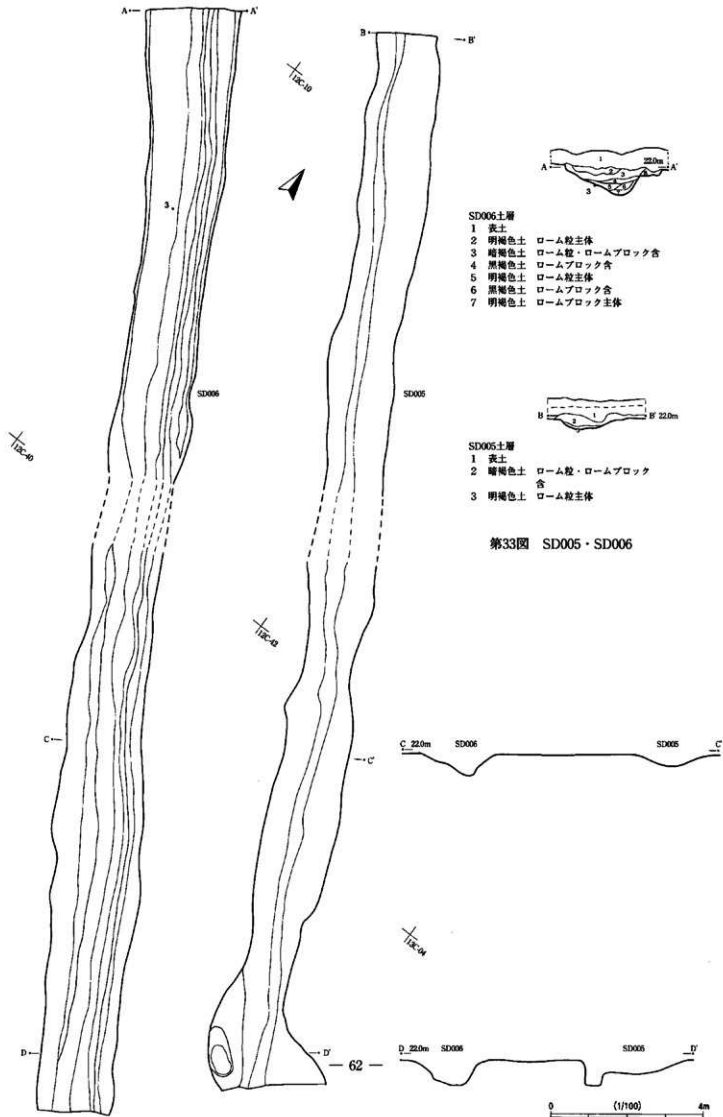
SD009(第35図 図版10)

調査区最南西端部に位置する。グリッドは大グリッド13AA・14AA・14Aである。標高約22.2mである。SD010、SD011と重複するが、土層断面から、本遺構が新しいと考えられる。

円弧状の溝で、検出長は約17.7mである。土層断面から2条の重複が確認され、浅い溝が新しい。全体の幅は4.26m、であるが、浅い溝が約2.2m、深い溝が約3.3mである。深さは検出面から、浅い溝が約0.7m、



第32図 SD004・SD008



SD006土層

- 1 表土
 - 2 明褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 黒褐色土
 - 5 明褐色土
 - 6 黒褐色土
 - 7 明褐色土
- ローム粒主体
 - ローム粒・ロームブロック含
 - ロームブロック含
 - ローム粒主体
 - ロームブロック含
 - ロームブロック主体

SD005土層

- 1 表土
 - 2 暗褐色土
 - 3 明褐色土
- ローム粒・ロームブロック含
 - ローム粒主体

第33図 SD005・SD006

128-01

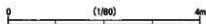
128-02

128-03

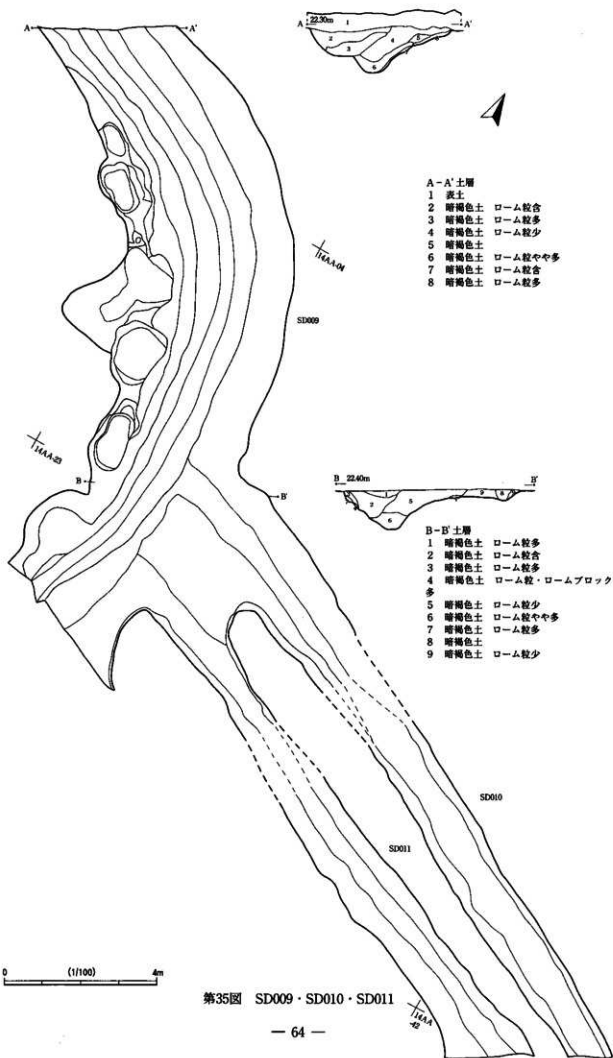
128-11

128-10

128-20



第34图 SD007



深い溝が約1.15mである。両者とも、断面は幅の広いU字形で、底面は平坦である。深い溝は北に向かってやや傾斜している。

浅い溝の西側壁面に沿って、土坑列が検出された。平面形は不定形であるが、楕円状が多い。深さは、0.48m～0.87mである。

SD010(第35図)

調査区最南西端部に位置する。グリッドは大グリッド13AA・14AA・14Aである。標高約22.2mである。SD009と重複するが、土層断面から、本遺構が古いと考えられる。南側約1mに、ほぼ平行して、SD011が位置している。

細長い調査区を横切るように検出された、北西から南東方向の直線的な溝で、主要方位はN-64°-Wである。検出長は約19mで、北側に溝端があると思われるが、SD009との重複で不明である。幅は1.08m～1.95m、深さは浅く、0.2m～0.28mで、断面は幅広のU字形である。

SD011(第35図)

調査区最南西端部に位置する。グリッドは大グリッド13AA・14AA・14Aである。標高約22.2mである。SD009と重複するが、土層断面から、本遺構が古いと考えられる。南側約1mに、ほぼ平行して、SD010が位置している。

細長い調査区を横切るように検出された、北西から南東方向の直線的な溝で、主要方位はN-66°-Wである。検出長は約16.5mで、北側に溝端があると思われるが、SD009との重複で不明である。幅は0.8m～1.92m、深さは0.14m～0.38mで、南東側への傾斜が明瞭である。断面は幅広のU字形である。

SD012(第36図 図版10・11)

調査区南西端部に位置する。グリッドは大グリッド10Eである。標高は約21.8mで、ほぼ平坦である。SD013・015と重複する。SD013とは土層断面から、本遺構が古いと考えられる。SD015との新旧は、SD015が浅いため、SD012の覆土に検出されなかったので不明瞭であるが、本遺構が古いと思われる。

直線的であるが、途中で方向が変化する。検出長は約26mで、南側2/3が北東から南西方向で、主要方位はN-24°-Eである。北側1/3は北西から南東方向で、主要方位はN-55°-Wである。幅は1.35m～2.06m、深さは検出面から、0.3m前後である。断面は幅広のU字形である。

底面に土坑列が検出されている。土坑の平面形は楕円形で、規模は0.98m～1.52m×0.82m～1.08mで、底面からの深さは0.22m～0.5mである。

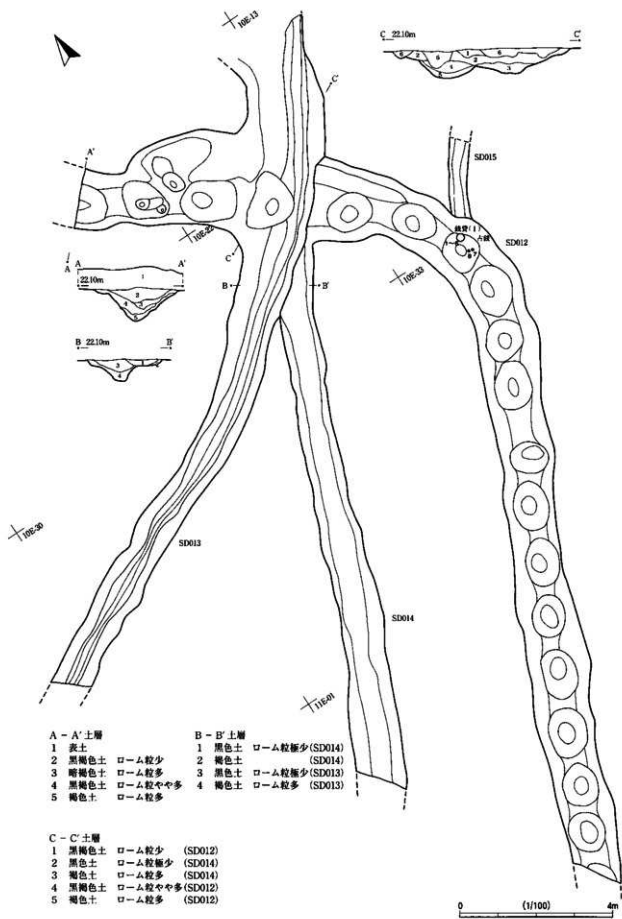
覆土中から寛永通宝の緋銭が出土している。

SD013(第36図 図版10・11)

調査区南西端部に位置する。グリッドは大グリッド10Eである。標高は約21.8mで、ほぼ平坦である。SD012・014と重複する。SD013とは土層断面から、本遺構が新しいと考えられる。SD014とは土層断面から、本遺構が古いと考えられる。北東から南西方向の溝で、直線的であるが、北東端で、ゆるやかに北へ曲がる。検出長は約19mで、直線部分の主要方位はN-65°-Eである。幅は0.9m～2.05mで、北端が広がる。深さは検出面から、0.3m～0.8mで、北側が深くなるが、SD012・015との重複箇所が最も深い。断面V字形である。

覆土から遺物が少量出土している。

SD014(第36図 図版10・11)



第36図 SD012~015

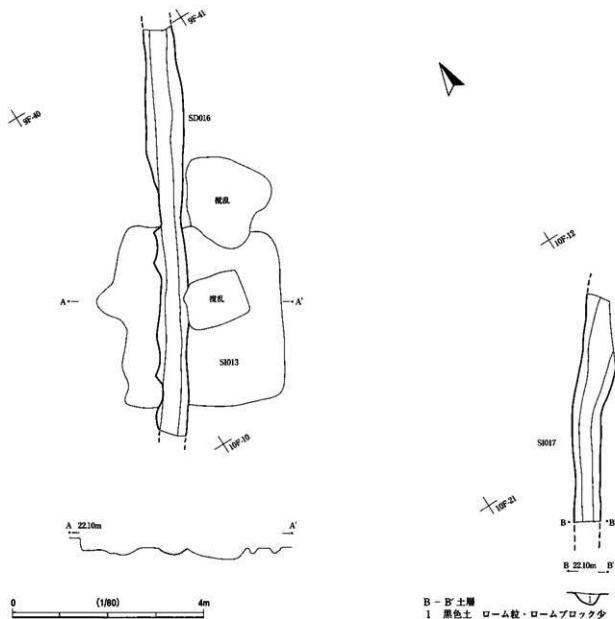
調査区南西端部に位置する。グリッドは大グリッド10Eである。標高は約21.8mで、ほぼ平坦である。SD012・013と重複する。SD013とは土層断面から、本遺構が新しいと考えられる。SD012との新旧は、本遺構が浅いため、SD012の覆土にされなかったので不明瞭であるが、本遺構が新しいと思われる。

直線的な溝で、主要方位はN-23°-Eである。検出長は約13.5mで、SD012・013との重複箇所が、溝の北端と考えられる。幅は0.87m～1.32m、深さは検出面から、0.12m～0.2mで、南が深くなる。断面は幅広のU字形である。

覆土から遺物が少量出土している。

SD015(第36図)

調査区南西端部に位置する。グリッドは10E-32である。標高は約21.8mで、ほぼ平坦である。小規模な溝で、SD012と重複する。新旧は、本遺構が浅いため、SD012の覆土に、掘り込みが残されなかったの



第37図 SD016・SD017

不明瞭であるが、本遺構が新しいと思われる。

北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-28°-Eである。検出長は約2mで、SD012との重複箇所が、溝の南端と考えられる。幅は約0.5m、深さは検出面から、約0.13mで、断面は幅広のU字形である。SD016(第37図)

調査区南西端部、平安時代住居集中区に位置する。グリッドは9F-10、10F-00-10である。標高は約22mで、ほぼ平坦である。平安時代住居SI013と重複するが、覆土土層から本遺構が新しい。南東隣、約8m離れて、SD017がほぼ平行して位置する。

北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-31°-Eである。検出長は約8.5mで、幅は0.47m～0.78m、深さは検出面から、約0.34mで、断面は幅広のU字形である。

SD017(第37図 図版11)

調査区南西端部、平安時代住居集中区に位置する。グリッドは、10F-11・21である。標高は約22mで、ほぼ平坦である。北西隣、約8m離れて、SD016がほぼ平行して位置する。

北東から南西方向の直線的な溝で、主要方位はN-36°-Eである。検出長は約5mで、幅は0.56m～0.62m、深さは検出面から、約0.23mで、断面は幅広のU字形である。

3) 遺物

溝状遺構出土の遺物は、古墳時代土師器、平安時代土師器・須恵器等、周辺遺構からの混入が多いが、銭貨、陶磁器などが出土している。

溝状遺構

SD001(第38図 図版20)

1・2はロクロ土師器坏である。1は口縁部がわずかに肥厚するが、体部の開き直線的で、住居出土の坏に比べてやや小さい。3は灰軸碗である。やや丸みのある断面三日月形の高台が付く。内面の口縁部から体部に灰軸が施される。4・5はフイゴの羽口である。炉との接合部が残る。広がり的小さい円錐形で、ナデが施される。平安時代の遺物で、混入と考えられる。

SD004(第38図)

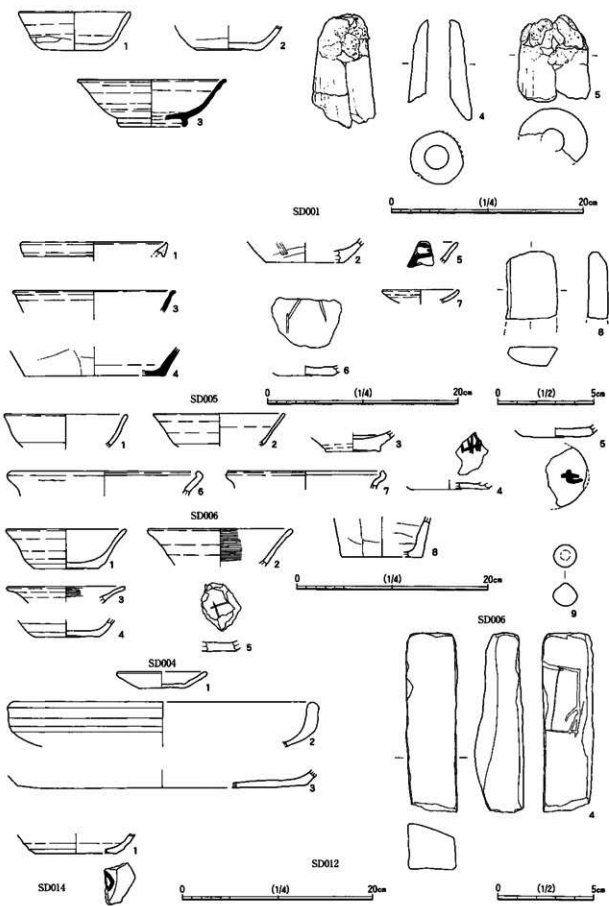
1・2・4・5はロクロ土師器坏である。1・2は口縁部は外反して、わずかに肥厚する。2は内面にヘラミガキが施される。4・5は底部である。5は内面に「×」と思われる線刻が施される。平安時代の遺物で、混入と考えられる。

SD005(第38図 図版20)

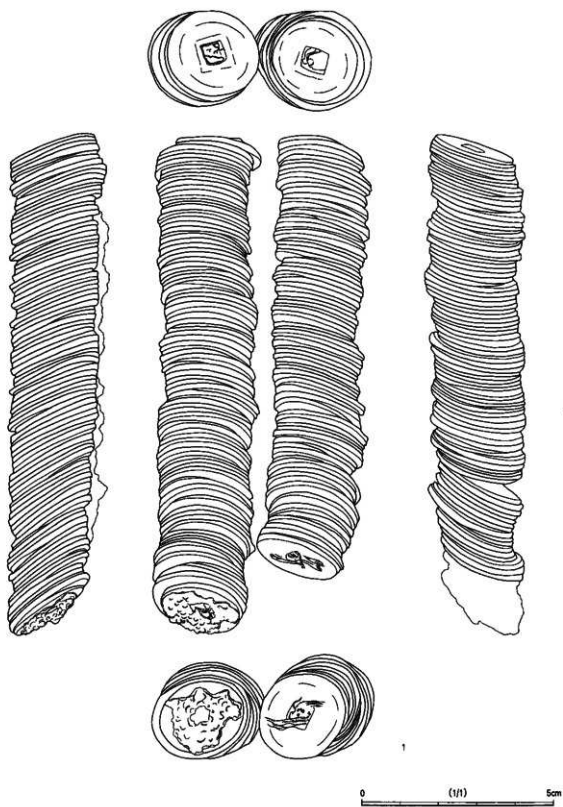
1は土師器壺の口縁である。折返しで、わずかに受け口状である。2はロクロ土師器坏である。外面のヘラケズリ等変の可能性があるが、内面にヘラミガキが施されるので、坏とした。3は灰軸碗の口縁部である。口縁が小さく外反し、内面に灰軸が施される。4は須恵器甕の底部である。5はロクロ土師器坏の口縁～体部である。外面に墨書が施されるが、文字は不明である。6はロクロ土師器底部片である。内面にヘラ書きが施されるが、文字は不明である。1は古墳時代前期、2～5は平安時代の遺物で、混入と考えられる。

7は陶器灯皿である。内外面に褐色鉄軸が施される。瀬戸・美濃産である。8は砥石片である。板状であるが、磨耗の状態から、凹字形と思われる。

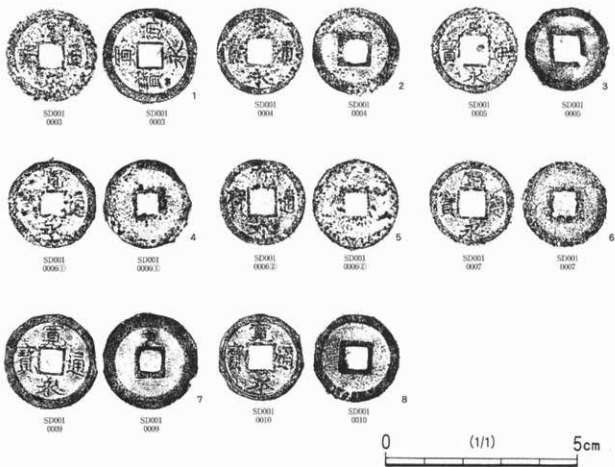
SD006(第38図 図版20)



第38图 沟状遺構出土遺物



第39圖 錢貨（1）(SD012出土)



第40図 銭貨(2) (SD012出土)

1・2・4・5はロクロ土師器坏である。1・2は口縁部～体部である。1は口縁部がわずかに外反する。わずかながら、体部の屈曲がみられる。2は体部の屈曲がやや大きい。4・5は底部である。墨書が施される。4は内面で、文字は不明である。5は外面で、「七」である。3は高台付皿である。内面に墨痕がある。磨耗はないので、硯ではなく、墨液を溜めるために使用されたと考えられる。6・7は土師器甕の口縁部である。口縁は内傾して丸く、受け口状である。8は土師器甕の胴部下部～底部である。ロクロ成形で、回転糸切り痕ある。9は土玉である。穿孔はなく、上部が突出する。全体にナデが施される。

平安時代の遺物で、住居からの混入と考えられる。

SD012(第38図)

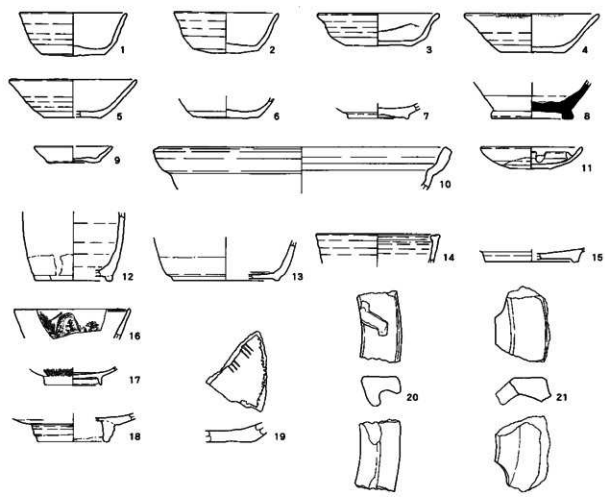
1はカワラケである。小皿状で、底部内面中央がややもり上がる。2・3は焙烙である。2は口縁部、3は底部である。4は砥石である。四角の棒状で、磨耗から、凸字形である。

SD014(第38図)

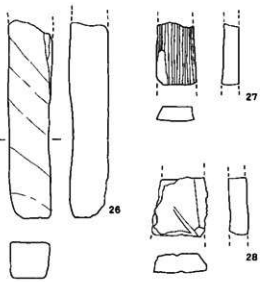
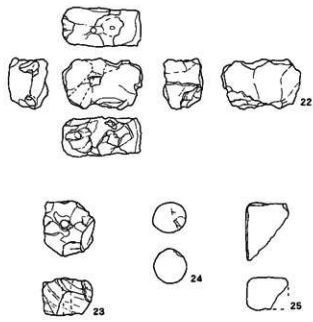
1はロクロ土師器坏の体部下部～底部である。底部外面に墨書が施されるが、破片で文字不明である。

銭貨(第39・40図 図版21)

銭貨は全て寛永通宝(新寛永)で、SD012出土である。特に、1(第39図 図版21)は長88枚、短81枚が摺銭の状態出土している。重さは512.0gである。内部に縄紐が残り、全体に錆で癒着しているので、



0 (1/4) 20cm



0 (1/2) 5cm

第41圖 遺構外出土遺物

現状のまま報告する。第40図は単体（1は2枚重ね）であるが、全て新寛永である。これらは緋銭からはずれたものと考えられるので、緋銭で残っている銭貨も全て新寛永である可能性が大きい。

遺構外出土遺物（第41図 図版20・22）

1～6はロクロ土師器である。1・2はいわゆる箱形環で、体部が直線的で、開きが小さい。3・4は口縁部が肥厚し、3は体部の屈曲が明瞭である。5は体部が直線的であるが、開き方が大きい。1・2は奈良時代後半に属すると考えられる。7は土師器高台付皿の底部である。断面三角形の小さな高台が付く。8は須恵器長頸壺の胴部下部から底部である。断面台形状の高台が付く。3～8は平安時代遺物である。

9はカワラケである。小皿状で、底部内面中央部がややもり上がる。10～15は瀬戸・美濃陶器である。10は摺鉢の口縁部で、鉄釉が施される。11は灯明下皿である。12・13は徳利の底部である。14は香炉の口縁部である。15は大皿の底部と思われる。

16・17は磁器である。肥前系と考えられ、染め付けが施される。18は肥前系の陶器と思われる。大型の皿か鉢と考えられる。19は摺鉢の底部である。堺産である。

20・21はカマドの敷き枠と考えられる。大きなドーナツ状になると考えられる。

22は用途不明の土製品である。手捏ねで、1か所に土玉状の穿孔が施される。23は土玉である。穿孔があり、未成形品と考えられる。24は土玉である。穿孔は施されていない。

26～28は砥石片である。26は方柱状で、磨耗から凸字形と思われる。27・28は短冊状で、磨耗による凹凸は不明である。

第12表 溝状遺構出土遺物観察表

()は復元値、[]は現存値を表す 口径・底径・器高はcm

(調査は上から→の順)

遺構・埋蔵番号	器種	口径	底径	器高	遺存状況	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
SD001	1 土師器環	(11.7)	6.7	4.0	70%	内外 明褐色 明褐色	細砂粒多・磁器母粒少・赤色スコリア少	良好	外 体部下縁部ヘラケズリ 底 周縁部回転ヘラケズリ、回転未切り痕	3
	2 土師器環		7.1		40%	内外 明褐色 褐色	細砂粒少・磁器母粒少・赤色スコリア少	良好	外 体部下縁部ヘラケズリ 底 周縁部回転ヘラケズリ、回転未切り痕	3
	3 灰輪高台付碗	(15.4)	(7.3)	4.9	25%	内外 明灰色 明灰色	砂粒少・磁器母粒少・赤褐色	良好	内 灰輪 外 灰輪	7
	4 土師器フイゴの口	口径11.9 外径4.1～ 6.0		内径2.4	60%	外 暗褐色・黒色	粗砂粒多	良好	外 腹方向ナテ	5
	5 土師器フイゴの口	口径9.2 外径5.0～ 6.2		内径2.2	40%	外 黒色・暗褐色	砂粒少・磁器母粒多	良好	外 腹方向ナテ	6
SD005	1 土師器蓋	(15.4)				口縁部片 内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒微	良好	内 ココナテ 外 ココナテ・折返し口縁	1
	2 土師器環		(8.0)			体部下縁部～底部片 内外 褐色～黒褐色 明赤褐色	砂粒少	良好	内 ヘラミダキ 外 ヘラケズリ一部 回転ヘラケズリ	1
	3 須恵器灰輪碗	(17.0)				口縁～体部片 内外 灰褐色 灰色	砂粒微・磁器	良好	灰輪	1
	4 須恵器蓋	(14.6)				胴部下縁部～底部片 内外 灰褐色 灰褐色	砂粒やや多・黒色粒やや多	良好	内 ココナテ 外 ヘラケズリ 底 ナテ	1
	5 土師器環					口縁～体部片 内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒微	良好	体部赤褐色不明	1
	6 土師器環	5.6			15%底部	内外 淡黄褐色 淡黄褐色	細砂粒やや多	良好	内 ヘラミダキ「エ」 外 回転ヘラケズリ 回転ヘラケズリ	1
	7 陶器灯明皿	(8.0)			20%底部欠	内外 褐色(灰輪) 褐色(灰輪)暗褐色(灰輪)	細砂粒少・赤褐色	良好	内 全面鉄釉 外 上半部鉄釉	1
	8 石製品砥石片	残長3.6 幅2.6 厚1.0			残片	黒灰色		良好	重さ14.6g 石粒被覆物質	1
SD006	1 土師器片	(13.0)			10%以下 口縁～底部	内外 褐色 淡褐色	細砂粒少・磁器母粒少・赤色スコリア少	良好	外 体部下縁部ヘラケズリ	1
	2 土師器環	(13.8)			10%以下 口縁～底部	内外 褐色 明赤褐色一部淡褐色	砂粒少・磁器母粒やや多・磁器母粒少	良好	外 体部下縁部ヘラケズリ	1

遺構・探検番号	葬種	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
3	土師器 高台付杯			5.7	20% 体下部～底部	内外 橙黄色 明赤褐色	砂粒少・細砂粒や や多・赤色スコリア	良好	内 ヘラミガキ、全面に薄灰、墨墨として使用、 器割痕 外 高台部回転ヨコナデ 底 周定部回転ナデ、回転赤切り痕	2
4	土師器 杯	(8.0)			10%以下 体下部～底部、 中央欠	内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒やや多	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 回転赤切り痕、内面墨書文字不明	1
5	土師器 杯	(7.0)			10%以下 口縁～体部	内外 明褐色 明褐色	細砂粒少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 周定部回転ヘラケズリ、回転赤切り痕、外面 墨書〔七〕	1
6	土師器 壺	(20.5)			10%以下 口縁部	内外 灰褐色 淡褐色	砂粒やや多	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	1
7	土師器 壺	(16.3)			10%以下 口縁部	内外 暗赤褐色	細砂粒やや多	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	1
8	土師器 壺	(8.3)			10%以下 胴部下部～底部、 中央欠	内外 灰褐色 淡褐色	細砂粒多	良好	内 ヨコナデ 外 横方向ヘラケズリ 底 ヘラケズリ	1
9	土師器 土甕	径1.2	高1.7		100%	外 暗褐色	細砂粒極少	良好	底 全面にのみらか	1
SD004	1 土師器 杯	(12.6)	(6.6)	4.1	20%	内外 淡明褐色 淡褐色	細砂粒やや多・細 常母粒やや多・赤 色スコリアア	良好	内外 内外同位置の口縁にスチ付着 外 体下部回転ヘラケズリ 底 周定部回転ヘラケズリ	1
2	土師器 杯	(15.5)			10%以下 口縁～体部	内外 明赤褐色 明赤褐色一部明赤 褐色	細砂粒少・赤色ス コリア極少	良好	内 ヘラミガキ	1
3	土師器 壺	(12.4)			10%以下 口縁～体部上部	内外 明褐色 淡明褐色	細砂粒少	良好	内 ヘラミガキ	1
4	土師器 杯		6.6		20% 体下部～底部	内外 黒褐色 黒褐色	細砂粒少	良好	内 ヘラミガキ 外 体下部回転ヘラケズリ 底 周定部回転ヘラケズリ、回転赤切り痕	1
5	土師器 杯				底部片	内外 淡黄褐色 淡黄褐色	細砂粒やや多	良好	内 焼割「く？」 底 回転赤切り痕	1
SD012	1 カワラケ 小皿	(9.1)	(4.6)	1.7	45%	内外 橙黄色 橙黄色	細砂粒極少	良好	内 口縁スチ付着 外 口縁スチ付着 底 回転赤切り痕 灯明墨として使用	1
2	焼埴	(31.2)			10%以下 口縁～体部	内外 暗褐色 黒褐色	砂粒少・細常母粒 少	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	1
3	焼埴	(30.2)			10%以下 体下部～底部	内外 にふい褐色 灰褐色	砂粒やや多・細常 母粒やや多	良好	内 ナデ 外 ヘラケズリ 底 ヘラケズリ	1
4	石製品 磁石	横長92	幅2.6	厚2.5		外 黄褐色		底 長さ3.05g 石材磁灰石質	1	
SD014	1 土師器 杯	(8.4)			10%以下 体下部～底部、 中央欠	内外 明褐色 明褐色	細砂粒やや多・細 常母粒少	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ、外面墨書文字不明	2

第13表 遺構外出土物観察表

()は復元値、[]は現存値を表す 口径・底径・器高はcm

(調整は上から→の順)

遺構・探検番号	葬種	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
F11-F	1 土師器 杯	(11.2)	6.6	4.5	30%	内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒多・細常母 粒多・赤色スコリア ア	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ	A13-121
2	土師器 杯	(11.0)	7.0	4.2	20%	内外 橙黄色 橙黄色	細砂粒やや多・細 常母粒やや多・赤 色スコリアア	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 周定部回転ヘラケズリ、回転赤切り痕	A13-121
3	土師器 杯	(12.7)	6.8	3.4	40%	内外 橙黄色 橙黄色	砂粒やや多・赤色 スコリアア	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ、切刃不明	B12-231
4	土師器 杯	(14.0)	6.6	4.0	50%	内外 橙黄色 橙黄色	細砂粒少・細常母 粒少・赤色スコリ ア	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ、中央に回転赤切り痕	B1201-1
5	土師器 杯	(13.4)	(6.0)	4.0	20% 底部中央欠	内外 暗褐色 暗褐色	細砂粒やや多	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 回転ヘラケズリ	cs#1
6	土師器 杯	(6.6)			20% 体部～底部	内外 橙黄色 橙黄色	細砂粒多・細常母 粒少・赤色スコリ ア	良好	外 体下部回転ヘラケズリ 底 周定部回転ヘラケズリ、回転赤切り痕	H8-41-1
7	土師器 高台付壺		6.2		30% 体下部～底部	内外 明褐色 明褐色	細砂粒多・細常母 粒やや多	良好	内 ヘラミガキ 外 高台部回転ヨコナデ 底 周定部回転ナデ、回転赤切り痕	G8-01
8	須恵器 灰蓋	8.4			10%以下 口縁部	内外 灰褐色	砂粒少	良好	外 胴部下部回転ヘラケズリ 底 回転赤切り痕	P9-131
E1 (ゾウ)	9 カワラケ 小皿	(7.8)	(5.4)	1.7	50%	内外 明赤褐色 明赤褐色	細砂粒極少・細常 母粒少	良好	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ 底 周定部回転ナデ、回転赤切り痕	1
F11-F	10 陶器 燈明下	(31.2)			10%以下 口縁部	内外 暗褐色 暗褐色	砂粒極少	良好	内 暗褐色陶 器色地 外 全面褐色陶 器色地 外 口縁～体部中央褐色地、体下部回転ヘラ ケズリ 底 回転ヘラケズリ	cs#21
11	陶器 燈明下	(10.6)	4.2	2.3	40%	内外 明褐色 明褐色	砂粒極少	良好	内 全面褐色陶 器色地 外 口縁～体部中央褐色地、体下部回転ヘラ ケズリ 底 回転ヘラケズリ	cs#21
12	陶器 燈明	(8.0)			10%以下 胴部下部～底部	内外 淡褐色 明灰褐色、緑褐 色地	細砂粒極少	良好	外 蓋縁 底 回転ヘラケズリ、蓋口・表裏	LS-11-1
13	陶器 燈明	11.0			10%以下 胴部下部～底部、 中央欠	内外 淡灰褐色 淡灰褐色 赤褐色は淡褐色	灰石少、黒褐色粒 少	良好	内 淡灰褐色陶 器色地 外 淡灰褐色陶 器色地 底 回転ヘラケズリ、蓋口・表裏	LS-11-1

遺構・埋蔵番号	器種	口径	直径	器高	遺存状況	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
	14 陶器 香炉	(130)			10%以下 口縁～体部上部	内外 黄緑色釉 黄緑色釉 薬土は淡黄灰色	細砂粒少	良好	内外 胎輪、肩戸・美濃	H2-21-J
	15 陶器 大型皿		(9.6)		10%以下 底部、中央欠	内外 淡黄灰色	細砂粒少	良好	内外 胎輪、高台部同転りコナテ 底 回転ヘラケズリ、肩戸・美濃	C12-20-I
SD001	16 陶器 広東碗	(122)			10% 口縁～体部	内外 明灰色 明灰色	混入物ほとんど無し	軟成	内外 青色釉染付、一糸織 外 青色釉染付 肩戸・美濃	2
SH12	17 磁器 碗		(5.9)		20% 口縁欠	内外 白色 白色	混入物ほとんど無し	非常に堅 軟	内外 青色釉染付 肩戸	6
フリフ	18 陶器 高台付皿		(7.5)		10%以下 胴部下部～底部	内外 明黄灰色 褐色	細砂粒やや多	良好	内外 灰褐色釉 外 体部下部～高台部同転ヘラケズリ 底 高台部同白色釉	L5-11-I
	19 陶器 椀				体部下部～底部	内外 赤褐色 赤褐色	細砂粒やや多	良好	外 ナテ 外 胴片(摺り目) 外 体部下部同転ヘラケズリ、鼻	tr9-I
SD001	20 土製品 カマヤテ	直径外 径42.8	直径内 径34.8		残片	外 明褐色	細砂粒多・赤色ス コリア多	良好	外 ナテ	2
SH05	21 土製品 七輪の縁	直径外 径33.8			残片	外 褐色	細砂粒やや多・黒炭 粒やや多	良好	外 ナテ	4
フリフ	22 土製品 土子?	径2.5	幅4.1	厚2.0	100%	外 暗灰色	細砂粒少・赤色ス コリア少	良好	重さ22.2g 手捏ね成形、3孔あり、貫通1か所、未貫通2か所	A13-14 -I
	23 土製品 土玉	径2.9	幅2.7	厚2.0	100%	外 明褐色	細砂粒少	良好	重さ15.4g 手捏ね成形	B13-43-I
	24 土製品 土玉	直径1.7	直径1.6	高1.9	100%	外 褐色	細砂粒少	良好	重さ4.9g ナテ	O2-00-I
	25 石製品 磁石	径長3.0	幅2.2	厚1.8	10%以下	外 灰色			重さ13.0g 石材砂岩質	tr9-I
	26 石製品 磁石	径長 10.3	幅2.0～ 2.5	厚1.9～ 2.0	60%	外 黒灰色			重さ83.1g 石材凝灰岩質	tr9-I
	27 石製品 磁石	径長3.2	幅1.8～ 2.0	厚0.8～ 0.9	10%以下	外 灰白色			重さ9.6g 石材凝灰岩質	tr9-I
	28 石製品 磁石	径長3.1	幅2.2～ 2.8	厚0.9	20%	外 黒灰色			重さ13.6g 石材凝灰岩質	C13-30-I

第3章 古新田南遺跡

第1節 遺跡の位置と環境（第42～44図）

古新田南遺跡（1）は印西市の北西部に所在する。地形的には、印旛沼の低地と手賀沼および利根川の挟まれた台地上で、手賀沼の低地に流入する亀成川の支流が開折した小支谷の最奥部に臨む台地上に位置する。水系は手賀沼・利根川水系である。しかし、印旛沼に注ぐ河川の小支谷が遺跡の南約1.5km付近、北総線のすぐ南まで入り込んでいる。

遺跡が位置する台地は、西流する亀成川に注ぐ支流によって浸食された、南北方向の舌状台地である。遺跡は小支谷最奥部の東側の台地上で、小支谷に臨む位置である。標高は約24mで、低地との比高差は約12mである。

周辺遺跡で、旧石器時代、縄文時代の遺跡は次のものがある。同じ支谷のさらに奥の西側台地上には、大森割野遺跡（2）が所在する。また、遺跡西側にある同様の小支谷に沿った台地上には新山北遺跡（3）および新山南遺跡（4）が所在する。これらは、旧石器時代および縄文時代の遺跡である。手賀沼・利根川水系の縄文時代の遺跡としては、遺跡北東の利根川低地に伸びる舌状台地上の新堀込西遺跡（5）、遺跡北東、亀成川北岸台地上の天神台遺跡（6）がある。ほかに、旧石器時代、縄文時代の遺跡としては、当遺跡南の南西ヶ作遺跡（7）、弁天前遺跡（8）、蛭沼遺跡（9）がある。これらは、印旛沼に注ぐ河川の小支谷が深く入り込んでいる、最奥部の台地上に位置しており、印旛沼の水系に所属する¹¹。

注1 1997 『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）-東葛飾・印旛地区（改訂版）-』 千葉県教育委員会

第2節 調査の方法と経過

発掘調査を開始するに当たり、調査対象区域を公共座標に合わせて、20m×20mの大グリッドを設定した。さらにその大グリッド内を2m×2mに分割し、100個の小グリッドとした。大グリッドは西から東へA、B、C、……、北から南へ0、1、2、……、と記号をつけた。小グリッドは北西隅を起点に00、01、……98、99と番号を付け、これらを組み合わせで6C-35のように呼称することにした（第46図）。

調査は、上層確認・本調査→下層確認調査→下層本調査の順で実施した。上層調査については原則として調査対象面積の10%を確認調査し、遺構と遺物の分布状況を確認後、継続して、遺構、遺物の検出範囲を拡張して遺構調査を実施した。下層調査については、調査対象区域全体に公共座標に合わせて、2m×2mのグリッドを設定して（第4図）、調査対象面積の4%を確認調査し、遺物の分布状況を確認した。本調査は確認調査の遺物の分布状況をもとに、範囲を設定して実施した。

また、調査区の基本土層図は第45図のとおりである。

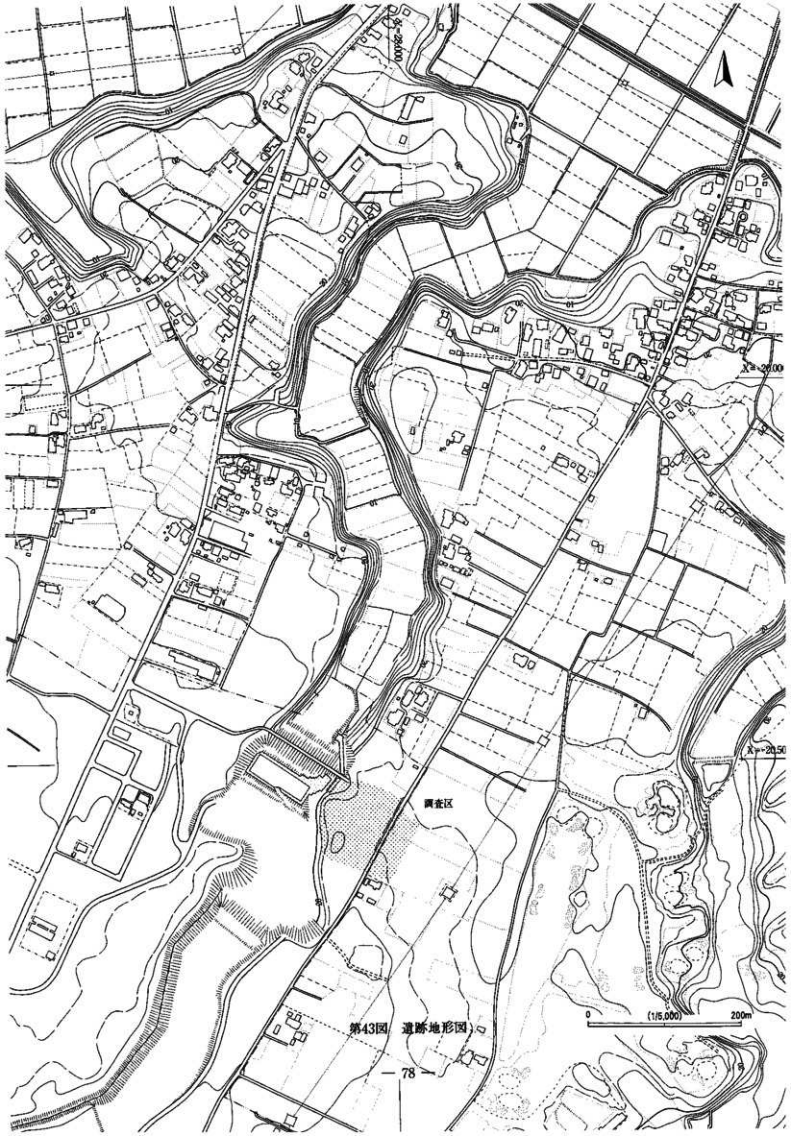
第3節 遺構と遺物

1. 旧石器時代

下層の調査として実施した旧石器時代では、後述するように安山岩や黒曜石を使用した石核・剥片を主体とする石器群が数か所にわたり検出された。これらの石器群は、使用された石材、接合関係等から5ブ



第42図 古新田南遺跡位置および周辺地形図 (1/25,000)



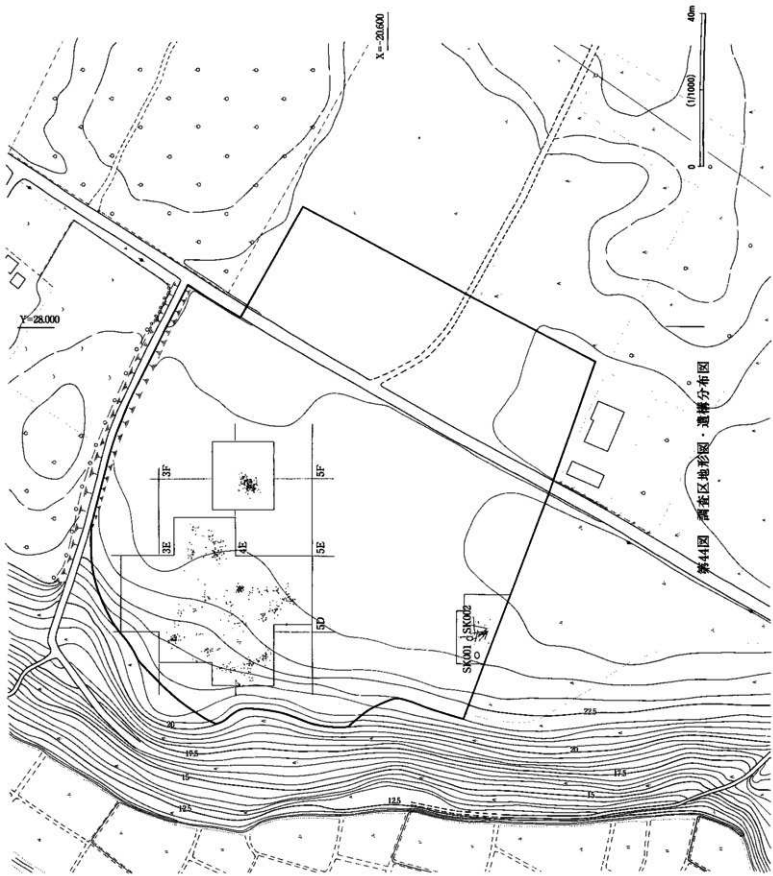
20.50

20.50

調査区

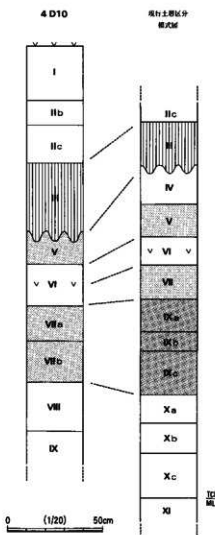
第43回 遺跡地形図

0 (1/5,000) 200m



第44图 调查区地形图·遺構分布图

26.50m

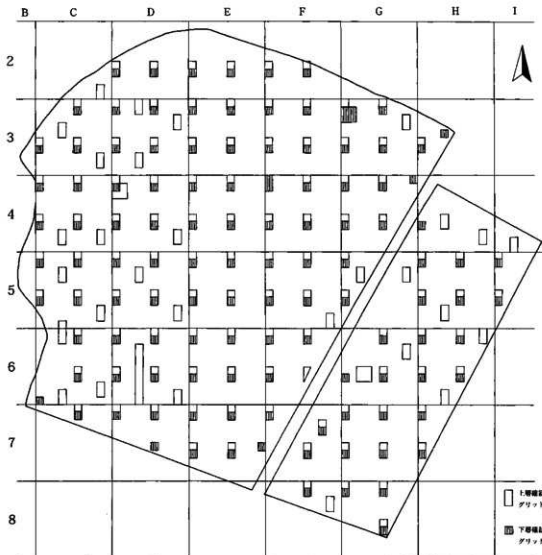


基準土層の特徴 (模式図)

- I 有機物蓄積層
黒色～暗褐色
- II b 新期テフラ層
- II c 腐植の少ない土層
- III いわゆるソフトローム層
基本には黄褐色
硬質ローム層の軟質化
- (IV) 明褐色の硬質ローム層
赤色スコリア含、全体に赤味を帯びる)
- 古新田南遺跡では明確な層として確認できなかった。
- V スコリア質の硬質ローム層
武蔵野台地帯1黒色帯に相当。
褐色～黄褐色
- VI 明黄褐色の硬質ローム層
非常に堅い。
給良 Tn 火山灰 (AT) を集中的に包含する。
給良 Tn 火山灰 (AT) 降下時期は、約2万4千年前といわれている。
- (VII) 褐色の硬質ローム層
武蔵野台地帯2黒色帯上部に相当)
- 古新田南遺跡では、ATの集中が弱く、ATを含む層としてVI層をとらえているので、下位のVII層までも含まれている。
- IX スコリア質のローム層
武蔵野台地帯2黒色帯下部に相当。
暗褐色であるが、下総台地北部では黒みが強い。
印旛沼側の印西市などでは、IX層中央部分に褐色の腐層が入るため三つの層に区分できる。
- IX a 暗褐色、赤色・黒色・暗緑色スコリアを含む。
- IX b 若干の軟質ローム層、褐色。
- IX c 色調はIX aに類似し、黒みが強い。
暗緑色スコリアが目立つ。
- 古新田南遺跡では、IXの下位として、VII a、VII bとしている。分層は色調によると思われる。
- X 立川ローム層下層
スコリア減少、明るい色調
- X a 褐色・赤色・黒色等のスコリアを含む。
- X b 暗褐色・赤色・黒色等のスコリアを含む。
- X c 褐色 X aに類似するが、スコリアほとんど無。
- 古新田南遺跡では、VII bの下位として、VIIとして認めている。
- XI 武蔵野ローム最上層
灰褐色、粘性あり。
古新田南のIXが相当する。

(土層の説明は文化財センター「発掘作業マニュアル」(平成15年3月)による)

第45図 遺跡土層図



0 (1/1,000) 40m

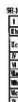
23.0m



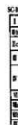
00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20	22								
30		33							
40			44						
50				55					
60					66				
70						77			
80							88		
90								99	

0 (1/400) 10m 小グリッド分敷図

23.0m



23.0m



0 (1/80) 4m

第46図 確認グリッド配置図

・土層柱状図

ロックに区分した。以下、その内容について記載する。

1) 全体の概観

i) 出土状況(第44～46図 図版24～27)

石器ブロックは調査区の北西寄りに集中的に検出された。西側の低地を臨む斜面際の平坦地にあたる。石器群は、その出土状況から大きく5ブロックに区分される。それらのブロックは整理作業にあたり便宜的にA～Eとした。またA～Dブロックは、大グリッド3C・3D・3E・4C・4Dに位置し、標高は21.5m～23.5mとなる。等高線からみて、ゆるい傾斜面に立地しているが、これら4ブロックは、約40m四方の範囲で、極浅いくぼみ状の地形を取り囲むように分布している。Eブロックはここから約20m東側的小グリッド4E-19を中心に東西約10m、南北約15mの範囲に分布する。標高は約24mで、第1～第4ブロックよりも、約0.5m高位に位置している。

A～Dの4ブロックの位置関係については、北西から逆時計回りにA・B・C・Dとした。それぞれのブロックでは石器の密度、分布範囲等で以下のような特徴的な事例が得られた。

Aブロックは、4ブロックの中で最も規模が小さく、集中範囲も狭い。またブロック内の石器集中も1か所である。Bブロックは、見かけ上大きく2地点での集中が認められた。北側の小さな集中と、南側の大きな集中がこれにあたる。Cブロックは最も規模が大きく、ブロック内での石器集中も、見かけ上では、環状に分布している。また、石材においても、黒曜石が主体を占め、他のブロックよりも多く出土している。Dブロックは、Aブロックに次いで、小さいブロックであるが、集中にまとまりがあり、石器の分布では、Aブロックよりも狭い範囲に分布している。

出土層位は、Eブロックも含めて各ブロックとも、VI層を中心にハードルーム層上面(IV・V層)からⅧ層上層の範囲に広がっている。このことから、A～Eブロックは、ほぼ同時期に形成された可能性が強いものと考えられる。

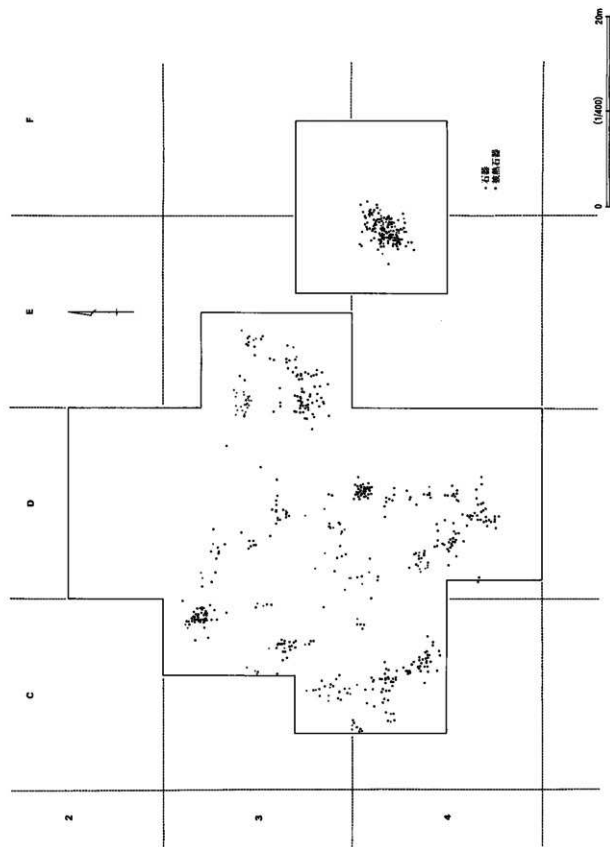
出土状況の中で特に注目されるのはEブロックである。安山岩2点と特徴的なチャートを用いた1点は接合作業の結果、個体としてはほぼ原形の円礫に復元されるに至った。安山岩1の例(第83図)とチャート(第87図)の場合は大形礫を分割して、各々を個別の石核として打割する様子を捉えられることができた。しかし、実際には剥片剥離の初期段階で放棄されたと思われる。安山岩3の資料(第85図)についてみると、中間部を欠いており石器製作に用いられたものと推測できる。だが、その形状から多くの剥片剥取ができたとは考えられない。他地点との接合は全く見られないことから、これら3例の資料は本地点のみで剥離作業がおこなわれていたものと思われる。

ii) 石器群の内容(第47～53図 第14表)

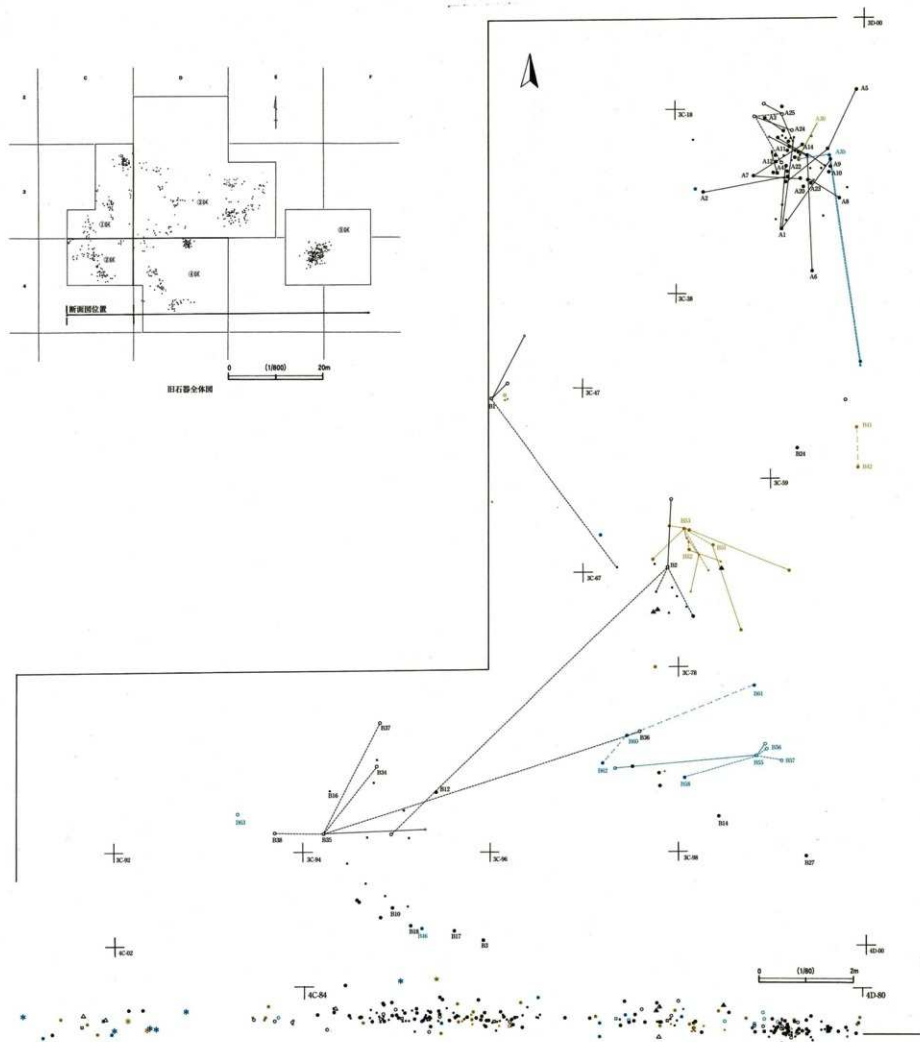
石 材

石材として確認されたのは第14表のとおりである。安山岩を主要石材としているが、Cブロックではチャート・黒曜石も少なからず出土し、黒曜石は一部に集中的な出土が認められた。またブロックの外縁では他の石材も若干認められている。頁岩、メノウ、流紋岩などがそれにあたる。なお肉眼鑑定ではあるが、黒曜石は2種類に分類され、伊豆・箱根産が多く出土し、明瞭な信州産は2点にとどまった。

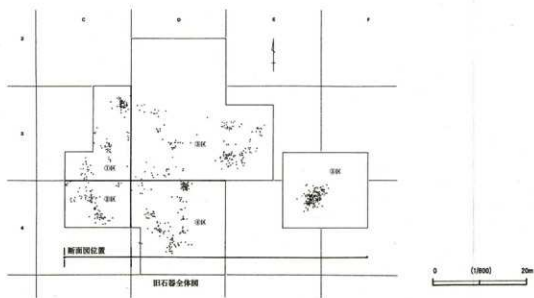
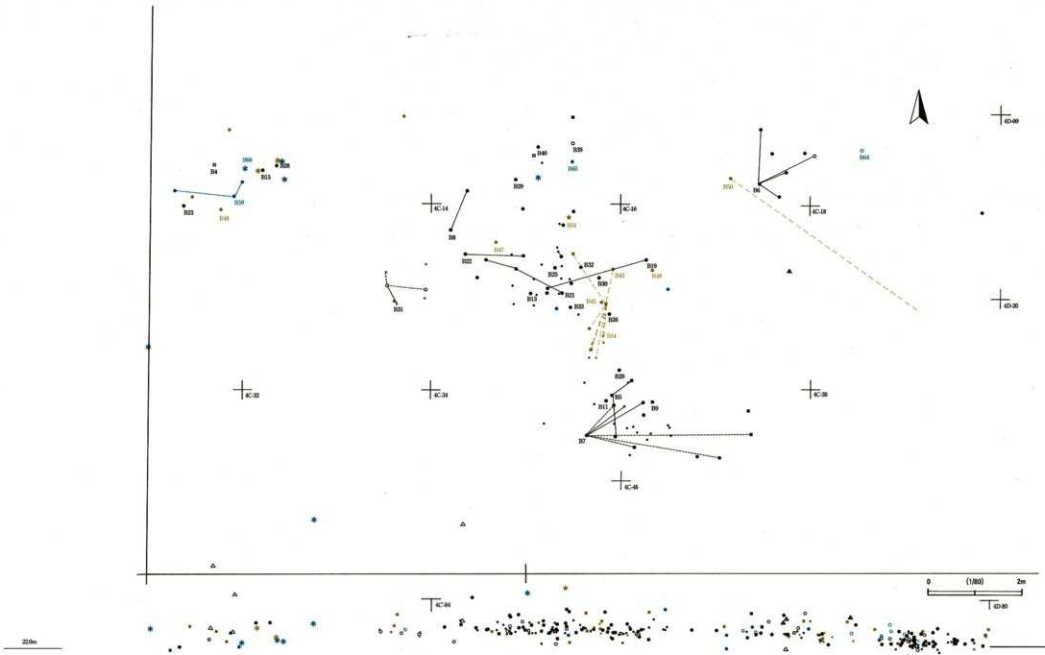
安山岩 安山岩の一群で特に注目できる点は、安山岩に2種の石材が存在することである。通常みられる普通輝石安山岩と、やや黒みをもつ硬質、緻密質の安山岩である。後者は北信、北関東にかけて特徴的に



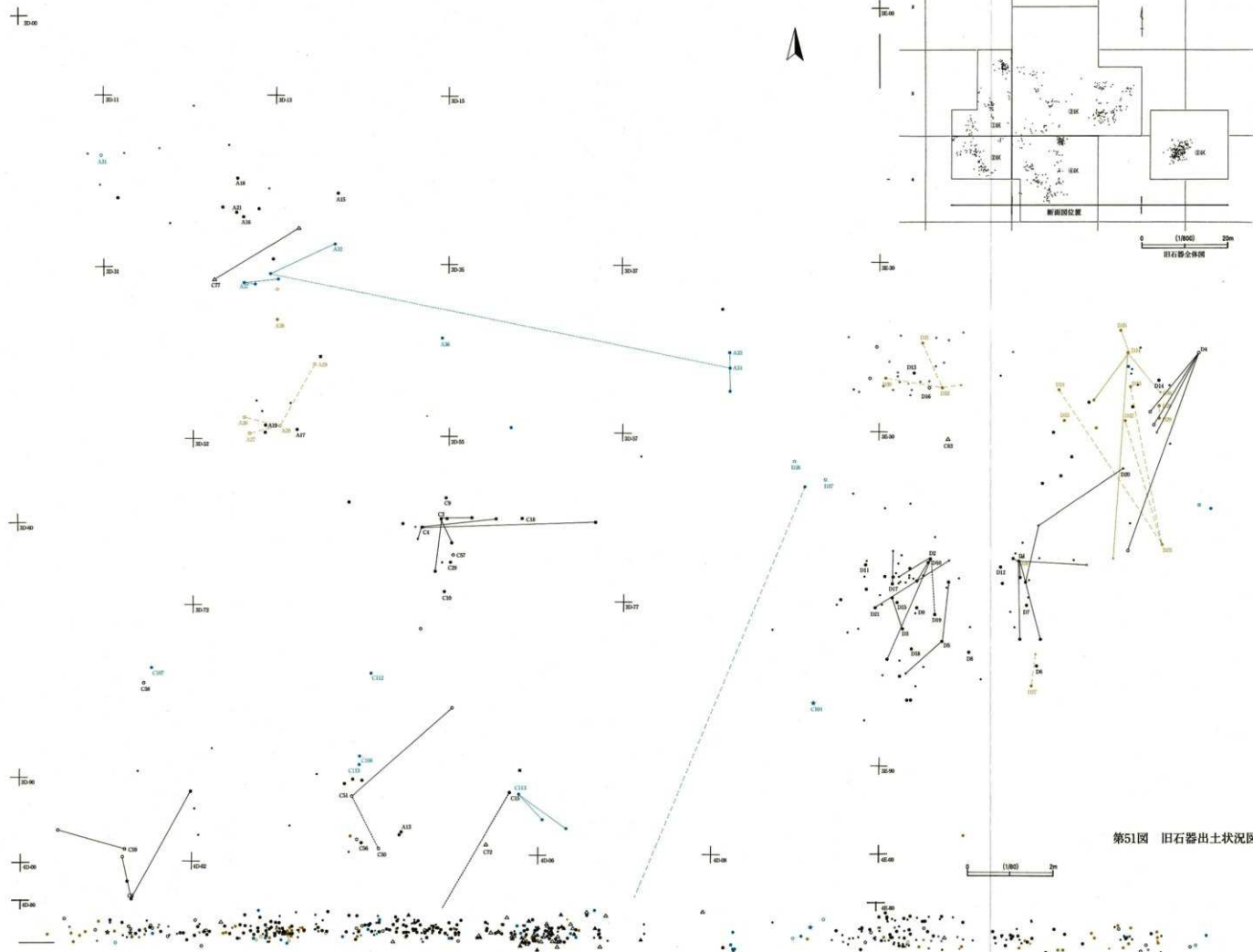
第48図 旧石器および焼土石器分布図



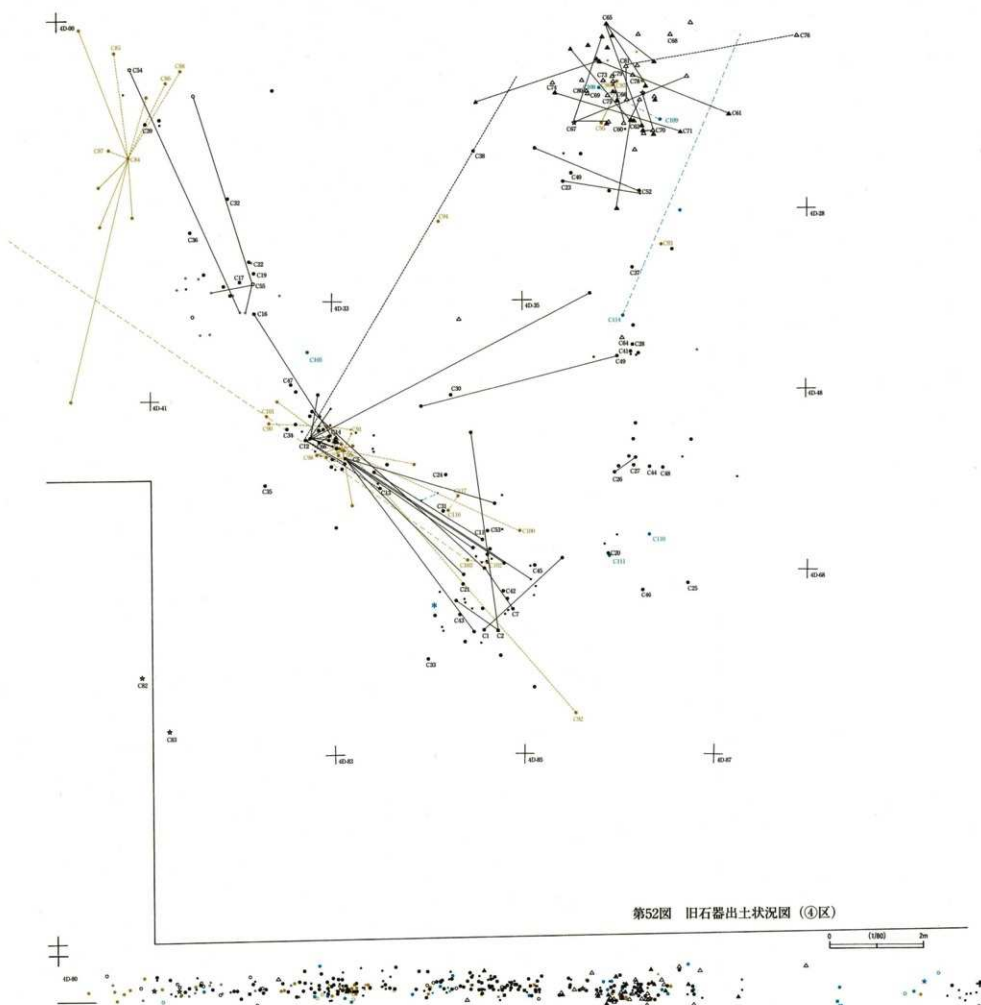
第49图 旧石器出土状况图 (①区)



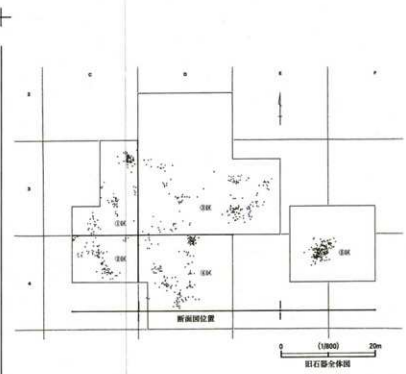
第50图 旧石器出土状況图 (②区)



第51图 旧石器出土状况图 (③区)

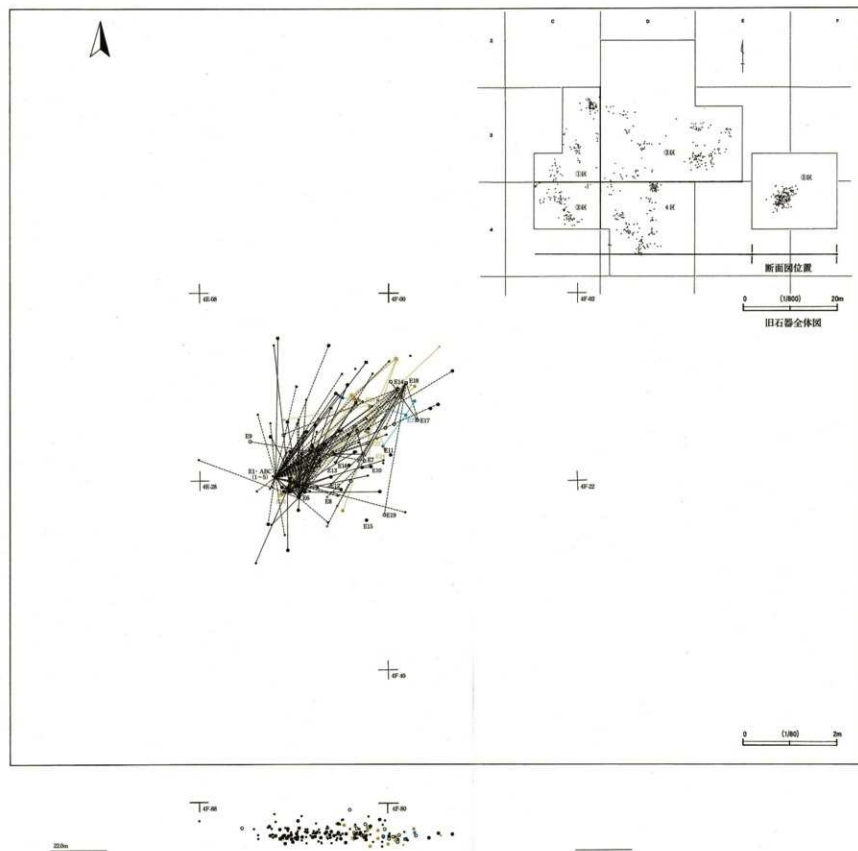


第52图 旧石器出土状况图 (③区)



新石器位置
0 10000 20m
旧石器分布图





第53图 旧石器出土状况图 (⑤区)

みられる石材である。肉眼観察では判別しうるが、小片・破片類では困難になることもある。

また接合資料を観察する中で、石核の部分と剥片類の接合例からみると、安山岩の二者はその剥離方法に以下のような差異が認められた。

普通輝石安山岩：原材の円礫はやや小形と思われる。ほとんど無調整で多方向からの剥離である。石核・剥片は全体にコロコロした厚手のタイプである。大形の円礫は分割して、石核としたと考えられる。

硬質の安山岩：石核のタイプに数種見られる。母岩となる円礫をそのまま、あるいは半割し、石核として打面を変更させながら（打面転位）剥離するものと、大形の円礫や扁平な円礫を半割、その後、板状の大形剥片を作出し、その剥片を石核とするものである。

さらに安山岩の集中箇所では、集中部内での接合がみられるが、各集中箇所間の接合は皆無であった。この接合関係に注目し、集中箇所を中心に一応ブロックとしての単位を設定した。各集中箇所間の接合状態が皆無であることから、各集中箇所での作業もその場所のみでおこなわれていたものとみられる。後述するように主体となる安山岩の一群は、石核・剥片類が主で、概して破片類が少ない。破片類の中でも加工片と思われるものがほとんどない。また、定型的な石器も皆無で、この傾向は他の石材についても同様であった。ただナイフ形石器や台形石器などを製作目的とすれば、石器の素材にできるような剥片は少なからず認められた。

さて、安山岩の二種について触れたが、各ブロックでの形状を観察すると概略は以下ようになる。

Aブロック：普通安山岩。円礫をそのまま、あるいは分割した後に剥片を剥離する。

Bブロック：普通安山岩。基本的にはAブロックと共通し、両極打撃資料も認められる。硬質安山岩の剥片も若干存在する。

Cブロック：硬質安山岩。各種の石核があり、普通安山岩の剥片も僅かに混在する。

Dブロック：硬質安山岩・普通安山岩。二種の石材となり剥片類のみで構成される。

Eブロック：普通安山岩。原材の復原資料が存在し、剥片は少ない。硬質安山岩を僅かに混在する。

以上のように主要石材としての安山岩は二種が存在し、それぞれ異なる剥片剥離法が認められた。結果的にみれば、おそらく石質の相違から生じたものであろうが、本遺跡周辺での安山岩の利用は普遍的なものであり、本遺跡もその例からもれるものではなからう。

次に安山岩以外の石材についてみると、チャート・黒曜石がこれに続き、以下、頁岩・メノウ・流紋岩・凝灰岩等が検出されているが数量的には僅かである。

チャート チャートは各ブロックで採用されているが、そのほとんどが剥片である。接合例はB・C・D・Eブロックで数点確認される。表面には自然面を残す剥片が多い。また、Eブロックで検出された大型の復原可能個体は貴重な資料である。

黒曜石 黒曜石の一群はCブロックの一面に集中している。前述したように2種類に分けられるが、ほとんどが伊豆・箱根産である。Bブロックに同質の剥片が認められたが、他ブロック内ではほとんど検出されていない。また、出土した黒曜石には石核と考えられる資料は存在せず、すべて剥片類とわずかな破片のみである。このことから黒曜石は原石での持ち込みはなかったものと思われる。剥片類で良好な資料は少ないが、概して縦方向からの剥離が想定され、安山岩にみられる多方向からの剥離とは異なっている。

特に、定型的な石器は僅少で、Cブロックで出土したナイフ形石器（第75図82・83）は本遺跡で唯一石器らしい資料であり、この時期の特徴を有するものといえよう。剥片についてみると、やや厚身を持つも

のと、薄手の2種がみられる。おそらく前者は搔器・削器等に、後者は薄い縁辺部を利用した切擦具として用いたものであろう。出土資料には縁辺部を使用したものと思われる不規則な歯こぼれ状の痕跡を残す剥片も存在していた。

その他（メノウ・頁岩・砂岩・硬砂岩・凝灰岩・流紋岩・玄武岩・硅質粘板岩・花崗岩等） 数量的には各々20点以下であり、剥片が多い。また、自然面を残す剥片も見られた。メノウ・流紋岩の類では石核の存在も認められた。これは安山岩等の主要石材の補完を示すものと位置付けられよう。また、頁岩・硅質粘板岩では縦長の剥片も認められており、加工痕を残すもの（第77図104）も出土しており、定形石器の補完という面では十分な役割を果たしていたものと思われる。

被熱石材（第48図）

主要石材である安山岩およびチャート・黒曜石といった石材は、いわゆる直接生産具となる尖頭器類やスクレイパーの類を製作する原材料となるが、食生活・調理といった面では被熱した礫群が連想される。本遺跡では安山岩の他に凝灰岩・流紋岩といった石材に被熱の痕跡がみられた。各ブロックでも少量ながら出土しているが、とりわけBブロックを中心として被熱石材の出土が顕著であり、付近に居住空間が想定される。

器種

本遺跡での出土遺物は石核・剥片類が主体で、碎片類は少量といえよう。さらに定型的な石器は僅かで後述する黒曜石製のナイフ形石器と若干のスクレイパー類がみられる程度であった。このため、ここでは石核・剥片等を中心にその概要を簡単に記載しておく。

石核 母岩には円礫、扁平円礫を使用している。大きさは拳大か、それよりも若干小さなものを選択しているようである。Eブロックの原材は特に大形といえよう。円礫は半割あるいは分割して石核としているものが多く、小形の礫では分割せずに直接打面部作出し、剥片剥離をおこなっているものもある。また、打面部を作出するときに排された厚手の剥片も石核として利用されたような痕跡も認められた。剥離の方法についてみると、一定の方向から規則的に行ったものはほとんど認められず、打面を転移して多方向からの剥片剥離が一般的であった。

剥片類 剥片は一部に自然面を残すものがほとんどである。このことから母岩はさほど大きなものではないことが推測できる。しかも打面の転移による剥片剥離は形状にばらつきが生じ、形状の整った剥片の剥離はわずかしい。本遺跡出土の剥片でもこの傾向を強く看取できる。形状では横長タイプや不整形の剥片が多いことでも理解できよう。

ナイフ形石器（第75図82・83 図版49） Cブロックでは2点のナイフ形石器が出土しているが、石質から判断して信州産の黒曜石を使用しているものと思われた。しかし、本遺跡では同質の黒曜石は僅少で剥片剥離あるいは石器製作がおこなわれていたとは考えにくい状況である。このことから2点の製品は、製品として本地点に持ちこまれた可能性が高いものと考えられた。また実際に石器製作を行ったと思われる集中箇所から離れた位置で出土していることもそのことの裏付けとなろう。

削器（第64図41 図版38） Bブロックで出土したもので、石材はチャートとなる。厚い縦長剥片の上下に簡単な整形剥離を加えたものであり、削器としてよいであろう。左右の刃部は小さな調整剥離を施すだ

けである。

播器（第64図46 図版38） 本資料もBブロックから出土したもので、石材は珪質粘板岩である。その形状から横長剥片の打面部を削除し、主剥離面から整形を兼ねて刃部を作出している。一応、播器と呼べるものとなろう。

第14表 旧石器石材別重量表

ブロック 石材	Aブロック		Bブロック		Cブロック		Dブロック		Eブロック		計	
	個数	重量g	個数	重量g	個数	重量g	個数	重量g	個数	重量g	総個数	総重量g
安山岩（普通）	82	690.9	81	448.8	133	665.8	120	250.8	139	2433.9	555	4490.2
安山岩（硬質）	4	45.8	49	305.2	77	1214.8	7	77.9			137	1643.7
チャート	8	64.1	42	298.6	45	536.8	22	206.4	19	896.9	136	2002.8
黒曜石			7	11.7	60	187.7					67	199.4
硬砂岩			5	63.3	1	0.4					6	63.7
その他の砂岩											0	0.0
凝灰岩	9	194.4	6	427.2							15	621.6
メノウ	7	63.8	7	36.1	5	80.7	1	2.7			20	183.3
頁岩	1	0.8	1	10.7	5	10.5	2	8.2	1	41.9	10	72.1
流紋岩			6	185.9	7	20.0					13	205.9
玄武岩							2	136.4			2	136.4
珪質粘板岩	1	31.4	2	9.9	2	22.8			4	85.1	9	149.2
花崗岩			1	137.8							1	137.8
不明			1	7.0							1	7.0
(外) 黒曜石					2	7.6					2	7.6
計	112	1091.2	208	1942.2	337	2747.1	154	682.4	163	3457.8	974	9920.7

2) 各ブロックの石器

各ブロックでの資料の配列は石材別とし、石核類・剥片類・製品の順に図示した。石器製作の手順として剥離状態を先に示し、剥離された剥片の形状を呈示した。とりわけ本遺跡出土資料場合、剥離された剥片と、その剥片に折断等の加工を施し石器素材にしていることが観察されるため、剥片類も剥片・素材剥片の順に図示してみた。

Aブロック出土石器（第54～59図 第15・24表 図版28～33）

本ブロックは3C-19グリッドに集中し、東西約22m、南北約15mの範囲に石器が検出されており、合計112点を数えた。石材についてみると、安山岩・チャート・メノウ・凝灰岩で構成されており、量的には安山岩が卓越した出土量を示す。

1～25は安山岩の資料である。石核類はやや小ぶりの円礫を素材にしている。安山岩は普通輝石安山岩が多く、硬質の安山岩は少ない。円礫をそのまま核部として用いたもの、あるいは円礫を分割して核部にしたものが想定される。剥離は多方向（1～5）から行われている。また厚みのある大形の剥片は、さらに石核として用いたものもみられる（6～10）。剥片は縦長のものもみられるが、石核の形状から小形となる。概して横長の剥片が主であり、12・13などは良好な資料である。

接合資料は、1～8・24・25である。1は4点が接合した。裏面は円礫のまま、打面は形成されてい

ない。2は2点が接合したものである。石核となっている3C19-7は裏面が主剥離面となっていることから円礫の中心部に近いものと考えられる。打面には設定の際のきれいな剥離痕が形成されている。3も2点の接合である。両面には多方向からの剥離面を残す。4も2点の接合で、剥片は横長である。石核の裏面は主剥離面で、剥片を剥取ったような痕跡は認められない。5は3点が接合したもので、打面調整は認められない。6は5点の接合で、いずれも剥片である。厚みのある大形の剥片から、さらに剥片剥取を試みたものであろう。裏面では自然面を残している。7・8は石質等から6と同一の母岩から剥離されたものと考えられた。7は剥片のみ3点の接合資料である。厚みのある大形の剥片を素材としたもので、小剥片を剥離した後、中央部を意識的に折断したものであろう。8は2点が接合したもので、その剥片は石器素材として十分な形状を有するものである。24・25は剥片・砕片が接合したもので、石質・色調から同一母岩の可能性が高い。9～23は剥片となろう。9は石核の一部とも思われる。10・11では礫表面を多く残す。12～23は剥片である。石器の素材にできるような剥片を選択したが、いずれも使用痕等は観察できなかった。

以上が安山岩を石材に用いた石器群であるが、2は硬質タイプとなる。

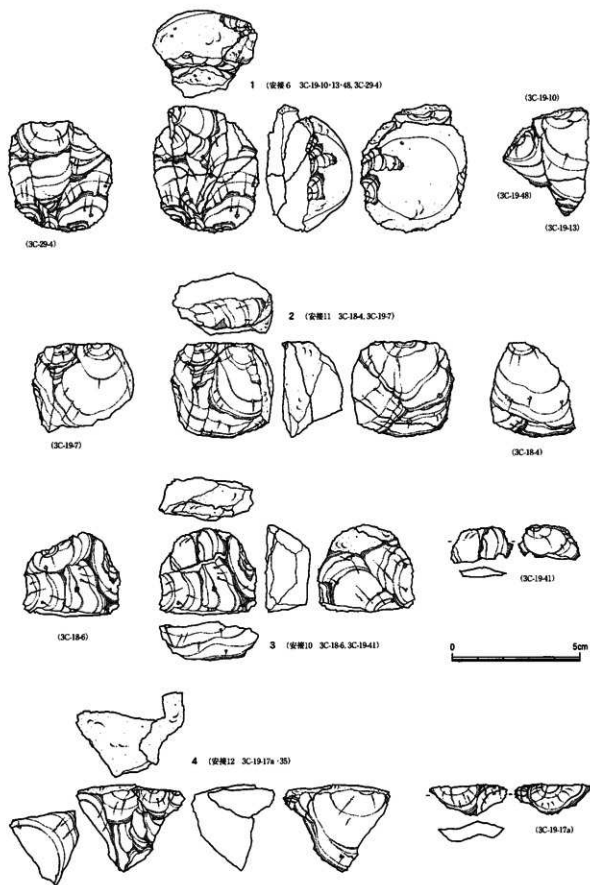
26～30はチャートの剥片で、その形状は様々である。27では右側縁に若干の調整剥離が施されている。30は表裏面での剥離から残核とも思われる。

31～34はメノウ製の剥片で、32～34は接合資料となる。31は十分な形状を呈した剥片にもかかわらず明確な加工は施されていない。ただ側縁部は刃こぼれ状の痕跡が認められるため使用された可能性は否定できない。32は自然面を残す2点が接合した例である。33も大形の剥片であり、剥離痕からは上下二方向からの加撃を確認できる。34は小剥片の接合例であり、使用痕等は認められない。

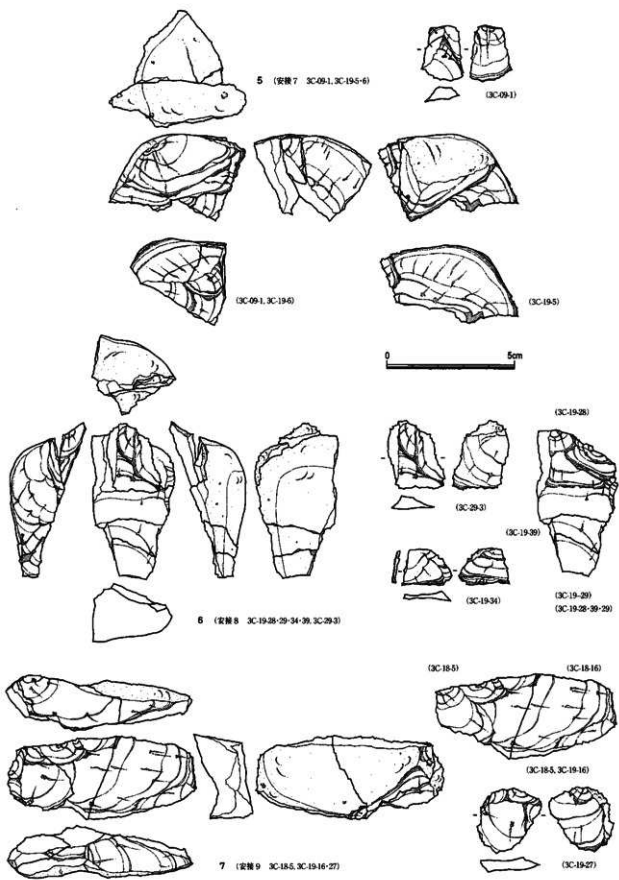
35～38は凝灰岩製の剥片である。35は3点が接合したものである。分厚い剥片を、主剥離面からさらに分割し、加撃部には二次剥離が認められる。36は整った縦長剥片で右側縁には微細な剥離痕が認められる。石器として使用されたものであろう。37は下端部に数回の剥離を施しており、石器製作の意図が窺われる資料となろう。38も縦長に剥離されたきれいな剥片であるが、使用の痕跡は認められない。

第15表 旧石器組成表 (Aブロック)

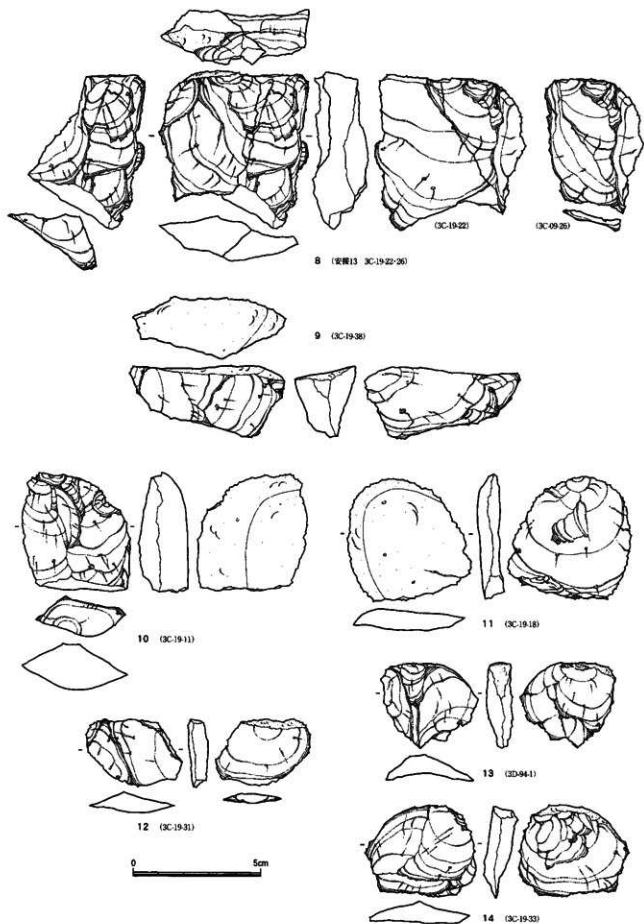
器種	石核		剥片		剥片(素材) 砕片		石器			RF		UF		礫		計	合計		
	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱					
安山岩 (普通)	6	36	5	1	26	8										69	13	82	
安山岩 (硬質)	1	1			2											4	0	4	
チャート	1	1	4	1	1											4	4	8	
黒曜石																0	0	0	
硬砂岩																0	0	0	
その他の砂岩																0	0	0	
凝灰岩	1	6	1			1										7	2	9	
メノウ	1	6														7	0	7	
頁岩		1														1	0	1	
流紋岩																0	0	0	
玄武岩																0	0	0	
珪質粘板岩		1														1	0	1	
花崗岩																0	0	0	
不明																0	0	0	
計	10	0	52	10	2	0	29	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	93	19
合計	10		62		2		38		0	0	0	0	0	0	0	112		112	



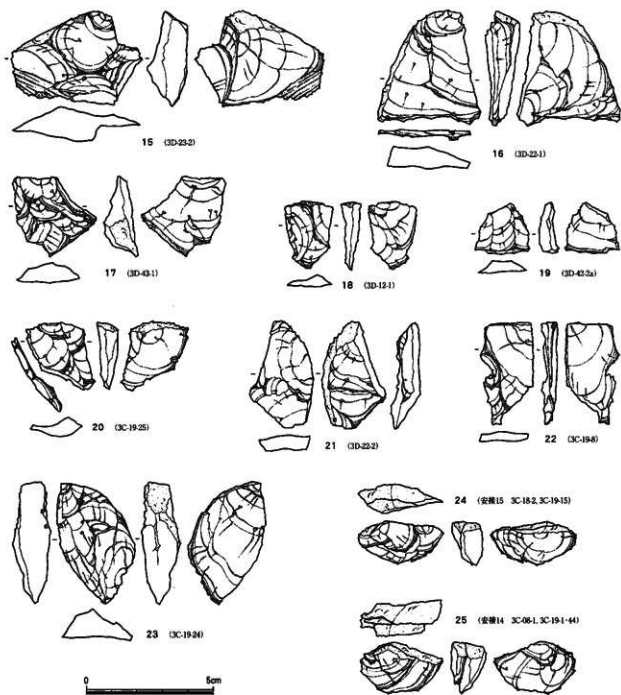
第54図 Aブロック出土石器(1) 安山岩(2/3)



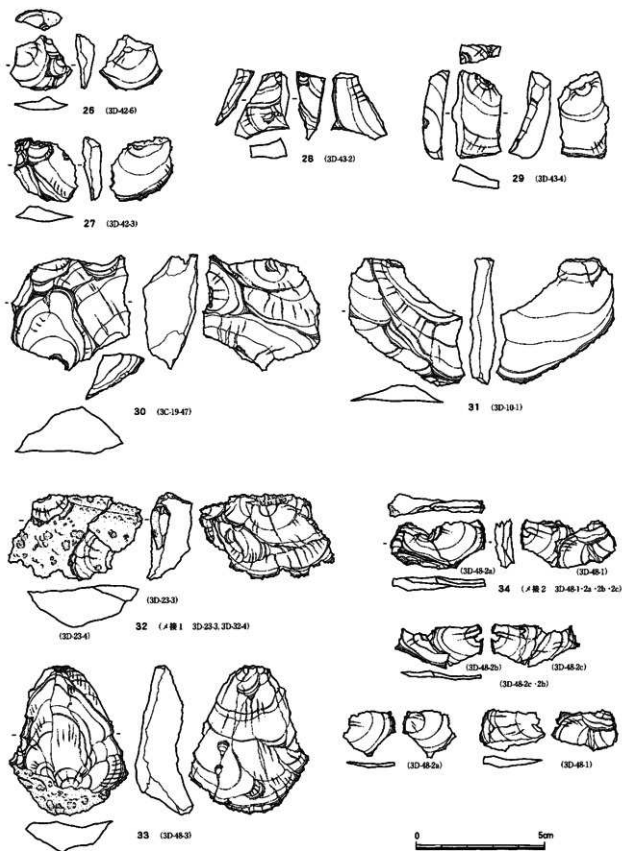
第55図 Aブロック出土石器(2) 安山岩(2/3)



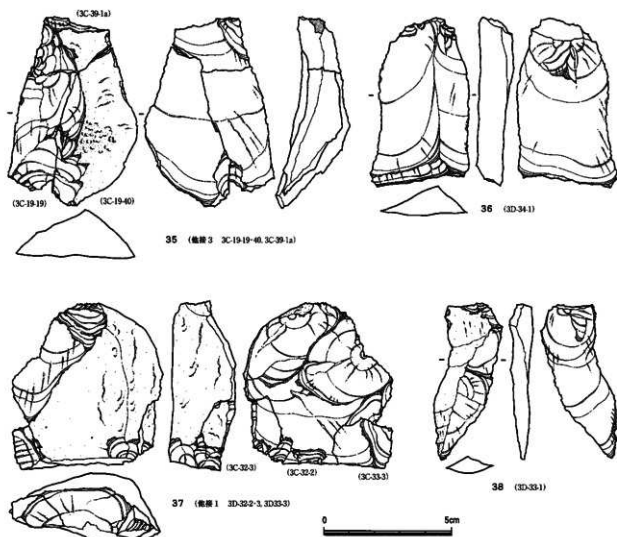
第56図 Aブロック出土石器(3) 安山岩(2/3)



第57図 Aブロック出土石器(4) 安山岩(2/3)



第58図 Aブロック出土石器(5) チャート・メノウ他(2/3)



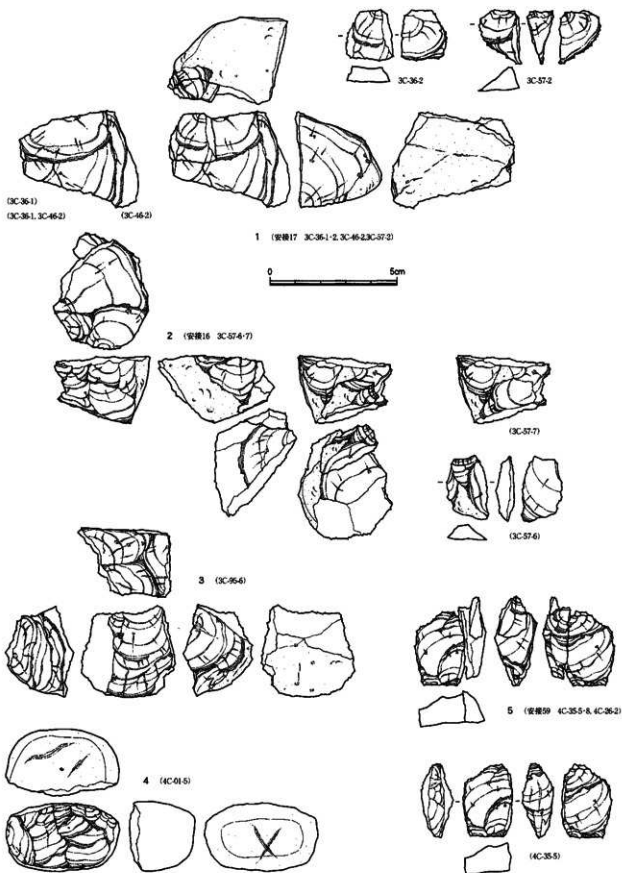
第59図 Aブロック出土石器(6) 凝灰岩他(2/3)

Bブロック出土石器 (第60~65図 第16・24表 図版34~39)

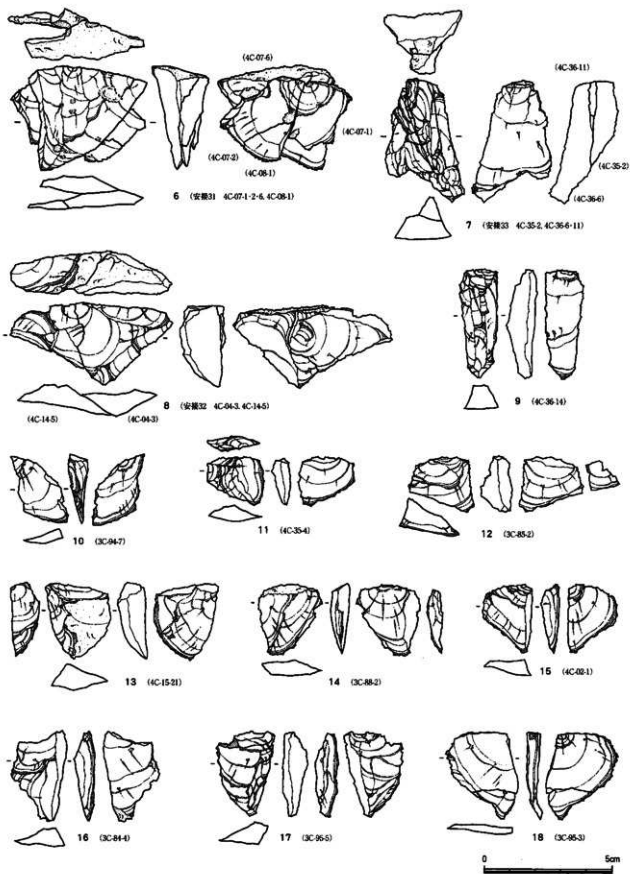
本ブロックは4C-14・15・25・35・36グリッドに石器が集中し、他に、4C-01・3C-58付近にも集中が検出された。北東から南西方向の楕円形の範囲で、規模は24m×14m、合計208点を数えた。石材についてみると、安山岩・チャート・硅質粘板岩・メノウ・頁岩・凝灰岩で構成されており、ここでも安山岩が主体を占める。

1~40は安山岩製であり、普通と硬質の2種類がみられる。整理の過程において接合関係が少なからず認められた。1・2・5~8・19~21・31・35などが該当する。

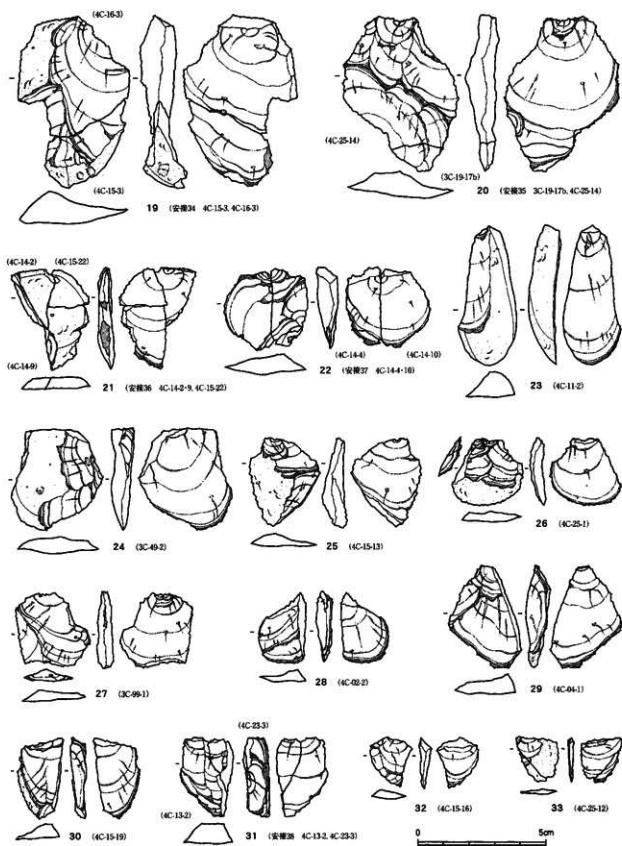
1~3は、石核に剥片が接合した例である。いずれの石核にも打面調整が認められ、接合した剥片は小形片であるところから残核となろう。4では接合関係は認められなかったが、扁平礫の平坦部を打面として一方からきれいに剥離している。40も平坦な打面を設定し、周囲から剥片剥離をおこなっている。打面調整は認められない。



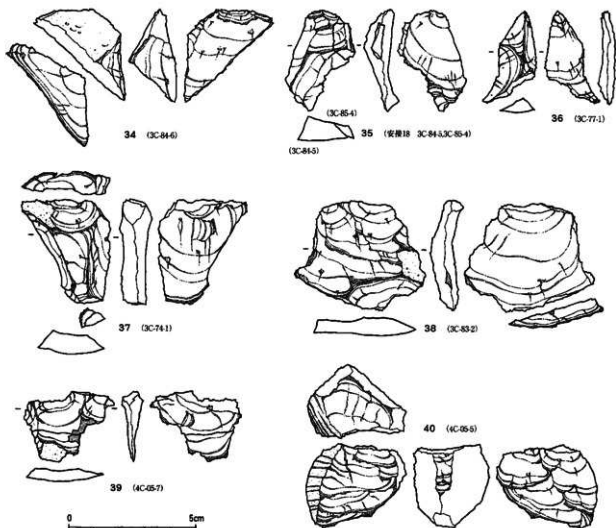
第60図 Bブロック出土石器(1) 安山岩(2/3)



第61図 Bブロック出土石器(2) 安山岩(2/3)



第62図 Bブロック出土石器(3) 安山岩(2/3)

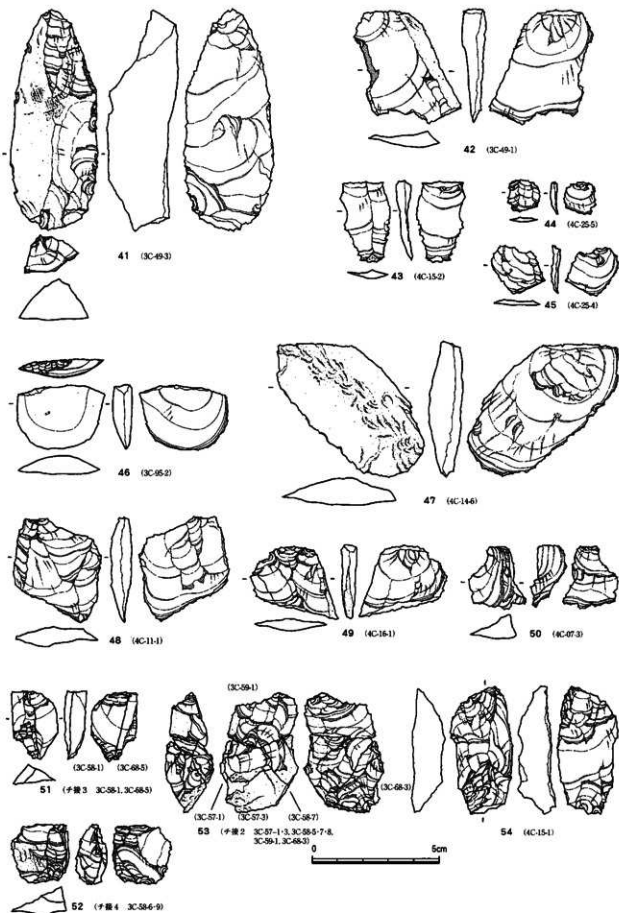


第63図 Bブロック出土石器(4) 安山岩(2/3)

5～8は剥片間の接合例である。いずれも分厚い剥片を採用しており、5の例では上下に大きな剥離が認められるため楔状の石器として利用したとも考えられる。6～8でも良好な大形剥片が得られているが、明確な石器は生産されていないようである。19～22・31・35・39でも接合関係が認められた。19・20の例なども大形剥片であり、石器の素材としては十分な形状を有しているものの加工痕等は認められない。21は3点が接合したもので、縦長剥片を二分割している。また22は縦方向に分割しており、石器製作の意図が窺われる。

その他は石器製作が可能と思われる剥片を選択して図示したが、全体をとおしてみると良好な剥片と呼称できるものは少ない。9・23などはきれいな縦長剥片といえようが使用の痕跡は認められない。16・18・30なども打点部が認められないため、縦長剥片を折断したものであろう。34などは、その形状から横長剥片を折断したと思われる。側縁には刃こぼれ状の痕跡を残すため石器として使用したと思われる。だが、これらの剥片類及び図示できなかった碎片等の大半では使用の痕跡が認められなかった。

以上が安山岩を石材に用いた石器群であるが、1・2・5～8・16～18・34～38は硬質タイプとなる。他は輝石安山岩となる。



第64図 Bブロック出土石器(5) チャート他(2/3)

41~45・48~54はチャート製である。51~53では接合関係が認められた。51は2点が接合したもので、一部に整形のための剥離がみられる小形剥片である。52でも同様な剥離が認められる。53は合計7点の接合となった。分割後の整形剥離も施されており楔などの石器に用いる意図があったものとも考えられる。54も上下に整形のための剥離が確認できる。特に上端では両面から剥離されており、楔の類としての使用を想起させる。また、42・48なども石器素材としては十分な大きさを有しているが、使用された痕跡は認められない。なお、43~45は接合することはなかったものの色彩・石質の点から同一母岩から剥取されたものと考えられた。50は赤色チャートで、特徴のある石材といえる。ブロックC・Dにおいても検出されたが、同一母岩から剥離されたものと思われるが、積極的に肯定できるまでには至らなかった。

46・47・64は珪質粘板岩製である。46の表面は自然面となる。前述したように上部はきれいに整形され丁寧な調整が施されている。47の表面も自然面で覆われている。縦長に近い剥片であり、石器の素材としては最適な剥片といえよう。64は断面三角の小剥片である。

55~58は流紋岩である。55は接合資料で、3点が接合した。剥片剥離の状況から石核への接合としてよいであろう。石核部分は平坦な打面を設定し、その周囲を順序よく剥離している。また、接点は認められなかったが、56~58に示した剥片は色彩・石質といった点から本石核から剥離されたものと考えられた。

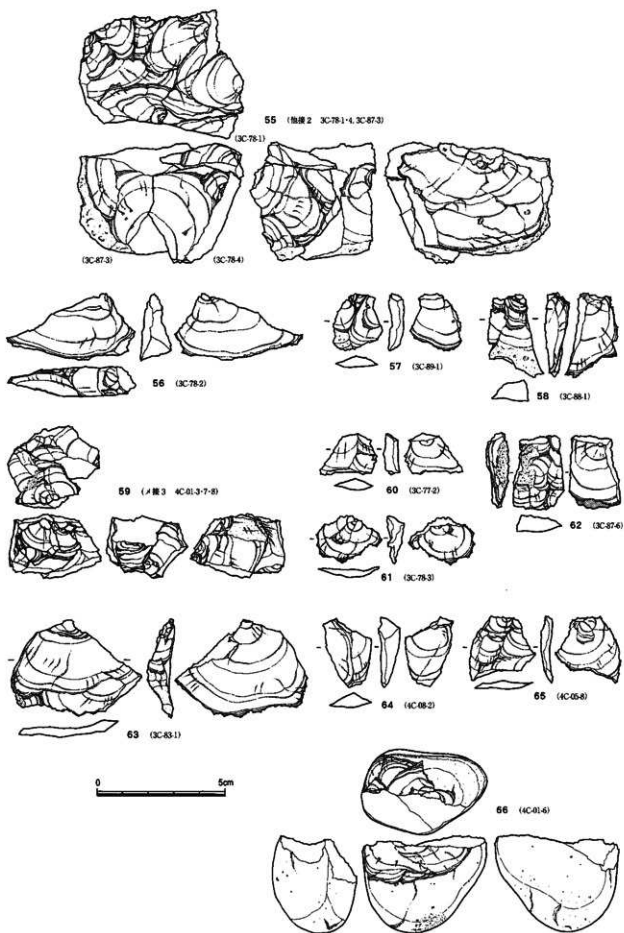
59~62はメノウの資料である。59は接合資料で、3点が接合した。残核と考えてよかろう。平坦部を打面として剥片剥離後、剥離によってできた平坦な面を打点部として利用している。いわゆる打面転移をおこなっている剥片を剥離している。他の3点については同一母岩から剥離された剥片かどうかは判断できなかった。

63は頁岩製の横長剥片で打点部は削除されている。使用痕等は認められないが十分な大きさを有する良好な剥片といえよう。

65・66は凝灰岩製である。65は剥片で使用された痕跡は認められない。66は石核を意図したものであろう。円礫を二分し、平坦な面を打面とし数回の剥離を試みている。結果的には石核として不適であり途中で放棄されたものといえよう。

第16表 旧石器組成表 (Bブロック)

器種	石核		剥片				剥片(素材)		砕片		石器		RF		UF		礫		計	合計	
	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱			
石材																					
安山岩(普通)	1	2	32	5	9		26	6											68	13	81
安山岩(硬質)		2	19	7	1		18	2											38	11	49
チャート	1	1	17			6	14		1								1	1	40	2	42
黒曜石			3				4												7	0	7
硬砂岩			2				1										1	1	4	1	5
その他の砂岩																			0	0	0
凝灰岩		2	1				1										2	2	4	4	6
メノウ	2		3		1		1												7	0	7
頁岩					1														0	1	1
流紋岩		2		3	1														1	5	6
玄武岩																			0	0	0
珪質粘板岩			1	1															1	1	2
花崗岩																		1	0	1	1
不明			1																1	0	1
計	4	9	79	17	18	0	65	8	1	0	0	0	0	0	0	0	2	5	169	39	
合計	13		96		18		73		1		0			0			7		208		208



第65図 Bブロック出土石器(6) 流紋岩・メノウ他(2/3)

Cブロック出土石器 (第66~78図 第17・24表 図版40~52)

本ブロックは3D-64、4D-05、4D-21、4D-42、4D-64グリッド付近に各々集結があり、これらの間に楕円形を描いて石器が出土している。長径約21.5m、短径約16mの範囲で石器群が分布しており、合計337点を数えた。石材についてみると、安山岩・チャート・珪質粘板岩・メノウ・頁岩・凝灰岩で構成されており、ここでも安山岩が主体を占める。なお安山岩の石質・形状についてみると、硬質のものが多く、拳大かそれよりも若干大きい礫を素材にしている。1・4・7・12の器面では著しい風化がみられた。また本ブロックでは出土点数も77点と多く、接合資料も多数にわたって認められた。剥片類についていえば、やや大形のものもみられ、横長タイプが多い。

1~59は安山岩を石材とした石器群で、1・8・11・12・16・23・26・49・51・52・54・55・59は接合した資料となる。

1~4は石核に接合した例で、1から剥取された剥片は石器素材として十分利用できる大きさである。石核は自然面を多く残しており、平坦面を打面とし多くの剥片を剥取している。2は3点が接合した例であり、うち1点は横長のきれいな剥片(4D-64-11)が得られている。ここでも平坦な自然面をうまく打面としている。円礫を分割して、石核とし、残核の4D-64-17は、自然面および剥片の接合面を打面として、周縁からの剥離が観察される。3は4点の剥片が接合したもので、接合資料を観察すると、初期の段階で剥離された大きな剥片を石核に見立てさらに剥片剥離作業をしてみたものと考えられる。4は色調・石質等から3と同一の母岩と思われた。しかし接点を確認できなかったため分離して図示した。接合した状態を観察すると終末段階の残核を処理したという形状を呈している。これらの石核から剥離された剥片は、形状の整ったものが存在するにもかかわらず石器までの加工には至っていない。なお、3・4の接合資料を合わせて観察すると、母岩となった礫はかなりの大きさ有していたものと思われる。

5・6・7・8・11・12・16は複数の剥片が接合したものであり、6~7点も接合例(5・6)が確認されているが、原形を把握するまでには至らなかった。5は6点が接合したもので、小剥片とともに十分石器素材として利用できる剥片もみられる。大形の剥片を石核として打割が行われ、最終の石核部は、4D-43-12である。6は7点が接合しており、打面調整剥片も認められる。剥離面では筋状の斑文が入る特徴が観察できた。7は折断された大形剥片に小剥片が接合したものである。折断は意識的なものとなろうが、使用痕等は認められなかった。8は3点が接合したもので、剥離面の観察から多方向より加撃されていることが確認できる。他に図示した剥片(9・10)は8と同一の母岩から剥取されたものである。11は2点の接合であり、形状は8に近似する。本資料の打面も自然面となっている。12は剥片5点が接合したもので、石器素材としては十分な剥片が得られている。一部には自然面もみられるが、かなり大きな礫を母岩に採用したことが理解できる。12の接合状態を観察すると、打面は大きく平坦に剥離された面となっている。13~15の剥片はその石質・色彩から12と同一母岩と思われる。16は3点が接合したもので、剥離の順序から4D-42-29は打面調整剥片となろう。

23・26・49・51・54・55・59も一応接合資料といえる。23・26・49・51の例では意識的な折断と見なされよう。しかし石器として明確に使用されたと考えられるものは存在しない。54・55・59は剥片間の接合である。

その他の剥片は、石器素材としての形状を有するものを主体に図示したものである。これらの中には礫面、いわゆる自然面を伴う剥片(19・22)も若干存在した。しかし出土した資料からみると石器素材とし

ての剥片は、礫のより中心部から剥離した剥片が好まれたようである

以上が安山岩を石材に用いた石器群であるが、1・7・9・11・14・16・17・19・24・26・27・30・33・35・43・45・48・52・52は硬質タイプとなる。他は輝石安山岩となる。

60～83は黒曜石製である。出土品の大半は剥片であったが、剥片間の接合が多く認められた。製品としての石器では2点のナイフ形石器が出土しており、使用されている石質に差異が認められた。出土層位についてみると、VI層で、他の黒曜石の主な出土層位であるⅧa層よりはやや上層である。また剥片の中には若干ではあるが、小さな二次剥離を有するものもあり搔器あるいは削器のような石器として使用されたものもある。

60～62・65・67・70・71・77・81は接合資料である。いずれも剥片であり、3～4点が接合する例も認められた。ただ石核等に認定できるものが皆無であったことは、本ブロックでの特徴といえよう。また接合剥片の中には明確に折断されたもの(61・62・71・81)もみられる。61の剥片は3分割されているが、側縁部には微細な調整痕が認められる。62の例(4D-05-3)では表面右上に二次剥離が加えられている。なお、接合資料65・67・70・71は色彩・石質等で同一の母岩から剥離されたものと思われるが接合までには至らなかった。

77は小形剥片の接合で石質についてみると、透明度を保有し黒い筋状の斑紋がみられる。良質の石材といえよう。この点、後述する2点のナイフ形石器と共通している。

その他は単体の剥片である。総じて小形で、横長の剥片が主となる。これらの中にも折断されたもの(69・80)が存在し、石器製作の意識が窺われる。66の剥片では下端部に微細な調整痕が認められるところから石器として使用された可能性が高い。

82・83はナイフ形石器で、いずれも完形品となる。82はきれいな石刃を素材としており、右側面での加工は先端部にまで及ぶ。基部左側面でも丁寧な加工が施されている。83は小形品でやや作りは粗雑となる。背面加工は右側にみられる。表面剥離痕の観察から小形の縦長剥片を利用したものと思われた。ともに主剥離面での加工は認められない。しかし、82のタイプは特徴的なナイフ形石器であり、本ブロック群が営まれた時期を示唆するものとなろう。

84～103の石材はチャートである。84・89・91・95・98は接合状態を図示したものである。これらの表面は風化による変色が認められ、個体識別が比較的容易であった。剥片の形状は大小様々であり、ここでも意識的な折断が数点の剥片でみられた。

84は大形剥片5点が接合したものである。いずれも同一方向から剥離されており、剥片の大きさから母岩となった礫の大きさは14～15cm程度と推測できる。なお、85～88は石質等から同一母岩から剥離されたものと思われたが、使用痕・二次剥離等は認められなかった。色調は黄褐色の地に斑状に青灰色部分、灰白色部分が観察できる。質的には良質とはいえない石材であった。89～94も同一母岩から剥離された剥片と思われた。89は分厚い剥片で、折断後に若干の整形が施されている。石器として使用された可能性を指摘できる。色調は暗灰色で、剥離面ではやや光沢を帯びる。他の剥片では使用の痕跡等は認められなかった。95～97の3点も同一母岩から剥離されたものである。色彩は灰色で、表面には光沢が認められた。95の例では、折断後に剥離している。98～100も同一母岩と思われた。色調は自然面が灰白色で、中心部は褐色に変化する。98の接合例でも折断後の整形剥離が認められる。石器としての加工を放棄したものかもしれない。101～103も同一母岩で、いわゆる赤色チャートと呼称できるものである。

101などは石器素材として十分な形状を有している。

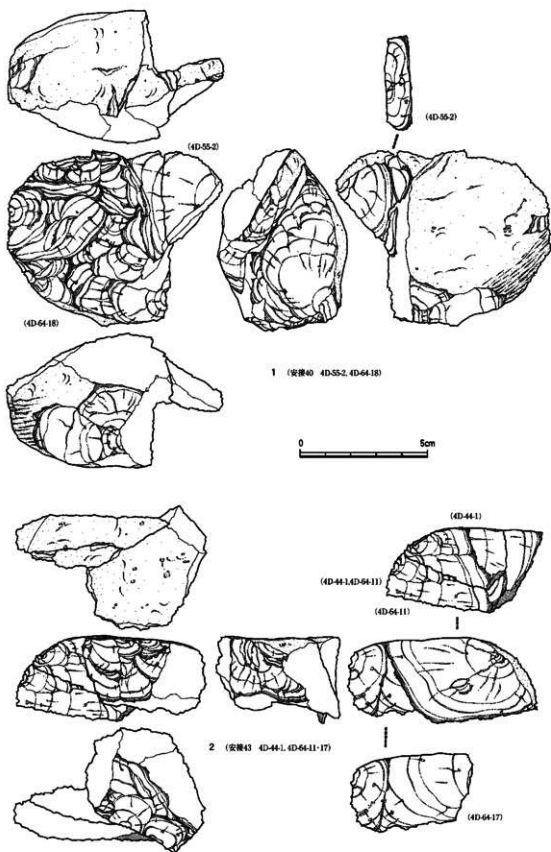
104～107は頁岩質の石材を用いた剥片である。104は縦方向に折断された剥片で、左側面では調整が施されている。107は大形剥片で、自然面の部分では被熱による変色が認められる。

108～112はメノウの資料である。108・109は接合はしないが石質・色彩から同一母岩からの剥取と思われる。褐色と黄褐色の縞状の模様が特徴的であった。110～112も同一母岩と思われた。色調は淡黄褐色で、透明感がある。Bブロックのメノウ59とも同材と考えられた。いずれにも明確な加工痕は認められない。

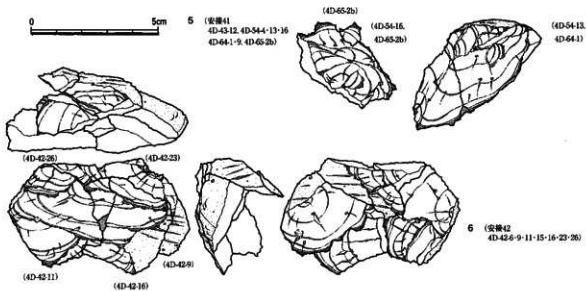
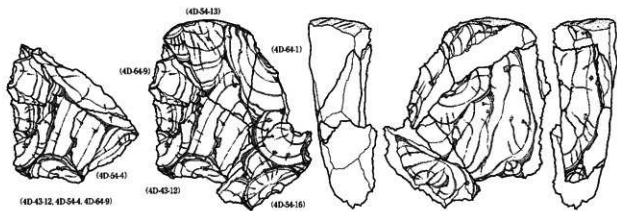
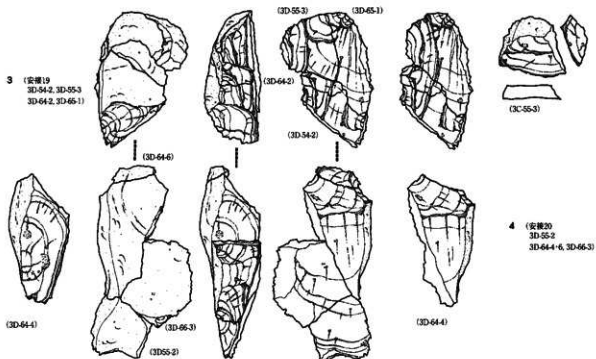
113～117は流紋岩製で小形の剥片といえよう。113は2点の剥片が接合したものである。114・115は縦長の剥片となるが、打点部が削除されている。いずれも加工痕等はみられない。116・117は接合はしないが、色調などから同一母岩から剥取されたものと思われた。

第17表 旧石器組成表 (Cブロック)

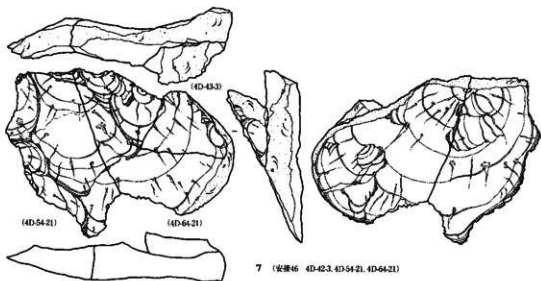
器種	石核		剥片		剥片(素材)		砕片		石器		RF		UF		礫		計		合計		
		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱	
石材																					
安山岩 (普通)	2		46	11	9		51	14											108	25	133
安山岩 (硬質)	7		49	1	12		8												76	1	77
チャート	5		27		6		7												45	0	45
黒曜石			21	1	8		14		2		2		12						59	1	60
硬砂岩							1												1	0	1
その他の砂岩																			0	0	0
凝灰岩																			0	0	0
メノウ			4		1														5	0	5
頁岩					2		2						1						5	0	5
流紋岩			5		1		1												7	0	7
玄武岩																			0	0	0
硅質粘板岩			2																2	0	2
花崗岩																			0	0	0
不明																			0	0	0
(外) 黒曜石								2											2	0	2
計	14	0	154	13	39	0	84	14	4	0	2	0	13	0	0	0	0	310	27		
合計	14		167		39		98		4		2		13		0			337		337	



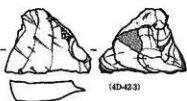
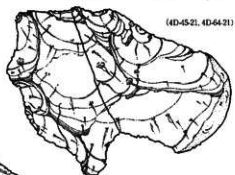
第66図 Cブロック出土石器(1) 安山岩接合資料(2/3)



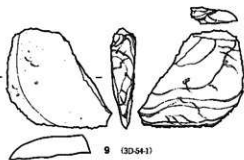
第67図 Cブロック出土石器(2) 安山岩接合資料(2/3)



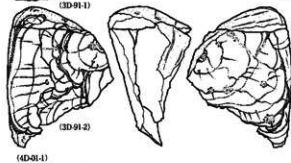
7 (安徳46 4D-42-3, 4D-54-21, 4D-64-21)



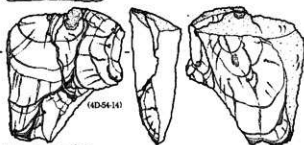
8 (安徳21 3D-91-1, 2, 4D-01-1)



9 (3D-54-1)



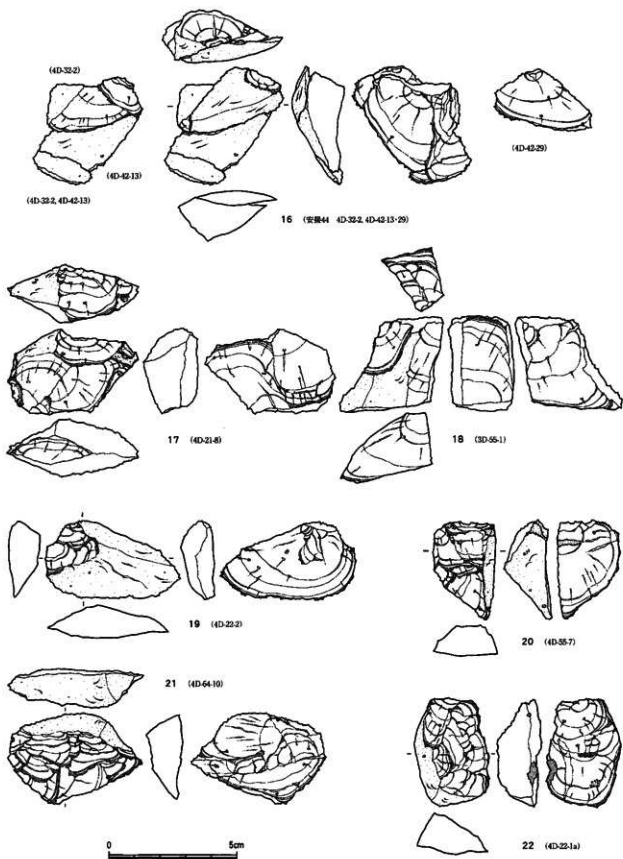
10 (3D-64-1)



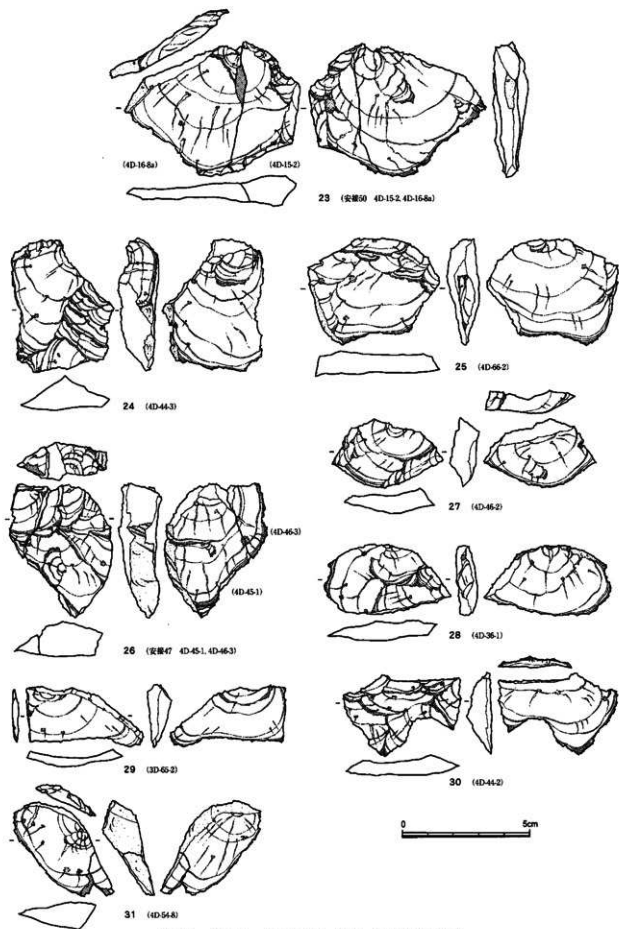
11 (安徳46 4D-43-7, 4D-54-14)



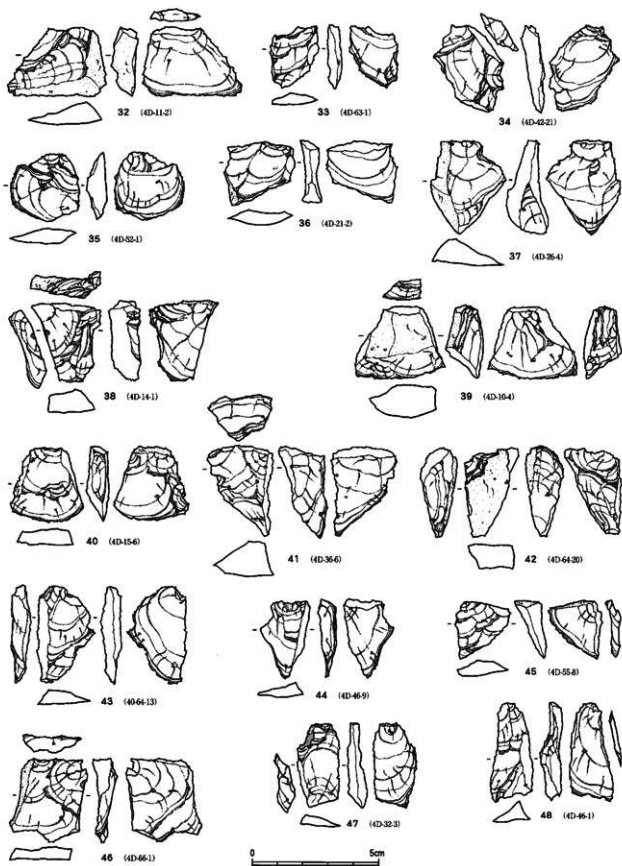
第68図 Cブロック出土石器(3) 安山岩(2/3)



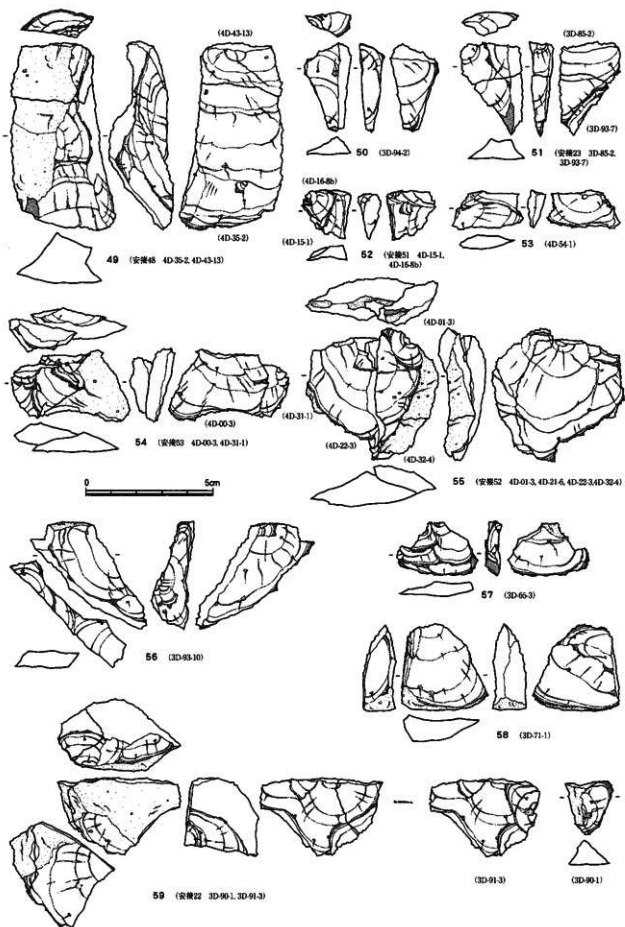
第70図 Cブロック出土石器(5) 安山岩(2/3)



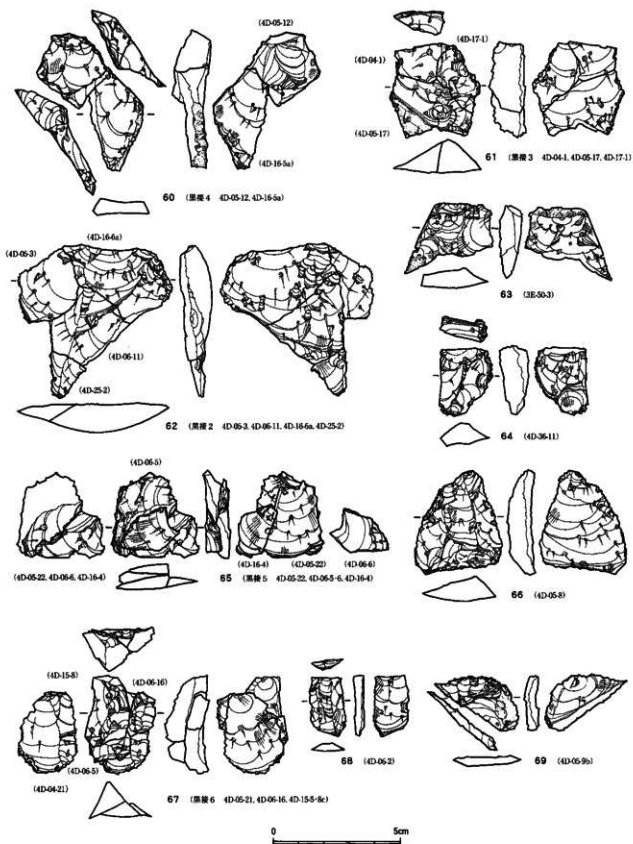
第71図 Cブロック出土石器(6) 安山岩(2/3)



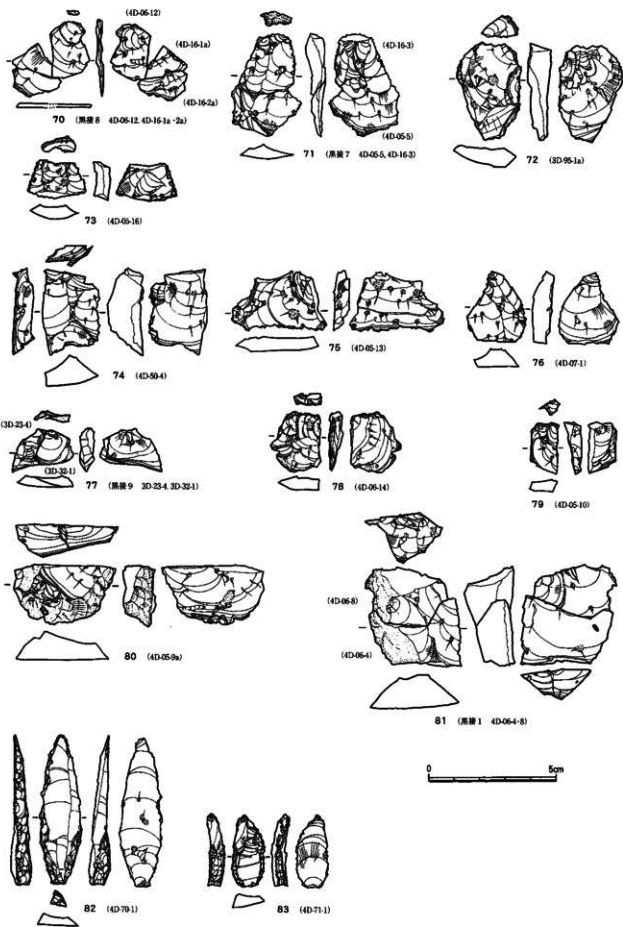
第72図 Cブロック出土石器(7) 安山岩(2/3)



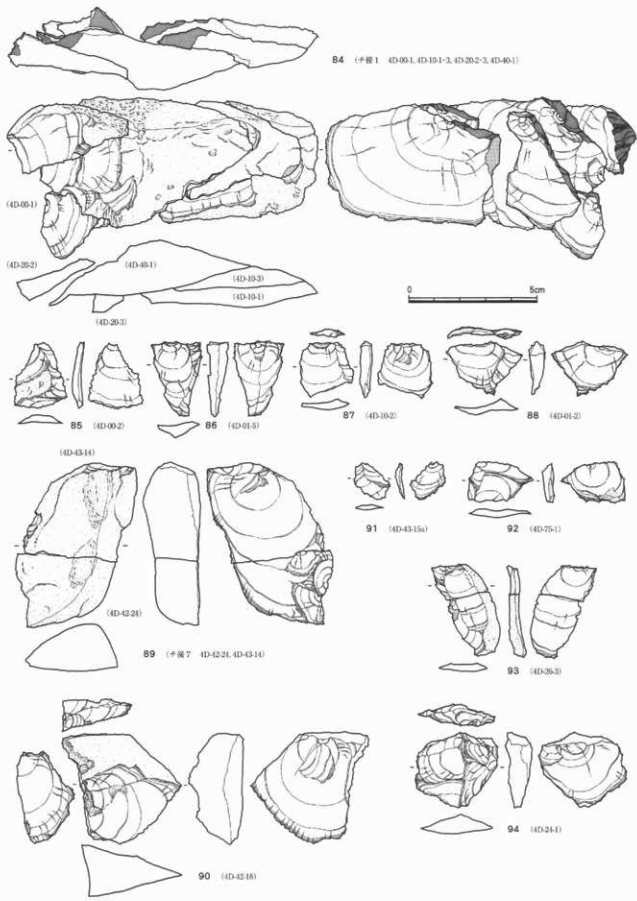
第73図 Cブロック出土石器(8) 安山岩(2/3)



第74図 Cブロック出土石器(9) 黒曜石(2/3)



第75図 Cブロック出土石器 (10) 黒曜石 (2/3)



84 (4D-00-1, 4D-10-1-3, 4D-20-2-3, 4D-40-1)

(4D-00-1)

(4D-20-2)

(4D-40-1)

(4D-10-3)

(4D-10-1)

(4D-20-3)

0 5cm

(4D-43-10)

(4D-42-21)

89 (4D-43-10, 4D-42-21, 4D-43-11)

91 (4D-43-13a)

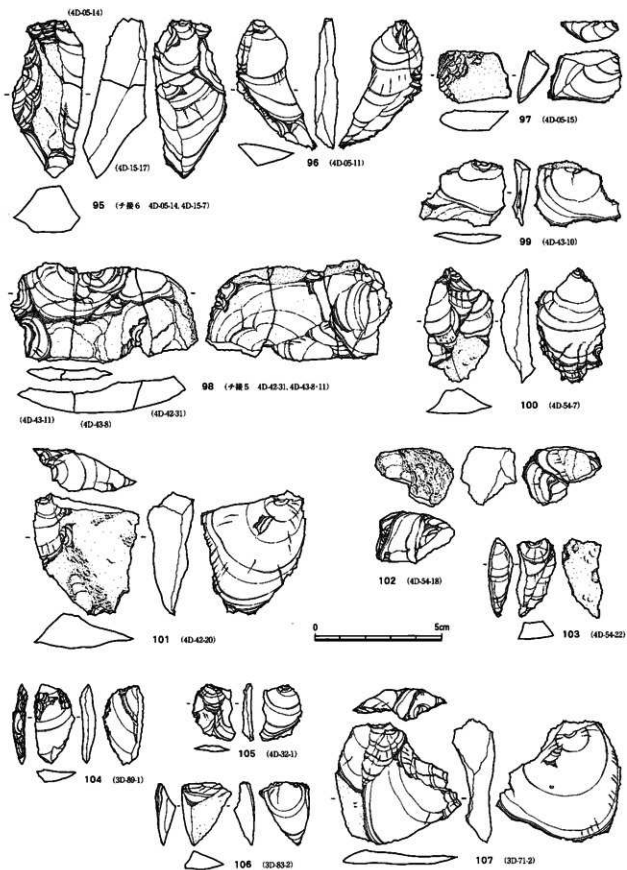
92 (4D-75-1)

93 (4D-26-3)

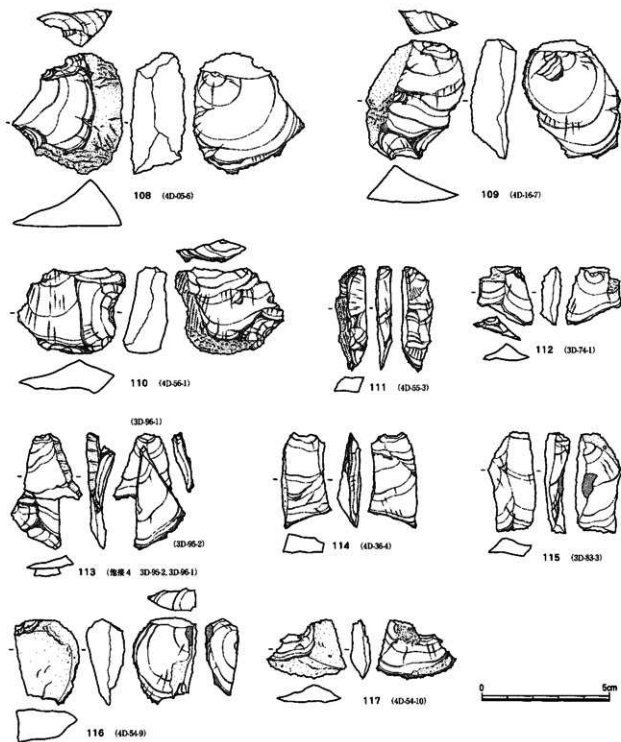
90 (4D-42-18)

94 (4D-24-1)

第76図 Cブロック出土石器 (11) チャート (2/3)



第77図 Cブロック出土石器(12) チャート・頁岩(2/3)



第78図 Cブロック出土石器 (13) メノウ・流紋岩他 (2/3)

Dブロック出土石器 (第79～82図 第18・34表 図版53～56)

本ブロックは3E-40・3E-60・61グリッドに集中しており、径約10mの比較的小範囲の分布で、合計154点が出土した。石材は安山岩・チャート・頁岩の3種によって構成されている。ここでも安山岩が卓越し大形剥片間での接合関係が認められた。なお頁岩は量的には少ない。

1～21の石材は安山岩である。ただ石核・残核の類は出土していない。1～5は大形の剥片が接合した例であり、17・20・21は小剥片の接合資料となる。

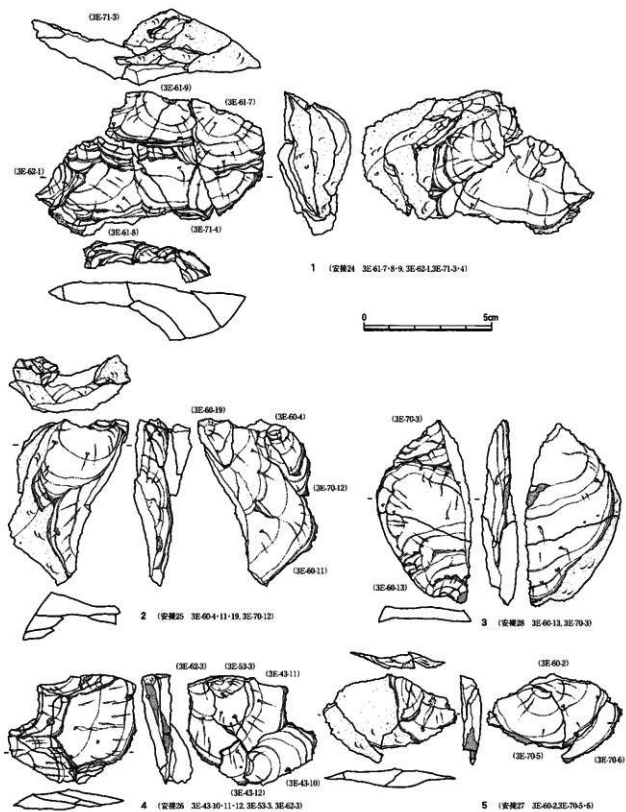
1は6点の剥片が接合したものである。円礫を分割した素材で、剥片の形状からかなり大きな母岩が想定される。剥片の形状は一定してはいないが、概して横長の剥片が多い。石核となった原石の形状によるものと思われる。現状での最初の剥離剥片は3E-61-7で、最後の剥片は3E-71-3である。石核部は残っていない。2は4点の接合であり、小剥片が3点となる。大形剥片の表面には大きな自然面が認められる。また側面の観察から折断したものとも思われた。3は2点が接合したもので、分厚いきれいな大形剥片となる。二次加工は認められないが、折断されており石器の素材としては良好な形状を有している。4では3点の接合が認められた。薄い剥片がきれいに剥離されている。一部に被熱の痕跡が認められた。5は3点が接合しており、右の折断剥片では折断後の剥離を認めることができる。17・20・21は小剥片の接合で、17・21は折断されたものであろう。

その他は石器として加工できる程度の形状を有する剥片を抽出して図示したが、明確に加工されているものは皆無であった。

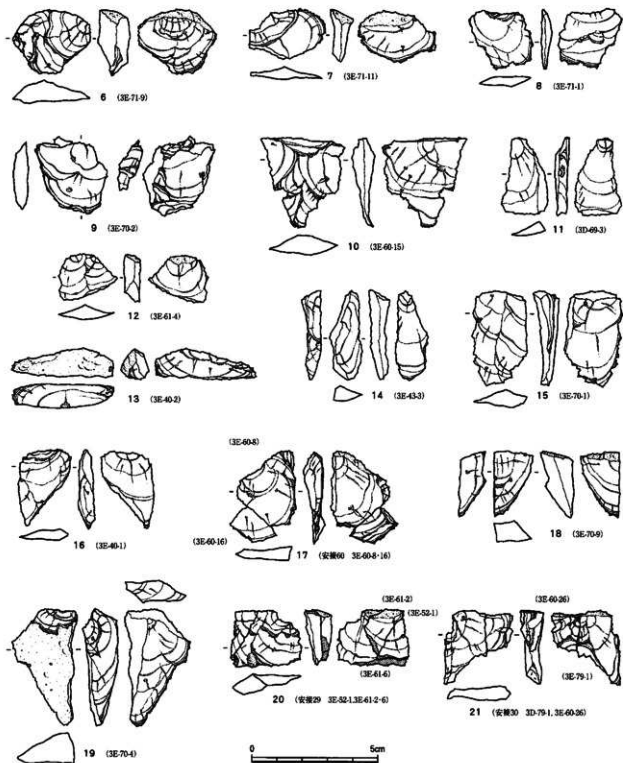
22～36の石材はチャートである。石質・色彩等の特徴から6点の母岩に分類できた。22～25の色彩は自然面を含めた表面部が褐色を呈し、内部が淡黄褐色へと変化する。剥離面ではやや光沢がみられる。22は大形剥片で上部には打面調整の痕跡を認めることができる。右側縁では微細な刃こぼれ状の痕跡が存在しているため石器として使用された可能性もあろう。26・27の色調は表面部が褐色、主剥離面では淡灰褐色へと変化する。剥離面での光沢は失われている。28・29は形状が類似した剥片で表面部は褐色、主剥離面では若干灰白色へと変化する。剥離面では光沢を有する。30～32の小形剥片は淡黄褐色を呈し、剥離面では光沢が認められる。その形状から石器として加工できる大きさとはいえない。33は一応残核の類に入れてもよいであろう。色調は暗青灰色で、黒色の縞模様及び節理が多い。このため数回の剥片剥離後に放棄されたものと考えられた。

第18表 旧石器組成表 (Dブロック)

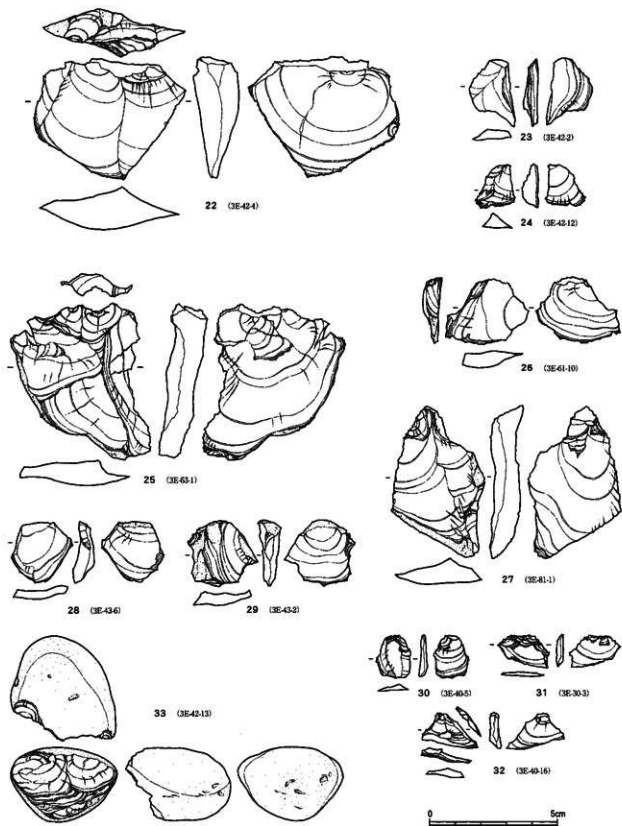
器種	石核	剥片		剥片(素材)		砕片	石器	RF			UF			燻	計	合計	
		被熱	被熱	被熱	被熱			被熱	被熱	被熱	被熱	被熱					
安山岩 (普通)			31	7	5	57	20								93	27	120
安山岩 (硬質)			5			1	1								6	1	7
チャート	2		15			5									22	0	22
黒曜石															0	0	0
礫砂岩															0	0	0
その他の砂岩															0	0	0
凝灰岩															0	0	0
メノウ			1												1	0	1
頁岩			2												2	0	2
流紋岩															0	0	0
玄武岩	1	1													1	1	2
硅質粘板岩															0	0	0
花崗岩															0	0	0
不明															0	0	0
計	3	1	54	7	5	63	21	0	0	0	0	0	0	0	125	29	154
合計	4		61		5	84		0		0		0		0	154		154



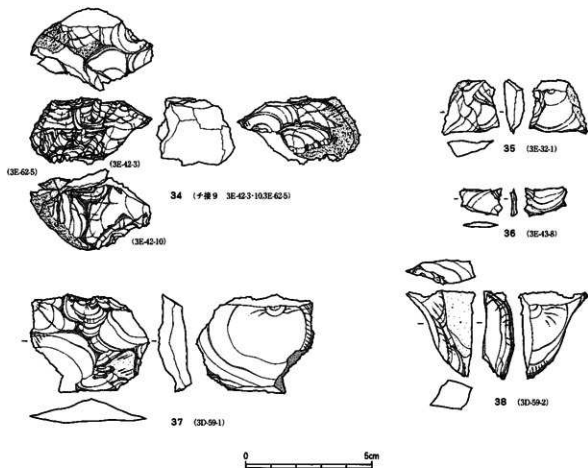
第79図 Dブロック出土石器(1) 安山岩接合資料(2/3)



第80図 Dブロック出土石器(2) 安山岩(2/3)



第81図 Dブロック出土石器(3) チャート(2/3)



第82図 Dブロック出土石器(4) チャート・頁岩(2/3)

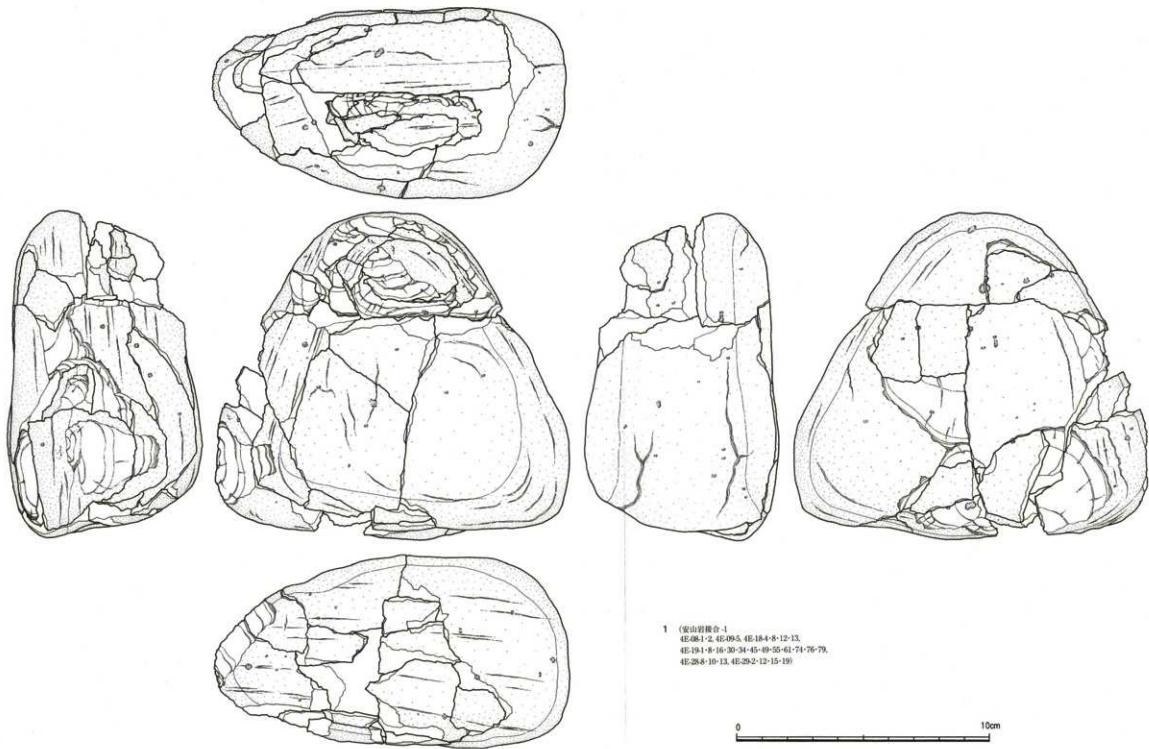
接合資料は34のみで認められ、剥片2点が残核(3E-42-10)に接合した。接合例の他2点(35・36)では接点はみられなかった。残核内部の色調が赤色に近いという点等から同一母岩より剥離されたものと思われた。この種の石材は特徴的であり、母岩は異なるものと思われるが他のブロックでも検出されている。

37・38は頁岩である。37は表面に多方向からの剥離面がみられる。石器素材としての形状は十分となるうが、使用痕等はみられない。38は自然面が残り、おそらく折断されたものであろう。熱を受けたためかやや白色に変色している。

Eブロック出土石器(第83～85図 第19・24表 図版57～60)

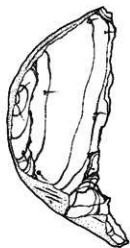
本ブロックは4E-19グリッドを中心に、径約6mの極めて小範囲に密集するような分布状況を示している。合計163点が出土した。接合関係についてみてもA～Dブロックの石器群との接点は認められていないため若干性格の異なる要素を保持していたものとも考えられる。この点、接合資料を観察すると安山岩・チャートの例ではほぼ原石に近い形状までに復原できた資料も存在し、合計57点が出土している。本ブロックの特徴として捉えることもできる。石材は安山岩・チャート・珪質粘板岩の3種によって構成されている。ここでも安山岩が主体を占め、前述のブロック群とさほど変化は認められない。

1～19の石材は安山岩である。図示(第83～85図)したように接合資料に集約されるといってもよい状



1 (安山岩様合-1)
 4E-081-2, 4E-095, 4E-184-8-12-13,
 4E-191-8-10, 30-34-45-49-55-61-71-76-79,
 4E-284-10-13, 4E-292-12-15-19)

第83図 Eブロック出土石器(1) 安山岩接合資料1(2/3)



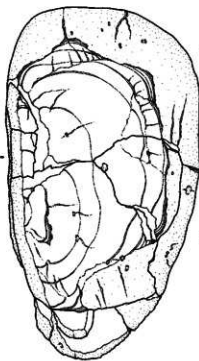
(E18-12, E219-05, (E29-15))



(E29-05, E219-30-70)

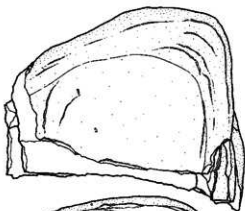


2 (1A)

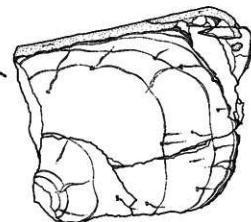
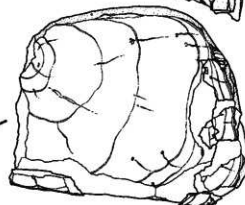


3 (1B-C)

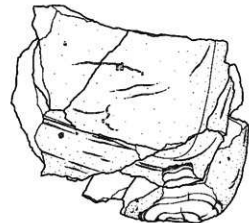
第84図 Eブロック出土石器 (2)
安山岩接合資料1分解図 (2/3)



5 (1C
E29-02, E219-11
E219-30-40-70, (E29-0)



4 (1B
E219-11, E219-04-05,
E29-0-10, (E29-12-19)



況となる。剥片間の接合も認められており、良好な石刃状剥片も検出されている。

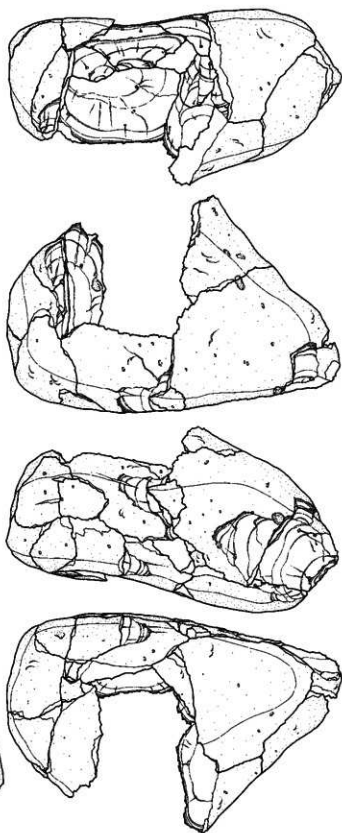
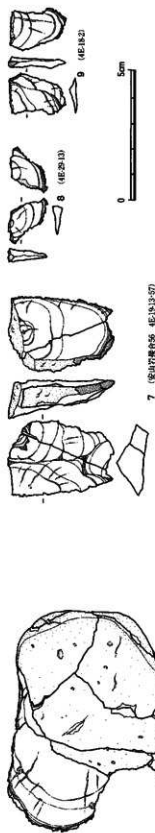
1はほぼ原石の状態(第83図)に復元できた資料である。合計26点の剥片・残核が接合したものである。また本資料から剥離されたと思われる剥片が38点存在している。復原因から観察すれば、略三角形の原石を母岩として三分割した後、それぞれを石核として剥片を剥離したようである。若干の欠損部が認められるところから数点の製品を得ていたものと推測できた。しかし、接合できた剥片には石器として利用されたものは皆無であった。図示したように本資料は、剥片剥離作業を途中で放棄したような状態といえるため、石器石材として満足できる石質を保持していなかったとも考えられよう。また、2～5(第84図)は三分割の状態を図示したものであり、略三角形の原石の上部を最初に大きく剥離した後、下部をさらに二分割している様子が窺える。6は18点の剥片・石核等が接合した例であり、ほぼ母岩とした原石の大きさを推定できる。中央に欠損部が存在するため最終的にはこの部分を素材剥離のための石核に採用したものと考えられる。図示(第85図)したように上部は打面設定のため大きく剥離され、さらに数枚の剥片を剥取しているが良好な剥片は得られていない。このように本資料でも残された剥片類から石器として利用されたものは存在しない。18は5点の剥片が接合したもので、前2点の資料とは異なる母岩から剥離された資料となる。自然面を残す分厚い剥片から剥離されていったものであろう。主剥離面から観察すると打面の転移が認められる。

7・10・12・13・17は剥片間の単純な接合で、7・10は意識的な折断による結果となろう。8・9は小剥片であるが、被熱により変色した表面の色調から7と同一の母岩から剥離されたものである。12・13は小剥片間の接合で意識的な折断かどうかは即断できない。17の例ではきれいな縦長剥片が得られているが、使用されたような痕跡は認められない。

11・14～16・19は剥片の資料である。11は打面形成時の剥片であろうか、自然面を多く残す。剥離後、さらに表面からの加撃により折断されている。14もきれいな折断面を有している。19は、類例が少ない縦長の石刃状剥片である。右側面に自然面を有するが、ナイフ形石器の素材としては十分な剥片といえよう。なお16・19は軟質で、表面の風化が著しい。いわゆるトロトロ石と呼称されている部類に属するものである。

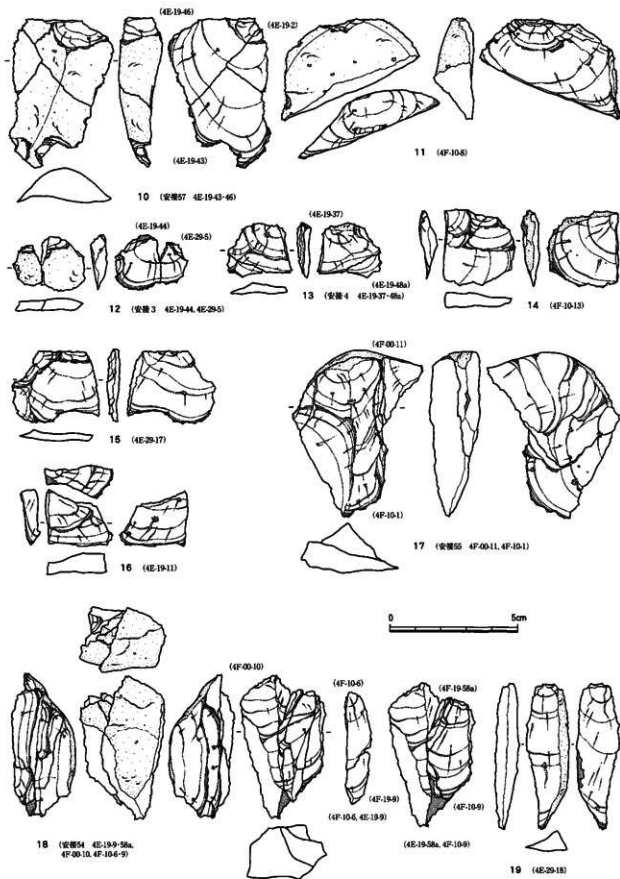
第19表 旧石器組成表 (Eブロック)

器種	石核		剥片				剥片(素材)				砕片	石器		RF		UF		礫		計	合計	
	被熱	未熱	被熱	未熱	被熱	未熱	被熱	未熱	被熱	未熱		被熱	未熱	被熱	未熱	被熱	未熱	被熱	未熱			
安山岩(普通)	8	1	32	8	7	6	71	6												118	21	139
安山岩(硬質)																				0	0	0
チャート	4		7				8													19	0	19
黒曜石																				0	0	0
硬砂岩																				0	0	0
その他の砂岩																				0	0	0
凝灰岩																				0	0	0
メノウ																				0	0	0
頁岩					1															1	0	1
流紋岩																				0	0	0
玄武岩																				0	0	0
硅質粘板岩			2		2															4	0	4
花崗岩																				0	0	0
不明																				0	0	0
計	12	1	41	8	10	6	79	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142	21	
合計		13	49		16		85		0		0		0		0		0		0	163	21	184

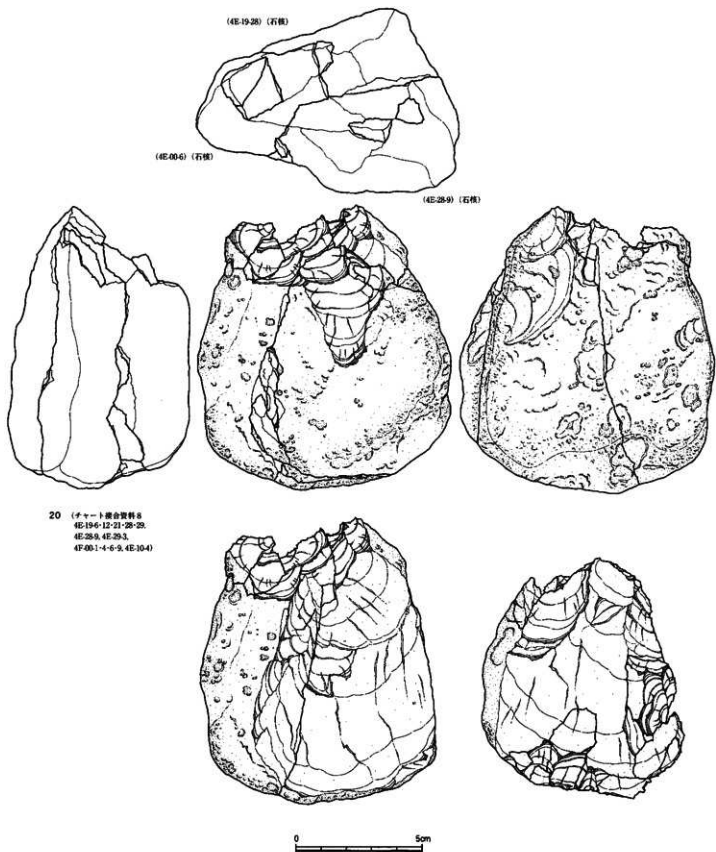


6 (安山岩集合体 4E.09.2, 4E.18.4, 4.22.31, 72.03.06.73.84, 62.29.14, 7.11.12.15.16, 4E.29.9.10.20)

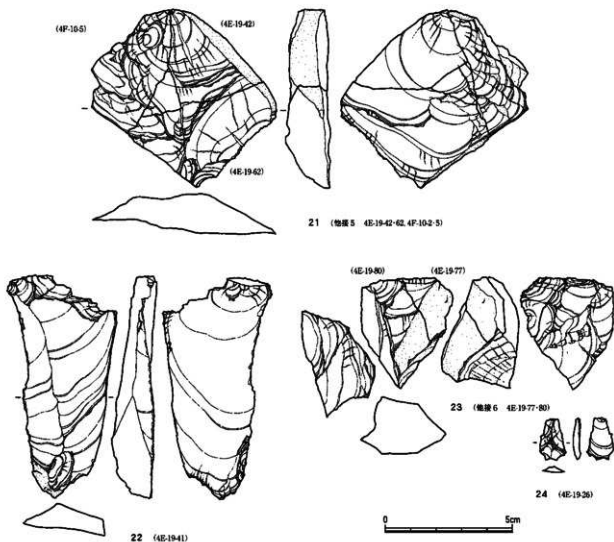
第85図 Eプロック出土石器 (3) 安山岩集合資料 2 (2/3)



第86図 Eブロック出土石器(4) 安山岩(2/3)



第87図 Eブロック出土石器(5) チャート接合資料8(2/3)



第88図 Eブロック出土石器(6) チャート他(2/3)

20・23・24はチャート製の資料で、20・23は接合資料である。20は13点が接合したもので、原石の大きさが認識できる程度まで復元できた。剥離面からの観察では、原石の打割は節理面を利用している。その後、数枚の剥片を剥取したが、石器に加工できるほどの石質を有していないため廃棄されたものと考えられた。礫の表面は黄褐色で気泡が点在する。また、節理面が多く認められ質的には劣るようである。23は2点が接合したもので、残骸となろう。平坦な自然面を打面とし、小剥片の剥離後に接合剥片(4E 19-77)が剥離されている。24の碎片もその色調等から同一母岩と思われた。

21は4点が接合したもので、石材は硅質粘板岩である。大形剥片を4分割したもので、意図的な分割と思われる。表面観察から剥離方向はすべて異なり、表裏両方向から、平坦部を選択し打点としている。明確な二次加工は認められないが、表面右の側縁では刃こぼれ状の微細な剥離痕がみられる。

22は頁岩製の縦長剥片で、上下端部に若干自然面を残す。表面の左側縁では刃こぼれ状の使用痕が観察できる。一方、主剥離面では下部右側縁に数回の整形剥離が施されており、石器として使用されていたことは間違いないだろう。

2. 縄文時代

縄文時代の遺構は炉穴2基である。他にグリッドから土器・石器が出土している。

1) 遺構

炉穴

SK001(第89図 図版27)

調査区北西部の斜面際に検出された。炉床が2か所に検出されたので、平面形は不整形となる。規模は2.73m×2.42m、検出面からの深さは最大0.84mである。焼土部分は大小2か所で、楕円形である。規模は大きいものが1.28m×1.02m、掘り込みは0.23m、小さなものは0.82m×0.73m、掘り込みは0.12mを計測した。覆土の状況から、2基の重複ではなく、ほぼ同時期に使用されたと考えられる。

SK002(第89図 図版27)

調査区北西部の斜面際に検出された。平面形は楕円形で、規模は2.5m×2.13m、検出面からの深さは0.4mである。炉床は1か所で、楕円形である。規模は1.02m×0.85m、掘り込みは0.17mである。

2) 遺物

炉穴

SK001(第90図 第20表 図版60)

1は深鉢形土器である。底部を欠損する。全体に細長い形で、底部付近でやや丸みを持つ。口唇部にキザミが施され、部分的に格子目状となる。表面には浅い擦痕が認められる。内面はナデ調整である。口縁下に2か所、補修孔と思われる焼成後の穿孔がみられる。2は小型の深鉢形土器である。底部を欠損する。1と同様にやや細長い形であるが、1よりも直線的に立ち上る。表面は丁寧なナデが施され、内面はナデ調整が施される。縦方向に条線が観察されるが、文様ではないと考えられる。焼成等の特徴から1・2とも子母口式土器の可能性がある。

SK002(第89図 図版27)

1は小型の深鉢形土器である。底部を欠損する。口縁下に雑な横方向の沈線による文様が観察される。条痕文系土器と思われる。

第20表 炉穴出土縄文土器観察表

図	No	枝番	時期・型式名等	注記	部位	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
第90図	SK001-1		早期後葉・条痕文系	001-1.27C26-1	r	良	灰暗褐～褐色	繊維少・白	3215.42	補修孔あり。内外面スス付着、重量石膏分含む
第90図	SK001-2		早期後葉・条痕文系	001-1.7C26-1	r	良	灰暗褐～褐色	繊維少・白・砂・赤少	149.88	内外面炭化物付着、重量石膏分含む
第90図	SK002-1		早期後葉・条痕文系	002-1	r	やや良	褐色	繊維・白	92.71	

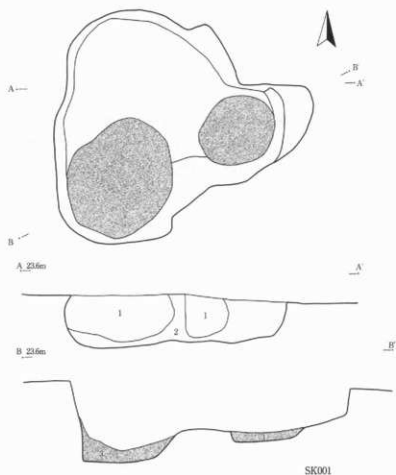
※部位欄の記号は、rが口縁部、mが胴部、bが底部を意味する。

※色調は外面の色調である。

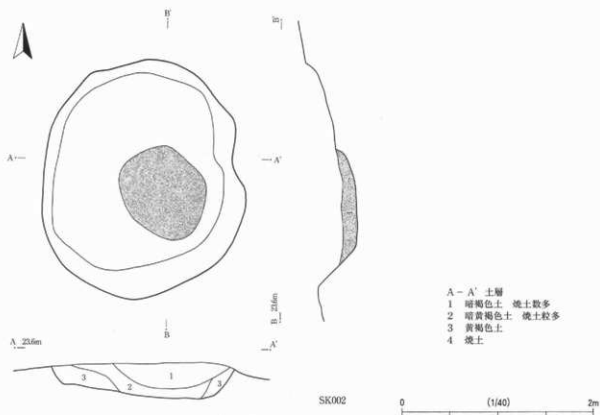
※胎土欄の記号は、白が白色粒子、砂が砂粒、赤が赤褐色粒子、黒が黒色粒子、(大)は大粒を意味する。

グリッド出土土器 (第91～93図・第21表・図版62・63)

遺構に伴わず出土したいわゆるグリッド出土の縄文土器と、縄文時代以外の遺構から出土した縄文土器を一括して扱った。出土した土器は早期から後期にわたり、採拓の可能な文様のある土器群を中心に図示したが、出土状況に関する情報は特に図化しなかった。また、土器は少量のため、全体の出土量に関する

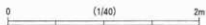


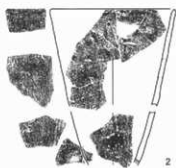
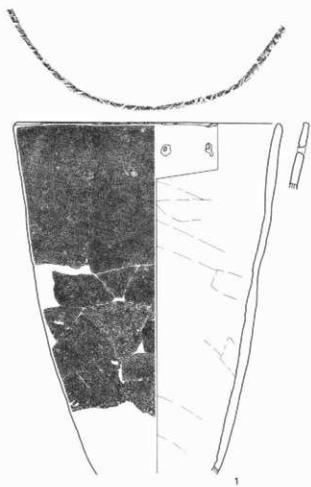
- A - A' 土層
 1 暗褐色土 燒土少
 2 暗黃褐色土 黃褐色土多
 3 燒土



- A - A' 土層
 1 暗褐色土 燒土數多
 2 暗黃褐色土 燒土較多
 3 黃褐色土
 4 燒土

第89圖 坑 穴 (SK001 · SK002)

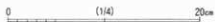




SK001



SK002



第90図 炉穴出土縄文土器

集計はおこなわなかった。観察表中に出土したグリッドが記録されているものについては記載した。

記載は、概ね古い時期のものから順におこない、図化した土器については観察表を作成した(第21表)。胎土中に繊維を含む土器の断面図に、特に網掛け等はおこなわなかった。土器拓影図で内面の拓本を示す場合は、向かって左側に外面の拓本、中央に断面図、右側に内面の拓本を置いた。縄文の表記については、「日本先史土器の縄紋」¹⁾を参考として、1段右捻りの縄をR、左捻りの縄をL、2段正捻りの縄はRL、LR、3段正捻りの縄はRLR、LRLなどと、簡略化して表記することとした。

早期～前期(1～26)

1～3は早期前葉・捻糸文系土器である。1は1段Lの捻糸文を施す土器。2・3は尖底部である。4～14は早期後葉・条痕文系土器である。4は隆帯を有し、おそらく茅山下層式であろう。5は外面のみ捺痕で、繊維の含有量が少なく、沈線文期に遡る可能性もある。6・7は捺痕、8・9は条痕のみで、他に目立った文様をもたない土器の口縁部破片である。8は小波状口縁である。10・11は条痕をもつ胴部破片、12・13は捺痕をもつ胴部破片である。12は底部付近の破片である。14は、少量の繊維を含む胴部付近の破片で、条痕等は目立たない。沈線文期まで遡る可能性もあろう。

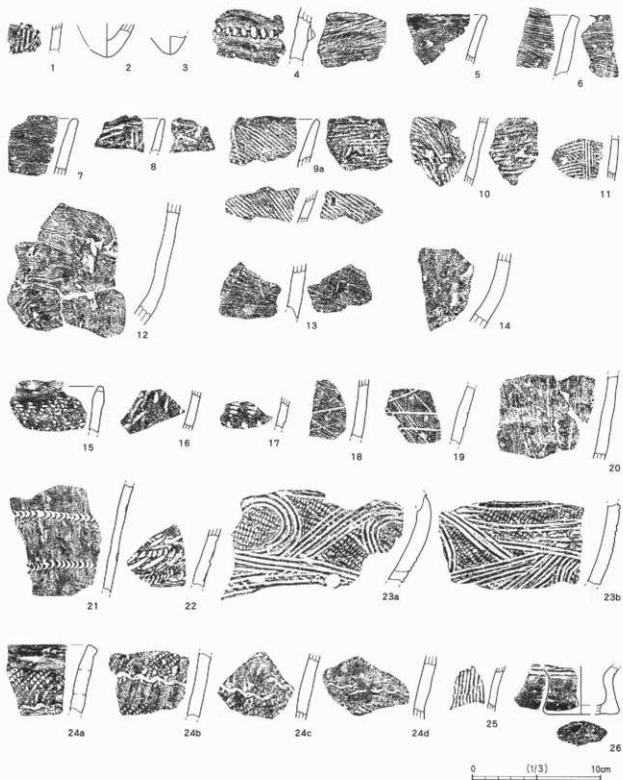
15～23は、前期後葉の土器である。15～20は、前期後葉の浮島式系の土器で、15は口縁部破片である。指頭状工具で口唇部に押捺を施し、口縁部以下に肋脈のある貝殻で波状貝殻文を施す。16・17は波状貝殻文を施す胴部破片で、16は肋脈のない貝殻、17は肋脈のある貝殻を用いている。18・19は雑な沈線が施される土器である。20は無文であるが、胎土・焼成の特徴から前期後葉の土器と判断した。21は諸磯a式で、竹管による連続爪形文が認められる。22・23は諸磯b式である。22は低い浮線上に斜位のキザミを施し、その間に連続爪形文を配す。23はRLの地文縄文上に、半載竹管の内側を用いた並行沈線による文様を描く。本来は口径がかなり大きなキャリバー形の土器である。

24～26は前期末葉の土器である。24は、前期末葉の全面縄文施文系の土器で、いわゆる古和田台式²⁾である。口唇部はやや肥厚し、口縁直下は狭い無文帯となる。以下にはLR単節縄文と縄文末端部の結束の回転痕が施される。25・26は十三菩提式併行の集合条線文系の土器である。26は外に若干張り出した小型の底部で、底面には弱く網代痕が残る。

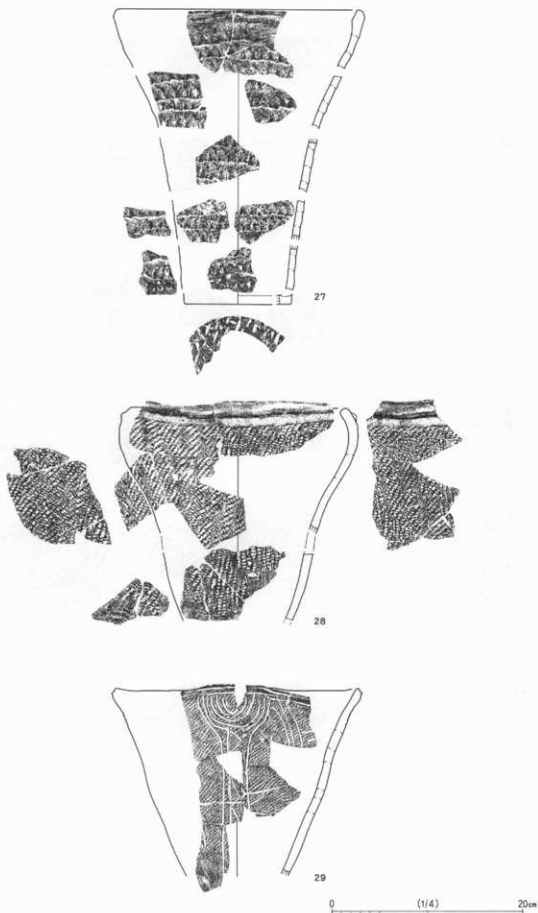
中期～後期(27～67)

第92図に図上で復元した土器をまとめ、断面図を第93図以下に示した。

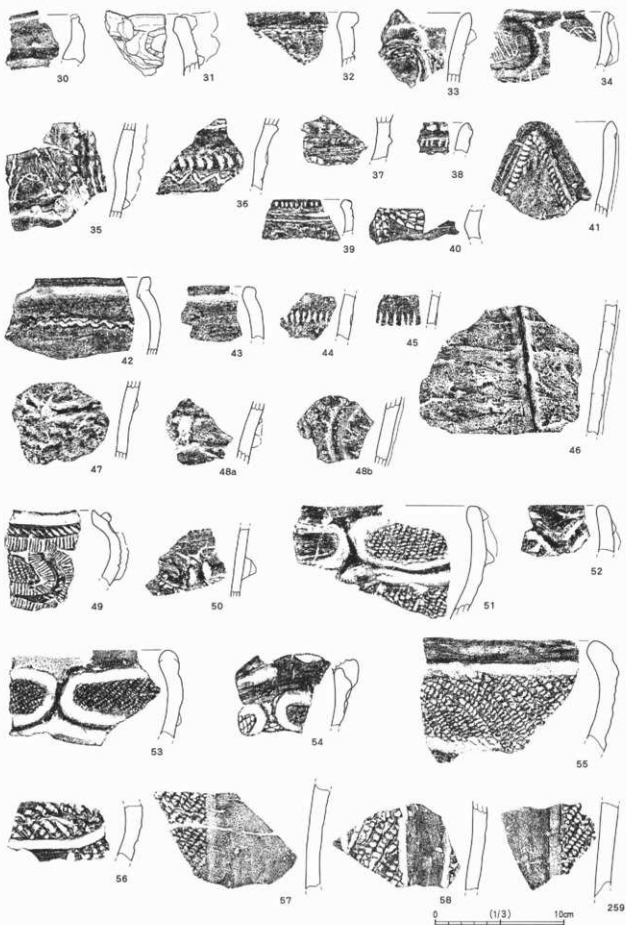
27・30～46は中期前葉～中葉の阿玉台式である。27は図上で復元したものだが、おそらく阿玉台前半の粗製の土器である。口縁部に向かって緩く開く器形で、口縁部内面には稜をもつ。輪積痕部分をヒダ状に成形する以外、目立った文様はもたない。底部には網代痕が残る。30は口縁端部にのみ結節沈線を配し、口縁部区画が明瞭でないことから、おそらく阿玉台I a式であろう。31～35は単列の結節沈線による文様をもつもので、阿玉台I b式である。31は欠損するが、粘土棒を芯にした口縁部外側に突出する貼り付けが残る。33は口縁部の尖頭状の小突起が残る。34は楕円区画が明瞭に残るものである。36～38もおそらく阿玉台式前半の土器である。38は口唇部に半載竹管の連続刺突をもつものである。39は2列一組の結節沈線をもち、阿玉台II式である。40は小さい竹管による押引文をもつ土器で、やはり阿玉台式前半の土器か。41はやや幅広い爪形文に近い文様をもつもので、阿玉台III式と判断すべきであろう。42・43は阿玉台式前半に位置付けうる平縁の粗製の土器である。44・45は胴部に貝殻によるキザミを施すもので、44は肋脈のある貝殻、45は肋脈のない貝殻を用いている。46～48は隆線による文様をもつもので、阿玉台式



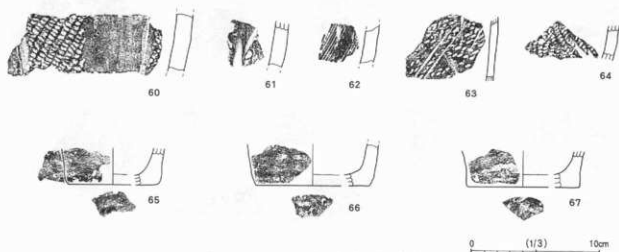
第91図 グリッド出土縄文土器(1)



第92図 グリッド出土縄文土器(2)



第93図 グリッド出土縄文土器 (3)



第94図 グリッド出土縄文土器 (4)

前半に相当しよう。

49・50は中期前葉～中葉の勝坂式である。49はいわゆるキャタピラー文とクサビ状連続押圧文が認められ、勝坂Ⅱ式³⁾で、房総半島においてはティピカルな勝坂Ⅱ式と言えよう⁴⁾。50は太い隆線の上に大ぶりなキザミが施されるもので、勝坂式後半の土器であろう。

28・51～60は中期後葉・加曾利E式である。28は図上で復元した土器で、口縁部付近に最大径をもち、おそらく底部はかなり小さい土器となろう。口縁は内湾し、口縁端部に1条のやや太い横位隆線をもつ。この隆線以下には、RL縄文を施す以外文様をもたない。加曾利E式末葉の土器であろう。51～55はキャリバー形土器の口縁部で、52は蛇行する隆線が貼り付けられる。51・53は隆線脇のナゾリが明瞭で、54は沈線で区画をおこなう。概ね加曾利E式の新しい部分に相当しよう。55は幅広の口縁部区画で、加曾利E式新しい部分の土器である。56～60は縄文の磨り消しが明瞭な胴部懸垂文が見られるもので、加曾利E式新しい部分に相当する土器である。57～60の磨り消し部分はかなり幅が広い。

29・61～64は後期の土器である。29は後期前葉・堀之内Ⅰ式である。頸部が若干くびれて朝顔形に開く土器で、小波状口縁あるいは幅広の低い突起を持つ。口縁端部には2条の横位沈線を配し、以下にはLR縄文の地文上に単沈線による文様を描く。波頂部に合わせて上向きの重弧文状の単位文を配し、重弧文の外側から沈線が垂下する。61は沈線区画内に刺突を充填する土器で、後期初頭・称名寺Ⅱ式である。62は条線文の土器で、中期後葉から後期初頭に認められるものであろう。63は後期中葉・加曾利B式の粗製土器の胴部破片である。地文縄文上に半截竹管の内側を用いた斜沈線を引く。64は縄文のみが施文された土器であるが、胎土・焼成の特徴から、やはり後期中葉の土器であると判断した。

65～67は中期～後期の土器の底部破片である。67は底面に網代痕が残る土器である。

第21表 グリッド出土縄文土器観察表

図	No.	枝番	時期・型式名等	注記	部位	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
第91図	1		早期前葉・熱糸文系	7C16-1	m	良	暗褐色	白・砂	6.36	
	2		早期前葉・熱糸文系	7C27-1	b	良	褐色	白・砂・赤少	21.36	
	3		早期前葉・熱糸文系	3C55-1	b	良	褐色	白少・砂	7.95	
	4		早期後葉・茅山下層	4C10-1	m	良	暗褐色	繊維・白	35.47	

図	No.	枝番	時期・型式名等	注記	部位	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考	
第91図	5		早期後葉・条痕文系	3C05-3	r	良	黄灰色	纖維少・砂	14.53		
	6		早期後葉・条痕文系	7C09-4	r	良	黒褐色	纖維少・白・赤	18.54		
	7		早期後葉・条痕文系	7C27-1	r	良	褐色	纖維少・白	20.51		
	8		早期後葉・条痕文系	7C26-1	r	良	灰褐色	纖維少・砂	6.83		
	9	a-b	早期後葉・条痕文系	7C07-1,7C09-4-5	r・m	良	暗褐色	纖維少・白・砂	52.78		
	10		早期後葉・条痕文系	4C05-1	m	良	暗赤褐色	纖維少・砂・赤少	20.16		
	11		早期後葉・条痕文系	6C65-1	m	良	黒褐～暗褐色	纖維少・白	10.39		
	12		早期後葉・条痕文系	7C29-8,7C36-1,7C38-1,7D20-2,7D21-4,7D31-2	m	良	褐色	纖維・白・赤	195.52		
	13		早期後葉・条痕文系	7C09-4	m	良	灰暗褐色	纖維・白・赤	29.26		
	14		早期後葉・条痕文系	7D01-2	m	良	暗赤褐色	纖維少・砂多	39.30		
	15		前期後葉・浮島系	3D10-3	r	良	黒褐色	白・赤	24.09		
	16		前期後葉・浮島系	3C55-1	m	良	灰黄褐色	砂	11.15	外面炭化物付着	
	17		前期後葉・浮島系	4C65-1	m	良	黄白色	砂	8.73		
	18		前期後葉・浮島系	5C15-1	m	良	暗褐色	白・砂	16.65		
	19		前期後葉・浮島系	4C65-1	m	良	灰黄褐色	砂・赤	20.42		
	20		前期後葉	3C55-1,3D23-1,4C05-1,4C10-1,4C15-9,7D73-1	m	良	暗赤褐色	白・砂・赤	138.15		
	21		前期後葉・諸磯 a	3C55-1	m	良	褐色	砂・赤	60.49		
	22		前期後葉・諸磯 b	7C17-3	m	良	灰暗褐色	砂	23.53		
	23	a-b	前期後葉・諸磯 b	3C65-1	m	良	灰～褐色	砂少・赤少	286.31	補修孔あり	
	24	a~d	前期末葉・全面縄文系	3C55-1,3C65-1,3D03-1,3D23-1,5C00-1	r・m	良	黒褐～暗赤褐色	白・砂少	163.08		
	25		前期末葉・集合条縄文系	7C25-1	m	良	黒褐色	白・砂・赤	6.58		
	26		前期末葉・集合条縄文系	6C65-1	b	良	灰～褐色	砂(大)	21.98	底部網状痕	
	第92図	27		中期前葉・阿玉台前半	7C05-1,7C25-1,7C26-1,7D02-1	r・m・b	良	暗褐～褐色	白・赤少	474.21	底部網状痕
		28		中期後葉・加曾利 E 末	6H15-1	r・m	良	黒褐～暗褐色	白少	806.69	
		29		後期前葉・堀之内 I	6F05-1	r	良	黒褐～褐色	白・砂少	340.82	
第93図	30		中期前葉・阿玉台 I a	3C55-1	r	良	暗褐色	白・砂・雲母	29.31	外面炭化物付着	
	31		中期前葉・阿玉台 I b	O2	r	良	褐色	砂	52.48		
	32		中期前葉・阿玉台 I b	3C65-1	r	々々良	暗褐色	白・砂・雲母少	40.30		
	33		中期前葉・阿玉台 I b	3C15-1	r	良	灰黒褐色	白(大)・雲母	39.28		
	34		中期前葉・阿玉台 I b	3C65-1	r	良	褐色	砂・赤少・雲母	31.05		
	35		中期前葉・阿玉台 I b	3C05-3	m	良	褐色	白・砂	78.77		
	36		中期前葉・阿玉台前半	3C65-1	m	良	黒褐色	白(大)・雲母	39.12		
	37		中期前葉・阿玉台前半	3C55-1	m	良	灰黄褐色	砂・赤・雲母少	24.27		
	38		中期前葉・阿玉台前半	7C09-4	r	良	灰暗褐色	砂少・黒	8.78		
	39		中期前葉・阿玉台 II 式	3C55-1	r	良	灰～褐色	砂少	18.00		
	40		中期前葉・阿玉台前半	4C05-1	m	良	暗褐色	白・赤・雲母少	25.85		
	41		中期中葉・阿玉台 III	3C15-1	r	良	暗褐色	砂・雲母	53.46		
	42		中期前葉・阿玉台前半	5C00-1	r	良	暗褐色	白少・砂・赤・雲母	88.71		
	43		中期前葉・阿玉台前半	4D36-3	r	良	黄褐色	白少・砂・雲母少	29.16		
	44		中期前葉・阿玉台前半	3C65-1	m	々々良	灰褐色	白(大)・雲母少	19.34		
	45		中期前葉・阿玉台前半	3C15-1	m	良	暗赤褐色	砂・雲母少	9.17		
	46		中期前葉・阿玉台前半	4C03-1	m	良	褐色	白少・砂・赤少	164.11		
	47		中期前葉・阿玉台前半	4E65-1	m	良	褐色	白(大)多・砂	68.82		
	48	a-b	中期前葉・阿玉台前半	3C65-1,4E60-1	m	々々良	暗赤褐色	白(大)・砂	131.47	内面炭化物付着	
	49		中期前葉・勝坂 II	3D03-1	r	良	褐色	砂少	49.73		
	50		中期中葉・勝坂後半	3C65-1	m	良	褐色	砂(大)・雲母	26.97		
	51		中期後葉・加曾利 E 新	5G10-1,2	r	良	灰黄褐色	砂少・赤少	116.36		
52		中期後葉・加曾利 E 新	4E60-1	r	良	灰黄褐色	砂少	25.56			

図	No.	枝番	時期・型式名等	注記	部位	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
第93図	53		中期後葉・加曾利E新	7G10-1	r	良	褐色	白・赤少	124.90	
	54		中期後葉・加曾利E新	4F05-1	r	良	黒褐～暗褐色	白・砂	58.92	
	55		中期後葉・加曾利E新	6G43-1	r	良	褐～暗褐色	白・砂	228.11	
	56		中期後葉・加曾利E新	6D15-1	m	良	灰暗褐色	白・砂	64.61	
	57		中期後葉・加曾利E新	6G43-1	m	やや良	灰暗褐色	白	128.17	
	58		中期後葉・加曾利E新	O-2	m	良	灰黄褐色	砂・赤少	84.37	
	59		中期後葉・加曾利E新	6G43-1	m	良	黄褐色	白・砂少	87.44	
	60		中期後葉・加曾利E新	6G62-1	m	良	褐色	白・砂	104.60	
	第94図	61		後期初頭・称名寺Ⅱ	7C05-1	m	良	褐色	白少・砂・赤	15.53
62			中期後葉～後期前葉	4F11-1	m	良	黄褐色	白少・砂	12.59	
63			後期中葉・加曾利B	3E55-1	m	良	黒褐色	白・砂	22.35	
64			後期中葉?	6H15-1	m	良	灰黒褐色	白少	12.48	
65			中～後期	3C15-1	b	良	灰褐色	白・黒	27.90	
66			中～後期	3C15-1	b	良	褐色	白多・砂	28.77	
67			後期	5D55-1	b	良	暗赤褐色	白・砂	22.93	

※部位欄の記号は、rが口縁部、mが胴部、bが底部を意味する。

※色調は外面の色調である。

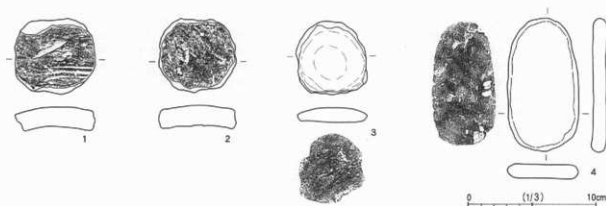
※胎土欄の記号は、白が白色粒子、砂が砂粒、赤が赤褐色粒子、黒が黒色粒子、(大)は大粒を意味する。

土製品 (第95図・第22表・図版64)

1～4は土器片再利用のいわゆる土製円盤である。1・2は早期後葉・条痕文系の土器片を再利用している。1は土器片の周囲を粗く打ち欠いて整形している。内外面に条痕をもつ以外様を持たない。灰暗褐色を呈し、繊維・白色粒子を少量含む。2も土器片の周囲を粗く打ち欠いて整形する。暗褐色を呈し、繊維を少量、白色粒子をやや多く含む。

3はおそらく後期の土器の底部破片を用いたもので、土器片周囲を粗く打ち欠いた後、若干摩っている。暗赤褐色を呈し、白色粒子を少量含む。

4はやや特異な資料である。細長い、楕円形を呈する資料である。土器片周囲は丁寧に摩って形を整えている。断面の状況から焼成後に成形したことは間違いない。土器が本来持っている器面のカーブがほとんど無く板状を呈するが、中～後期の浅鉢といった大形の土器の底部を用いたものと解釈したい。



第95図 縄文時代土製品

第22表 縄文土製品計測表

図	No	種類	時期	注記	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存度	備考
第95図	1	土製円盤	早期後葉・条痕文	7D00-1	5.94	6.33	1.14	72.60	完形	
	2	土製円盤	早期後葉・条痕文	7C17-1	5.80	6.09	1.65	62.50	完形	
	3	土製円盤	中～後期	3C05-3	5.75	5.58	1.18	38.87	完形	底部使用
	4	土製円盤	中～後期	3C05-1	10.45	5.59	1.10	88.63	完形	

石 器 (第96～99図・第23・24表・図版64～66)

大グリッド7C・7Dにおいて、石器の集かが検出された。チャートを原材料とする接合資料、剥片、石鏃未成品、石鏃が出土しているので、小規模な石鏃製作跡があったと思われる。

1～3・5は黒曜石製の石器である。1・3は信州産と思われる。1は尖頭器である。先端部を欠損する。2は搔器である。円形で、縁辺部全体に調整が施される。3は尖頭器の先端部である。4は石核と思われる。ただし、石器群中に剥片・砕片は出土していない。礫状素材と考えられ、礫外皮面が残る。Cブロックの黒曜石石器群と同じ素材と思われる。

5～24はチャートの石器である。5は尖頭器である。先端部を欠損する。6は石核である。右側を欠損するが、節理からの折損と思われる。上面からの打割が両面にみられる。上面も周縁から細かな打撃調整が施される。船底形であるが、石器製作途中とも考えられる。7は尖頭器の未成品と思われる。厚手剥片の両面に周辺から粗い打撃調整が施される。8は剥片である。下端が欠損している。7と同材と思われる。9は剥片である。厚手で、下端に調整が施され、搔器と思われる。10～16は石鏃および石鏃未成品である。10は凹基無茎型で、基部の挿入がやや深く、丁寧な調整が施される。11～15は欠損品、未成品も含めて、平基無茎型と思われる。黒色チャートで、同石材と思われる。16は石材は10に類似するが、形が分かるまでに至っていない。青灰色で、黒色の縞および節理が明瞭である。17～22は同石材のチャートの資料である。礫からの剥離で、外皮部は明褐色、内部は青灰色で、剥離面は光沢があり、節理がある。17～19は接合資料である。17は3点接合で、剥片である。節理面での剥離が多く見られ、下端、左側、裏面にも残る。小塊状の核部と思われる。18は2点接合で、核部・剥片である。節理面からの剥がれと思われ、それを打面にして細かな剥取面がみられる。剥片は下端を欠失しているが、核からの剥取か、二次加工なのかは不明瞭である。裏面には不規則な剥取面が残る。19は2点接合で、剥片である。上面の剥片は節理面で、欠損している。20～22は剥片資料である。外皮部が残るか、外皮部付近である。23・24は同石材のチャートの剥片である。灰色であるが、暗赤褐色石材が斑に混入する。

25・26は同石材の剥片である。石材は凝灰岩である。25は上下端が欠損している。26は外皮部付近である。27は打製石斧である。扁平な円礫使用し、表面に刃部から側辺にかけてやや粗い打撃調整が施される。裏面は礫面のカーブを利用して、刃部端としている。被熱にためやや白変していると思われる。石材はホルンフェルスである。

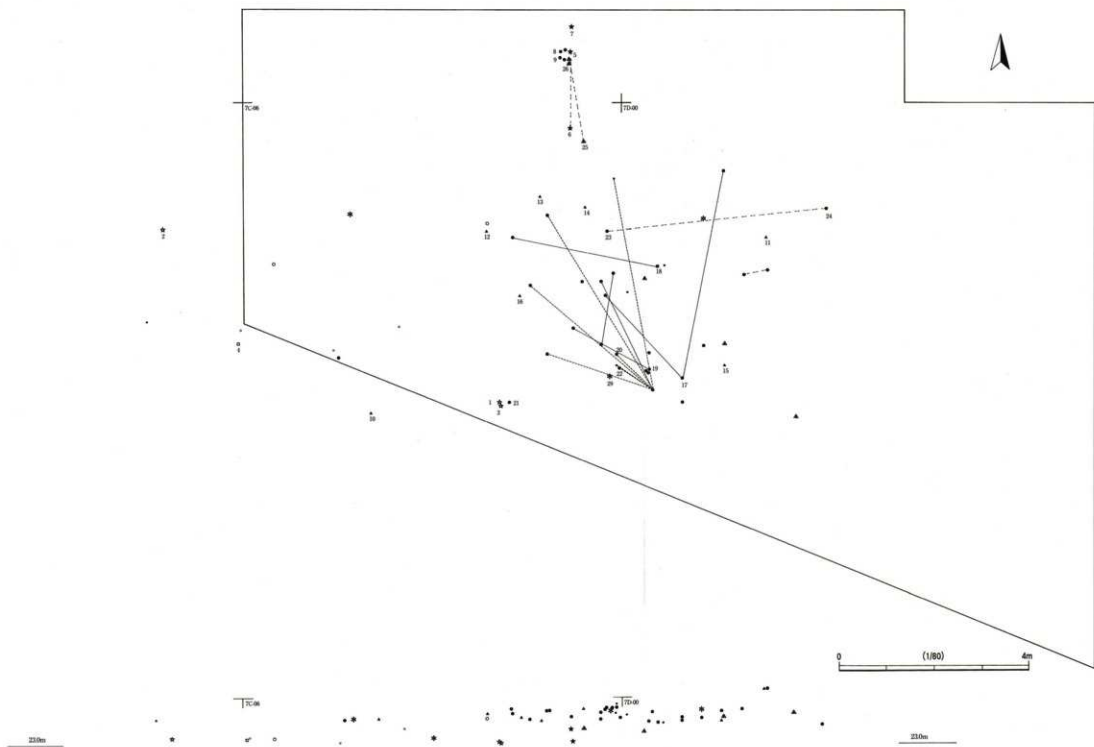
28は磨製石斧片である。表採品で、側面に研磨痕が認められる。硬砂岩製である。

29・30は磨石である。29はやや長楕円形の円礫を使用し、全体に磨耗感がある。上端と右側縁に押しつぶしの様な痕跡がある。石材は花崗岩である。30は扁平な楕円形礫を使用している全体になめらかで、周辺部に磨り痕、押しつぶし痕が顕著である。石材には硬質の砂岩を使用している。

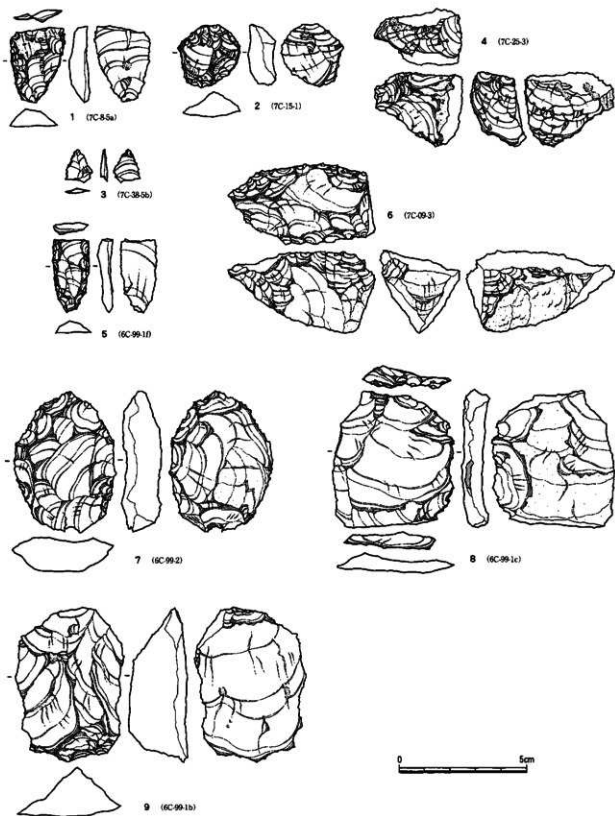
第23表 縄文石器組成表
(集中地点の石器)

器種	石核		剥片		剥片(素材)		砕片		石器		RF		UF		鏢		計		合計	重量 g	
		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱		被熱			
石材																					
安山岩 (普通)			1	1														1	1	2	7.5
安山岩 (硬質)																		0	0	0	0.0
チャート	1		29	1			5	10									5	45	6	51	516.9
黒曜石	1		2				3	3										9	0	9	31.3
硬砂岩									1							1	1	2	1	3	180.5
その他の砂岩									2									2	0	2	126.5
凝灰岩			2													1		3	0	3	56.7
メノウ																		0	0	0	0.0
頁岩																		0	0	0	0.0
流紋岩							1											1	0	1	1.6
玄武岩																		0	0	0	0.0
硅質粘板岩			2															2	0	2	2.7
花崗岩																3	2	3	2	5	796.7
不明																		0	0	0	0.0
計	2	0	36	2	0	0	9	0	16	0	0	0	0	0	0	5	8	68	10		
合計	2		38		0		9		16		0		0		13		78		78		1,720.4

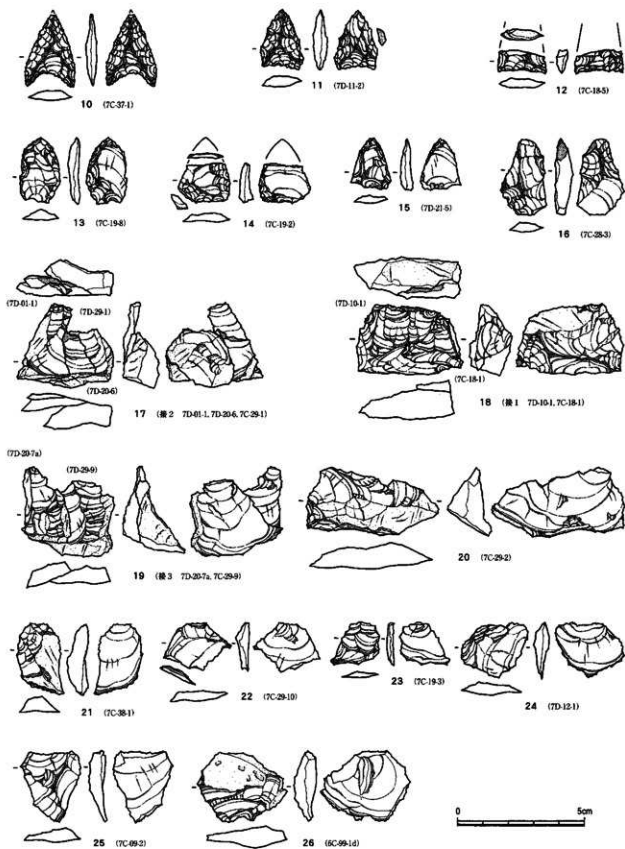
- 注1 山内清男 1979 『日本先史土器の縄紋』 先史考古学会 (1997再刊 示人社)
 2 小林謙一 1991 「東関東地方の縄文時代前期末業段階の土器様相 - 銅面瓦痕土器及び全面縄文施文土器の編年的位置づけ -」 『東邦考古』15 東邦考古学研究会
 3 下総考古学研究会 1985 「<特集>勝板式土器の研究」 『下総考古学』8 下総考古学研究会
 4 下総考古学研究会 2004 「<特集>房総半島における勝板式土器の研究」 『下総考古学』18 下総考古学研究会



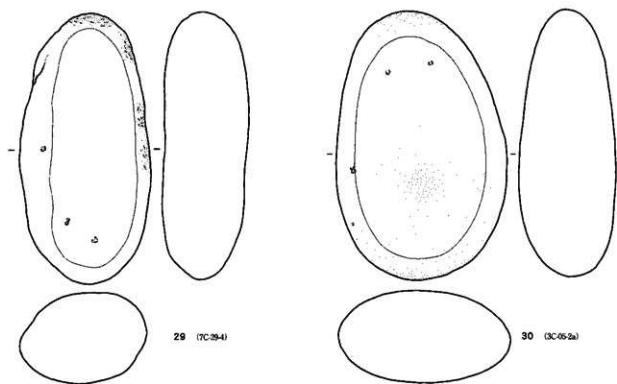
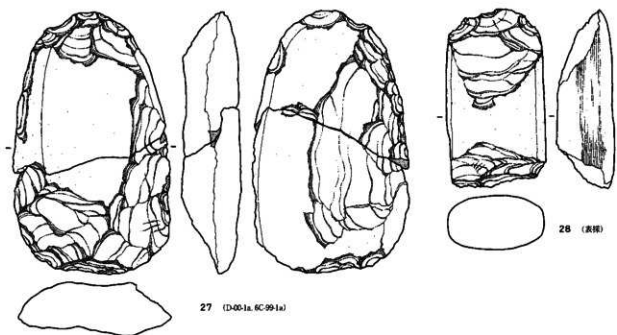
第96図 縄文石器出土状況図



第97図 縄文時代石器 (1) (2/3)



第98圖 繩文時代石器(2)(2/3)



第99図 縄文時代石器 (3) (2/3)

第24表 石器一覧表

A ブロック															
押出	番号	ブロック	遺跡・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
54	1	A	3C-19	10	22.122	IV	安山岩	剥片	接	4.2	3.2	11.7	11.7	安6	
54	1	A	3C-19	13	22.030	V a	安山岩	碎片	接	4.2	3.2	11.7	11.7	安6	
54	1	A	3C-19	48	22.010	V a	安山岩	剥片		2.6	1.8	0.9	2.8	安6	
54	1	A	3C-29	4	22.230	IV	安山岩	石核		4.4	4.1	2.6	53.4	安6	
54	2	A	3C-18	4	22.122	VI	安山岩	剥片		3.7	3.9	1.0	13.2	安11	破片
54	2	A	3C-19	7	22.197	III	安山岩	剥片 (核部)		3.4	3.2	1.2	29.5	安4	破片
54	2	A	3C-19	9	22.130	IV	安山岩	剥片		2.1	3.2	1.6	6.8	(安14-15)	被熱?
54	3	A	3C-18	6	22.060	VI	安山岩	剥片 (核部)		3.6	3.8	1.5	25.3	安10	
54	3	A	3C-19	41	22.001	V a	安山岩	剥片 (小片)		1.3	2.9	0.5	1.6	安10	
54	4	A	3C-19	17a	22.130	IV	安山岩	碎片		1.1	2.8	0.9	3.1	安12	
54	4	A	3C-19	35	22.120	VI	安山岩	剥片 (核部)		3.4	3.1	2.4	25.0	安12	
55	5	A	3C-09	1	22.015	V a	安山岩	剥片		2.1	1.6	0.8	2.0	安7	
55	5	A	3C-19	5	22.290	III	安山岩	剥片		3.0	4.8	2.0	27.0	安7	
55	5	A	3C-19	6	22.160	III	安山岩	剥片 (核部)		3.2	3.8	3.4	34.4	安7	
55	6	A	3C-19	28	22.022	V a	安山岩	剥片 (核部)	接	5.4	3.0	2.1	35.7	安8	
55	6	A	3C-19	29	21.960	V a	安山岩	碎片	接	5.4	3.0	2.1	35.7	安8	
55	6	A	3C-19	34	22.150	VI	安山岩	剥片		1.4	1.9	0.4	1.2	安8	
55	6	A	3C-19	39	22.100	VI	安山岩	碎片	接	5.4	3.0	2.1	35.7	安8	
55	6	A	3C-29	3	22.394	III	安山岩	剥片 (小片)		2.7	2.0	0.6	1.2	安8	
55	7	A	3C-18	5	22.040	V a	安山岩	剥片 (片)	接	3.2	7.5	1.8	41.2	安9	
55	7	A	3C-19	16	21.960	V a	安山岩	剥片	接	3.2	7.5	1.8	41.2	安9	
55	7	A	3C-19	27	22.100	V a	安山岩	剥片		3.6	3.5	0.8	5.9	安9	
56	8	A	3C-19	22	22.080	V a	安山岩	剥片		6.0	4.1	1.5	35.1	安13	
56	8	A	3C-19	26	22.085	V a	安山岩	剥片		4.8	3.7	1.7	36.7	安13	
56	9	A	3C-19	38	22.080	VI	安山岩	剥片		2.8	6.1	2.4	33.0		
56	10	A	3C-19	11	22.132	IV	安山岩	剥片		(4.7)	4.3	1.4	40.8		
56	11	A	3C-19	18	22.083	V a	安山岩	剥片		(4.9)	4.7	0.8	24.9		
56	12	A	3C-19	31	22.040	V a	安山岩	剥片		(2.7)	2.4	0.8	8.1		
56	13	A	3D-94	1	22.415	V a	安山岩	剥片		3.3	3.7	0.7	11.4	(安23)	
56	14	A	3C-19	33	22.070	V a	安山岩	剥片		3.7	4.3	0.9	14.7		
57	15	A	3D-23	2	22.183	VI	安山岩	剥片		3.7	5.2	1.7	26.4		
57	16	A	3D-22	1	22.210	VI	安山岩	剥片		4.5	4.1	0.9	21.6		
57	17	A	3D-43	1	22.230	V a	安山岩	剥片		3.2	3.2	1.0	9.2		
57	18	A	3D-12	1	22.322	IV	安山岩	剥片		2.7	1.9	0.7	3.0		
57	19	A	3D-42	2a	22.270	V a	安山岩	剥片		2.0	2.2	0.6	2.7		
57	20	A	3C-19	25	22.070	V a	安山岩	剥片		2.7	2.3	0.8	5.2		
57	21	A	3D-22	2	22.180	VI	安山岩	剥片		4.2	2.5	0.8	9.6		半割?
57	22	A	3C-19	8	22.135	IV	安山岩	剥片		4.0	2.1	0.4	5.3		
57	23	A	3C-19	24	22.071	V a	安山岩	剥片		4.7	1.5	0.9	2.0		
57	24	A	3C-18	2	22.177	IV	安山岩	剥片		1.5	3.4	0.8	4.0	安15	被熱?
57	24	A	3C-19	15	21.935	V a	安山岩	剥片 (小片)		1.3	2.0	1.3	1.3	安15	被熱?
57	25	A	3C-08	1	22.160	VI	安山岩	剥片 (小片)		1.5	1.7	0.6	1.8	安14	被熱?
57	25	A	3C-19	1	22.180	III	安山岩	剥片		2.0	3.0	1.1	5.6	安14	被熱?
57	25	A	3C-19	44	21.977	V a	安山岩	碎片		0.5	1.0	0.3	0.1	安14	被熱?
58	26	A	3D-42	6	22.075	V a	チャート	剥片 (小片)		2.2	2.4	0.7	2.4	同材料I	被熱白変
58	27	A	3D-42	3	22.143	V a	チャート	剥片		2.5	2.5	0.6	3.7	同材料I	被熱白変
58	28	A	3D-43	2	22.154	V a	チャート	剥片 (半欠)		2.7	2.1	1.0	4.4	同材料I	被熱白変
58	29	A	3D-43	4	22.210	V a	チャート	剥片 (下端欠)		3.5	1.9	0.7	6.4	同材料I	被熱白変
58	30	A	3C-19	47	22.022	V a	チャート	石核		4.5	4.7	2.0	34.0		

Aブロック

棟号	番号	ブロック	透視・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
58	31	A	3D-10	1	22.030	V a	凝灰岩	剥片	5.0	4.4	0.7	13.4		被熱白変
58	32	A	3D-23	3	22.203	VI	メノウ	剥片 (小片)	1.9	2.0	0.7	2.3	メ1	
58	32	A	3D-32	4	22.100	V a	メノウ	剥片 (大片)	3.3	4.2	1.5	21.9	メ1	
58	33	A	3D-48	3	21.935	V a	メノウ	剥片 (核部)	5.8	4.5	1.6	36.0		
58	34	A	3D-48	1	22.274	IV	メノウ	剥片 (小片)	1.6	2.4	0.6	1.6	メ2	
58	34	A	3D-48	2a	21.878	V a	メノウ	剥片 (小片)	2.0	1.7	0.3	0.8	メ2	
58	34	A	3D-48	2b	21.878	V a	メノウ	剥片 (小片)	1.6	1.9	0.3	0.7	メ2	
58	34	A	3D-48	2c	21.878	V a	メノウ	剥片 (小片)	1.1	1.3	0.3	0.5	メ2	
59	35	A	3C-19	19	22.044	V a	凝灰岩	剥片 (片)	5.9	2.3	1.8	18.8	他3	
59	35	A	3C-19	4a	22.045	VI	凝灰岩	剥片 (片)	6.3	3.9	2.0	36.1	他3	
59	35	A	3C-39	10	22.241	VI	凝灰岩	剥片 (片)	2.1	2.9	1.4	9.8	他3	
59	36	A	3D-34	1	22.143	V a	硅質粘板岩	剥片	6.6	3.7	0.6	31.4		
59	37	A	3D-32	2	22.163	VI	凝灰岩	石核	6.7	5.7	2.6	96.0	他1	
59	37	A	3D-32	3	22.170	VI	凝灰岩	剥片 (小片)	1.2	2.2	1.0	2.8	他1	
59	37	A	3D-33	3	22.041	V a	凝灰岩	剥片 (片)	2.5	2.1	1.2	4.1	他1	
59	38	A	3D-33	1	22.234	VI	チャート	剥片	6.1	2.1	0.8	9.2		
		A	3C-09	2	21.792	V a	安山岩	剥片 (小片)	1.5	1.5	0.8	2.0		
		A	3C-18	1	22.233	III	安山岩	碎片	1.1	1.5	0.3	0.4		
		A	3C-19	2	22.313	III	安山岩	碎片	1.1	2.0	0.5	0.8		
		A	3C-19	3	22.274	III	安山岩	剥片	1.9	1.3	0.5	1.1		
		A	3C-19	4	22.335	III	安山岩	剥片 (片)	4.0	(1.1)	1.0	3.2		
		A	3C-19	12	22.144	IV	安山岩	剥片	2.4	2.1	4.2	4.2		
		A	3C-19	14	21.951	V a	安山岩	碎片	2.0	1.2	1.3	1.3		
		A	3C-19	20	22.063	V a	安山岩	碎片	1.1	1.1	0.2	0.3		
		A	3C-19	21	22.072	V a	安山岩	碎片	0.6	1.0	0.4	0.3		
		A	3C-19	23	22.090	V a	安山岩	碎片	2.5	1.5	0.9	2.0		
		A	3C-19	30	22.024	V a	安山岩	剥片	2.5	3.8	1.4	12.1		
		A	3C-19	32	22.058	V a	安山岩	剥片	3.9	2.3	0.9	6.5		
		A	3C-19	36	22.095	VI	安山岩	碎片	1.6	1.4	0.5	0.7		
		A	3C-19	42	21.981	V a	安山岩	碎片	0.9	0.8	0.5	0.3		
		A	3C-19	43	21.985	V a	安山岩	碎片	1.5	1.5	0.5	1.0		
		A	3C-19	45	22.022	V a	安山岩	碎片	1.8	1.5	0.7	2.1		硬質
		A	3C-19	46	21.861	V a	安山岩	碎片	0.7	1.4	0.4	0.2		
		A	3C-19	49	21.950	V a	安山岩	碎片	1.7	0.9	0.6	0.9		
		A	3C-29	1	22.322	III	安山岩	碎片	1.0	0.9	0.8	0.3		
		A	3C-29	2	22.296	III	安山岩	碎片	1.5	2.3	1.4	3.8		
		A	3C-29	5	22.162	IV	安山岩	碎片	0.7	0.8	0.2	0.1		
		A	3C-29	6	22.123	VI	安山岩	碎片	0.9	1.2	0.2	0.2		
		A	3C-85	3	21.998	V a	安山岩	碎片	計測不可					
		A	3D-10	2	22.001	V a	安山岩	碎片	2.5	1.1	0.8	2.1		被熱白変
		A	3D-10	3	22.095	V a	安山岩	碎片	0.8	1.1	0.2	0.2		被熱白変
		A	3D-11	1	22.094	VI	安山岩	碎片	1.7	2.2	0.7	2.2		被熱白変
		A	3D-11	2	22.100	VI	安山岩	碎片	1.7	1.7	0.6	1.5		被熱白変
		A	3D-12	2	21.962	V a	安山岩	碎片	1.5	1.1	0.5	1.1		
		A	3D-12	3	21.855	V a	安山岩	碎片	1.4	2.4	0.5	1.6		被熱白変
		A	3D-21	1	22.103	VI	安山岩	剥片	4.1	3.0	0.6	14.3		
		A	3D-21	2	22.170	VI	安山岩	碎片	1.3	1.5	0.4	1.0		硬質
		A	3D-22	3	22.157	VI	安山岩	剥片 (片)	1.9	1.3	0.5	2.3		下端欠
		A	3D-22	4	22.170	VI	安山岩	剥片	3.5	2.0	1.6	9.5		
		A	3D-22	6	22.250	IV	安山岩	碎片	1.2	1.5	0.5	0.6		被熱白変

Aブロック															
採回	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		A	3D-30	1	22342	Ⅳ	安山岩	碎片		1.1	0.8	0.6	0.6		被熱白変
		A	3D-38	1	21726	Ⅴa	安山岩	剥片		2.5	3.4	1.0	7.8		
		A	3D-42	1	22421	Ⅵ	安山岩	剥片(下層欠)		2.0	1.0	0.5	1.0		
		A	3D-42	4	22150	Ⅴa	安山岩	碎片		1.3	1.4	0.6	1.2		
		A	3D-42	5	22153	Ⅴa	安山岩	碎片		2.3	1.0	0.9	1.7		
		A	3D-43	3	22077	Ⅴa	安山岩	碎片		1.4	1.3	0.7	1.1		
		A	3D-43	5	22100	Ⅴa	安山岩	石核(核部片)		2.0	3.9	1.6	14.6		
		A	3D-57	1	22175	Ⅳ	安山岩	碎片		2.2	0.9	0.4	0.5		
		A	3D-53	2	22035	Ⅴa	チャート	剥片		1.4	2.8	0.8	3.2		被熱?
		A	3D-44	1	21925	Ⅴa	チャート	碎片		1.0	1.6	0.7	0.8		
		A	3C-18	3	22124	Ⅵ	凝灰岩	剥片		4.6	4.1	1.1	19.3		
		A	3C-19	37	22110	Ⅵ	凝灰岩	碎片		1.4	2.5	1.3	3.9		焼
		A	3D-45	1	22430	Ⅲ	頁岩	剥片(片)		1.9	2.0	0.4	0.8		
Bブロック															
採回	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
60	1	B	3C-36	1	22540	Ⅲ	安山岩	碎片		1.0	1.4	0.8	1.2	安17	被熱・硬質
60	1	B	3C-36	2	22230	Ⅵ	安山岩	剥片(片)		2.0	1.8	0.9	4.0	安17	被熱・硬質
60	1	B	3C-46	2	22250	Ⅵ	安山岩	石核(核部)		3.8	4.4	3.2	58.6	安17	被熱・硬質
60	1	B	3C-57	2	22315	Ⅳ	安山岩	碎片		2.1	1.6	0.9	2.2	(安17)	硬質
60	2	B	3C-57	6	22382	Ⅳ	安山岩	剥片(小片)		2.5	1.6	0.8	3.0	安16	被熱・硬質
60	2	B	3C-57	7	22286	Ⅵ	安山岩	石核(核部)		2.7	3.7	4.0	40.8	安16	被熱・硬質
60	3	B	3C-95	6	22262	Ⅵ	安山岩	石核		3.6	3.7	2.6	36.7		
60	4	B	4C-01	5	22165	Ⅴa	安山岩(土ロ)	石核(円環状)		2.8	4.6	2.6	45.5		被熱白変
60	5	B	4C-26	2	22475	Ⅵ	安山岩	剥片		2.8	1.0	1.5	4.2	安59	硬質
60	5	B	4C-35	5	22285	Ⅴa	安山岩	剥片		2.9	2.0	1.2	8.8	安59	硬質
60	5	B	4C-35	8	22170	Ⅴa	安山岩	剥片(小)		1.7	1.0	0.4	0.4	安59	半割・硬質
61	6	B	4C-07	1	22685	Ⅵ	安山岩	剥片		2.7	1.9	0.6	2.5	安31	半割
61	6	B	4C-07	2	22424	Ⅴa	安山岩	剥片(片)	接	3.5	2.8	0.8	6.3	安31	
61	6	B	4C-07	6	22244	Ⅴa	安山岩	剥片		4.3	4.3	1.5	18.9	安31	硬質
61	6	B	4C-08	1	22700	Ⅳ	安山岩	剥片(小片)	接	3.5	2.8	0.8	6.3	安31	被熱?
61	7	B	4C-35	2	22330	Ⅴa	安山岩	剥片		3.6	1.1	1.0	4.4	安33	硬質
61	7	B	4C-36	6	22275	Ⅴa	安山岩	剥片		4.8	2.8	1.0	13.0	安33	硬質
61	7	B	4C-36	11	22230	Ⅴa	安山岩	剥片(細片)		1.3	0.6	0.4	0.2	安33	硬質
61	8	B	4C-04	3	22430	Ⅵ	安山岩	剥片		3.1	3.0	1.4	14.5	安32	硬質
61	8	B	4C-14	5	22395	Ⅴa	安山岩	剥片		4.4	2.5	1.1	10.6	安32	硬質
61	9	B	4C-36	14	22140	Ⅴa	安山岩	剥片		4.3	1.5	1.0	7.2		硬質
61	10	B	3C-94	7	22390	Ⅴa	安山岩	剥片		2.7	1.8	0.7	2.5		
61	11	B	4C-35	4	22320	Ⅴa	安山岩	剥片		1.9	2.3	0.7	2.6		硬質
61	12	B	3C-85	2	22475	Ⅵ	安山岩	剥片		2.2	2.5	1.2	5.4		硬質
61	13	B	4C-15	21	22340	Ⅴa	安山岩	剥片		3.1	2.5	1.1	7.6		半割
61	14	B	3C-88	2	22475	Ⅵ	安山岩	剥片		2.8	2.6	0.8	5.2		
61	15	B	4C-02	1	22530	Ⅳ	安山岩	剥片		2.7	2.0	0.9	3.3		半割
61	16	B	3C-84	4	22540	Ⅳ	安山岩	碎片		3.6	(2.1)	0.8	5.1		硬質
61	17	B	3C-95	5	22380	Ⅴa	安山岩	剥片(片)		3.4	2.3	1.0	6.6		硬質
61	18	B	3C-95	3	22300	Ⅴa	安山岩	剥片		3.5	2.6	0.5	4.3		硬質
62	19	B	4C-15	3	22430	Ⅴa	安山岩	剥片(片)		6.8	4.4	1.3	32.1	安34	
62	19	B	4C-16	3	22325	Ⅴa	安山岩	剥片(下層欠)		6.8	4.4	1.3	32.1	安34	
62	20	B	3C-19	17b	22076	Ⅴa	安山岩	碎片	接	6.1	4.5	1.1	24.6	安35	4C-25-14と接合

Bブロック

棟号	番号	フロア	建構・グリッド	建物の番号	標高	階位	石材	部種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
62	20	B	4C-25	14	22285	Ⅴa	安山岩	測片(大形)	接	6.1	4.5	1.1	24.6	安35	一部欠
62	21	B	4C-14	2	22610	Ⅵ	安山岩	測片(片)	接	4.0	2.7	0.5	6.8	安36	
62	21	B	4C-14	9	22243	Ⅴa	安山岩	測片(片)	接	4.0	2.7	0.5	6.8	安36	
62	21	B	4C-15	22	22458	Ⅵ	安山岩	測片(片)	接	4.0	2.7	0.5	6.8	安39	
62	22	B	4C-14	4	22380	Ⅴa	安山岩	測片		3.0	1.4	0.8	4.1	安37	半割
62	22	B	4C-14	10	22385	Ⅴa	安山岩	測片		3.0	1.9	0.8	4.5	安37	半割
62	23	B	4C-11	2	22030	Ⅴa	安山岩	測片		5.5	2.3	1.1	13.4		
62	24	B	3C-49	2	22255	Ⅵ	安山岩	測片		3.9	3.4	0.9	13.0		壊?
62	25	B	4C-15	13	22280	Ⅴa	安山岩	測片		(3.5)	2.8	0.9	7.0		
62	26	B	4C-25	1	22730	Ⅳ	安山岩	測片		2.6	2.7	0.5	3.3		
62	27	B	3C-99	1	22290	Ⅴa	安山岩	測片		2.9	2.9	0.6	4.9		
62	28	B	4C-02	2	22525	Ⅳ	安山岩	測片		2.8	(1.9)	0.6	3.4		半割
62	29	B	4C-04	1	22630	Ⅵ	安山岩	測片		4.1	2.7	0.8	9.2		半割
62	30	B	4C-15	19	22355	Ⅴa	安山岩	測片		3.2	2.3	0.6	3.5		半割
62	31	B	4C-13	2	22330	Ⅴa	安山岩	測片(片)	接	3.1	2.0	0.9	7.6	安38	被熱
62	31	B	4C-23	3	22310	Ⅴa	安山岩	砕片	接	3.1	2.0	0.9	7.6	安38	被熱
62	32	B	4C-15	16	22270	Ⅴa	安山岩	測片(小)		2.0	1.6	0.5	1.2		
62	33	B	4C-25	12	22380	Ⅴa	安山岩	測片(小)		1.7	1.5	0.3	0.6		
63	34	B	3C-84	6	22300	Ⅵ	安山岩	測片		(3.1)	3.1	1.8	11.6	(安18)	被熱・硬質
63	35	B	3C-84	5	22095	Ⅴa	安山岩	測片		3.9	2.3	1.1	6.7	安18	被熱・白変・硬質
63	35	B	3C-85	4	22019	Ⅴa	安山岩	砕片		1.4	0.8	0.4	0.4	安18	被熱・白変・硬質
63	36	B	3C-77	1	22502	Ⅳ	安山岩	測片		3.8	1.5	0.7	3.2	(安18)	被熱・硬質
63	37	B	3C-74	1	22405	Ⅳ	安山岩	測片		(4.1)	3.1	0.8	15.7	(安18)	被熱・硬質
63	38	B	3C-83	2	22280	Ⅳ	安山岩	測片		(4.3)	5.2	0.8	19.0	(安18)	被熱・白変・硬質
63	39	B	4C-05	7	22375	Ⅴa	安山岩	測片		2.8	3.4	0.5	4.2		被熱白変
63	40	B	4C-05	5	22310	Ⅴa	安山岩	石核		3.3	3.8	2.9	38.8		被熱白変
64	41	B	3C-49	3	22221	Ⅵ	チャート	石核(核部片)		5.0	4.8	2.5	67.0	同材料2	
64	42	B	3C-49	1	22363	Ⅳ	チャート	測片		4.5	3.4	0.8	10.5	同材料2	
64	43	B	4C-15	2	23360	Ⅱ b	チャート	測片(片)		3.2	1.9	0.4	2.5	同材料3	
64	44	B	4C-25	5	22465	Ⅴa	チャート	砕片		1.3	1.2	0.2	0.4	同材料3	
64	45	B	4C-25	4	22545	Ⅴa	チャート	測片(下層欠)		(1.8)	1.9	0.3	0.9	同材料3	
64	46	B	3C-95	2	22265	Ⅴa	結晶粘板岩	測片		2.5	3.5	0.8	7.5		
64	47	B	4C-14	6	22305	Ⅴa	チャート	測片(大・外)		5.2	4.7	1.3	29.8		
64	48	B	4C-11	1	22250	Ⅴa	チャート	測片		4.1	3.4	0.8	10.4		スレイバー?
64	49	B	4C-16	1	22740	Ⅳ	チャート	測片(下層欠)		2.9	3.0	0.7	4.7		
64	50	B	4C-07	3	22420	Ⅴa	チャート赤	測片		2.5	1.8	1.3	4.6	同材料5	半割
64	51	B	3C-58	1	22535	Ⅳ	チャート	測片(半欠)		2.7	1.1	0.8	1.8	チ3	チ2同材?
64	51	B	3C-68	5	22394	Ⅵ	チャート	測片(半欠)		2.6	1.2	0.6	1.5	チ3	チ2同材?
54	52	B	3C-58	6	22195	Ⅴa	チャート	測片(小片)		2.4	2.2	0.9	4.3	チ4	
64	52	B	3C-58	9	22150	Ⅴa	チャート	砕片		2.2	1.1	0.8	1.7	チ4	
64	53	B	3C-57	1	22560	Ⅳ	チャート	測片(片)		2.1	1.4	0.8	2.0	チ2	
64	53	B	3C-57	3	22238	Ⅵ	チャート	測片(半欠)		2.2	2.7	1.3	5.3	チ2	
64	53	B	3C-58	5	22222	Ⅴa	チャート	砕片		1.5	1.8	0.7	1.4	チ2	
64	53	B	3C-58	7	22264	Ⅵ	チャート	測片(半欠)		2.7	2.1	0.9	5.2	チ2	
64	53	B	3C-58	8	22120	Ⅴa	チャート	砕片		1.0	0.6	0.2	0.1	チ2	
64	53	B	3C-59	1	22320	Ⅵ	チャート	測片		2.0	1.7	1.2	6.4	チ2	
64	53	B	3C-68	3	22280	Ⅴa	チャート	砕片		1.5	0.5	0.7	0.4	チ2	
64	54	B	4C-15	1	23250	Ⅱ b	チャート	楔形		5.0	2.4	1.3	15.3		製品

Bブロック															
棟号	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
65	55	B	3C-78	1	22.462	IV	流紋岩	剥片		3.5	2.8	1.0	8.2	他2	被熱・赤変
65	55	B	3C-78	4	22.205	V a	流紋岩	横部 (片)		4.3	3.3	3.0	38.0	他2	被熱・赤変
65	55	B	3C-87	3	22.315	V a	流紋岩	石核		4.4	6.0	4.5	121.6	他2	被熱・赤変
65	56	B	3C-78	2	22.310	VI	流紋岩	剥片 (片)		2.6	5.1	1.2	11.9	(他2)	焼
65	57	B	3C-89	1	22.250	VI	流紋岩	剥片		2.2	2.0	0.5	2.2	(他2)	被熱・赤変
65	58	B	3C-88	1	22.385	V a	流紋岩	剥片		3.2	1.7	0.9	4.0		半割
65	59	B	4C-01	3	22.310	V a	メノウ	横部片		2.6	2.7	1.6	10.0	メ3	
65	59	B	4C-01	7	22.085	V a	メノウ	石核		2.4	2.8	2.2	15.0	メ3	
65	59	B	4C-01	8	21.985	V a	メノウ	剥片 (小)		2.1	1.8	0.5	1.4	メ3	黒縁フレンチ?
65	60	B	3C-77	2	22.402	VI	メノウ	剥片 (片)		1.5	2.1	0.7	1.7	阿材例4	
65	61	B	3C-78	3	22.135	V a	メノウ	剥片		1.8	2.6	0.7	1.9	阿材例4	
65	62	B	3C-87	6	21.975	V a	メノウ	剥片		2.8	2.0	0.9	5.5	阿材例4	半割
65	63	B	3C-83	1	22.395	IV	頁岩	剥片		3.9	5.2	0.8	10.7		被熱・変色
65	64	B	4C-08	2	22.280	V a	珪質粘板岩	剥片		2.8	1.8	0.8	2.4		被熱白変
65	65	B	4C-05	8	22.227	V a	凝灰岩	剥片 (下端欠)		(26)	2.6	0.4	2.2		
65	66	B	4C-01	6	22.135	V a	凝灰岩	石核 (円盤状)		3.9	4.9	3.3	71.5		被熱白変
		B	3C-49	4	21.943	V a	安山岩	碎片		1.8	1.1	0.6	1.1		被熱・白変
		B	3C-57	4	22.263	V a	安山岩	碎片		1.1	1.3	0.6	0.8		
		B	3C-67	1	22.655	IV	安山岩	剥片		2.8	1.5	1.1	4.3	(安16)	
		B	3C-67	4	22.310	VI	安山岩	碎片		1.2	0.6	0.3	0.2		
		B	3C-67	5	22.175	V a	安山岩	碎片		1.0	1.0	0.3	0.2		
		B	3C-68	2	22.296	VI	安山岩	碎片		1.7	0.9	0.4	0.5		硬質
		B	3C-68	4	22.242	V a	安山岩	剥片		3.1	1.6	0.8	4.2	(安17)	
		B	3C-74	2	22.235	V a	安山岩	碎片		3.1	1.0	0.8	2.1		
		B	3C-84	1	22.490	VI	安山岩	碎片		1.4	2.5	1.0	3.1		
		B	3C-84	2	22.500	VI	安山岩	剥片		2.2	1.8	0.4	1.6	(安16)	被熱
		B	3C-84	3	22.435	VI	安山岩	碎片		1.9	1.3	0.3	0.6		
		B	3C-85	1	22.490	VI	安山岩	碎片		1.1	1.7	0.8	1.3		
		B	3C-87	1	22.250	V a	安山岩	剥片 (片)		1.4	3.6	0.9	5.1		
		B	3C-87	2	22.235	V a	安山岩	剥片 (片)		1.5	2.4	0.8	3.1		
		B	3C-87	4	22.280	V a	安山岩	剥片		2.0	1.4	0.9	3.7		
		B	3C-94	1	22.490	V a	安山岩	碎片		1.9	1.4	0.6	1.2		
		B	3C-94	2a	22.375	V a	安山岩	剥片 (片)	接	3.0	3.0	1.0	7.4	接	
		B	3C-94	2b	22.375	V a	安山岩	剥片 (片)	接	3.0	3.0	1.0	7.4	接	
		B	3C-94	3	22.235	V a	安山岩	剥片		3.1	1.5	1.0	4.1		硬質
		B	3C-94	4	22.325	V a	安山岩	碎片		1.6	1.6	0.9	1.7		
		B	3C-94	5	22.325	V a	安山岩	碎片		1.7	1.5	0.6	1.6		
		B	3C-95	1	22.395	V a	安山岩	碎片		0.7	1.1	0.3	0.2		
		B	4C-05	3	22.780	IV	安山岩	剥片		2.3	1.5	1.0	3.6		半割
		B	4C-05	4	22.455	VI	安山岩	剥片		3.6	3.1	0.8	8.0		
		B	4C-05	6	22.275	V a	安山岩	碎片		0.6	1.5	0.5	0.3		
		B	4C-07	4	22.315	V a	安山岩	剥片 (片)		2.3	1.5	1.4	3.2		
		B	4C-13	3	22.385	V a	安山岩	碎片		2.0	1.7	0.8	1.5	(安38)	被熱
		B	4C-13	4	22.290	V a	安山岩	碎片		0.9	1.4	0.5	0.5		被熱
		B	4C-13	5	22.265	V a	安山岩	剥片 (小)		1.9	1.7	0.5	1.2		被熱
		B	4C-14	1	22.675	VI	安山岩	剥片		2.5	1.8	0.8	3.0		
		B	4C-14	3	22.635	VI	安山岩	剥片		2.3	2.0	0.5	2.0		
		B	4C-14	7	22.340	V a	安山岩	碎片		1.1	0.9	0.5	0.4		
		B	4C-14	8	22.310	V a	安山岩	碎片 (離断片)		0.6	0.7	0.4	0.1		
		B	4C-15	5	22.485	V a	安山岩	碎片		1.7	0.9	0.4	0.4		半割

B ブロック														
棟号	番号	ブロック	透視・グリッド	透物番号	標高	階位	石材	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		B	4C-15	6	22505	Ⅱa	安山岩	剥片	29	1.3	0.7	7.2		
		B	4C-15	7	22500	Ⅱa	安山岩	砕片	1.6	0.8	0.4	0.4		
		B	4C-15	8	22355	Ⅱa	安山岩	砕片	1.3	1.4	0.5	0.8		
		B	4C-15	10	22310	Ⅱa	安山岩	砕片 (微細片)	0.6	0.5	0.3	0.1		
		B	4C-15	11	22385	Ⅱa	安山岩	砕片	1.6	1.2	0.2	0.4		硬質
		B	4C-15	12	22320	Ⅱa	安山岩	剥片	1.8	3.5	0.5	2.7	安39	
		B	4C-15	14	22285	Ⅱa	安山岩	砕片 (細片)	1.0	0.7	0.2	0.1		
		B	4C-15	15	22275	Ⅱa	安山岩	砕片 (微細片)	0.3	0.5	0.3	0.1		
		B	4C-15	17	22735	Ⅱ	安山岩	剥片	3.5	1.6	0.7	3.3		
		B	4C-15	18	22325	Ⅱa	安山岩	砕片	2.0	0.7	0.9	0.8		
		B	4C-15	23	22280	Ⅱa	安山岩	砕片	1.8	3.5	0.5	2.7		
		B	4C-15	24	22275	Ⅱa	安山岩	砕片	1.2	0.8	0.5	0.5		硬質
		B	4C-15	25	22148	Ⅱa	安山岩	剥片	2.2	3.5	0.7	6.5		
		B	4C-23	2	22230	Ⅱa	安山岩	砕片	1.2	0.9	0.6	0.7		被熱
		B	4C-24	1	22360	Ⅱa	安山岩	砕片	1.3	1.5	0.4	0.6		
		B	4C-25	3	22565	Ⅱ	安山岩	砕片	0.9	1.3	0.4	0.3		硬質
		B	4C-25	10	22445	Ⅱa	安山岩	砕片	0.9	0.9	0.4	0.3		
		B	4C-25	16	22245	Ⅱa	安山岩	砕片 (微細片)	0.5	0.5	0.3	0.1		
		B	4C-26	3	22250	Ⅱa	安山岩	砕片	1.3	0.6	0.4	0.4		硬質
		B	4C-35	1	22410	Ⅱ	安山岩	剥片 (下端欠)	2.5	1.7	0.6	3.0		硬質
		B	4C-35	3	22330	Ⅱa	安山岩	砕片	1.1	0.9	0.5	0.5		硬質
		B	4C-35	7	22195	Ⅱa	安山岩	砕片	1.7	1.2	0.4	0.8		硬質
		B	4C-35	9	22020	Ⅱa	安山岩	砕片	1.5	1.3	0.5	1.1		硬質
		B	4C-36	1	22400	Ⅱ	安山岩	砕片	1.2	0.9	0.4	0.4		硬質
		B	4C-36	2	22345	Ⅱ	安山岩	砕片	1.2	0.5	0.3	0.2		硬質
		B	4C-36	3	22370	Ⅱ	安山岩	砕片	0.9	1.1	0.2	0.3		硬質
		B	4C-36	4	22390	Ⅱ	安山岩	砕片	1.5	0.5	0.3	0.3		硬質
		B	4C-36	5	22380	Ⅱ	安山岩	砕片	1.0	0.5	0.3	0.2		硬質
		B	4C-36	7	22280	Ⅱa	安山岩	砕片	1.9	0.8	0.4	0.6		硬質
		B	4C-36	8	22345	Ⅱa	安山岩	剥片	3.2	1.5	1.0	4.8		上下端注・硬質
		B	4C-36	9	22270	Ⅱa	安山岩	砕片 (細片)	1.0	0.5	0.3	0.1		硬質
		B	4C-36	10	22325	Ⅱa	安山岩	剥片	2.3	3.1	0.9	7.3		
		B	4C-36	13	22180	Ⅱa	安山岩	剥片	3.0	2.0	0.5	3.0		硬質
		B	4C-36	15	22350	Ⅱa	安山岩	砕片 (細片)	0.8	0.8	0.5	0.3		硬質
		B	4C-36	16	22065	Ⅱa	安山岩	砕片	1.6	1.1	0.7	1.2		
		B	4C-37	1	22320	Ⅱa	安山岩	剥片 (片)	3.0	1.3	0.8	3.1		硬質
		B	4C-37	2	22170	Ⅱa	安山岩	剥片	2.3	2.0	1.0	5.7		硬質
		B	3C-46	1a	22250	Ⅱ	チャート	剥片 (核部)	3.0	4.2	2.0	22.4		被熱?
		B	3C-46	1b	22250	Ⅱ	チャート	砕片	0.7	0.9	0.2	0.1		
		B	3C-46	1c	22250	Ⅱ	チャート	砕片	0.4	1.0	0.3	0.1		
		B	3C-56	1	22241	Ⅱ	チャート	砕片	1.2	1.4	0.3	0.6		
		B	3C-58	3	22530	Ⅱ	チャート	砕片	2.0	1.0	0.5	0.8	(チ2)	
		B	3C-58	4	22280	Ⅱ	チャート	剥片	1.9	2.1	0.7	2.9	(チ2)	
		B	3C-58	10	22124	Ⅱa	チャート	砕片	1.5	1.2	0.3	0.4	(チ4)	
		B	3C-87	5	22245	Ⅱa	チャート	砕片	0.8	1.1	0.3	0.1		
		B	4C-01	1	22390	Ⅱ	チャート	剥片	3.2	2.9	1.0	8.0		
		B	4C-01	4	22030	Ⅱa	チャート	剥片 (小)	1.5	1.0	0.3	0.5		手割
		B	4C-02	3	22300	Ⅱa	チャート	小円礫	4.0	3.4	2.0	35.7		被熱?
		B	4C-02	5	22135	Ⅱa	チャート	小円礫	3.8	3.4	2.5	42.8		

Bブロック															
採国	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考	
		B	4C-03	2	22630	Ⅱa	チャート	剥片	1.7	1.2	0.7	2.5			
		B	4C-15	26	22100	Ⅱa	チャート	剥片	2.9	1.6	0.4	1.5	同材料3		
		B	4C-23	1	22410	Ⅱa	チャート	剥片	3.5	1.1	0.7	1.5			
		B	4C-25	2	22710	Ⅳ	チャート	剥片 (下端欠)	0.9	1.7	0.3	0.3	同材料3		
		B	4C-25	6	22355	Ⅱa	チャート	砕片 (微細片)	0.5	0.5	0.2	0.1	同材料3		
		B	4C-25	7	22345	Ⅱa	チャート	剥片 (下端欠)	2.2	1.5	0.3	0.8	同材料3		
		B	4C-25	8	22420	Ⅱa	チャート	砕片	1.4	1.1	0.3	0.3	同材料3		
		B	4C-25	13	22295	Ⅱa	チャート	砕片	1.3	0.7	0.2	0.1	同材料3		
		B	4C-25	15	22380	Ⅱa	チャート	剥片	2.1	1.7	0.4	1.0	同材料3		
		B	3C-58	2	22605	Ⅳ	黒曜石	砕片	0.8	1.3	0.3	0.2			
		B	3C-67	2	22610	Ⅳ	黒曜石	砕片	1.8	1.2	0.4	0.6			
		B	3C-67	3	22536	Ⅳ	黒曜石	砕片	0.7	0.7	0.4	0.2			
		B	4C-17	1	21990	Ⅱa	黒曜石	砕片	不能						
		B	4C-41	1	22415	Ⅱa	黒曜石	剥片	3.0	2.9	1.3	6.7			
		B	4C-44	1	22535	Ⅳ	黒曜石	剥片	2.0	2.0	0.8	2.5	(黒1)	Cの欄目に入っている	
		B	4C-51	1	22370	Ⅲ	黒曜石	剥片	1.9	1.6	0.9	1.5			
		B	4C-02	4	22185	Ⅱa	硬砂岩	小円礫	4.0	3.7	2.1	39.3			
		B	4C-16	2	22775	Ⅳ	硬砂岩	剥片	2.6	1.9	0.4	1.7			
		B	4C-20	1	22440	Ⅲ	硬砂岩	円礫片	5.3	3.3	1.3	21.7		被熱未定	
		B	4C-25	9	22415	Ⅱa	硬砂岩	砕片 (細片)	1.0	0.9	0.2	0.1			
		B	4C-25	11	22330	Ⅱa	硬砂岩	剥片 (小)	1.8	1.4	0.2	0.5			
		B	3C-39	1b	22241	Ⅴ	凝灰岩	砕片	1.1	0.7	0.3	0.2	(他3)		
		B	4C-02	6	22170	Ⅱa	凝灰岩	小円礫	3.6	2.4	2.1	20.0		被熱未定	
		B	4C-05	2	23160	Ⅱb	凝灰岩	円礫 (核材)	8.0	7.4	4.5	313.3		被熱?	
		B	4C-26	1	23040	Ⅱc	凝灰岩	焼燼片	4.2	1.6	1.4	10.1			
		B	3C-68	1	22540	Ⅳ	メノウ	砕片	1.6	1.1	0.5	0.6			
		B	4C-07	5	22295	Ⅱa	花崗岩	焼燼片	8.7	5.3	2.8	137.8			
		B	3C-57	5	22250	Ⅴ	不明	剥片	3.1	2.2	1.0	7.0			
Cブロック															
採国	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考	
66	1	C	4D-55	2	22405	Ⅱ-Ⅲa	安山岩	剥片	3.5	2.5	1.0	10.3	安40	半割・硬質	
66	1	C	4D-64	18	22240	Ⅱa	安山岩	石核	6.9	6.4	5.1	289.2	安40	硬質	
66	2	C	4D-44	1	22360	Ⅴ	安山岩	剥片	2.4	4.1	0.8	6.6	安43	硬質	
66	2	C	4D-64	11	22216	Ⅱa	安山岩	剥片 (大)	3.8	4.9	1.3	26.5	安43	硬質	
66	2	C	4D-64	17	22221	Ⅱa	安山岩	石核 (核部)	3.0	4.6	3.3	64.1	安43	硬質	
67	3	C	3D-54	2	22167	Ⅴ	安山岩	石核 (核部片)	3.8	2.7	1.9	21.6	安19	硬質	
67	3	C	3D-55	3	22058	Ⅱa	安山岩	剥片	2.5	2.3	0.8	5.1	安19	硬質	
67	3	C	3D-64	2	22177	Ⅴ	安山岩	剥片	1.9	1.5	0.8	2.9	安19	硬質	
67	3	C	3D-65	1	22140	Ⅴ	安山岩	剥片	4.3	2.5	1.4	13.4	安19	硬質	
67	4	C	3D-55	2	22145	Ⅱa	安山岩	剥片 (片)	2.5	2.3	1.2	7.2	安20	硬質	
67	4	C	3D-64	4	22029	Ⅱa	安山岩	石核 (核部片)	5.0	2.6	2.3	32.3	安20	硬質	
67	4	C	3D-64	6	21927	Ⅱa	安山岩	砕片	1.8	0.9	0.6	0.8	安20	硬質	
67	4	C	3D-66	3	22130	Ⅱa	安山岩	石核 (核部片)	3.4	3.1	1.9	23.6	安20	硬質	
67	5	C	4D-43	12	22220	Ⅱa	安山岩	石核 (核部)	4.7	5.1	1.7	43.7	安41	硬質	
67	5	C	4D-54	4	22330	Ⅴ	安山岩	剥片	2.9	2.9	0.7	5.8	安41	硬質	
67	5	C	4D-54	13	22175	Ⅱa	安山岩	剥片 (片欠)	採	3.1	5.3	1.8	29.9	安41	4D64-1と接合・硬質
67	5	C	4D-54	16	22170	Ⅱa	安山岩	剥片	3.0	4.6	1.1	12.2	安41	硬質	
67	5	C	4D-64	1	22561	Ⅴ	安山岩	剥片 (上下欠)	採	3.1	5.3	1.8	29.9	安41	4D64-13と接合・硬質

Cブロック

棟号	番号	プロット	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
67	5	C	4D-64	9	22.441	VI	安山岩	剥片(小)		1.6	2.0	0.3	1.3	安41	硬質
67	5	C	4D-65	2b	22.221	Ⅴa	安山岩	砕片		0.9	0.9	0.3	0.2	安41	硬質
67	6	C	4D-42	6	22.270	Ⅴa	安山岩	砕片	接	4.3	4.0	1.1	18.8	安42	4D42-11と接合・硬質
67	6	C	4D-42	9	22.260	Ⅴa	安山岩	剥片		2.9	3.8	1.1	13.3	安42	硬質
67	6	C	4D-42	11	22.250	Ⅴa	安山岩	剥片	接	4.3	4.0	1.1	18.8	安42	4D42-6と接合・硬質
67	6	C	4D-42	15	22.277	Ⅴa	安山岩	砕片		1.3	1.3	0.3	0.7	安42	硬質
67	6	C	4D-42	16	22.195	Ⅴa	安山岩	剥片		4.1	4.0	1.0	12.4	安42	硬質
67	6	C	4D-42	23	22.265	Ⅴa	安山岩	剥片		2.1	4.0	0.8	7.2	安42	硬質
67	6	C	4D-42	26	22.140	Ⅴa	安山岩	剥片(片)		2.9	2.0	1.2	7.1	安42	
68	7	C	4D-42	3	22.524	IV	安山岩	剥片(片)		2.4	3.4	1.1	8.8	安46	硬質
68	7	C	4D-54	21	22.240	Ⅴa	安山岩	剥片(大)		6.5	3.4	1.2	29.9	安46	半割・硬質
68	7	C	4D-64	21	22.234	Ⅴa	安山岩	剥片		5.8	5.4	1.4	48.7	安46	象蹄的半割の好例・硬質
68	8	C	3D-91	1	22.325	IV	安山岩	剥片		3.5	3.0	1.0	10.8	安21	
68	8	C	3D-91	2	22.340	VI	安山岩	剥片		4.6	3.6	1.5	25.0	安21	被熟?
68	8	C	4D-01	1	22.230	Ⅴa	安山岩	剥片		5.2	2.5	0.9	10.3	安21	
68	9	C	3D-54	1	22.222	Ⅴa	安山岩	剥片		3.9	3.6	0.9	14.1		硬質
68	10	C	3D-64	1	22.395	IV	安山岩	剥片		1.9	3.3	1.5	6.3		
68	11	C	4D-43	7	22.250	Ⅴa	安山岩	剥片(大形)		5.3	4.2	1.7	39.3	安45	硬質
68	11	C	4D-54	14	22.250	Ⅴa	安山岩	剥片		2.9	3.3	0.0	6.2	安45	硬質
69	12	C	4D-25	1	22.160	Ⅴa	安山岩	剥片(大)		5.2	5.1	1.6	38.3	安49	半割
69	12	C	4D-42	30	22.110	Ⅴa	安山岩	剥片(大)		4.9	5.2	1.6	37.2	安49	
69	12	C	4D-43	15b	22.233	Ⅴa	安山岩	砕片		3.9	1.4	0.4	2.1	安49	
69	12	C	4D-43	17	22.230	Ⅴa	安山岩	剥片(片大)		4.3	3.6	1.3	16.8	安49	
69	12	C	4D-64	16	22.256	Ⅴa	安山岩	剥片		5.9	3.6	1.8	33.0	安49	半割
69	13	C	4D-53	3	22.200	Ⅴa	安山岩	剥片(小)		1.7	1.6	0.8	1.9	(安49)	
69	14	C	4D-42	25	22.165	Ⅴa	安山岩	剥片(小)		1.9	1.9	0.5	1.9	(安49)	硬質
69	15	C	3D-95	3	22.135	Ⅴa	安山岩	剥片		4.4	4.1	1.3	29.8		
70	16	C	4D-32	2	22.200	Ⅴa	安山岩	剥片		3.8	3.8	1.6	23.1	安44	硬質
70	16	C	4D-42	13	22.196	Ⅴa	安山岩	砕片		1.3	2.1	0.6	2.1	安44	硬質感
70	16	C	4D-42	29	22.105	Ⅴa	安山岩	剥片(下欠)		2.5	3.5	0.6	6.5	安44	硬質
70	17	C	4D-21	8	22.120	Ⅴa	安山岩	石核		3.3	5.2	2.3	34.2	安44	硬質
70	18	C	3D-55	1	22.120	Ⅴa	安山岩	石核(核部片)		3.8	3.6	2.5	42.9		
70	19	C	4D-22	2	22.145	Ⅴa	安山岩	剥片(大形)		3.1	5.3	1.4	18.4		硬質
70	20	C	4D-55	7	22.235	Ⅴ~Ⅴa	安山岩	剥片		3.9	2.5	1.6	13.8		硬質
70	21	C	4D-64	10	22.196	Ⅴa	安山岩	剥片(大)		5.4	3.4	1.5	25.7		硬質
70	22	C	4D-22	1a	22.210	Ⅴa	安山岩	剥片		4.2	2.9	1.5	19.9		硬質
71	23	C	4D-15	2	22.268	Ⅴa	安山岩	剥片(半欠)		5.1	2.3	1.2	15.5	安50	半・硬質
71	23	C	4D-16	8a	22.205	Ⅴa	安山岩	剥片(片半欠)		5.1	5.0	0.8	22.7	安50	半・硬質
71	24	C	4D-44	3	22.195	Ⅴa	安山岩	剥片(大形)		5.2	3.8	1.4	25.8		硬質
71	25	C	4D-66	2	22.220	Ⅴa	安山岩	剥片		4.2	5.2	0.9	24.7		
71	26	C	4D-45	1	22.483	IV	安山岩	剥片(片大)		5.3	3.5	1.6	36.7	安47	硬質
71	26	C	4D-46	3	22.275	Ⅴa	安山岩	剥片		2.9	1.5	1.0	3.3	安47	硬質
71	27	C	4D-46	2	22.260	Ⅴa	安山岩	剥片		2.7	4.3	0.9	10.8		硬質
71	28	C	4D-36	1	22.140	Ⅴa	安山岩	剥片		2.8	4.9	0.8	10.8		
71	29	C	3D-65	2	22.128	Ⅴa	安山岩	剥片		2.4	4.6	0.7	6.9		
71	30	C	4D-44	2	22.241	Ⅴa	安山岩	剥片(打欠)		3.2	4.7	0.8	10.4		硬質
71	31	C	4D-54	8	22.390	VI	安山岩	剥片		3.8	2.8	1.2	12.6		硬質
72	32	C	4D-11	2	22.175	Ⅴa	安山岩	剥片		2.7	3.7	0.9	9.7		硬質

Cブロック															
棟図	番号	フロア	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
72	33	C	4D-63	1	22340		安山岩	剥片		2.5	1.9	0.5	2.5		硬質
72	34	C	4D-42	21	22075	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.7	2.3	0.7	5.3		
72	35	C	4D-52	1	22405	Ⅵ	安山岩	剥片		2.7	2.7	0.6	5.5		硬質
72	36	C	4D-21	2		Ⅷ a	安山岩	剥片 (下端欠)		2.5	2.7	0.6	5.0		硬質
72	37	C	4D-26	4	22000	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.7	3.0	1.4	11.4		硬質
72	38	C	4D-14	1	22300	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.2	2.5	0.9	9.2		半割・硬質
72	39	C	4D-10	4	22385	Ⅷ a	安山岩	剥片		2.8	3.5	1.5	15.0		硬質
72	40	C	4D-15	6	22160	Ⅷ a	安山岩	剥片 (下端欠)		2.9	2.9	0.7	7.5		半割・硬質
72	41	C	4D-36	6	22190	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.6	2.6	1.6	12.2		硬質
72	42	C	4D-64	20	22181	Ⅷ a	安山岩	剥片 (両側欠)		3.6	2.0	1.0	9.1		硬質
72	43	C	4D-64	13	22342	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.8	2.3	0.6	4.9		半割・硬質
72	44	C	4D-46	9	21970	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.1	1.9	0.7	3.0		半割
72	45	C	4D-55	8	22184	Ⅶ～Ⅷ a	安山岩	剥片		2.3	2.1	0.6	3.7		半割・硬質
72	46	C	4D-66	1	22255	Ⅵ	安山岩	剥片		3.3	2.8	0.5	6.2		硬質
72	47	C	4D-32	3	22366	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.7	1.7	0.7	3.7		硬質
72	48	C	4D-46	1	22215	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.8	1.6	0.8	3.8		硬質
73	49	C	4D-35	2	22220	Ⅷ a	安山岩	剥片 (上欠)	接	7.4	3.8	2.2	56.4	安48	半割
73	49	C	4D-43	13	22185	Ⅷ a	安山岩	剥片 (下欠)	接	7.4	3.8	2.2	56.4	安48	半割
73	50	C	3D-94	2	22200	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.5	1.8	0.9	4.3		被熱?・半割
73	51	C	3D-85	2	22283	Ⅵ	安山岩	剥片 (片)	接	3.7	2.4	0.9	6.2	安23	被熱?
73	51	C	3D-93	7	22260	Ⅷ a	安山岩	剥片 (片)	接	3.7	2.4	0.9	6.2	安23	被熱?
73	52	C	4D-15	1	22455	Ⅷ a	安山岩	剥片 (小)	接	1.9	1.9	0.9	2.7	安51	硬質
73	52	C	4D-16	8b	22305	Ⅷ a	安山岩	砕片	接	1.9	1.9	0.9	2.7	安51	硬質
73	53	C	4D-54	1	22541	Ⅳ	安山岩	剥片		1.5	2.7	0.6	2.3		硬質
73	54	C	4D-00	3	22255	Ⅷ a	安山岩	剥片 (下欠)		2.8	3.6	0.7	9.4	安53	被熱・白変
73	54	C	4D-31	1	22460	Ⅵ	安山岩	剥片 (小)		2.1	2.2	1.0	4.5	安53	被熱・白変
73	55	C	4D-01	3	22285	Ⅷ a	安山岩	剥片 (下欠)	接	4.9	2.4	1.0	11.8	安52	被熱・白変・4D32-4と接合して計測
73	55	C	4D-21	6	22125	Ⅷ a	安山岩	砕片		1.3	1.2	0.3	0.3	安52	被熱・白変
73	55	C	4D-22	3	22210	Ⅷ a	安山岩	剥片 (大形)		4.8	4.2	1.3	21.5	安52	被熱・白変
73	55	C	4D-32	4	22168	Ⅷ a	安山岩	砕片	接	4.9	2.4	1.0	11.8	安52	被熱・白変・4D01-3と接合して計測
73	56	C	3D-93	10	22302	Ⅷ a	安山岩	剥片		4.3	2.7	1.4	13.4		被熱
73	57	C	3D-65	3	21972	Ⅷ a	安山岩	剥片		2.1	3.2	0.6	4.0		被熱
73	58	C	3D-71	1	22320	Ⅳ	安山岩	剥片		3.4	3.4	1.1	15.2		被熱
73	59	C	3D-90	1	22550	Ⅳ	安山岩	剥片		2.1	1.7	1.1	4.4	安22	被熱
73	59	C	3D-91	3	22290	Ⅵ	安山岩	剥片 (枝部)		3.1	4.3	2.9	32.6	安22	被熱
74	60	C	4D-05	12	22190	Ⅷ a	黒曜石	剥片 (片)		2.9	3.0	1.2	8.7	黒4	
74	60	C	4D-16	5a	22162	Ⅷ a	黒曜石	剥片 (半欠)		4.0	2.1	1.1	5.8	黒4	半欠
74	61	C	4D-04	1	22690	Ⅳ	黒曜石	剥片 (上下欠)		1.5	1.9	0.9	2.8	黒3	左側U直
74	61	C	4D-05	17	22110	Ⅷ a	黒曜石	剥片 (上下欠)		2.5	2.9	1.3	7.6	黒3	左側U直
74	61	C	4D-17	1	22080	Ⅷ a	黒曜石	剥片 (上欠)		2.7	1.7	1.4	4.8	黒3	側辺U直
74	62	C	4D-05	3	22200	Ⅷ a	黒曜石	剥片 (下欠)		3.2	2.4	0.6	3.7	黒2	左側U直か
74	62	C	4D-06	11	22050	Ⅷ a	黒曜石	剥片 (下端欠)	接	6.0	4.8	1.1	23.3	黒2	
74	62	C	4D-16	6a	22200	Ⅷ a	黒曜石	剥片	接	6.0	4.8	1.1	23.3	黒2	R直
74	62	C	4D-25	2	21870	Ⅷ a	黒曜石	剥片 (打欠)	接	6.0	4.8	1.1	23.3	黒2	U直
74	63	C	3E-50	3	22177	Ⅷ a	黒曜石	剥片		2.7	3.0	0.9	6.4		
74	64	C	4D-36	11	22000	Ⅷ a	黒曜石	剥片		2.5	2.0	1.1	5.2		半欠
74	65	C	4D-05	22	22010	Ⅷ a	黒曜石	剥片		3.0	2.3	0.5	3.1	黒5	U直・半欠

C ブロック

押固	番号	プロック	透視・ グリッド	透物 番号	標高	層位	石材	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考	
74	65	C	4D-06	5	22200	Ⅱa	黒曜石	剥片	24	2.7	0.7	3.7	黒5	側辺U痕・ 半欠	
74	65	C	4D-06	6	22330	Ⅱa	黒曜石	剥片	24	1.7	0.7	1.9	黒5	左側U痕・ 半欠	
74	65	C	4D-16	4	22375	Ⅱa	黒曜石	剥片	21	1.3	0.5	0.9	黒5	U痕・半欠	
74	66	C	4D-05	8	22365	Ⅱa	黒曜石	剥片	4.0	3.4	1.0	10.7		U痕	
74	67	C	4D-05	21	22050	Ⅱa	黒曜石	砕片	0.9	1.8	0.9	1.1	黒6		
74	67	C	4D-06	16	21910	Ⅱa	黒曜石	剥片(小)	1.6	1.0	0.2	0.4	黒6		
74	67	C	4D-15	5	22280	Ⅱa	黒曜石	剥片	3.2	2.4	0.8	4.9	黒6	接合(一部欠)?	
74	67	C	4D-15	8c	22000	Ⅱa	黒曜石	剥片(下端欠)	2.8	1.8	1.0	4.7	黒6		
74	68	C	4D-06	2	22702	Ⅱ	黒曜石	剥片	2.3	1.4	0.4	1.5			
74	69	C	4D-05	9b	22185	Ⅱa	黒曜石	剥片(下端欠)	2.2	2.8	0.6	2.2		被熱・下端流 性	
75	70	C	4D-06	12	22074	Ⅱa	黒曜石	剥片(両側欠)	2.0	1.6	0.3	0.9	黒8	Rあり・崩 壊?	
75	70	C	4D-16	1a	22638	Ⅱ	黒曜石	剥片(片)	1.2	1.7	0.3	0.4	黒8	1側辺にR	
75	70	C	4D-16	2a	22456	Ⅱa	黒曜石	剥片(片)	1.1	1.9	0.2	0.3	黒8		
75	71	C	4D-05	5	22175	Ⅱa	黒曜石	剥片(上欠)	2.4	2.6	0.5	2.0	黒7	U痕	
75	71	C	4D-16	3	22362	Ⅱa	黒曜石	剥片(下欠)	2.3	2.0	0.8	2.6	黒7	U痕	
75	72	C	3D-95	1	22265	Ⅱa	黒曜石	剥片(下端欠)	3.7	2.5	0.8	7.0			
75	73	C	4D-05	16	22010	Ⅱa	黒曜石	剥片(下側欠)	1.5	2.3	0.6	1.0			
75	74	C	4D-06	4	22196	Ⅱa	黒曜石	剥片(片側欠)	3.4	2.3	1.4	9.2		半欠	
75	75	C	4D-05	13	22041	Ⅱa	黒曜石	剥片	2.5	3.7	0.7	5.2		半欠	
75	76	C	4D-07	1	22718	Ⅱ	黒曜石	剥片(下側欠)	2.8	2.3	0.8	4.0	(黒1)		
75	77	C	3D-23	4	22432	Ⅱ	黒曜石	剥片	1.4	2.2	0.4	1.2	黒9		
75	77	C	3D-32	1	22482	Ⅱ	黒曜石	剥片(小片)	1.3	1.5	0.4	0.6	黒9		
75	78	C	4D-06	14	22017	Ⅱa	黒曜石	剥片	2.3	2.0	0.6	2.4		半欠	
75	79	C	4D-05	10	22160	Ⅱa	黒曜石	剥片	2.0	1.1	0.6	1.2		半欠	
75	80	C	4D-05	9a	22185	Ⅱa	黒曜石	剥片	2.3	4.0	1.3	11.6		半欠	
75	81	C	4D-06	4	22420	Ⅱa	黒曜石	剥片(上下欠)	接	3.9	3.3	2.0	22.9	黒1	
75	81	C	4D-06	8	22361	Ⅱa	黒曜石	剥片(下欠)	接	3.9	3.3	2.0	22.9	黒1	
75	82	C	4D-70	1	22244	Ⅱ	黒曜石	ナイフ	5.9	1.6	0.9	5.3			
75	83	C	4D-71	1	22295	Ⅱ	黒曜石	ナイフ	2.8	1.3	0.7	2.3			
76	84	C	4D-00	1	22890	Ⅱ	チャート	剥片	2.5	3.1	0.5	3.8	チ1		
76	84	C	4D-10	1	22500	Ⅱ	チャート	剥片(大形)	4.5	6.9	1.1	37.1	チ1		
76	84	C	4D-10	3	22330	Ⅱa	チャート	剥片(大形)	4.1	4.8	1.0	16.5	チ1		
76	84	C	4D-20	2	22000	攪乱	チャート	剥片	4.8	2.4	1.2	12.4	チ1		
76	84	C	4D-20	3	22480	Ⅱa	チャート	剥片	4.7	2.9	1.0	10.9	チ1		
76	84	C	4D-40	1	22200	Ⅱ	チャート	剥片(大外部)	7.0	5.7	2.1	67.6	チ1		
76	85	C	4D-00	2	22265	Ⅱa	チャート	剥片(外皮部)	2.6	2.1	0.3	1.7	(チ1)		
76	86	C	4D-01	5	22153	Ⅱa	チャート	剥片(小)	2.9	1.9	0.5	3.3	(チ1)		
76	87	C	4D-10	2	22185	Ⅱa	チャート	剥片(下端欠)	2.2	2.1	0.4	2.1	(チ1)		
76	88	C	4D-01	2	22320	Ⅱa	チャート	剥片(小)	2.1	2.9	0.4	2.0	(チ1)		
76	89	C	4D-42	24	22235	Ⅱa	チャート	剥片(核部片)	接	6.4	4.1	1.9	73.8	チ7	
76	89	C	4D-43	14	22205	Ⅱa	チャート	剥片(核部片)	接	6.4	4.1	1.9	73.8	チ7	円盤半割?
76	90	C	4D-42	18	22235	Ⅱa	チャート	剥片	4.3	4.0	2.1	31.8	(チ7)		
76	91	C	4D-43	15a	22233	Ⅱa	チャート	砕片	1.6	1.0	0.3	0.4	(チ7)		
76	92	C	4D-75	1	22456	Ⅱ	チャート	剥片(小)	1.6	2.5	0.3	1.6	(チ7)		
76	93	C	4D-26	3	22281	Ⅱa	チャート	剥片	3.6	2.0	0.3	3.5			
76	94	C	4D-24	1	22255	Ⅱa	チャート	剥片	2.9	3.2	0.8	7.5			
76	95	C	4D-05	14	22050	Ⅱa	チャート	剥片(下欠)	接	6.2	2.7	1.9	31.2	チ6	
77	95	C	4D-15	7	22125	Ⅱa	チャート	石核(核部か)	接	6.2	2.7	1.9	31.2	チ6	

Cブロック															
種別	番号	プロット	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
77	96	C	4D-05	11	22185	Ⅴ a	チャート	剥片		5.1	2.3	0.8	7.8	(子6)	
77	97	C	4D-05	15	22021	Ⅴ a	チャート	剥片(外皮部)		2.0	2.8	0.9	5.6	(子6)	
77	98	C	4D-42	31	22120	Ⅴ a	チャート	剥片(片)	接	4.0	7.1	0.7	50.2	子5	
77	98	C	4D-43	8	22285	Ⅴ a	チャート	剥片	接	4.0	7.1	0.7	50.2	子5	半欠
77	98	C	4D-43	11	22295	Ⅴ a	チャート	剥片	接	4.0	7.1	0.7	50.2	子5	半欠
77	99	C	4D-43	10	22333	Ⅴ a	チャート	剥片		2.6	3.3	0.5	4.2	(子5)	
77	100	C	4D-54	7	22340	Ⅴ	チャート	剥片		4.5	2.7	1.0	11.2		
77	101	C	4D-42	20	22220	Ⅴ a	チャート赤	剥片(大)		4.8	4.2	1.4	27.3	同材料5	半割
77	102	C	4D-54	18	22295	Ⅴ a	チャート赤	石核(核部片)		2.3	3.1	2.1	12.7	同材料5	
77	103	C	4D-54	22	22118	Ⅴ a	チャート赤	剥片(半外部)		3.1	1.4	0.7	4.0	同材料5	
77	104	C	3D-89	1	22383	Ⅴ	頁岩	剥片		3.1	1.6	0.5	2.5		ナイフ?
77	105	C	4D-32	1	22800	Ⅳ	頁岩	剥片(下欠)		2.2	1.6	0.3	1.1		
77	106	C	3D-83	2	22495	Ⅴ	陸質粘板岩	剥片(下端欠)		2.6	2.0	0.9	2.7		
77	107	C	3D-71	2	22255	Ⅳ	陸質粘板岩	剥片		4.8	4.7	1.3	20.1		
78	108	C	4D-05	6	22242	Ⅴ a	メノウ	剥片(大形)		4.7	4.4	1.9	35.2	同材料6	
78	109	C	4D-16	7	22140	Ⅴ a	メノウ	剥片(大形)		4.6	3.7	1.5	22.1	同材料6	
78	110	C	4D-56	1	22218	Ⅴ a	メノウ	剥片		3.4	3.8	1.1	17.3		
78	111	C	4D-55	3	22277	Ⅴ~Ⅴ a	メノウ	剥片(半欠)		4.1	1.2	0.6	3.2		半欠
78	112	C	3D-74	1	22599	Ⅳ	メノウ	剥片		2.3	2.2	0.7	2.9		
78	113	C	3D-95	2	22440	Ⅴ a	流紋岩	剥片(片)		4.1	2.0	0.4	3.6	他4	
78	113	C	3D-96	1	22240	Ⅴ a	流紋岩	剥片		2.6	2.2	0.6	2.3	他4	
78	114	C	4D-36	4	22100	Ⅴ a	流紋岩	剥片		3.7	1.9	0.7	6.5	同材料8	半割
78	115	C	3D-83	3	22382	Ⅴ a	流紋岩	剥片(打欠)		(3.9)	1.8	0.6	5.2		
78	116	C	4D-54	9	22380	Ⅴ	チャート	剥片(外部)		3.4	2.6	1.3	11.2	同材料7	
78	117	C	4D-54	10	22316	Ⅴ	チャート	剥片(外部)		2.3	3.0	0.7	3.9	同材料7	
		C	3D-53	1	22010	Ⅴ a	安山岩	剥片(片)		1.8	1.9	0.7	2.3		
		C	3D-54	3	22013	Ⅴ a	安山岩	剥片(片)		1.6	2.5	1.0	3.8		
		C	3D-64	3	22107	Ⅴ a	安山岩	剥片		1.2	0.6	0.3	0.1		
		C	3D-64	5	22099	Ⅴ a	安山岩	剥片		2.7	1.7	0.5	1.8		半割・硬質
		C	3D-64	7	22000	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.7	1.0	0.6	0.9		硬質
		C	3D-74	2	22220	Ⅴ	安山岩	剥片(小片)		1.1	2.2	1.5	3.1		硬質
		C	3D-81	1	22160	Ⅴ	安山岩	碎片		1.8	1.4	1.0	2.2		硬質
		C	3D-82	1	22530	Ⅴ	安山岩	碎片		1.9	0.7	0.5	0.8		
		C	3D-83	1	22460	Ⅴ	安山岩	碎片		1.0	1.1	0.3	0.3		
		C	3D-85	1	22202	Ⅴ a	安山岩	石核		3.5	3.6	2.7	50.5		
		C	3D-92	1	22380	Ⅴ	安山岩	碎片		1.0	1.0	0.4	0.4		
		C	3D-92	2	22260	Ⅴ	安山岩	碎片		0.9	0.6	0.2	0.1		
		C	3D-93	1	22630	Ⅳ	安山岩	碎片		1.7	0.9	0.3	0.5		
		C	3D-93	3	22567	Ⅴ	安山岩	剥片		3.5	2.7	0.7	5.7		
		C	3D-93	4	22522	Ⅴ	安山岩	剥片		2.4	1.5	0.4	1.8		
		C	3D-93	5	22660	Ⅳ	安山岩	剥片		2.7	1.7	0.9	5.0		
		C	3D-93	6	22330	Ⅴ a	安山岩	剥片		2.9	3.6	1.2	11.0		
		C	3D-93	9	22155	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.6	2.0	0.7	1.9		
		C	3D-94	3	22170	Ⅴ a	安山岩	剥片		2.4	2.2	1.4	7.4		
		C	4C-19	1	22160	Ⅴ a	安山岩	剥片		2.4	3.0	0.7	4.2		
		C	4D-00	4	22420	Ⅴ	安山岩	剥片		1.3	1.3	0.5	0.9		
		C	4D-01	4	22195	Ⅴ a	安山岩	剥片(小、下端欠)		1.7	1.4	0.4	1.0		
		C	4D-02	1	22330	Ⅴ a	安山岩	剥片(小)		1.8	2.0	0.4	0.9		
		C	4D-11	1	22419	Ⅴ	安山岩	剥片		2.4	1.6	0.4	1.7		

Cブロック

種別	番号	プロット	透視・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考	
		C	4D-11	3	22.130	Ⅲ a	安山岩	碎片(細片)	1.2	0.6	0.2	0.2			
		C	4D-15	3	22.327	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.8	2.8	0.8	3.3		硬質	
		C	4D-15	4	22.377	Ⅲ a	安山岩	碎片	1.0	0.8	0.2	0.2		硬質	
		C	4D-15	9	21.950	Ⅲ a	安山岩	剥片(小・半欠)	1.9	1.2	0.2	0.6		半割・硬質	
		C	4D-16	5b	22.162	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.5	0.7	0.3	0.3		硬質	
		C	4D-21	1	22.300	Ⅳ	安山岩	剥片	1.4	1.0	0.2	0.5		被熱・白変	
		C	4D-21	3	22.300	Ⅲ a	安山岩	剥片	0.5	1.1	0.2	0.1		被熱・白変	
		C	4D-21	4	22.230	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.0	1.6	0.4	0.7			
		C	4D-21	5	22.215	Ⅲ a	安山岩	剥片(小)	1.2	2.6	0.6	1.9			
		C	4D-21	7	22.160	Ⅲ a	安山岩	剥片	2.9	1.3	0.5	2.1			
		C	4D-21	9a	22.020	Ⅲ a	安山岩	剥片(上下欠)	1.6	1.9	0.4	1.0			
		C	4D-21	9b	22.020	Ⅲ a	安山岩	剥片(微細片)	0.8	0.5	0.2	0.1		被熱・白変	
		C	4D-21	10	22.070	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.5	0.9	0.4	1.0		被熱・白変	
		C	4D-22	1b	22.210	Ⅲ a	安山岩	剥片(細片)	0.5	0.7	0.3	0.1		被熱・白変	
		C	4D-22	4	22.265	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.2	0.9	0.3	0.4		被熱・白変	
		C	4D-26	2	22.580	Ⅳ	安山岩	剥片	3.5	2.5	0.9	5.8		半割・硬質	
		C	4D-31	2	22.360	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.1	1.4	0.4	0.6		被熱・白変	
		C	4D-31	3	22.335	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.5	0.6	0.4	0.5		被熱・白変	
		C	4D-31	4	22.975	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.4	0.8	0.2	0.2		被熱・白変	
		C	4D-35	1	22.200	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.2	1.3	0.4	0.4			
		C	4D-36	2	22.210	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.1	0.9	0.5	0.5			
		C	4D-36	5	22.095	Ⅲ a	安山岩	剥片	2.6	1.9	0.6	2.7			
		C	4D-36	7	22.175	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.9	0.8	0.3	0.5			
		C	4D-36	8b	21.975	Ⅲ a	安山岩	剥片(微細片)	0.6	0.5	0.3	0.1		被熱・白変	
		C	4D-36	10	22.010	Ⅲ a	安山岩	剥片	接	1.7	2.3	0.4	2.1		
		C	4D-42	2	22.608	Ⅳ	安山岩	剥片	1.9	2.4	0.7	3.4		半割	
		C	4D-42	5	22.400	Ⅳ	安山岩	剥片	1.6	3.8	1.0	5.6		硬質	
		C	4D-42	8	22.363	Ⅲ a	安山岩	剥片(小)	1.6	1.7	0.5	1.6			
		C	4D-42	10	22.338	Ⅲ a	安山岩	剥片	2.6	0.6	0.3	0.7			
		C	4D-42	14	22.375	Ⅲ a	安山岩	剥片(細片)	0.7	0.7	0.2	0.1			
		C	4D-42	17	22.320	Ⅲ a	安山岩	剥片(片)	2.1	0.6	0.7	2.1			
		C	4D-42	19	22.190	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.7	2.4	1.0	4.0			
		C	4D-42	22	22.165	Ⅲ a	安山岩	剥片	0.8	1.4	0.6	0.6			
		C	4D-42	28	22.110	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.3	0.8	0.3	0.4			
		C	4D-42	32a	21.942	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.5	0.8	0.4	0.4			
		C	4D-42	32b	21.942	Ⅲ a	安山岩	剥片(微細片)	0.6	0.7	0.2	0.1			
		C	4D-42	33	22.565	Ⅲ	安山岩	剥片(細片)	0.9	0.7	0.2	0.1			
		C	4D-42	34	22.400	Ⅳ	安山岩	剥片(片小)	1.8	1.3	0.4	1.3			
		C	4D-43	1	22.650	Ⅳ	安山岩	剥片(打欠)	1.6	1.8	0.7	1.9			
		C	4D-43	2	22.585	Ⅳ	安山岩	剥片	1.2	0.7	0.3	0.3			
		C	4D-43	4	22.377	Ⅳ	安山岩	剥片	1.5	1.1	0.6	1.1			
		C	4D-43	6	22.250	Ⅲ a	安山岩	剥片(細片)	1.0	0.6	0.5	0.3		2点	
		C	4D-43	6	22.250	Ⅲ a	安山岩	剥片(細片)	0.6	0.9	0.2	0.1		2点	
		C	4D-43	15c	22.233	Ⅲ a	安山岩	剥片(細片)	1.0	0.5	0.2	0.2			
		C	4D-43	16	22.385	Ⅳ	安山岩	剥片	2.2	1.4	0.5	1.8		半割	
		C	4D-45	2	22.219	Ⅲ a	安山岩	剥片	2.2	1.7	0.4	2.1			
		C	4D-46	4	22.217	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.6	1.9	0.5	1.9			
		C	4D-46	5	22.103	Ⅲ a	安山岩	剥片	2.4	1.6	0.7	2.2			
		C	4D-46	6	22.184	Ⅲ a	安山岩	剥片	1.8	2.5	1.2	4.9			
		C	4D-46	7	22.060	Ⅲ a	安山岩	剥片	0.9	0.8	0.2	0.3			

Cブロック															
棟号	番号	プロット	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		C	4D-46	8	22035	Ⅴ a	安山岩	剥片(片)		1.3	1.6	0.4	0.8		
		C	4D-52	2	22333	Ⅵ	安山岩	碎片		1.9	1.0	0.3	0.7		
		C	4D-52	3	22530	Ⅳ	安山岩	剥片(小1割欠)		1.5	2.2	0.2	1.0		
		C	4D-53	2	22202	Ⅴ a	安山岩	碎片		0.6	1.3	0.2	0.2		
		C	4D-54	2	22440	Ⅵ	安山岩	碎片		1.8	0.8	0.3	0.5		
		C	4D-54	3	22415	Ⅵ	安山岩	碎片		1.5	1.1	0.4	0.8		
		C	4D-54	5	22340	Ⅵ	安山岩	剥片(小)		2.3	1.2	0.4	1.2		
		C	4D-54	6	22341	Ⅵ	安山岩	碎片		0.9	0.9	0.2	0.1		
		C	4D-54	12	22177	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.0	0.7	0.3	0.3		
		C	4D-54	15	22182	Ⅴ a	安山岩	碎片		2.1	1.0	0.5	1.2		
		C	4D-54	17	22180	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.0	0.8	0.4	0.4		
		C	4D-54	19	22177	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.7	0.9	0.2	0.4		
		C	4D-54	20	22180	Ⅴ a	安山岩	剥片(小)		2.2	2.0	0.5	2.4		
		C	4D-55	4	22327	Ⅴ~Ⅵ a	安山岩	碎片		0.9	2.0	0.3	0.6		
		C	4D-55	6	22264	Ⅴ~Ⅵ a	安山岩	碎片		1.5	0.8	0.3	0.5		
		C	4D-55	9	22202	Ⅴ~Ⅵ a	安山岩	碎片		1.7	0.7	0.2	0.2		
		C	4D-57	1	22355	Ⅵ	安山岩	碎片		1.7	0.8	0.3	0.5		
		C	4D-64	2	22555	Ⅵ	安山岩	碎片		1.1	1.1	0.7	1.1		
		C	4D-64	3	22500	Ⅵ	安山岩	剥片		2.1	1.2	0.4	0.8		半割
		C	4D-64	4	22395	Ⅵ	安山岩	碎片		1.2	1.1	0.1	0.2		
		C	4D-64	5	22460	Ⅵ	安山岩	碎片		1.6	1.1	0.7	1.2		
		C	4D-64	6	22470	Ⅵ	安山岩	碎片		0.9	2.1	0.5	1.6		
		C	4D-64	7	22395	Ⅵ	安山岩	剥片(小下欠)		2.1	1.5	0.3	1.4		
		C	4D-64	8	22375	Ⅵ	安山岩	碎片		2.0	1.0	0.2	0.5		
		C	4D-64	12	22270	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.1	1.3	0.2	0.2		
		C	4D-64	15	22397	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.0	0.7	0.2	0.2		
		C	4D-64	19a	22280	Ⅴ a	安山岩	剥片		2.8	2.0	0.8	3.9		縦貫
		C	4D-64	19b	22280	Ⅴ a	安山岩	剥片		1.8	1.7	0.4	1.5		
		C	4D-64	22	22110	Ⅴ a	安山岩	碎片		0.8	0.8	0.5	0.5		
		C	4D-64	23	22235	Ⅴ a	安山岩	碎片(細片)		0.8	0.6	0.1	0.1		
		C	4D-64	24	22340	Ⅴ a	安山岩	剥片(小片)		1.1	1.5	0.2	0.7		
		C	4D-65	1		Ⅴ a	安山岩	碎片		2.4	0.9	0.4	0.8		
		C	4D-65	2a	22221	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.3	0.9	0.0	0.5		
		C	4D-65	3	22115	Ⅴ a	安山岩	碎片		1.4	0.9	0.4	0.7		
		C	4D-75	2	22342	Ⅵ	安山岩	剥片(打欠)		1.3	2.0	0.4	1.1		
		C	3D-93	8	22303	Ⅴ a	チャート	剥片(核部)		4.0	3.9	3.0	31.9		
		C	4D-00	5	22270	Ⅴ a	チャート	剥片(小)		2.8	1.5	0.8	2.9		(子1)
		C	4D-05	18	22115	Ⅴ a	チャート	碎片		1.5	1.2	0.4	0.5		(子6)
		C	4D-06	3	22581	Ⅵ	チャート	碎片		4.0	1.5	0.4	0.6		
		C	4D-06	13	22000	Ⅴ a	チャート	剥片		4.4	3.0	1.6	15.6		
		C	4D-42	1	22490	Ⅳ	チャート	剥片(打欠)		1.6	1.9	0.3	0.6		(子5)
		C	4D-42	4a	22286	Ⅴ a	チャート	剥片(細片)		1.1	0.8	0.2	0.1		
		C	4D-42	7	22358	Ⅴ a	チャート	碎片		2.1	1.8	1.3	3.9		(子5)
		C	4D-42	12	22230	Ⅴ a	チャート	碎片		1.2	1.3	0.5	0.5		(子5)
		C	4D-42	27	22300	Ⅴ a	チャート	剥片		3.7	3.3	0.8	9.5		
		C	4D-43	3	22372	Ⅵ	チャート	碎片		2.2	1.2	0.6	1.5		(子5)
		C	4D-43	5	22170	Ⅴ a	チャート	剥片(片)		1.7	2.6	1.1	4.3		(子5)
		C	4D-43	9	22180	Ⅴ a	チャート	剥片	横	3.6	4.5	0.8	9.8		子5

Cブロック															
押戻	番号	ブロック	透視・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		C	4D-53	1	22356	VI	チャート	剥片		3.6	4.5	0.8	9.8	チ5	半欠
		C	4D-05	1	22.638	III	黒曜石	剥片		2.8	2.5	0.6	2.7		
		C	4D-05	2	22.536	VI	黒曜石	砕片(細片)		1.0	0.6	0.3	0.1		
		C	4D-05	7	22.195	Ⅴa	黒曜石	砕片		2.5	0.6	0.6	1.1		
		C	4D-05	19	22.122	Ⅴa	黒曜石	砕片		1.1	1.1	0.5	0.5		
		C	4D-05	20	22.122	Ⅴa	黒曜石	砕片		1.3	1.0	0.4	0.4		
		C	4D-05	24	21.940	Ⅴa	黒曜石	砕片		1.4	0.6	0.5	0.2		
		C	4D-06	1	22.644	IV	黒曜石	剥片(上欠)		1.1	1.6	0.4	0.4		
		C	4D-06	7a	22.360	Ⅴa	黒曜石	剥片(小)		1.8	1.4	0.5	1.3		
		C	4D-06	7b	22.360	Ⅴa	黒曜石	砕片(細片)		1.4	0.4	0.3	0.1		
		C	4D-06	9	22.120	Ⅴa	黒曜石	剥片		1.7	1.4	0.5	0.7		
		C	4D-06	15	21.902	Ⅴa	黒曜石	剥片(小)		1.4	1.6	0.3	0.4		
		C	4D-15	8a	22.000	Ⅴa	黒曜石	砕片		0.6	0.7	0.3	0.1		
		C	4D-15	8b	22.000	Ⅴa	黒曜石	砕片		0.9	0.5	0.2	0.1		
		C	4D-16	1b	22.638	VI	黒曜石	剥片		1.9	1.5	0.5	1.0		半欠
		C	4D-16	2b	22.456	VI	黒曜石	砕片		0.9	0.9	0.3	0.2		
		C	4D-16	6b	22.200	Ⅴa	黒曜石	砕片		1.2	0.3	0.2	0.1		
		C	4D-16	9	22.080	Ⅴa	黒曜石	剥片		2.1	1.3	0.6	1.0		
		C	4D-34	1	22.043	Ⅴa	黒曜石	剥片(下欠)		2.1	1.1	0.5	0.7		
		C	4D-42	4b	22.286	Ⅴa	黒曜石	砕片(微細片)		0.6	0.5	0.2	0.1		
		C	4D-42	4c	22.286	Ⅴa	黒曜石	砕片(微細片)		0.4	0.3	0.1	0.1		
		C	4D-42	4d	22.286	Ⅴa	黒曜石	砕片(微細片)		0.3	0.3	0.2	0.1		
		C	4D-64	14	22.374	Ⅴa	硬砂岩	礫細片		2.2	0.6	0.5	0.4		
		C	3D-95	4	22.035	Ⅴa	流紋岩	砕片	計測不可						
		C	3D-96	2	22.230	Ⅴa	流紋岩	剥片		1.4	1.2	0.4	0.4	(他4)	
		C	3D-59	3	22.095	Ⅴa	流紋岩	剥片(小片)		1.8	1.7	0.8	2.0	同材例8	
		C	4D-26	1	22.782	III	頁岩	剥片(様上ひか)		1.6	2.1	1.3	4.0		U痕
		C	4D-53	4	22.220	Ⅴa	頁岩	砕片		2.7	0.6	0.6	0.7	同材例9	
		C	4D-54	11	22.250	Ⅴa	頁岩	砕片		2.7	0.7	1.0	2.2	同材例9	
Dブロック															
押戻	番号	ブロック	透視・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
79	1	D	3E-61	7	22.156	Ⅴa	安山岩	剥片		3.9	3.0	1.2	10.7	安24	硬質
79	1	D	3E-61	8	22.182	Ⅴa	安山岩	剥片	接	4.2	4.2	1.1	22.4	安24	硬質
79	1	D	3E-61	9	21.919	Ⅴa	安山岩	剥片		2.0	4.2	0.7	5.3	安24	硬質
79	1	D	3E-62	1	22.483	VI	安山岩	砕片	接	4.2	4.2	1.1	22.4	安24	被熱・硬質
79	1	D	3E-71	3	22.115	VI	安山岩	剥片		3.3	3.1	1.1	13.5	安24	硬質
79	1	D	3E-71	4	22.130	VI	安山岩	剥片		4.2	3.9	1.4	24.5	安24	硬質
79	2	D	3E-60	4	22.598	Ⅴa	安山岩	剥片(小片)		2.0	1.3	0.7	1.6	安25	
79	2	D	3E-60	11	22.465	Ⅴa	安山岩	剥片(大)		6.4	3.4	1.3	31.9	安25	
79	2	D	3E-60	19	22.080	Ⅴa	安山岩	砕片		1.9	1.4	1.0	1.9	安25	
79	2	D	3E-70	12	22.000	Ⅴa	安山岩	剥片(小片)		2.8	1.8	0.7	3.0	安25	
79	3	D	3E-60	13	22.660	Ⅴa	安山岩	剥片	接	7.2	3.7	1.4	27.8	安28	
79	3	D	3E-70	3	22.228	Ⅴa	安山岩	剥片	接	7.2	3.7	1.4	27.8	安28	半割
79	4	D	3E-43	10	22.010	Ⅴa	安山岩	剥片		2.6	2.3	0.6	3.8	安26	被熱?
79	4	D	3E-43	11	22.010	Ⅴa	安山岩	剥片(片)	接	4.0	3.0	0.6	6.6	安26	被熱?
79	4	D	3E-43	12	21.896	Ⅴa	安山岩	剥片(片)	接	4.0	3.0	0.6	6.6	安26	被熱?
79	4	D	3E-53	3	21.953	Ⅴa	安山岩	砕片		1.8	1.3	0.3	0.7	安26	被熱?
79	4	D	3E-62	3	22.390	IV	安山岩	剥片		4.0	3.5	0.7	9.2	安26	被熱?
79	5	D	3E-60	2	22.585	Ⅴa	安山岩	剥片(片)	接	2.9	4.3	0.8	10.2	安27	

Dブロック															
採回	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
79	5	D	3E-70	5	22.137	V a	安山岩	剥片(下端欠)	接	2.9	4.3	0.8	10.2	安27	
79	5	D	3E-70	6	22.100	VI	安山岩	碎片		2.4	1.2	0.3	0.9	安27	
80	6	D	3E-71	9	22.015	V a	安山岩	剥片		2.6	3.1	1.0	9.7		
80	7	D	3E-71	11	21.955	V a	安山岩	剥片		2.1	3.0	0.6	3.4		
80	8	D	3E-71	1	22.446	VI	安山岩	剥片		2.3	2.2	0.4	2.2		
80	9	D	3E-70	2	22.197	V a	安山岩	剥片		2.5	3.4	0.7	6.2		
80	10	D	3E-60	15	22.473	V a	安山岩	剥片(打欠)		3.5	3.3	0.8	6.8		
80	11	D	3D-69	3	22.252	V a	安山岩	剥片(下端欠)		3.0	1.8	0.4	2.2		
80	12	D	3E-61	4	22.999	V a	安山岩	剥片(下端欠)		1.8	2.3	0.7	2.0		
80	13	D	3E-40	2	22.253	IV	安山岩	剥片(片)		1.5	4.0	1.0	4.7		
80	14	D	3E-43	3	22.292	IV	安山岩	剥片		3.2	1.2	0.7	2.6		
80	15	D	3E-70	1	22.182	V a	安山岩	剥片		3.7	2.2	0.7	5.6		
80	16	D	3E-40	1	22.328	IV	安山岩	剥片(下端欠)		3.1	2.0	0.5	3.1		被熱白変
80	17	D	3E-60	8	22.547	V a	安山岩	剥片	接	3.6	2.3	0.8	6.0	安60	半割
80	17	D	3E-60	16	22.475	V a	安山岩	碎片	接	3.6	2.3	0.8	6.0	安60	
80	18	D	3E-70	9	22.065	V a	安山岩	剥片(片)		2.6	1.6	1.0	4.3		
80	19	D	3E-70	4	22.240	V a	安山岩	剥片		4.6	2.4	1.3	12.4	(安25)	半割
80	20	D	3E-52	1	22.443	VI	安山岩	碎片	接	2.9	1.6	0.8	2.5	安29	
80	20	D	3E-61	2	22.519	VI	安山岩	碎片	横	2.9	1.6	0.8	2.5	安29	
80	20	D	3E-61	6	22.157	V a	安山岩	剥片(下端欠)		2.2	2.6	0.6	3.4	安29	
80	21	D	3D-79	1	22.249	V a	安山岩	剥片(小片)	接	(2.9)	2.2	0.8	4.7	安30	
80	21	D	3E-60	26	21.810	V a	安山岩	碎片	接	(2.9)	2.2	0.8	4.7	安30	
81	22	D	3E-42	4	21.945	V a	チャート	剥片		4.7	5.7	1.7	33.3	同材料10	
81	23	D	3E-42	2	22.413	IV	チャート	剥片(打欠)		1.8	2.4	0.4	1.8	同材料10	
81	24	D	3E-42	12	21.885	V a	チャート	剥片(小片)		1.8	1.6	0.6	1.1	同材料10	
81	25	D	3E-63	1	22.110	V a	チャート	剥片(大形)		6.1	5.2	1.0	33.3	同材料10	
81	26	D	3E-61	10	21.975	V a	チャート	剥片		2.6	3.1	0.7	4.1		
81	27	D	3E-81	1	22.100	VI	チャート	剥片(大形)		6.0	3.6	1.0	20.1	同材料12	
81	28	D	3E-43	6	22.194	V a	チャート	剥片		2.4	2.3	0.7	3.9	同材料11	
81	29	D	3E-43	2	22.303	IV	チャート	剥片		2.6	2.5	0.7	4.1	同材料11	
81	30	D	3E-40	5	22.147	VI	チャート	剥片(小片)		1.1	2.2	0.5	1.0	同材料13	
81	31	D	3E-30	3	21.955	V a	チャート	剥片(小片)		1.3	1.8	0.3	0.6	同材料13	
81	32	D	3E-40	16	21.875	V a	チャート	剥片(下端欠)		1.1	2.2	0.5	1.0	同材料13	
81	33	D	3E-42	13	21.895	V a	チャート	石核(円筒材)		2.9	4.2	2.9	58.0		
82	34	D	3E-42	3	22.283	VI	チャート赤	剥片		2.7	3.5	1.0	7.6	チ9	
82	34	D	3E-42	10	22.034	V a	チャート赤	石核		2.6	4.4	2.3	26.6	チ9	
82	34	D	3E-62	5	21.950	V a	チャート赤	碎片		1.3	1.3	0.6	0.9	チ9	
82	35	D	3E-32	1	22.445	IV	チャート	剥片		2.1	2.2	0.6	3.3	(チ9)	
82	36	D	3E-43	8	22.107	V a	チャート赤	碎片		1.1	1.6	0.3	0.5	(チ9)	
82	37	D	3D-59	1	22.544	IV	頁岩	剥片		1.8	1.7	0.8	2.0		被熱白変
82	38	D	3D-59	2	22.103	V a	頁岩	剥片		3.4	2.7	1.1	6.2		被熱白変・半欠
		D	3D-39	1	21.998	V a	安山岩	碎片		1.7	2.1	0.5	1.6		被熱白変
		D	3D-39	2	22.207	VI	安山岩	剥片		2.3	1.4	0.4	1.1		被熱白変
		D	3D-49	1	22.152	VI	安山岩	碎片		1.6	1.5	0.4	0.9		被熱白変
		D	3D-49	2	22.043	V a	安山岩	碎片		1.7	0.6	0.4	0.5		
		D	3D-49	3	21.988	V a	安山岩	剥片(小片)		2.1	2.3	0.5	2.0		被熱白変
		D	3D-59	4	21.936	V a	安山岩	碎片		2.2	0.4	0.4	0.3		
		D	3D-69	1	22.424	VI	安山岩	剥片(片)		2.3	1.6	0.6	1.9		
		D	3D-69	2	22.278	V a	安山岩	碎片		1.9	1.2	0.4	0.8		

D ブロック														
練団	番号	ブロック	透視・グリッド	造物番号	標高	層位	石材	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		D	3D-69	4	22.229	Ⅱa	安山岩	砕片	0.7	0.9	0.4	0.2		
		D	3D-69	5	21.820	Ⅱa	安山岩	剥片	2.4	3.1	0.7	4.3		
		D	3D-78	1	22.268	Ⅱa	安山岩	砕片	1.6	1.2	0.6	1.0		
		D	3D-79	2	22.163	Ⅱa	安山岩	砕片	1.5	1.0	0.3	0.5		
		D	3D-79	3	22.070	Ⅱa	安山岩	砕片	1.5	1.1	0.7	1.0		
		D	3D-79	4	22.005	Ⅱa	安山岩	砕片	2.2	1.5	0.8	2.0		
		D	3D-89	2	22.098	Ⅱa	安山岩	砕片	0.8	0.6	0.3	0.1		
		D	3E-30	1	22.135	Ⅱ	安山岩	砕片	1.4	1.2	0.7	1.0		被熱白変
		D	3E-30	2	22.002	Ⅱa	安山岩	砕片	1.3	1.0	0.4	0.6		被熱白変
		D	3E-30	4	21.862	Ⅱa	安山岩	砕片	1.8	0.6	0.6	0.6		被熱白変
		D	3E-30	5	21.840	Ⅱa	安山岩	砕片	1.8	0.9	0.4	0.5		被熱白変
		D	3E-40	3	22.339	Ⅱ	安山岩	砕片	1.3	1.8	0.6	1.3		被熱白変
		D	3E-40	4a	22.337	Ⅱ	安山岩	砕片	1.7	0.9	0.4	0.5		被熱白変
		D	3E-40	4b	22.337	Ⅱ	安山岩	砕片	0.6	0.6	0.2	0.1		
		D	3E-40	6	22.134	Ⅱ	安山岩	砕片	1.4	1.3	0.4	0.6		被熱白変
		D	3E-40	7	22.056	Ⅱa	安山岩	砕片	1.7	1.0	0.4	0.7		被熱白変
		D	3E-40	8	22.065	Ⅱa	安山岩	砕片	1.0	0.6	0.2	0.2		被熱白変
		D	3E-40	9	22.089	Ⅱa	安山岩	砕片	1.6	1.3	0.4	0.6		被熱白変
		D	3E-40	10	22.089	Ⅱa	安山岩	砕片	1.0	0.8	0.2	0.2		被熱白変
		D	3E-40	12	22.031	Ⅱa	安山岩	砕片	0.8	1.6	0.3	0.5		被熱白変
		D	3E-40	13	22.029	Ⅱa	安山岩	砕片	0.9	0.8	0.3	0.2		被熱白変
		D	3E-40	18	22.030	Ⅱa	安山岩	砕片	0.5	0.5	0.2	0.1		被熱白変
		D	3E-40	19	21.896	Ⅱa	安山岩	砕片	0.7	1.5	0.5	0.6		被熱白変
		D	3E-40	20	21.920	Ⅱa	安山岩	砕片	1.0	0.6	0.4	0.3		被熱白変
		D	3E-41	2	22.237	Ⅱ	安山岩	砕片	0.4	1.0	0.3	0.1		被熱白変
		D	3E-41	3	21.980	Ⅱa	安山岩	砕片	1.1	1.4	0.4	0.6		
		D	3E-42	7	22.172	Ⅱa	安山岩	剥片(小片)	1.8	1.9	0.7	2.0		
		D	3E-42	8	22.222	Ⅱa	安山岩	砕片	0.3	0.3	0.1	0.1		
		D	3E-42	9	22.223	Ⅱa	安山岩	砕片	2.1	0.9	0.3	0.9		
		D	3E-42	11	22.020	Ⅱa	安山岩	剥片(小片)	1.6	2.1	0.6	1.7		
		D	3E-43	4	22.213	Ⅱ	安山岩	砕片	1.4	1.1	0.4	0.4		
		D	3E-43	5	22.259	Ⅱ	安山岩	砕片	1.5	0.6	0.3	0.1		
		D	3E-43	9	22.153	Ⅱa	安山岩	砕片	1.5	1.4	0.2	0.5		
		D	3E-50	1	22.232	Ⅱa	安山岩	砕片	0.9	1.0	0.3	0.3		
		D	3E-50	2	22.237	Ⅱa	安山岩	砕片	0.6	0.6	0.2	0.1		
		D	3E-52	2	22.306	Ⅱa	安山岩	剥片(小片)	2.2	1.6	0.5	1.8		
		D	3E-52	3	22.235	Ⅱa	安山岩	剥片(片)	2.6	1.0	0.3	1.0		
		D	3E-52	4	21.785	Ⅱa	安山岩	剥片(小片)	1.3	2.3	0.5	1.8		
		D	3E-53	4	21.893	Ⅱa	安山岩	砕片(細)	0.7	0.8	0.2	0.1		
		D	3E-60	1	22.597	Ⅱa	安山岩	砕片	2.0	0.6	0.2	0.3		
		D	3E-60	3	22.565	Ⅱa	安山岩	砕片	1.3	1.1	0.2	0.3		
		D	3E-60	5	22.537	Ⅱa	安山岩	剥片(小片)	1.9	1.4	0.7	1.9		
		D	3E-60	7	22.520	Ⅱa	安山岩	剥片(小片)	1.3	2.7	0.5	1.8		
		D	3E-60	9	22.585	Ⅱa	安山岩	剥片(打欠)	1.4	2.5	0.8	2.9		
		D	3E-60	10	22.542	Ⅱa	安山岩	砕片	0.5	1.2	0.2	0.2	同材料12	
		D	3E-60	12	22.585	Ⅱa	安山岩	砕片	1.0	1.8	0.5	0.8		
		D	3E-60	14	22.487	Ⅱa	安山岩	砕片	1.3	0.5	0.2	0.1		
		D	3E-60	17	22.510	Ⅱa	安山岩	砕片	1.3	0.9	0.2	0.3		
		D	3E-60	18	22.520	Ⅱa	安山岩	砕片	1.2	0.7	0.2	0.2		
		D	3E-60	20	21.933	Ⅱa	安山岩	砕片	0.7	0.8	0.2	0.2		

Dブロック															
採区	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		D	3E-60	21	21.925	V a	安山岩	碎片		1.6	0.9	0.6	1.0		
		D	3E-60	22	22.006	V a	安山岩	碎片		1.2	1.2	0.2	0.4		
		D	3E-60	23	21.975	V a	安山岩	碎片		1.5	0.7	0.2	0.2		
		D	3E-60	24	21.955	V a	安山岩	碎片 (微細片)		0.3	0.4	0.2	0.1		
		D	3E-60	25	21.940	V a	安山岩	碎片 (微細片)		0.4	0.5	0.3	0.1		
		D	3E-60	27	22.090	VI	安山岩	碎片		1.0	0.6	0.3	0.2		
		D	3E-61	1	22.520	VI	安山岩	碎片		1.4	1.2	0.2	0.4		
		D	3E-61	3	22.324	V a	安山岩	碎片		1.3	1.3	0.3	0.5		
		D	3E-61	5	22.217	V a	安山岩	剥片		2.9	1.4	0.6	2.8		
		D	3E-61	11	22.000	V a	安山岩	碎片		0.9	0.9	0.3	0.3		
		D	3E-61	12	22.078	V a	安山岩	碎片		1.2	1.3	0.3	0.4		
		D	3E-61	13	21.607	V a	安山岩	碎片		1.0	1.2	0.4	0.6		
		D	3E-62	2	22.263	V a	安山岩	碎片		1.2	1.2	0.7	1.5		硬質
		D	3E-62	4	22.135	VI	安山岩	碎片		2.2	1.1	0.6	1.3		
		D	3E-70	7	22.100	VI	安山岩	剥片		2.3	2.6	0.9	5.3		
		D	3E-70	8	22.100	VI	安山岩	碎片		0.9	1.8	0.3	0.4		
		D	3E-70	10	22.030	V a	安山岩	碎片		1.2	2.1	0.2	0.8		
		D	3E-70	11	22.050	V a	安山岩	碎片		0.8	1.4	0.4	0.5		
		D	3E-70	13	21.920	V a	安山岩	碎片 (細片)		0.6	0.7	0.3	0.2		
		D	3E-70	14	22.095	VI	安山岩	碎片		1.6	0.7	0.2	0.2		
		D	3E-71	2a	22.157	V a	安山岩	碎片 (細片)		1.4	0.6	0.4	0.4		
		D	3E-71	2b	22.157	VI	安山岩	碎片 (細片)		0.7	0.9	0.2	0.1		
		D	3E-71	2c	22.157	VI	安山岩	碎片 (細片)		0.9	0.5	0.2	0.1		
		D	3E-71	5	22.100	VI	安山岩	碎片 (細片)		0.7	1.2	0.3	0.2		
		D	3E-71	6	22.070	VI	安山岩	碎片		0.9	1.3	0.3	0.6		
		D	3E-71	7	22.030	V a	安山岩	碎片		1.4	1.4	1.1	3.2		
		D	3E-80	1	22.070	VI	安山岩	碎片		0.6	0.7	0.3	0.1		
		D	3E-80	2	21.915	V a	安山岩	剥片		2.1	2.3	1.2	3.4		
		D	3E-80	3	21.905	V a	安山岩	剥片 (小)		1.8	1.4	0.4	1.0		半割
		D	3E-40	11	22.035	V a	チャート	碎片		0.7	1.0	0.3	0.2		
		D	3E-40	17	21.900	V a	チャート	碎片		1.3	0.6	0.3	0.2	同材料13	
		D	3E-42	1	22.182	V a	チャート	剥片 (片)		1.8	1.7	0.6	1.2		
		D	3E-71	10	22.015	V a	チャート	碎片		0.8	1.8	0.3	0.3	同材料12	
		D	3E-90	1	21.948	V a	チャート	剥片		2.1	3.3	0.6	3.3		
		D	3E-53	1	22.300	VI	メノウ	剥片		2.9	2.0	0.6	2.7		
		D	3E-42	6	22.250	VI	玄武岩	剥片 (残片)		2.9	4.5	2.3	28.9		
		D	3E-53	2	22.075	V a	玄武岩	円礫片		5.2	7.9	2.4	107.5		被熱白変?
Eブロック															
採区	番号	ブロック	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
83	1	E	4E-08	1	22.446	V a	安山岩	剥片 (外)		2.3	3.8	1.1	10.4	安1・安個体1	
83	1	E	4E-19	61	22.255	V a	安山岩	石核 (核部片)		6.7	4.4	3.2	89.1	安1・安個体1	
83	1	E	4E-19	79	22.140	V a	安山岩	碎片	接	1.3	2.8	0.7	3.0	安1・安個体1	
83	1	E	4E-28	13	22.260	V a	安山岩	石核 (核部)		8.6	8.1	7.6	740.0	安1・安個体1 (B)	
83-84	1・2	E	4E-09	5	22.245	V a	安山岩	石核 (核部)		3.7	5.2	2.5	48.3	安1・安個体1	
83-84	1・2	E	4E-18	12	22.295	V a	安山岩	石核 (核部片)		3.2	8.4	3.9	150.5	安1・安個体1 (A)	
83-84	1・2	E	4E-19	16	22.515	VI	安山岩	碎片	接	1.3	2.8	0.7	3.0	安1・安個体1	
83-84	1・2	E	4E-19	30	22.360	V a	安山岩	剥片		2.9	2.2	0.9	8.0	安1・安個体1	半割
83-84	1・2	E	4E-19	55	22.345	V a	安山岩	剥片 (外)		2.2	2.9	0.4	3.0	安1・安個体1	

Eブロック															
押面	番号	フロア	造機・グリッド	造物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
83-84	1・2・5	E	4E-19	76	22,240	Ⅴ a	安山岩	剥片	接	3.1	3.7	0.7	12.1	安1・安備体1	半割
83-84	1-4	E	4E-18	4	22,443	Ⅴ a	安山岩	剥片		3.9	2.1	0.9	9.8	安1・安備体1	半割
83-84	1-4	E	4E-18	8	22,300	Ⅴ a	安山岩	剥片 (小)		4.9	2.0	1.6	13.2	安1・安備体1	
83-84	1-4	E	4E-19	8	22,519	Ⅵ	安山岩	砕片		2.9	1.7	1.2	7.8	安1・安備体1	
83-84	1-4	E	4E-19	45	22,280	Ⅴ a	安山岩	剥片 (小)		1.9	1.9	0.5	1.9	安1・安備体1	
83-84	1-4	E	4E-28	8	22,285	Ⅴ a	安山岩	横部片 (大)		3.9	4.8	2.7	49.3	安1・安備体1	
83-84	1-4	E	4E-28	10	22,270	Ⅴ a	安山岩	剥片 (片)		4.9	6.6	2.3	82.8	安1・安備体1	
83-84	1-4	E	4E-29	12	22,270	Ⅴ a	安山岩	砕片 (外)		2.5	1.9	0.4	1.4	安1・安備体1	
83-84	1-4								接	13.0	14.1	7.8	1751.0		
83-84	1-4	E	4E-29	15	22,260	Ⅴ a	安山岩	剥片 (外)		2.5	4.1	1.7	13.2	安1・安備体1	
83-84	1-4								接	13.0	14.1	7.8	1751.0		
83-84	1-4	E	4E-29	19	22,265	Ⅴ a	安山岩	石核 (横部)		8.3	5.6	6.1	44.0	安1・安備体1 (C)	
83-84	1-4								接	13.0	14.1	7.8	1751.0		
83-84	1-5	E	4E-08	2	22,602	Ⅴ a	安山岩	砕片		2.1	1.0	0.6	1.5	安1・安備体1	
83-84	1-5	E	4E-18	13	22,330	Ⅴ a	安山岩	剥片 (外)		3.2	2.0	1.1	8.5	安1・安備体1	
83-84	1-5	E	4E-19	1	22,675	Ⅵ	安山岩	砕片		2.2	2.0	0.9	4.2	安1・安備体1	
83-84	1-5	E	4E-19	34	22,330	Ⅴ a	安山岩	剥片 (不外)	接	5.0	3.5	1.6	23.6	安1・安備体1	
83-84	1-5	E	4E-19	49	22,350	Ⅴ a	安山岩	剥片 (小外)		2.5	1.5	0.6	2.8	安1・安備体1	半割
83-84	1-5	E	4E-19	74	22,240	Ⅴ a	安山岩	剥片 (外)	接	5.0	3.5	1.6	23.6	安1・安備体1	
83-84	1-5	E	4E-29	2	22,644	Ⅳ	安山岩	剥片 (外)	接	3.1	3.7	0.7	12.1	安1・安備体1	半割
84-85	5-6	E	4E-19	4	22,668	Ⅵ	安山岩	砕片		1.2	2.2	0.4	1.3	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	14	22,537	Ⅵ	安山岩	剥片 (小)		3.1	2.0	0.7	3.9	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	22	22,443	Ⅴ a	安山岩	剥片 (片)		3.6	1.3	0.9	4.7	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	31	22,245	Ⅴ a	安山岩	砕片・2点	接	4.6	2.7	1.3	14.9	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	32	22,265	Ⅴ a	安山岩	剥片 (小外)		1.5	2.0	0.5	1.7	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	53	22,330	Ⅴ a	安山岩	剥片 (外)		2.7	4.5	1.5	15.5	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	56	22,330	Ⅴ a	安山岩	剥片 (外)		2.7	1.9	0.8	3.1	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	73	22,145	Ⅴ a	安山岩	剥片 (小外)		2.9	1.9	0.9	3.8	安2・安備体2	
85	6	E	4E-19	84	22,135	Ⅴ a	安山岩	砕片 (外)		1.2	1.7	0.4	0.8	安2・安備体2	
85	6	E	4E-28	1a	22,490	Ⅴ a	安山岩	剥片		2.8	2.5	1.0	8.8	安2・安備体2	
85	6	E	4E-28	7	22,255	Ⅴ a	安山岩	横部片		5.7	4.2	2.9	66.9	安2・安備体2	
85	6	E	4E-28	11	22,265	Ⅴ a	安山岩	石核 (横部)		5.9	7.0	3.2	135.8	安2・安備体2 (B)	
85	6	E	4E-28	12	22,270	Ⅴ a	安山岩	剥片		4.5	4.3	2.1	33.5	安2・安備体2	
85	6	E	4E-28	15	22,155	Ⅴ a	安山岩	剥片		2.9	3.2	1.6	20.9	安2・安備体2	
85	6	E	4E-28	16	22,190	Ⅴ a	安山岩	剥片 (大外)		3.5	3.5	2.1	27.3	安2・安備体2	
85	6	E	4E-29	9	22,340	Ⅴ a	安山岩	剥片 (大外)	接	4.6	2.7	1.3	14.9	安2・安備体2	
85	6								接	13.1	8.4	6.8	457.0		
85	6	E	4E-29	10	22,285	Ⅴ a	安山岩	剥片 (下欠)		4.9	3.3	1.8	33.9	安2・安備体2	
85	6								接	13.1	8.4	6.8	457.0		
85	6	E	4E-29	20	22,250	Ⅴ a	安山岩	剥片 (大外)		4.7	4.1	2.2	51.9	安2・安備体2 (A)	
85	6								接	13.1	8.4	6.8	457.0		
85	7	E	4E-19	13	22,430	Ⅵ	安山岩	剥片		4.1	2.5	1.3	9.7	安56	被熱白変・半割
85	7	E	4E-19	57	22,300	Ⅴ a	安山岩	剥片		3.6	1.4	0.9	4.7	安56	被熱白変・半割
85	8	E	4E-29	13	22,255	Ⅴ a	安山岩	砕片		1.5	1.3	0.4	0.8	(安56)	被熱白変
85	9	E	4E-18	2	22,475	Ⅴ a	安山岩	剥片 (小)		2.3	1.6	0.4	1.2		被熱白変
86	10	E	4E-19	43	22,480	Ⅴ a	安山岩	剥片 (上欠・外)	接	5.8	4.0	1.3	28.1	安57	
86	10	E	4E-19	46	22,330	Ⅴ a	安山岩	剥片 (下欠外)	接	5.8	4.0	1.3	28.1	安57	

Eブロック															
押出	番号	プロット	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大径 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
86	11	E	4F-10	8	22,290	Ⅷ a	安山岩	剥片 (大下欠)		4.0	6.0	1.5	28.3		
86	12	E	4E-19	44	22,280	Ⅷ a	安山岩	剥片 (小・外)	接	2.2	2.8	0.6	3.9	安3	被熱
86	12	E	4E-29	5	22,460	Ⅷ a	安山岩	碎片	接	2.2	2.8	0.6	3.9	安3	被熱?
86	13	E	4E-19	37	22,330	Ⅷ a	安山岩	剥片		1.9	2.4	0.4	2.4	安4	被熱
86	13	E	4E-19	48a	22,270	Ⅷ a	安山岩	碎片		0.9	1.4	0.3	0.3	安4	被熱?
86	14	E	4F-10	13	22,195	Ⅷ a	安山岩	剥片		3.0	2.8	0.6	6.3		被熱・半割
86	15	E	4E-29	17	22,295	Ⅷ a	安山岩	剥片		2.8	3.5	0.4	4.0		
86	16	E	4E-19	11	22,411	Ⅷ	安山岩	剥片		2.2	2.6	1.3	6.2		被熱
86	17	E	4F-00	11	22,230	Ⅷ a	安山岩	剥片 (大)		4.5	4.2	1.3	24.7	安55	被熱白変
86	17	E	4F-10	1	22,300	Ⅷ a	安山岩	剥片 (大)		6.2	3.3	1.2	21.3	安55	被熱白変
86	18	E	4E-19	9	22,531	Ⅷ	安山岩	碎片	接	4.4	1.0	1.0	4.1	安54	被熱?
86	18	E	4E-19	58a	22,290	Ⅷ a	安山岩	碎片	接	5.6	3.3	2.0	37.9	安54	被熱?
86	18	E	4F-00	10	22,225	Ⅷ a	安山岩	剥片 (大横越)		5.6	3.3	2.0	37.9	安54	被熱?
86	18	E	4F-10	6	22,305	Ⅷ a	安山岩	剥片		4.4	1.0	1.0	4.1	安54	被熱?・半割
86	18	E	4F-10	9	22,260	Ⅷ a	安山岩	剥片		5.6	3.3	2.0	37.9	安54	被熱?
86	19	E	4E-29	18	22,300	Ⅷ a	安山岩	剥片		5.8	1.7	0.8	7.6		被熱
87	20	E	4E-19	6	22,540	Ⅷ	チャート	剥片 (小)	a	1.3	3.1	0.8	3.7	チ8・チ體1	
87	20	E	4E-19	6	22,540	Ⅷ	チャート	剥片 (細)	b	0.5	0.2	0.3	0.1	チ8・チ體1	
87	20	E	4E-19	12	22,444	Ⅷ	チャート	剥片		2.2	3.6	0.8	5.5	チ8・チ體1	
87	20	E	4E-19	21	22,422	Ⅷ a	チャート	剥片		2.8	2.3	0.6	5.0	チ8・チ體1	
87	20	E	4E-19	28	22,265	Ⅷ a	チャート	石核 (円礫)		11.1	5.7	4.6	303.8	チ8(C)・チ體1	
87	20	E	4E-19	29	22,370	Ⅷ a	チャート	剥片 (小欠)		1.5	2.3	0.6	1.8	チ8・チ體1	
87	20	E	4E-28	9	22,265	Ⅷ a	チャート	石核 (円礫)		9.0	6.8	4.4	315.3	チ8・チ體1 (A)	
87	20	E	4E-29	3	22,565	Ⅳ	チャート	剥片		2.8	2.3	0.6	5.0	チ8・チ體1	半割
87	20								接	10.1	10.1	7.3	868.6		
87	20	E	4F-00	1	22,480	Ⅷ a	チャート	剥片		3.2	1.7	0.4	2.2	チ8・チ體1	
87	20								接	10.1	10.1	7.3	868.6		
87	20	E	4F-00	4	22,320	Ⅷ a	チャート	剥片		1.1	1.8	0.8	1.2	チ8・チ體1	
87	20								接	10.1	10.1	7.3	868.6		
87	20	E	4F-00	6	22,260	Ⅷ a	チャート	石核 (円礫)		10.8	4.1	4.4	221.7	チ8(C)・チ體1	
87	20								接	10.1	10.1	7.3	868.6		
87	20	E	4F-00	9	22,220	Ⅷ a	チャート	剥片 (細)		0.9	0.9	0.2	0.2	チ8・チ體1	
87	20								接	10.1	10.1	7.3	868.6		
87	20	E	4F-10	4	22,290	Ⅷ a	チャート	剥片		2.0	1.2	0.7	1.5	チ8・チ體1	
87	20								接	10.1	10.1	7.3	868.6		
87	20	E	4F-10	14	22,120	Ⅷ a	チャート	剥片 (小)		0.9	1.9	0.8	1.6	チ8・チ體1	
87	20								接	10.1	10.1	7.3	868.6		
88	21	E	4E-19	42	22,240	Ⅷ a	硬質粘板岩	剥片 (大下欠)	接	7.0	7.4	1.7	85.1	他5	
88	21	E	4E-19	62	22,315	Ⅷ a	硬質粘板岩	剥片 (大)	接	7.0	7.4	1.7	85.1	他5	半割
88	21	E	4F-10	2	22,360	Ⅷ a	硬質粘板岩	剥片 (片)		7.0	7.4	1.7	85.1	他5	
88	21	E	4F-10	5	22,255	Ⅷ a	硬質粘板岩	剥片 (大)		7.0	7.4	1.7	85.1	他5	半割
88	22	E	4E-19	41	22,255	Ⅷ a	頁岩	剥片 (大・角)		8.7	4.4	1.3	41.9		
88	23	E	4E-19	77	22,185	Ⅷ a	チャート	剥片 (不外)		2.7	1.6	0.8	3.8	他6	
88	23	E	4E-19	80	22,100	Ⅷ a	チャート	石核 (核部片)		4.4	2.9	2.3	27.9	他6	
88	24	E	4E-19	26	22,485	Ⅷ a	チャート	剥片		1.6	1.0	0.3	0.5	(チ6)	
		E	4E-09	1	22,547	Ⅷ	安山岩	剥片 (細部片)		0.4	0.4	0.3	0.1		
		E	4E-09	3	22,350	Ⅷ a	安山岩	剥片		1.0	0.9	0.5	0.5	(安1)	
		E	4E-09	4	22,335	Ⅷ a	安山岩	剥片 (外)		3.0	1.8	0.4	1.5	(安1)	

Eブロック															
採国	番号	プロット	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		E	4E-09	6	22.340	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.1	1.9	0.3	0.5	(安2)	
		E	4E-09	7	22.295	Ⅲ a	安山岩	碎片・2点	a	1.8	1.3	0.6	1.5	(安1)	
		E	4E-09	7	22.295	Ⅲ a	安山岩	碎片・2点	b	1.0	0.6	0.3	0.2	(安1)	
		E	4E-17	1	22.605	Ⅲ	安山岩	碎片		2.0	1.8	0.9	2.4	(安2)	
		E	4E-18	1	22.768	Ⅲ a	安山岩	碎片(外)		1.5	2.0	0.3	0.8	(安56)	
		E	4E-18	3	22.462	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞)		1.1	0.4	0.3	0.2	(安1)	
		E	4E-18	5	22.442	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.8	1.1	0.3	0.6	(安1)	
		E	4E-18	7	22.385	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.0	1.3	0.4	0.7	(安1)	
		E	4E-18	9	22.280	Ⅲ a	安山岩	剥片(小外)		2.0	1.8	0.5	1.2		
		E	4E-18	14	22.235	Ⅲ a	安山岩	碎片		2.0	1.0	0.4	1.0	(安1)	
		E	4E-19	3	22.592	Ⅳ	安山岩	剥片(小)		2.0	1.5	0.4	1.3		
		E	4E-19	5	22.620	Ⅳ	安山岩	碎片(縞)・2点	a	0.5	0.8	0.4	0.1	(安1)	
		E	4E-19	7	22.633	Ⅳ	安山岩	碎片(縞)		0.5	0.9	0.3	0.1	(安1)	
		E	4E-19	10	22.478	Ⅳ	安山岩	剥片(外)		3.3	2.4	1.3	9.5	安58	被熱白変・半欠
		E	4E-19	15	22.530	Ⅳ	安山岩	碎片		1.6	0.4	0.3	0.3	(安2)	
		E	4E-19	17	22.435	Ⅲ a	安山岩	碎片		0.7	1.5	0.4	0.5		
		E	4E-19	18	22.415	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.8	1.3	0.5	1.2	(安1)	
		E	4E-19	19	22.413	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.0	0.6	0.5	0.3		
		E	4E-19	23	22.400	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.2	0.4	0.2	0.1	(安2)	
		E	4E-19	24	22.370	Ⅲ a	安山岩	剥片(小外)		1.4	1.4	0.2	0.9	(安2)	
		E	4E-19	25	22.375	Ⅲ a	安山岩	碎片		2.0	1.1	0.5	0.9	(安1)	
		E	4E-19	27	22.425	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.1	1.0	0.5	0.5	(安1)	
		E	4E-19	33	22.395	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.0	0.9	0.5	0.7	(安1)	
		E	4E-19	35	22.290	Ⅲ a	安山岩	碎片		0.7	0.7	0.4	0.3	(安2)	
		E	4E-19	38	22.350	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.1	0.7	0.4	0.5	(安1)	
		E	4E-19	39	22.295	Ⅲ a	安山岩	碎片		2.0	1.0	0.3	0.8	(安1)	
		E	4E-19	40	22.395	Ⅲ a	安山岩	碎片		2.2	0.9	0.5	1.4		
		E	4E-19	47	22.270	Ⅲ a	安山岩	剥片(外)		3.9	2.4	1.0	11.4	安58	半欠
		E	4E-19	48b	22.270	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞)		0.9	0.5	0.2	0.1		
		E	4E-19	50	22.365	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.0	0.7	0.3	0.3	(安1)	
		E	4E-19	51	22.345	Ⅲ a	安山岩	碎片(外)		1.2	1.3	0.3	0.6	(安1)	
		E	4E-19	52	22.340	Ⅲ a	安山岩	碎片(外)		0.9	1.6	0.4	0.6	(安2)	
		E	4E-19	54	22.290	Ⅲ a	安山岩	碎片	計測不可						
		E	4E-19	58b	22.290	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞)		1.2	1.0	0.3	0.5		
		E	4E-19	59	22.235	Ⅲ a	安山岩	碎片		0.7	0.7	0.2	0.1		
		E	4E-19	60	22.255	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.2	0.6	0.2	0.2	(安1)	
		E	4E-19	63	22.280	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞)		1.3	1.6	1.6	1.4	(安1)	
		E	4E-19	64	22.325	Ⅲ a	安山岩	碎片(微細片)		0.5	0.5	0.4	0.1		
		E	4E-19	67	22.190	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.3	0.7	0.6	0.7	(安1)	
		E	4E-19	68	22.295	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞片)		0.8	0.5	0.2	0.1	(安1)	
		E	4E-19	69	22.225	Ⅲ a	安山岩	碎片		0.6	0.9	0.2	0.1	(安2)	
		E	4E-19	71	22.195	Ⅲ a	安山岩	碎片(微細片)		0.4	0.3	0.2	0.1		
		E	4E-19	75	22.195	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.2	0.8	0.7	1.0	(安2)	
		E	4E-19	78	22.140	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.5	0.8	0.4	0.6	(安1)	
		E	4E-19	81	22.135	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.1	1.9	0.3	0.6	(安2)	
		E	4E-19	82	22.125	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞)		0.6	1.0	0.3	0.2	(安1)	
		E	4E-19	83	22.125	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞)		0.6	0.6	0.1	0.1	(安1)	
		E	4E-28	1b	22.490	Ⅲ a	安山岩	碎片		1.2	1.4	0.8	1.5	(安1)	
		E	4E-28	2	22.475	Ⅲ a	安山岩	碎片(縞)		0.9	0.9	0.5	0.4	(安1)	

Eブロック															
棟号	番号	ブロック	造備・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		E	4E-28	4	22.445	V a	安山岩	砕片 (細)		0.7	0.9	0.1	0.1		
		E	4E-28	5	22.305	V a	安山岩	砕片 (外)		1.8	0.8	0.5	1.5	(安1)	
		E	4E-28	6	22.315	V a	安山岩	砕片 (細)		1.3	0.8	0.2	0.3	(安1)	
		E	4E-28	14	22.275	V a	安山岩	砕片		1.4	1.0	0.5	0.8	(安1)	
		E	4E-29	1	22.867	Ⅲ	安山岩	剥片 (小)	接	1.8	2.0	0.4	1.4	安5	被熱?・半割
		E	4E-29	4	22.573	VI	安山岩	砕片 (細)	接	1.8	2.0	0.4	1.4	安5	被熱?
		E	4E-29	6	22.500	V a	安山岩	砕片 (細)		0.9	0.9	0.4	0.4	(安1)	
		E	4E-29	7	22.465	V a	安山岩	砕片		1.1	1.4	0.4	0.7		
		E	4E-29	8	22.400	V a	安山岩	砕片		1.4	1.1	0.8	1.2	(安1)	
		E	4E-29	11	22.285	V a	安山岩	砕片 (細)		1.3	0.6	0.3	0.2		
		E	4E-29	14	22.270	V a	安山岩	砕片 (細)		0.7	1.0	0.3	0.3	(安1)	
		E	4E-29	16	22.260	V a	安山岩	砕片		2.0	0.8	0.3	0.5	(安2)	
		E	4E-29	21	22.190	V a	安山岩	砕片 (細)		1.1	1.3	0.6	0.9	(安1)	
		E	4F-00	2	22.370	V a	安山岩	剥片 (片)		3.1	1.9	1.3	6.4	(安1)	
		E	4F-00	3	22.370	V a	安山岩	砕片		1.1	1.4	0.5	0.9	(安1)	
		E	4F-00	7	22.205	V a	安山岩	砕片 (細)		2.2	0.4	0.4	0.6		
		E	4F-10	3	22.350	V a	安山岩	剥片 (片)		2.0	2.6	0.9	4.5	(安1)	
		E	4F-10	7	22.240	V a	安山岩	剥片 (小平欠)		2.0	1.9	0.5	1.7		半割
		E	4F-10	11	22.280	V a	安山岩	砕片		1.2	0.9	0.3	0.4	(安1)	
		E	4F-10	12	22.220	V a	安山岩	砕片		0.9	1.8	0.4	0.7	(安1)	
		E	4F-20	1	22.395	V a	安山岩	砕片 (細)		0.9	0.9	0.4	0.3	(安1)	
		E	4E-18	10	22.275	V a	チャート	砕片		1.3	2.0	0.3	0.7	(他6)	
		E	4E-19	36	22.365	V a	チャート	砕片		0.9	1.0	0.3	0.3		

縄文															
棟号	番号	ブロック	造備・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
97	1	縄文	7C-38	5a	23.022	Ⅲ	黒曜石	尖頭器		(0.3)	2.3	0.7	4.1		基部平欠
97	2	縄文	7C-15	1	23.160	Ⅲ	黒曜石	接器		2.5	2.5	1.0	5.6		
97	3	縄文	7C-38	5b	23.022	Ⅲ	黒曜石	尖頭器		(1.3)	1.1	0.2	0.2		先部欠
97	4	縄文	7C-25	3	23.120	Ⅲ	黒曜石	石核		2.9	3.6	2.2	19.9		
97	5	縄文	6C-99	1f		掘込域内	チャート	尖頭器		(2.9)	1.5	0.5	2.7	同材料4	先欠
97	6	縄文	7C-09	3	23.330	Ⅲ	チャート	剥片 (加工有・未成)		3.2	(5.9)	3.3	39.8	4C15-1と同・接合例4	ポイント?
97	7	縄文	6C-99	2	23.050	Ⅲ	チャート	剥片 (加工有・未成)		5.5	4.0	1.4	38.2		スクレイパー
97	8	縄文	6C-99	1c		掘込域内	チャート	剥片 (大下欠)		(5.4)	4.7	0.6	26.7		
97	9	縄文	6C-99	1b		掘込域内	チャート	剥片 (大)		6.1	4.2	2.3	50.4		
98	10	縄文	7C-37	1	23.553	Ⅱ c	チャート	石鏃		2.9	2.0	0.4	1.8		
98	11	縄文	7D-11	2	23.157	Ⅱ c	チャート	石鏃		2.4	1.7	0.5	2.3		
98	12	縄文	7C-18	5	23.646	Ⅱ c	チャート	石鏃		(0.9)	1.9	0.4	0.9		
98	13	縄文	7C-19	8	23.562	Ⅱ c	チャート	石鏃		2.6	1.6	0.4	2.3		
98	14	縄文	7C-19	2	23.784	Ⅱ b	チャート	石鏃		(1.6)	2.1	0.4	2.1		
98	15	縄文	7D-21	5	23.490	Ⅱ c	チャート	石鏃		2.1	1.6	0.4	1.4		
98	16	縄文	7C-28	3	23.598	Ⅱ c	チャート	石鏃未成品 (欠)		3.0	1.8	0.7	4.1		
98	17	縄文	7C-29	1	23.762	Ⅱ b	チャート	剥片 (打欠)		2.0	2.8	0.5	3.0	チ2	
98	17	縄文	7D-01	1	23.643	Ⅱ c	チャート	剥片		2.3	2.7	0.9	7.6	チ2	
98	17	縄文	7D-20	6	23.480	Ⅲ	チャート	剥片		3.0	2.3	0.5	2.2	チ2	
98	18	縄文	7C-18	1	23.677	Ⅱ c	チャート	剥片 (片)		2.1	2.3	0.5	2.1	チ1	
98	18	縄文	7D-10	1	23.440	Ⅱ c	チャート	核		2.8	4.1	1.4	18.0	チ1	

縄文																
採回	番号	プロット	遺構・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考	
	98	19	縄文	7C-29	9	23.597	Ⅱ c	チャート	剥片	3.3	3.4	1.2	10.0	チ3		
	98	19	縄文	7D-20	7a		微風坑内	チャート	剥片	3.0	1.9	0.9	5.4	チ3		
	98	20	縄文	7C-29	2	23.780	Ⅱ b	チャート	剥片(大)	2.8	5.3	0.9	14.8			
	98	21	縄文	7C-38	1	23.759	Ⅱ c	チャート	剥片	2.8	1.8	0.9	3.7			
	98	22	縄文	7C-29	10	23.580	Ⅱ c	チャート	剥片	1.9	2.7	0.6	2.1			
	98	23	縄文	7C-19	3	23.760	Ⅱ b	チャート	剥片	1.7	1.7	0.3	0.8	同材料1		
	98	24	縄文	7D-12	1	23.368	Ⅲ	チャート	剥片	2.2	2.5	0.5	2.5	同材料1		
	98	25	縄文	7C-09	2	23.388	Ⅲ	凝灰岩	剥片	(2.9)	2.4	0.6	3.4	同材料3		
	98	25	縄文	6C-99	1d		微風坑内	凝灰岩	剥片(外)	2.8	2.5	0.9	7.7	同材料3		
	99	27	縄文	6C-99	1a		微風坑内	片岩系?	打製石筍	10.3	5.3	2.1	180.5			
	99	28	縄文		1b		表探	硬砂岩	磨製石筍	7.0	3.9	2.1	101.0			
	99	29	縄文	7C-29	4	23.708	Ⅱ b	花崗岩?	磨石	10.6	5.2	3.6	385.5			
	99	30	縄文	3C-05	2a		I	硬砂岩	磨石	10.6	6.7	3.7	385.7			
			縄文		3a		表探	安山岩	剥片	2.5	3.1	0.8	4.63			
			縄文		3b		表探	安山岩	剥片	3.5	3.0	0.8	7.48			
			縄文	2D-65	1	20.095	Ⅲ	安山岩	剥片	5.3	5.0	0.9	19.79			
			縄文		2	19.530	Ⅵ	チャート	剥片(片)	1.5	3.2	0.5	0.89			
			縄文	3G-10	1	22.560	Ⅲ	砂岩	砥石	11.0	4.0	2.8	130.1			
			縄文	5C-15	2a		Ⅱ b	チャート?	円礫	7.2	4.8	2.5	97.7	被熱赤変		
			縄文	5C-15	2b		Ⅱ b	花崗岩?	円礫片	5.1	5.4	2.4	76.5			
			縄文	5C-15	2c		Ⅱ b	凝灰岩?	円礫片	6.3	3.2	2.1	45.6			
			縄文	5C-15	2d		Ⅱ b	硬砂岩?	円礫片	4.3	1.5	2.3	21.4	被熱		
			縄文	5C-15	2e		Ⅱ b	チャート	円礫片	2.5	3.0	3.0	17.1	被熱赤変		
			縄文	5C-15	2f		Ⅱ b	チャート	円礫片	1.9	2.8	2.1	17.3	被熱赤変		
			縄文	5C-15	2g		Ⅱ b	花崗岩?	円礫(中)	3.2	4.0	2.9	47.9	被熱		
			縄文	6C-87	1	23.160	Ⅱ c	硬砂岩	礫片(小)	2.8	1.3	0.9	4.0	被熱		
			縄文	6C-99	1e		微風坑内	チャート	剥片	2.9	2.8	1.0	7.2			
			縄文	6C-99	1g		微風坑内	安山岩	剥片(小)	2.4	2.4	0.4	1.8			
			縄文	7C-09	1	23.675	Ⅱ c	チャート	砕片	2.2	1.5	0.9	1.7			
			縄文	7C-16	2	23.155	Ⅲ	黒曜石	剥片(小)	1.3	1.3	0.3	0.5	上下欠		
			縄文	7C-17	2	23.518	Ⅱ c	チャート?	焼礫小片	2.1	2.8	2.0	12.5	被熱赤変		
			縄文	7C-18	6	23.568	Ⅱ c	黒曜石	剥片(小)	1.7	1.5	0.2	0.2			
			縄文	7C-19	1	23.706	Ⅱ b	チャート	剥片	2.7	4.3	1.5	11.8			
			縄文	7C-19	4	23.724	Ⅱ b	チャート	剥片	2.0	1.5	0.4	1.2	チ4		
			縄文	7C-19	5	23.668	Ⅱ b	チャート	剥片	接	4.2	3.9	1.6	21.8	チ5	
			縄文	7C-19	9	23.512	Ⅱ c	チャート	剥片(小下欠)	3.0	1.9	1.2	4.7	(チ5)	被熱	
			縄文	7C-24	1	23.535	Ⅱ c	チャート	砕片	0.9	1.0	0.2	0.2			
			縄文	7C-25	2	23.160	Ⅲ	黒曜石	砕片	1.1	0.6	0.2	0.1			
			縄文	7C-26	2	23.065	Ⅲ	黒曜石	砕片	1.4	1.0	0.6	0.5			
			縄文	7C-27	2	23.526	Ⅲ	チャート	剥片(小)	1.3	1.1	0.3	0.3			
			縄文	7C-27	3	23.372	Ⅲ	黒曜石	砕片	1.1	0.6	0.3	0.2			
			縄文	7C-29	3	23.828	Ⅱ b	チャート	砕片(外)	1.9	1.3	0.5	1.4			
			縄文	7C-29	5	23.728	Ⅱ b	チャート	剥片	1.8	2.1	0.9	3.9			
			縄文	7C-29	11	23.505	Ⅲ	チャート	剥片(打欠)	1.3	1.4	0.5	0.9	チ4		
			縄文	6D-00	1		I	流紋岩	剥片	2.0	1.1	0.9	1.6			
			縄文	7D-10	2	23.267	Ⅲ	硬質粘板岩	剥片	1.6	2.1	0.5	1.7			
			縄文	7D-10	3	23.259	Ⅲ	チャート	円礫片	2.9	4.6	2.4	29.6			
			縄文	7D-10	4	23.435	Ⅲ	チャート	砕片(微礫)	0.6	0.5	0.2	0.1			
			縄文	7D-11	1	23.720	Ⅱ b	チャート	剥片	1.9	1.3	0.4	1.0	同材料2		
			縄文	7D-11	3	23.195	Ⅱ c	チャート	剥片(小下欠)	(1.2)	2.0	0.3	0.3			

縄文															
採回	番号	ブロック	遺物・グリッド	遺物番号	標高	層位	石材	器種		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	接合	備考
		縄文	7D-11	4	23.175	Ⅱ c	チャート	剥片 (片)		1.6	1.8	1.0	2.9	同材料2	
		縄文	7D-20	1	23.696	Ⅱ c	花崗岩?	燧石細片		1.1	1.6	0.5	1.1		
		縄文	7D-20	3	23.615	Ⅱ c	チャート	砕片		2.1	1.1	0.6	1.0		
		縄文	7D-20	4	23.555	Ⅱ c	チャート	剥片 (小)		2.2	1.1	0.5	1.2		
		縄文	7D-20	5	23.465	Ⅲ	チャート	剥片 (小下欠)		1.5	1.6	0.3	0.7		
		縄文	7D-20	7b		掘込坑内	チャート	剥片 (角礫状)		2.0	1.7	2.0	5.7		
		縄文	7D-20	7c		掘込坑内	チャート	剥片 (小)		1.5	1.5	0.7	1.7		
		縄文	7D-21	3	23.553	Ⅱ c	安山岩	剥片		2.5	2.4	1.2	5.7		被熱白変
		縄文	7D-30	3	23.664	Ⅱ c	チャート	剥片 (外)		4.2	3.9	1.6	21.8	チ5	
		縄文	7D-30	4	23.520	Ⅲ	チャート	剥片		2.1	2.1	1.5	6.4		
		縄文	7D-31	3	23.638	Ⅱ c	珪粘?	剥片 (小下欠)		1.2	1.5	0.5	1.0		

旧石器組成表 (全体)																			
器種	石材	剥片		剥片 (素材)		砕片		石器		RF		UF		礫		計		合計	
		被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱	被熱				
安山岩 (普通)	17	3	177	36	31	6	231	54									456	99	555
安山岩 (硬質)	8	2	74	8	13		29	3									124	13	137
チャート	13	1	67	4	13		35	3	1					1	1		130	6	136
黒曜石			24	1	8		18		2	2		12					66	1	67
硬砂岩			2				2						1	1	5		5	1	6
その他の砂岩																	0	0	0
凝灰岩	1	2	7	1			1	1							2		9	6	15
メノウ	7		7		5		1										20	0	20
頁岩			3	1	3		2				1						9	1	10
流紋岩			2	5	3	2	1										8	5	13
玄武岩	1	1															1	1	2
珪質粘板岩			6	1	2												8	1	9
花崗岩														1	0		1	0	1
不明					1												0	1	1
(外) 黒曜石									2								2	0	2
計	47	11	372	56	77	6	320	58	5	0	2	0	13	0	2	5	838	136	
合計		58	428		83		378		5		2		13		7		974		974

第4章 まとめ

清戸遺跡

3か年にわたる細長い道路用地の調査で、遺跡全体の把握は困難であるが、旧石器時代から中・近世までの資料を得ることができた。

旧石器時代は、小規模な石器集中地点を1か所検出した。立川ロームのⅣ・Ⅴ層からの出土である。剥片が主体で、2個体の母岩から剥離されており、極小規模な石器製作地点と考えられる。出土地点は調査区の北端部で、地形的には、調査区南東側にある小支谷最奥部の南向き斜面際に位置する。また、単独の出土であるが、集中地点の北側に石器が出土している。このことから小支谷最奥部を臨む台地上には、他にも、石器集中地点が存在する可能性がある。

縄文時代、弥生時代では住居跡等の生活遺構は検出されなかった。遺構としては縄文時代早期と考えられる陥穴が1基検出された。土器はそれぞれの時代で出土しているが、少量で生活の痕跡は薄い。

古墳時代前期では住居跡3棟が検出されている。比較的大きな集落の一部と考えられた。集落は調査区南東側の小支谷沿いに展開していると考えられる。平成16年度に行われた白井市教育委員会の調査¹⁾では、対象面積2,903.77㎡の中に同時期の住居跡9棟が検出された。調査位置は、小支谷寄りで、住居跡検出地点から南約100mの地点である。

平安時代では住居跡11棟、土坑9基の検出で、調査区南端部に集中している。平安時代の遺構は白井市教育委員会の調査でも上記と同じ地点で、住居跡2棟、土坑15基が検出されている。本報告の調査区では、古墳時代前期の住居跡と平安時代の遺構が同じ地点では検出されていないが、白井市教育委員会の調査では近接して検出されている。これは、それぞれの時代において、集落の展開範囲が異なっていると考えられ、白井市の調査区付近が両者の展開範囲の境であると思われる。よって、縄文時代、弥生時代においても、清戸遺跡が所在する台地上の別地点に住居跡等の遺構が存在しているものと推測できる。

中・近世は全て溝状遺構であり、その中には底面に土坑列のある溝も検出されている。土坑列をもつ溝は、牧関係の溝にみられることが多く、土手等の明瞭な遺構は検出されていないが、牧関係の溝の可能性が高い。昭和48年度の調査²⁾においても、塚跡、野馬廻の中・近世遺構が検出され、遺構が台地全体に展開していることが推定される。また、中・近世の遺物として、寛永通宝が薬紐に通された状態、いわゆる緋銭(さしせん・さしぜに)状態で、溝内から出土している。枚数は、緋銭状態が169枚、外れたと思われるものが12枚、合計で181枚確認されている。土坑、塚などで出土する備蓄銭・埋納銭とは異なり、明瞭な収納用の遺構は確認されなかった。しかし、近隣に塚が存在することから、奉納的な銭貨であった可能性が大きいと思われる。

古新田南遺跡

旧石器時代ではⅥ層を中心にⅣ～Ⅷa層で石器群が検出された。集中としてのまとまりは5ブロックであるが、内容では2つに分けられる。特徴的なものはEブロックである。他の4ブロックから独立した状態で検出された。出土石器も大きく3石材に復原が可能となった。また、その石材も安山岩の1個体を除いては、ほとんど石器に加工されていない。推測すれば、比較的短時間にこのブロックが形成されたと考えられる。また、加工の方法も、まず、大形の礫を2または3分割にし、それぞれから剥片を剥離している。

分割した石核では特に打面調整も認められずに、原石面を残して剥離が行われている。3石材の内、2点は安山岩、1点はチャートである。特にチャートは3分割後ほとんど加工されずに放棄されている。また、石器の出土状況も、ほぼ1地点を中心に集中的に分布していることから、加工手は一人であったと思われる。

A～Dの4ブロックは約40m四方の範囲にほぼ円形に分布している。細かな地形をみると西側から円の中心にかけて、極浅いくぼみがあったと思われる。これを取り囲むように石器群が分布していると考えられる。全ブロックで多く出土している安山岩から考えると、A～Cブロックにおいては石核からの石器製作が行われているが、Dブロックでは剥取された剥片からの石器製作である。以上から、5ブロックは全体で、一連の石器製作の1ユニットを構成していると思われる。

また、被熱石材の分布からも製作位置の推定が可能である。被熱石材の分布で、Aでは1か所、Bでは2か所、Cでは2か所、D・Eではそれぞれ1か所が推定される。時間差を考慮しなければ6人の作業が推定される。しかし、ここでは生活痕跡の明瞭な根拠が確認されていないので、短期間の滞在と考えられる。生活空間としては別の場所が考えらるが、調査区内での下層確認調査では検出されなかった。

縄文時代の遺構としては、炉跡が2基検出された。他の遺構は検出されていないが、炉穴に伴って、早期の土器が出土している。また、グリッドからも早期土器が出土しているので、小規模な集落が存在したと考えられる。ほかに、石器の集中が検出されている。特に石鏃の未成品、小形の石核、剥片が出土しているので、小規模な石鏃製作跡と思われる。また、中期・後期の土器も出土しているので、調査区内には遺構はないが、近隣に集落跡が存在する可能性がある。

- 注1 戸田敦司・布施 仁 平成18年『白井市埋蔵文化財調査年報-平成7年度～平成16年度-』 白井市教育委員会
- 2 中山吉秀・鈴木道之助 1976『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書V』 千葉県企業庁 (財)千葉県文化財センター

写 真 图 版



航空写真 (1/10,000)



調査前



確認調査



層序



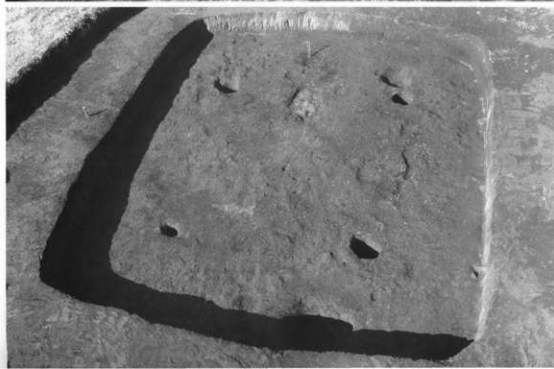
1層 SK010



SI001全景



SI002全景



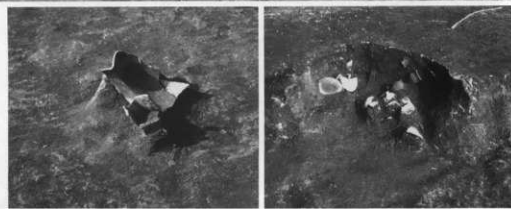
SI003全景



SI003遺物出土状況



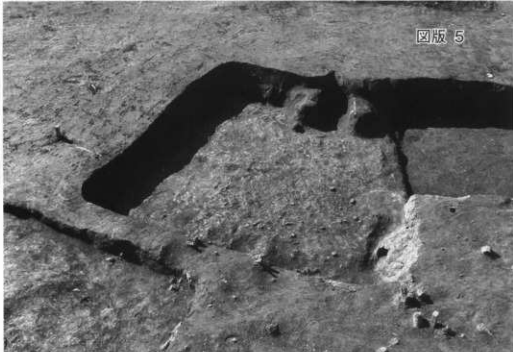
SI004全景



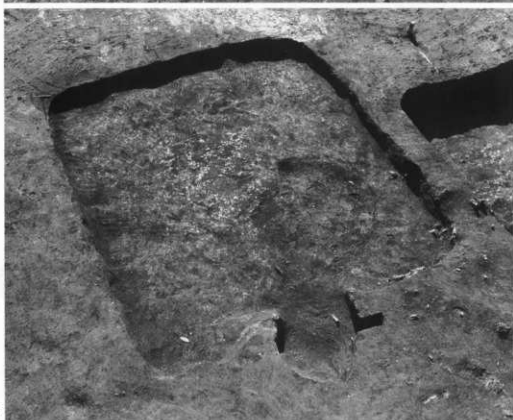
SI004遺物出土状況



SI005カマド



SI005全景



SI006全景



SI007全景



SI008全景



左 SI009全景
右 SI009カメラ



SI010全景



SI010貯蔵穴

SI011全景



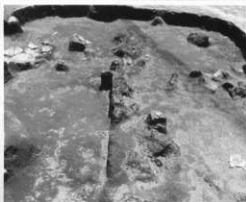
左 SI011カマド遺物
右 SI011遺物出土状況



SI013全景



左・右 SI013遺物出土状況





左・右 S1013遺物出土状況



左 S1013遺物出土状況
右 S1013カマド土層



左 S1013カマド遺物出土状況
右 S1013カマド完了



調査区全景 (平成12年度)



SI014全景



左 SI014遺物出土状況
右 SI014旧カマド



SD001・SD002・SD003全景



SD004・SD008全景



SD009全景



SD012・SD013・SD014全景



SD012・SD013・SD014全景

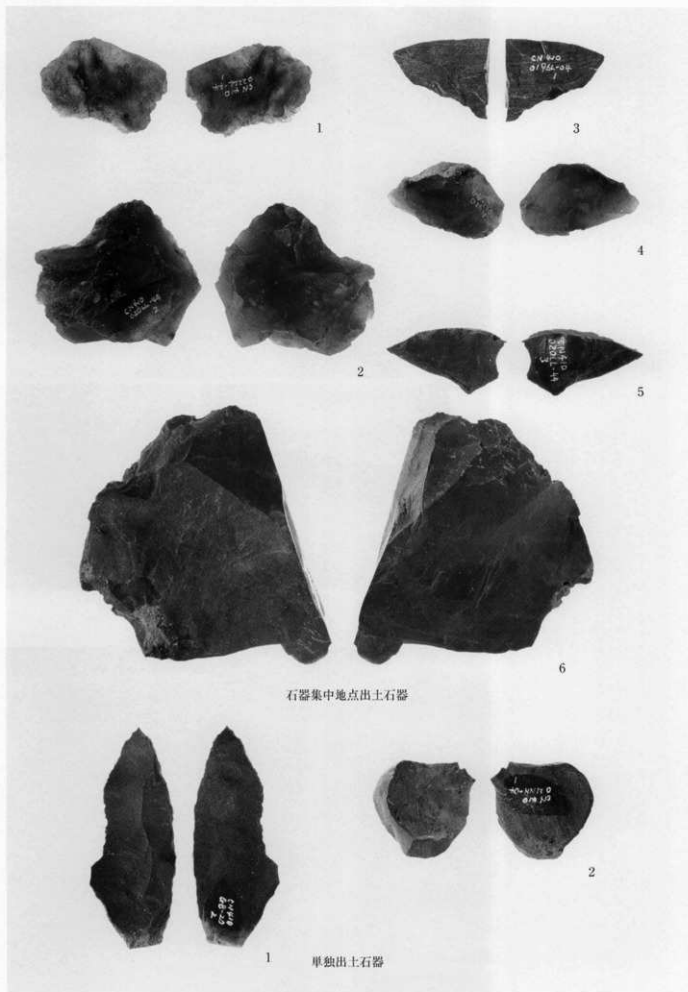


左 SD012土層

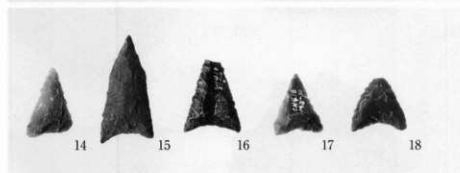
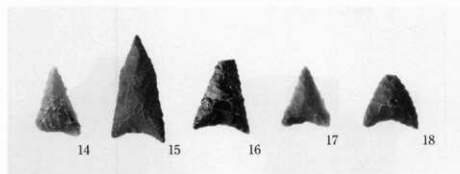
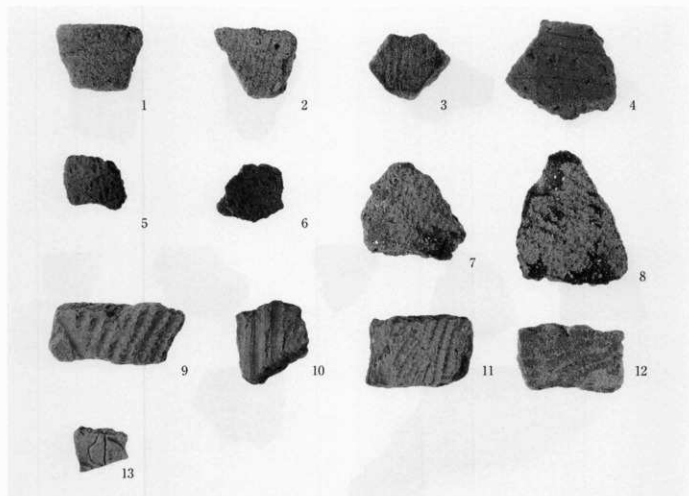
右 SD012銭貨出土状況



SD017全景

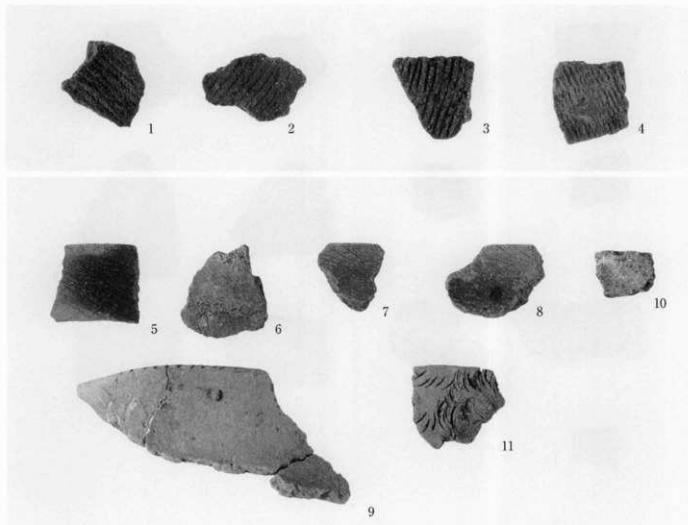


旧石器時代遺物



遺構外出土縄文時代遺物

縄文時代遺物



遺構外出土弥生土器



古墳時代遺物 (1)



SI003-4



SI003-8



SI003-9



SI003-5



SI003-8



SI003-10



SI003-7



SI003-12



SI003-13



SI003-14



SI003-15



SI003-15



SI004-1



SI004-4



SI004-10



SI004-19



SI004-21



SI004-22



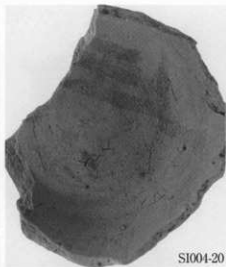
SI004-25



SI004-33



SI004-34



SI004-20



SI004-20



SI004-30



SI005-1



SI005-2



SI005-3



SI005-4



SI005-4



SI005-4



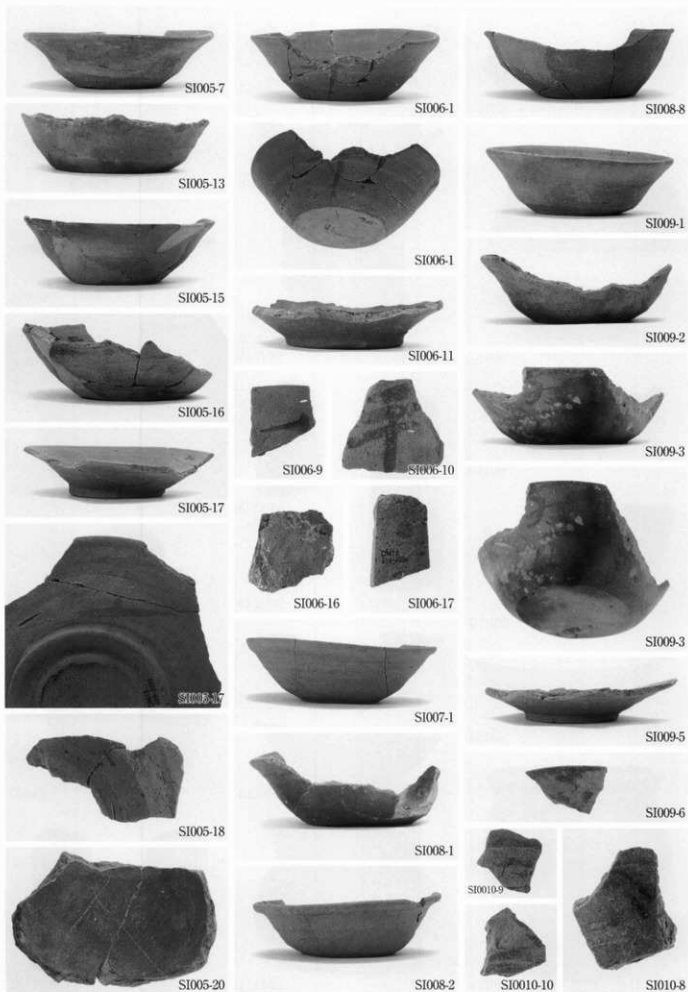
SI005-5



SI005-6



SI005-6



平安時代遺物（2）



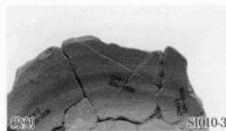
SI010-3



SI012-2



SI013-3



SI010-3



SI012-6



SI013-6



SI011-1



SI012-16



SI013-7



SI011-2

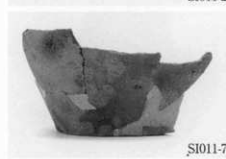


SI012-17

SI012-18



SI013-7



SI011-7

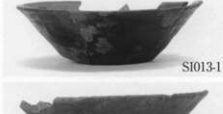


SI012-19

SI013-8



SI012-1



SI013-1



SI013-15

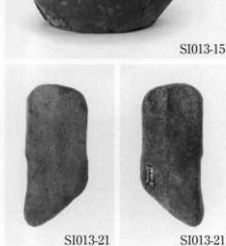


SI012-9



SI013-2

SI013-11

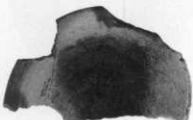


SI013-21

SI013-21



SI014-1



内面ス

SI014-1



SI014-15 下



SI014-16



SK002-1



SK002-3



SK003-4



上

SI014-17



SI014-17



SI005-36



SI013-17



SI013-18



SI013-20



SI014-20



SI014-18

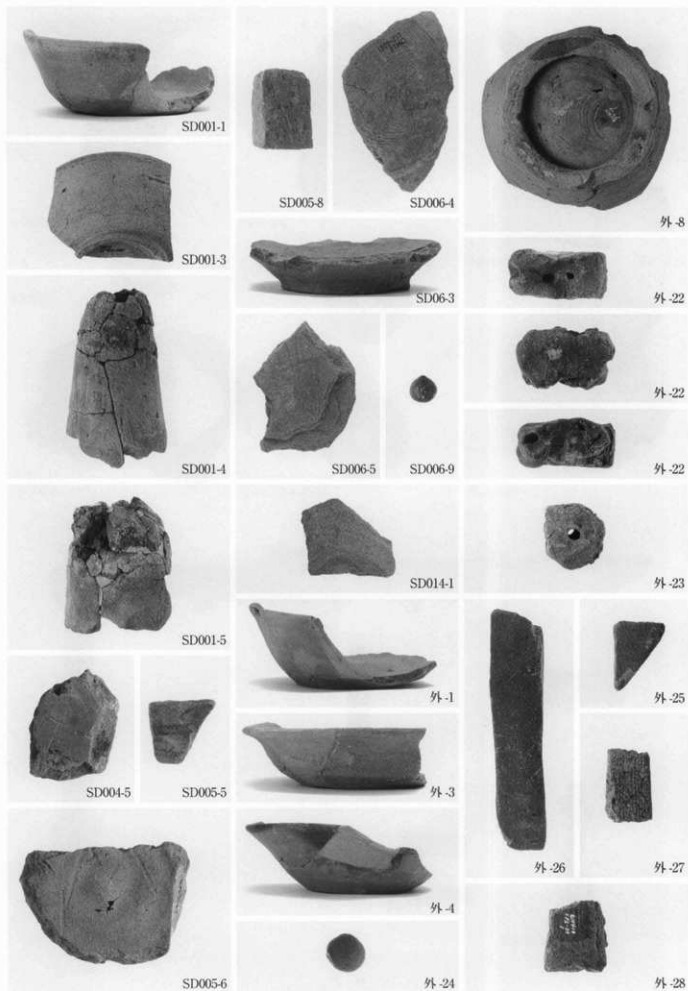


SI014-19



SI013-19

鉄器



平安時代遺物 (5)



表



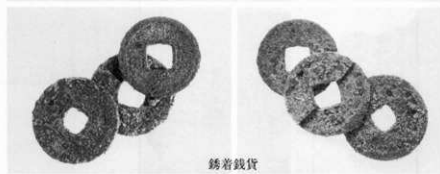
裏



表



裏



鋳着銭貨

SD012出土銭貨



11



15



12



14



10



13



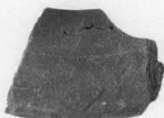
16



18



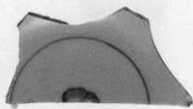
19



21



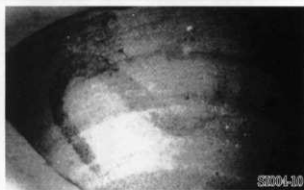
20



17



17



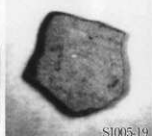
SD004-10



SD004-19



SD006-10



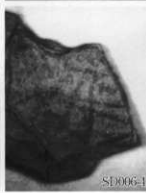
SD005-19



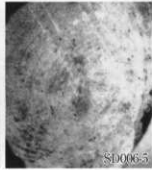
SD006-3



SD004-7



SD006-1



SD006-5



航空写真 (1/10,000)



遺跡近景



Aブロック (3C・3D)



Bブロック (4C)



Cブロック (4D-05・06)



Cブロック (4D-54・55)



Cブロック (4D-05・06)



Cブロック (4D-54・55)



Dブロック (3D・3E)



Eブロック (4E・4F)



Eブロック (3E・3F)



Eブロック (4E・4F)



SK001(炉穴)



SK002(炉穴)

1(安接6)



2(安接11)



3(安接10)



4(安接12)



Aブロック出土石器 (1) 安山岩 (1/1)



5(安接7)



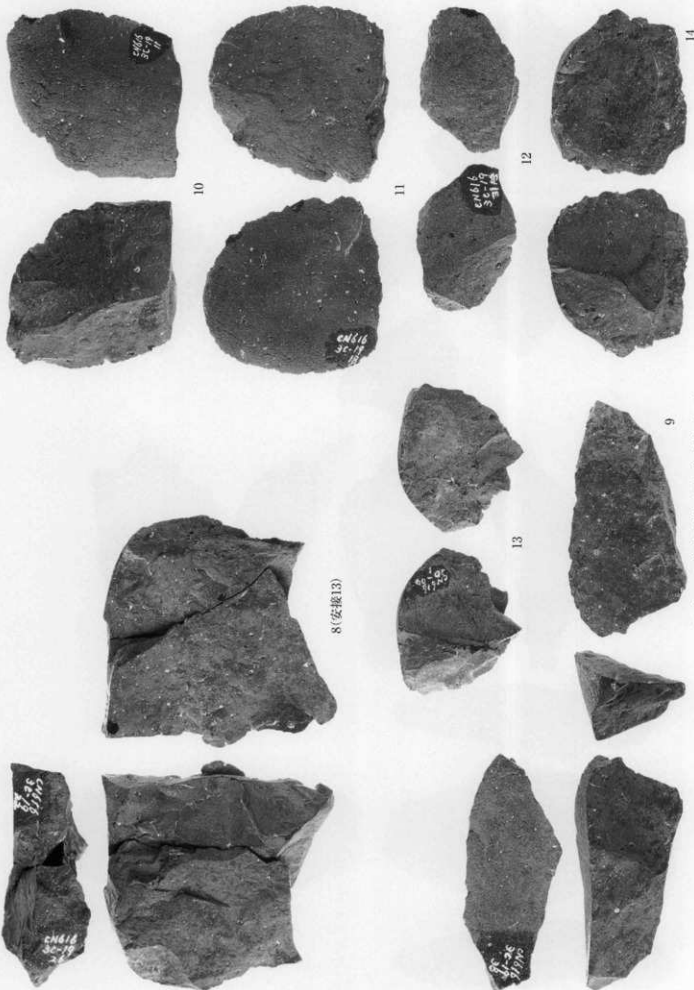
6(安接8)



7(安接9)



Aブロック出土石器(2) 安山岩(1/1)



8(安接13)

13

9

A7ロック出土石器 (3) 安山岩 (0/1)



15

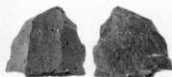
17



16



18



19



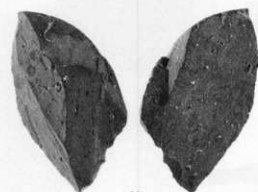
20



21



22



23



24



25

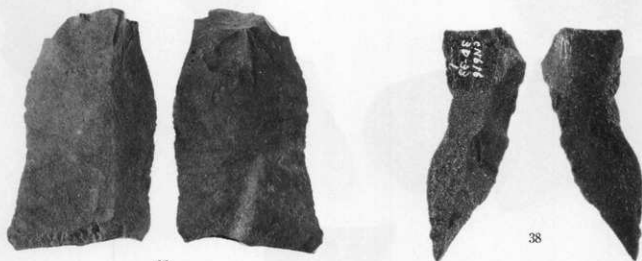
Aブロック出土石器 (4) 安山岩 (1/1)



Aブロック出土石器 (5) チャート・メノウ (1/1)



35(他接3)

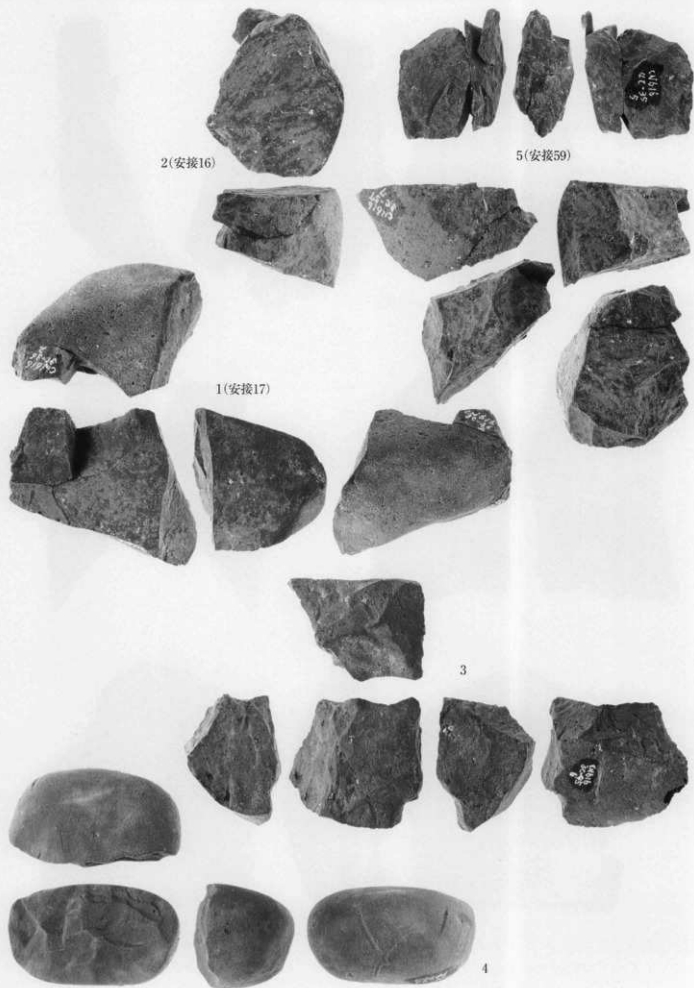


36

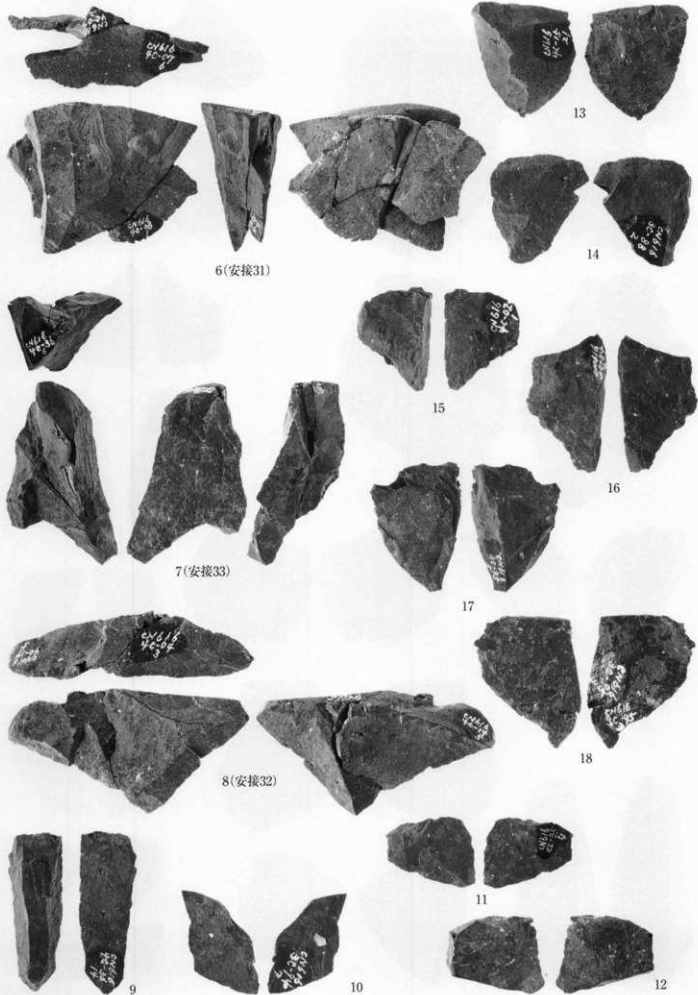
38



37(他接1)



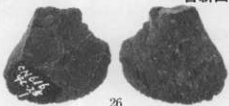
Bブロック出土石器 (1) 安山岩 (1/1)



Bブロック出土石器 (2) 安山岩 (1/1)



19(安掇34)



26



27



20(安掇35)



28



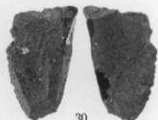
29



21(安掇36)



22(安掇37)



30



24



31(安掇38)



23



25



32



33



34



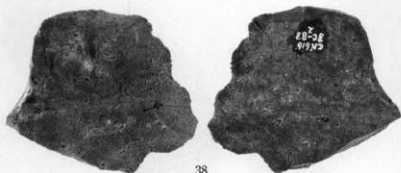
35



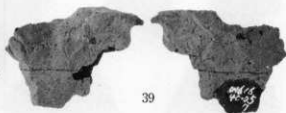
36



37



38

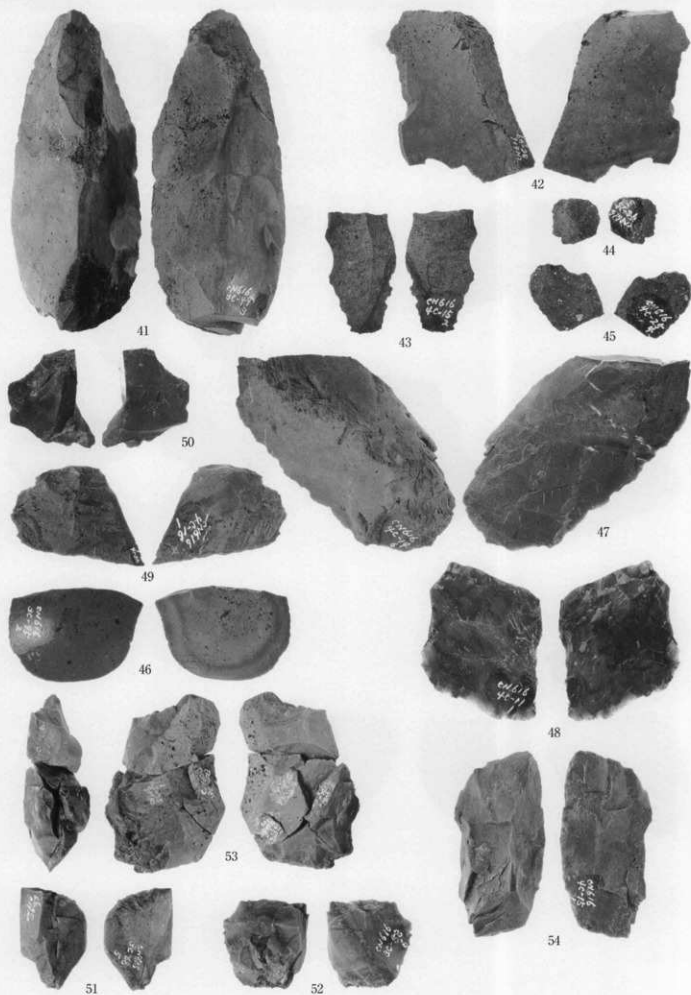


39

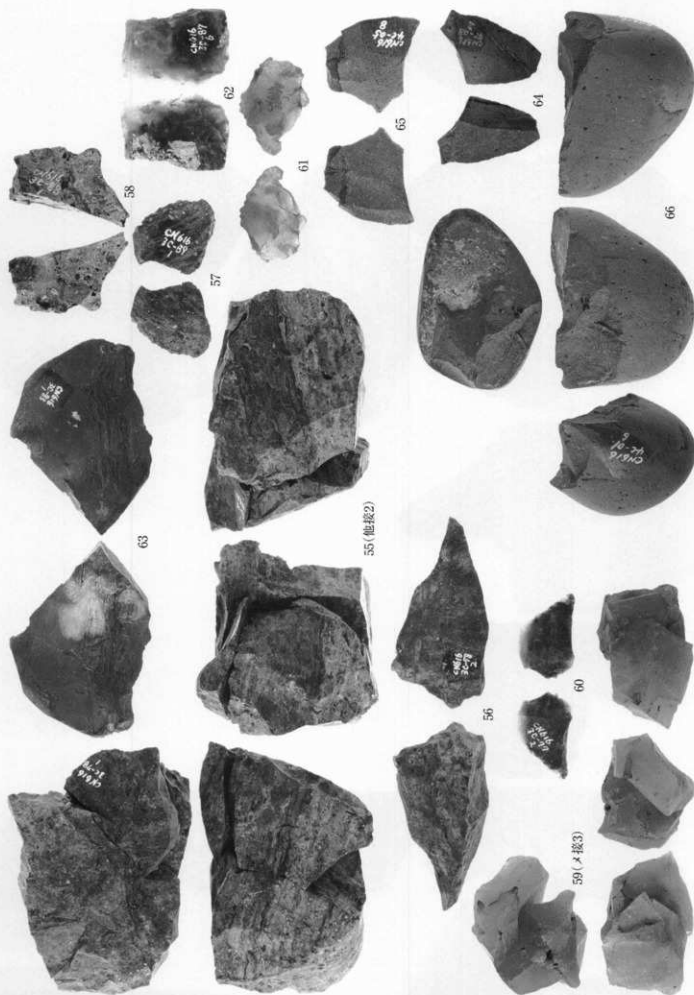


40





Bブロック出土石器(5)チャート(1/1)



Bブロック出土石器 (6) 流紋岩・メノウ他 (L1)



1(安接40)



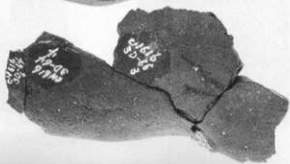
2(安接43)



Cブロック出土石器(1) 安山岩(1/1)



3(安採19)



4(安採20)

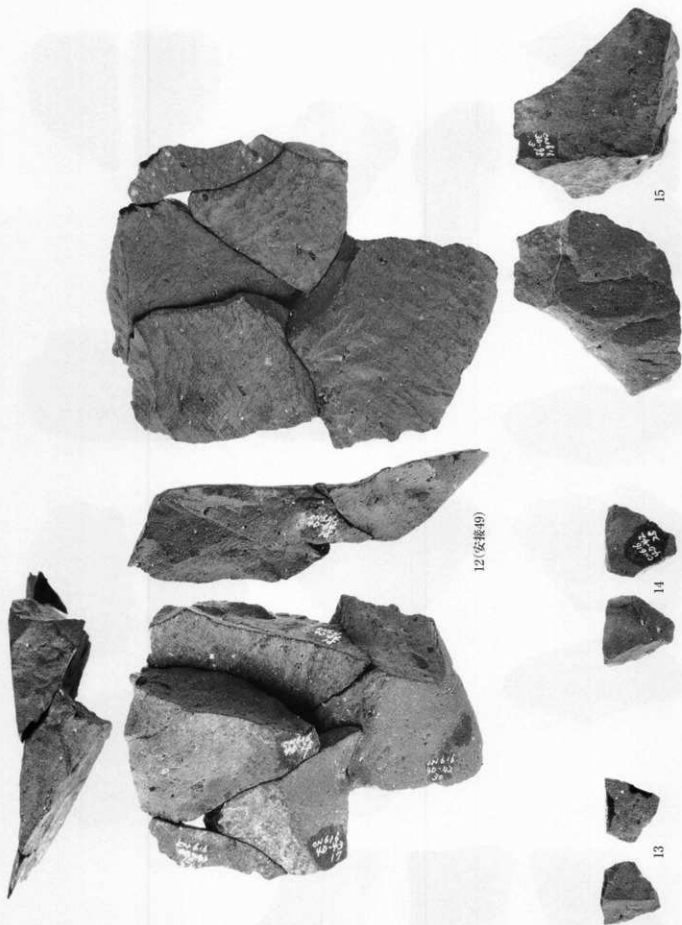


5(安採41)



6(安採42)





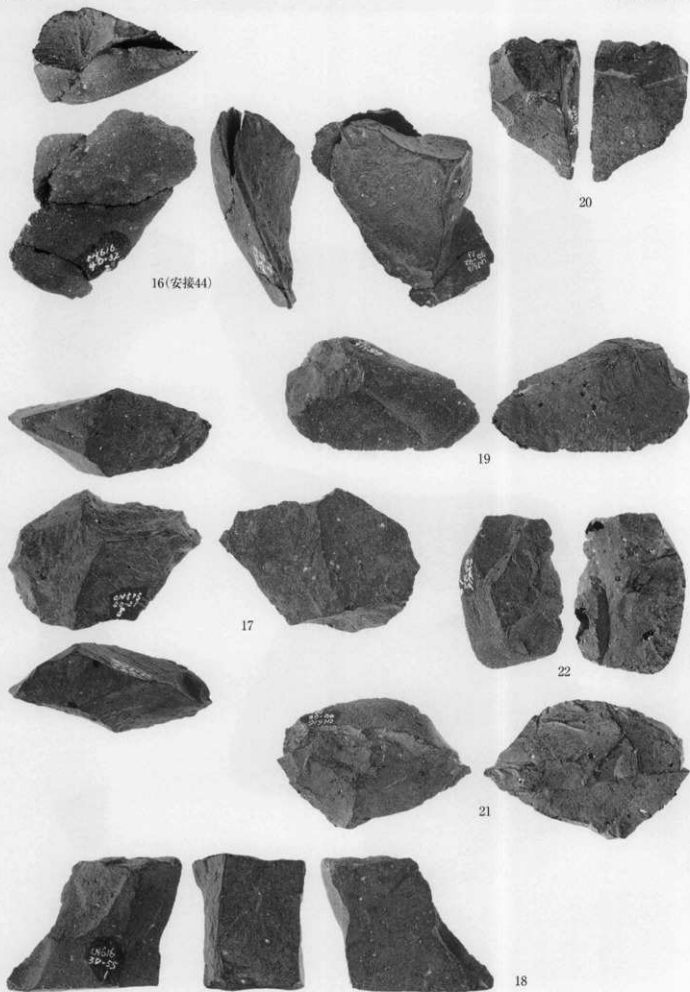
12(安採49)

14

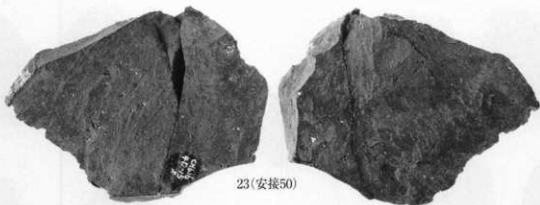
13

15

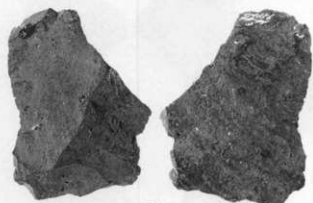
Cブロック出土石器(4) 安山岩 (1/1)



Cブロック出土石器 (5) 安山岩 (1/1)



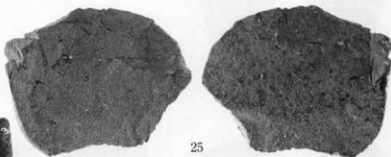
23(安接50)



24



27



25



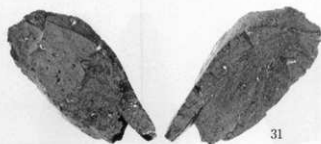
26(安接47)



28



29

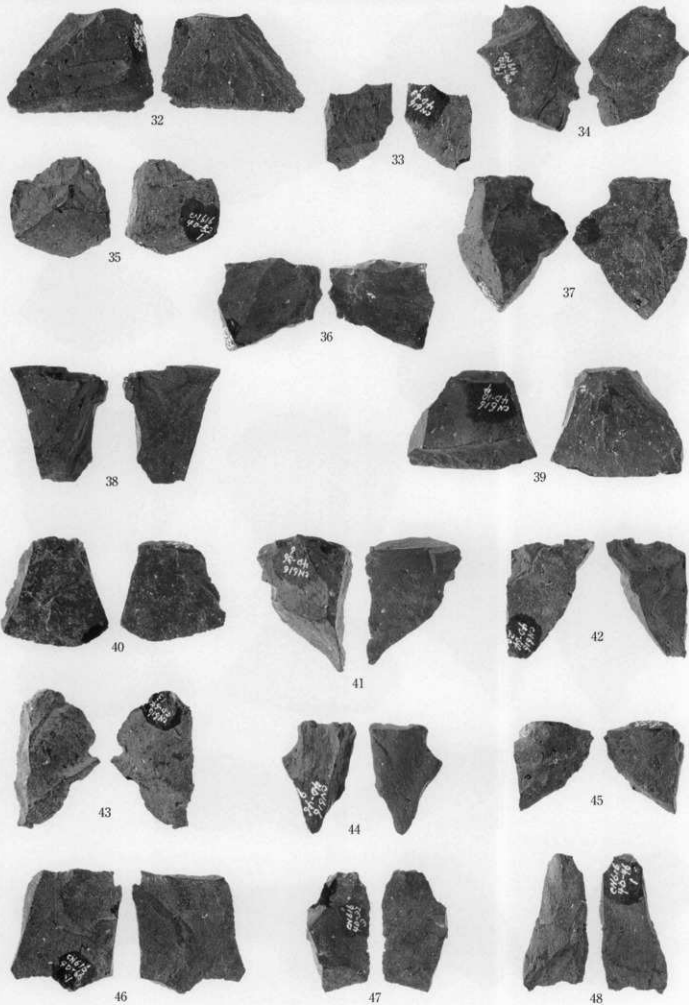


31



30

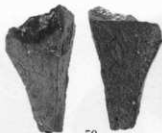
Cブロック出土石器(6)安山岩(1/1)



Cブロック出土石器 (7) 安山岩 (1/1)



49(安接48)



50



51(安接23)



55(安接52)



52(安接51)



53



57



56



58



54(安接53)

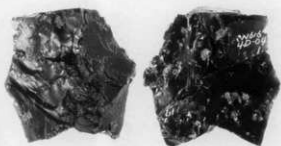


59(安接22)





60(黒接4)



61(黒接3)



63



62(黒接2)



64



65(黒接5)



66



67(黒接6)



68

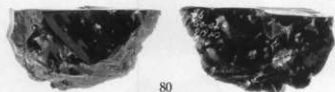
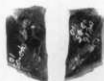
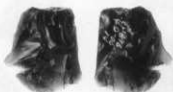
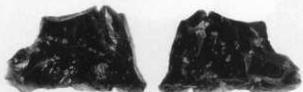
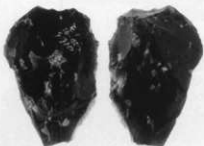


69



70 (黒接8)

71 (黒接7)



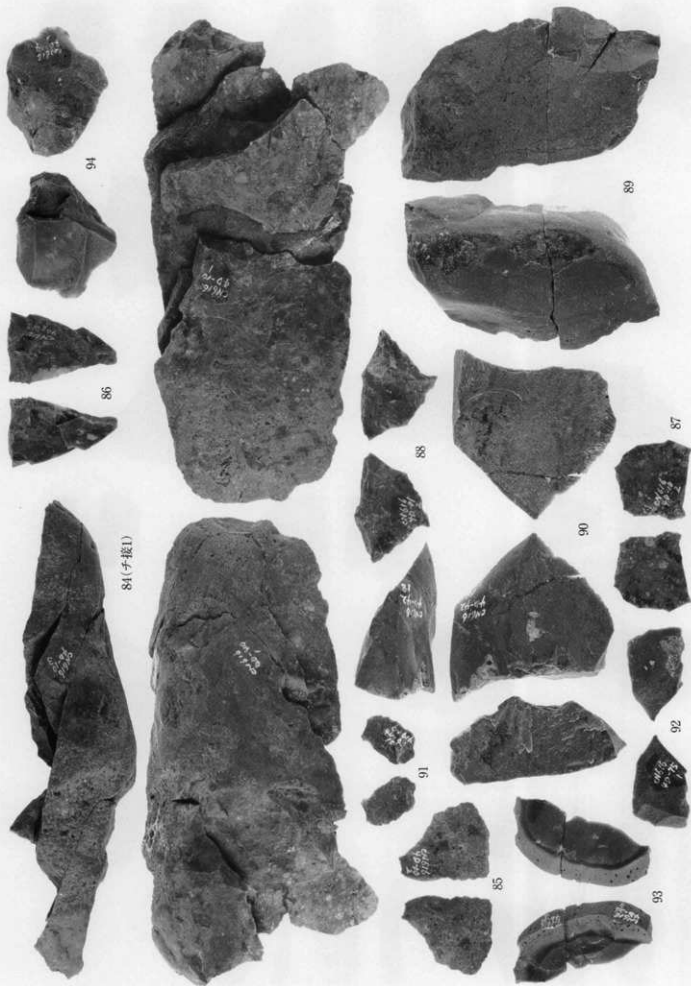
81 (黒接1)



82



83



Cプロック出土石器 (II) チャート (I/L)



108

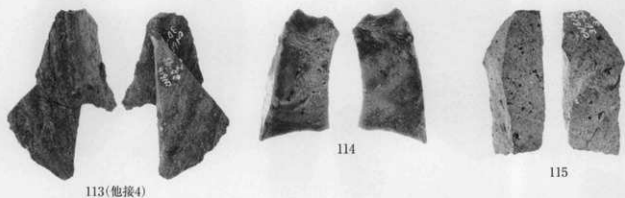
109



110

111

112



113(他接4)

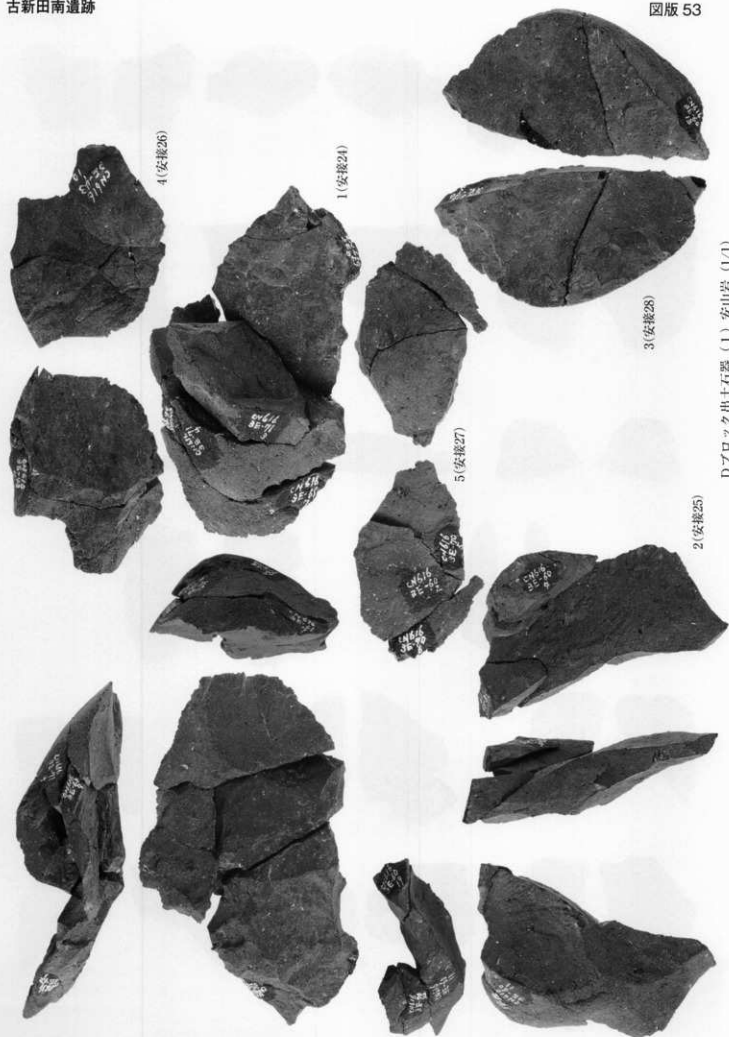
114

115



116

117



4(安掾26)

1(安掾24)

3(安掾28)

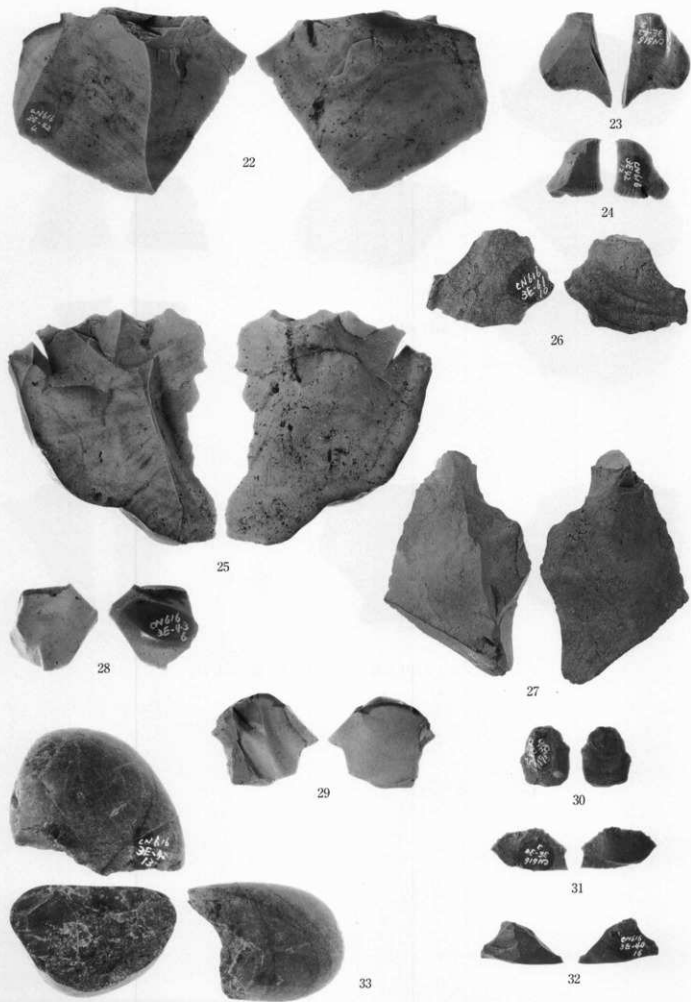
5(安掾27)

2(安掾25)

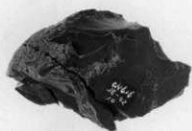
Dブロック出土石器(1)安山岩(1/1)



Dブロック出土石器(2) 安山岩 (1/1)



Dブロック出土石器 (3) チャート (1/1)



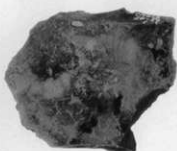
31(子接9)



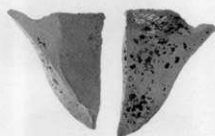
35



36



37

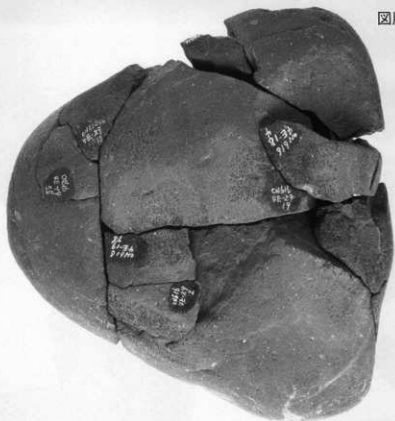


38

Dブロック出土石器(4) チャート・頁岩 (1/1)



1-5(安採1)



Eプロック出土石器 (1) 安山岩 (4/5)

E-ブロック出土石器 (2) 安山岩 (1/1)



6(安採2)



7(安採56)

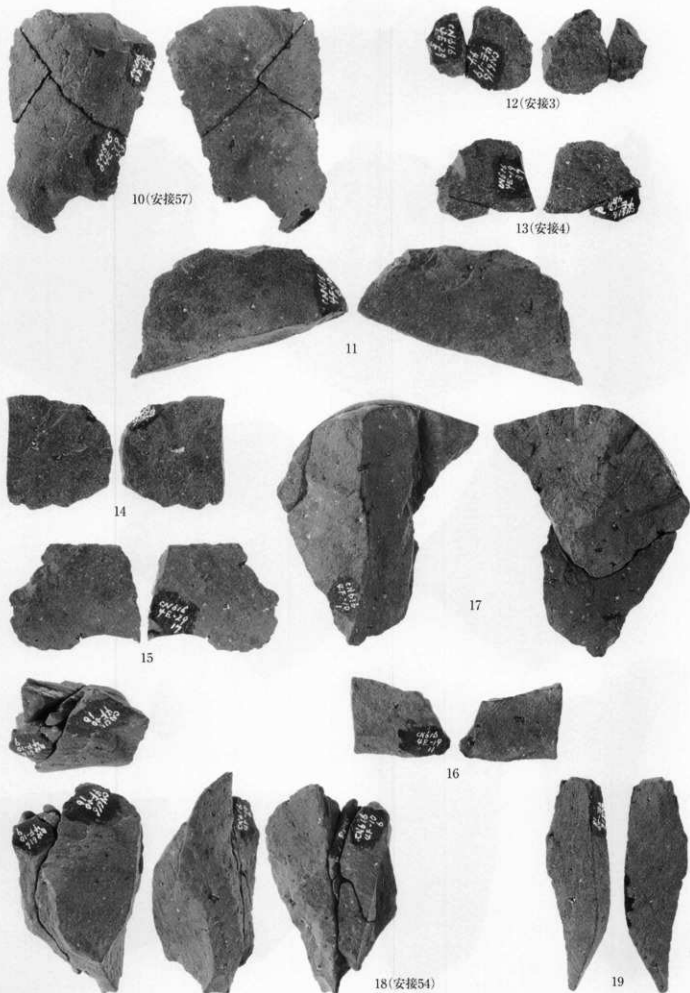


8



9





Eブロック出土石器(3)安山岩(1/1)



20(子接8) (2/3)



21(他接5)



22



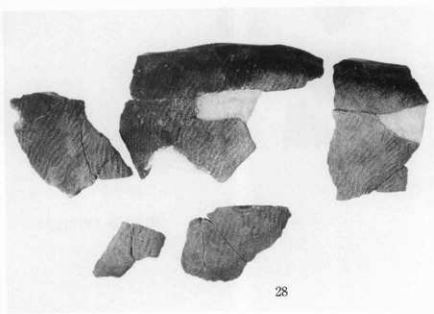
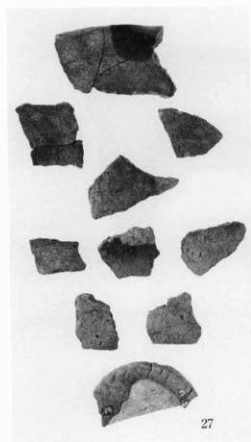
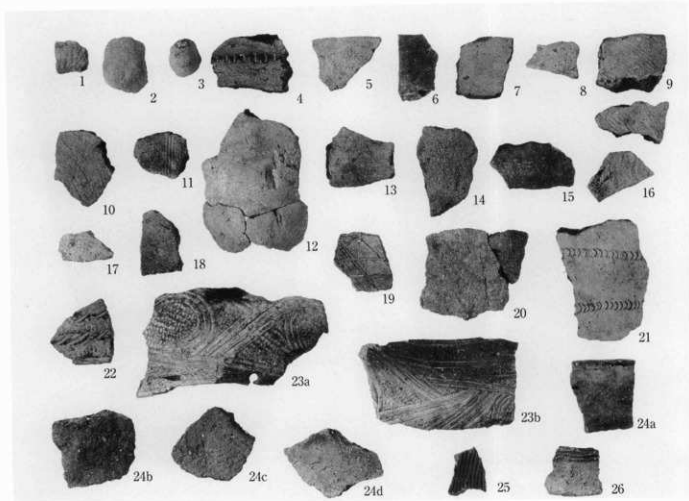
24



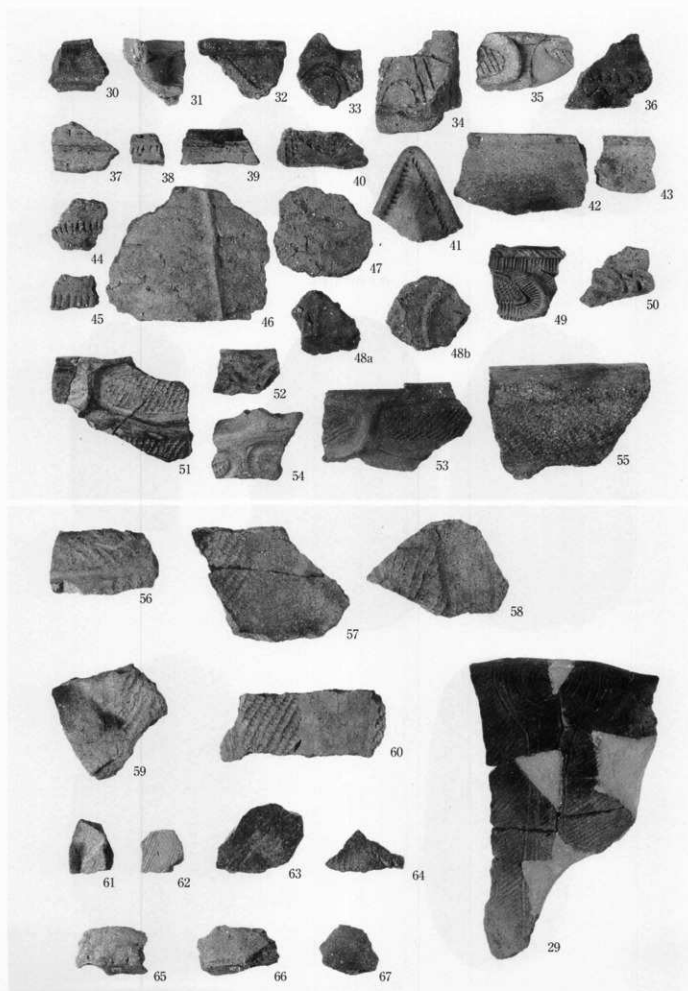
23(他接6)



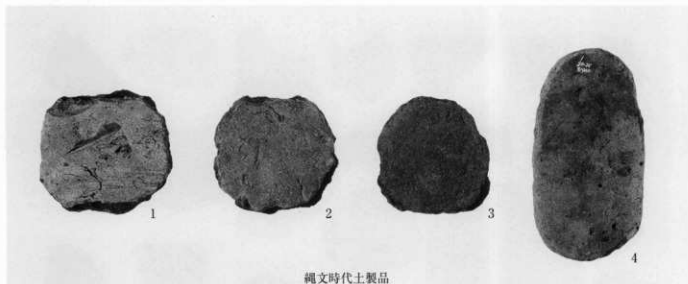
縄文土器（炉穴出土）



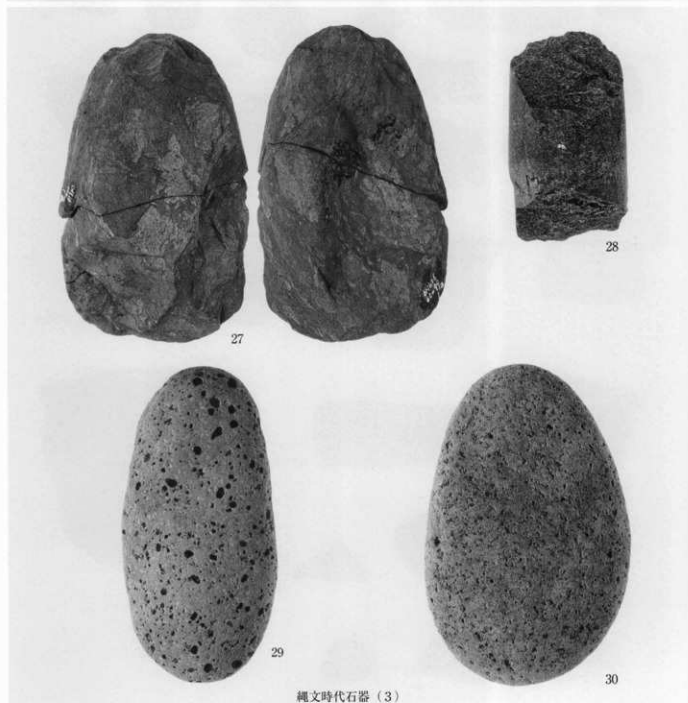
グリッド出土縄文土器(1)



グリッド出土縄文土器 (2)

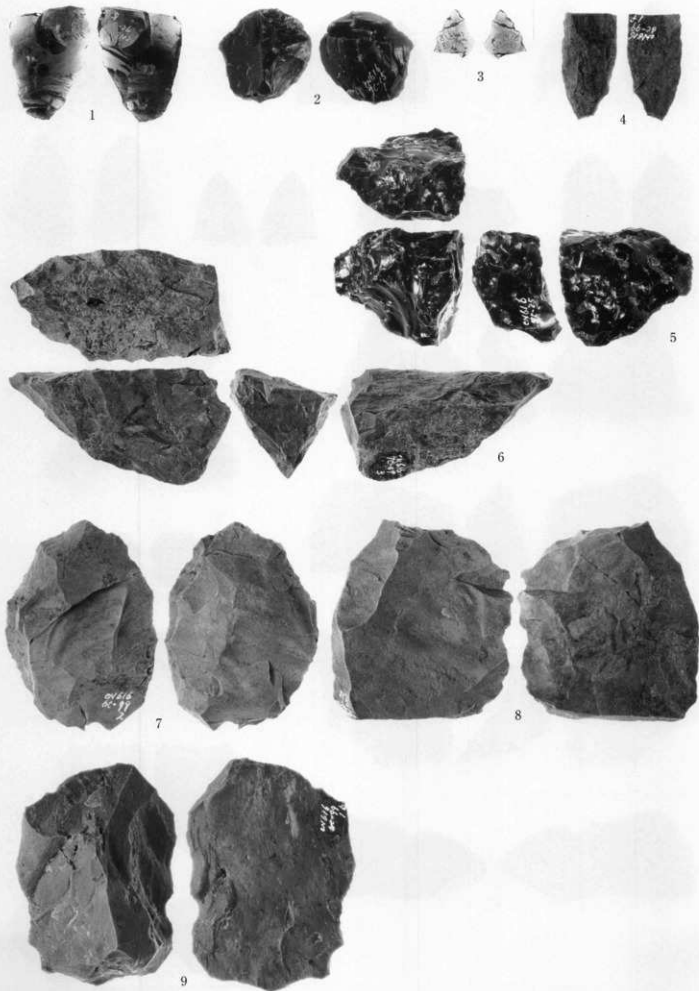


縄文時代土製品

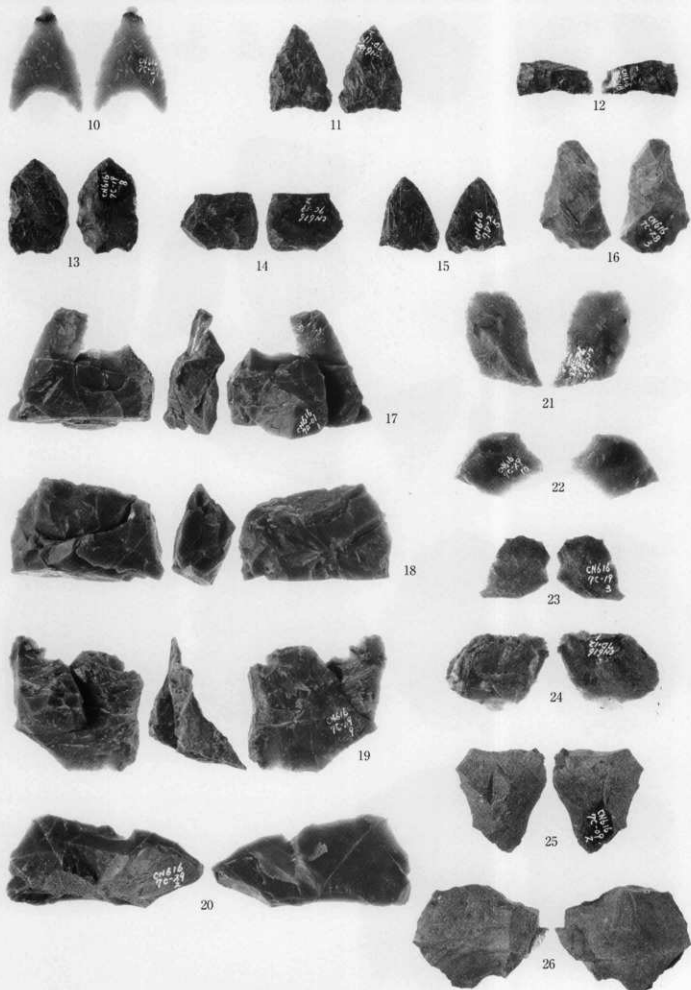


縄文時代石器 (3)

縄文時代土製品・石器



縄文時代石器 (1)



縄文時代石器 (2)

報告書抄録

ふりがな	ちばにゆーたうんまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしよ						
書名	千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XIX						
副書名	白井市清戸遺跡・印西市古新田南遺跡						
巻次	19						
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告						
シリーズ番号	第571集						
編著者名	古内 茂 香取正彦 大内千年						
編集機関	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター						
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿波 809番地の2 TEL 043-424-4848						
発行年月日	西暦 2007年3月23日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
清戸遺跡	白井市清戸字花畑込 520-3ほか	12232	CN 410	35度 47分 52秒	140度 5分 34秒	19870401～ 19870722 19920701～ 19921130 20000703～ 20000731	1,290 8,460 1,040	道路建設
古新田南遺跡	印西市大森字宮脇 519ほか	12231	CN 616	35度 49分 3秒	140度 8分 22秒	19840501～ 19840831	4,000	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
清戸遺跡	包蔵地	旧石器	石器集中地点	1地点	ナイフ形石器、剥片	道路幅で、限られた範囲の調査ではあるが、古墳時代前期の比較的大規模な集落の存在が予想される。平安時代の集落では、まとまっているが比較的短期間の居住と思われる。
	包蔵地	縄文	陥穴	1基	縄文土器、石鏃、磨石	
	包蔵地	弥生	竪穴住居	3棟	弥生土器	
	集落跡	古墳	竪穴住居	11棟	古墳時代土師器	
	集落跡	平安	竪穴住居	9基	平安時代土師器、須恵器、礫石、金属製品	
包蔵地	中・近世	溝状遺構	17条	中・近世陶磁器、銭貨		
古新田南遺跡	包蔵地	旧石器	石器集中地点	5地点	ナイフ形石器、石核、剥片	石器の集中地点として5ブロックに分けられるが、全体として、石器製作の1ユニットを構成している。早期の土器がまとまって出土している。
	包蔵地	縄文	炉穴	2基	縄文土器、石鏃、播磨石斧	

千葉県教育振興財団調査報告第571集

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XIX

—白井市清戸遺跡・印西市古新田南遺跡—

平成19年3月23日発行

編集	財団法人	千葉県教育振興財団 文化財センター
発行	独立行政法人都市再生機構千葉地域支社 千葉ニュータウン事業本部 千葉県印西市中央南1-501	
	財団法人	千葉県教育振興財団 千葉県四街道市鹿渡809番地の2
印刷	株式会社	弘文社 千葉県市川市市川南2丁目7番2号
